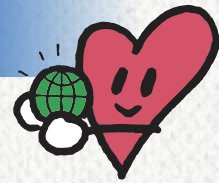




【地球環境基金】

# 2021年度 活動報告集





## はじめに

平成4年(1992年)6月、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロにおいて「環境と開発に関する国連会議」(いわゆる「地球サミット」)が開催されました。この会議には、世界中のほとんどの国(約180か国)が参加し、100か国以上の元首・首脳、約1万人に及ぶ政府代表者が出席する大規模な会議となりました。この席上、日本国政府は民間の環境保全活動に対し、資金的支援の仕組みを整備することを表明しました。地球サミットにおいては、環境と開発に関するリオ宣言が出され、持続可能な開発を推進することとし、市民が環境問題に取り組むことの重要性が明らかにされました。

このような流れを受けて、当時の環境庁(現在の環境省)が中心となり、民間団体(NGO・NPO)による環境保全活動への資金の助成その他の支援を行うため、平成5年(1993年)5月、国と民間の拠出により地球環境基金が創設されました。

創設以降、環境保全を行う民間団体に対し、活動に対する資金提供などを中心に支援しており、令和5年(2023年)には創設30年を迎えます。今後も、地球環境基金は、更なる環境NGO・NPOの強化に向けた支援の充実を行うとともに、環境保全活動を行う次世代の人材育成に力を入れて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### 「ききんちゃん」のご紹介!

「ききんちゃん」は、NGO・NPOの環境保全活動への支援を目的とした地球環境基金の事業を、より身近なものとして、広くみなさまに知っていただくために誕生しました。



- 名まえ** ききんちゃん
- 年れい** ヒミツ
- 住まい** 神奈川県川崎市
- 身長** 50cm
- 体重** ヒミツ
- 趣味** 募金活動
- 特技** 語学
- 好きなことば** 地球のためにできること!
- チャームポイント** つぶらなひとみ
- よく行くところ** 環境イベント会場

# 目次

2021年度 地球環境基金助成実績	1
1.地球環境基金の仕組み	1
2.地球環境基金の造成状況(2022年3月現在)	2
3.2021年度の助成実績	2
2021年度 活動報告集の様式	5

## 助成の種類

- は** …はじめる助成
- つ** …つづける助成
- ひ** …ひろげる助成
- フ** …フロントランナー助成
- プ** …プラットフォーム助成
- 復** …復興支援助成
- 特** …特別助成
- L** …LOVE BLUE助成

## 2021年度 助成実績の概要(活動分野別) ※法人格は省略しています

### 自然保護・保全・復元

<b>は</b> ふじ環境研究所	静岡県最後のタガメ個体群の保全活動	9
<b>つ</b> はしもと里山学校	村の誇りを取り戻す!～農村の新しい価値を創造～	9
<b>つ</b> Change Our Next Decade	生物多様性分野におけるユースの政策提言能力強化と次世代ユース育成プログラムの実施	10
<b>つ</b> 日本オランウータン・リサーチセンター	マレーシア・ダナムパレイ保護区におけるオランウータンの長期調査を基盤とした、普及啓発と観光復興支援	10
<b>つ</b> 上関の自然を守る会	カンムリウミスズメ他希少鳥類保護のための生態調査および普及	11
<b>ひ</b> 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子	ユネスコ未来遺産生物多様性センター孟子不動谷未来館建設及び運営活動	11
<b>ひ</b> 水辺に遊ぶ会	中津干潟が公的保全の枠組みに指定されることを目指すプロジェクト	12
<b>ひ</b> ポレポレ自然環境観察会	能登半島の絶滅危惧種「ウミミドリ群落」のドローンによる生育分布調査と被災地での「ウミミドリ」の移植事例等の実態調査	12
<b>フ</b> 環境生態工学研究所	松島湾SDGs(探そう 誰もが Go!!する社会)	13
<b>特</b> 日本海洋教育スポーツ振興協会	世界に誇れるセーリング会場にしよう!自然の環境活動への理解を深める江ノ島エコプロジェクト2021	13
<b>L</b> DEXTE-K	西なぎさ発:東京里海エイド(ラムサール条約に登録された葛西干潟における漂着ごみ収集を中心とした保全活動)	14
<b>つ</b> 石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク	石狩川流域にわずかに残る湿地環境・文化をネットワークの力で守り育てる	14
<b>つ</b> 大雪山・山守隊	たまには山に恩返し～高山帯の自然環境保全活動～	15
<b>つ</b> African Marine Mammal Conservation Organization (AMMCO)	カメルーン南西部で絶滅の危機に瀕する大型水生ほ乳類マナティーと漁業の共存を目的とした、環境配慮型漁業の推進とエコツーリズムの整備	15
<b>つ</b> 雁の里親友の会	北極渡り鳥イニシアティブ優先種コクガン・カリガネの保全に向けた共同調査と普及啓発	16
<b>つ</b> 黒潮生物研究所	サンゴの育つ温帯の海-足摺宇和海国立公園における海洋生物多様性の解明とその保全および普及活動	16
<b>つ</b> Centre for Ecological Studies	ネパールのシェイ・フォクスンド国立公園における地域コミュニティに基づいたユキヒョウ保全の強化	17
<b>ひ</b> 岩手山麓自然学校	町の天然記念物チョウセンアカシジミ保護!高畑牧野から広げる里のデワノトネリコ雑木林づくり	17
<b>ひ</b> 隠岐しぜんむら	隠岐諸島の島前地域における自然環境の保全体制の構築	18
<b>ひ</b> 四国自然史科学研究センター	地域もクマも守る 四国の社会イノベーションプロジェクト	18
<b>ひ</b> ニッポンバラタナゴ高安研究会	高安の里におけるニッポンバラタナゴを保護するための地域循環共生圏づくり	19

ひ	大山千枚田保存会	台風被害が里山里海の生態系に与えた影響の把握と、そこから考える里山里海の保全活動	19
ひ	森からつづく道	オオキトンボを育む里地を知る・保つ・伝える・つなげるプロジェクト	20
復	はまのね	害獣として憎まれている鹿との共生を考える多様な関わりしらのデザイン	20
フ	石西礁湖サンゴ礁基金	複合ストレスの影響を受ける八重山地方のサンゴ礁保全・再生に向けたサンゴ認定制度の構築	21
つ	ARDE/KUBAHO	ルワンダ国Ntebeコミュニティにおける丘陵地帯の土壌侵食と湿地帯の洪水を防ぎ、住民の水へのアクセスを向上させる総合的雨水集水モデル	22
つ	D・B・Cグループ	絶滅寸前ザゼンソウとその環境の保全活動	23
ひ	大杉谷自然学校	建設工事における環境配慮行動の推進	24
ひ	どんぐり王国	流域単位の里山保全と体制づくり	25
ひ	晴れの国野生生物研究会	オオサンショウウオの暮らす清流を守ろう！自然体験のフィールドづくりからはじめる水と緑の回廊の再生	26
ひ	ふるさとけものネットワーク	鳥獣被害対策における支援組織の育成・提言・ネットワーク化	27
ひ	日本鳥類保護連盟	ネパールにおける猛禽類をはじめとした鳥類及び自然環境を保全していくための人材の育成	28
ひ	PALLISHREE	インド国ベンガル湾岸湿地（バフダ入江およびルシクリヤ河口）における環境保全型クラブバンクの推進とプラスチックフリーエリアの開発	29
つ	ワイルドライフ・プロミシング	ケニア、マサイマラ国立保護区周辺、ゴイラレ地域の野生動物保全活動	30
ひ	国際自然保護連合日本委員会	国連生物多様性の10年における民間の取組・成果集約と国際発信による次期国際枠組みへの貢献	31
ひ	香港観鳥会 (The Hong Kong Bird Watching Society)	西部太平洋における海鳥の衛星追跡：渡り鳥で繋げるアジアの海と人々	32

## 森林保全・緑化

つ	矢作川森の健康診断実行委員会	森づくりの健康診断プロジェクト	35
ひ	おしかリンク	牡鹿半島流域環境再生プロジェクト	35
ひ	ウータン・森と生活を考える会	インドネシア・ボルネオ島における「開発」圧力に抗する地域住民主体の伝統知に基づく収入創出と環境教育を通じた熱帯林保全及びそれを支える日本でのしくみ構築	36
ひ	森づくりフォーラム	人工林の生物多様性を高める森づくりの普及啓発と市民参加型の施業モデル実践	36
ひ	Forest Action Nepal	東部ネパール・ジャルタルの森再生のためのツルヒヨドリ除去に関する参加型アクションリサーチ	37
つ	Save Earth Foundation	里山林における在来種保全活動ー特定外来植物（オオハンゴンソウ）抜取の継続実施ー	38
ひ	時ノ寿の森クラブ	森林・里山を社会財として「シェア」し、持続可能な森林保全を目指す	39
ひ	more trees	単一的な針葉樹人工林を多様な針広混交林や広葉樹林に再生するための知識・技術の普及と人材育成	40
ひ	moribio森の暮らし研究所	「環境林業」を担う人材の育成	41
復	森の防潮堤協会	岩沼市「千年希望の丘」植樹祭&収穫祭	42



## 砂漠化防止

ひ	地球・人間環境フォーラム	モンゴル国ゴビ地域における牧民と協働した砂漠化防止活動	45
---	--------------	-----------------------------	----

## 環境保全型農業等

は	自然栽培そらみずち	自然と人の共働ある場づくり	47
ひ	Instituto piagaçu	ブラジル・西アマゾンにおけるアグロフォレストリー普及による作物の多様化と高付加価値化プロジェクト	47
ひ	日本自然農業協会	ベトナム国ソンラー省バンホー県における土着微生物と地域資源を活用した環境保全型農畜産業のモデル農場づくりと小規模農家を対象とした普及啓発活動	48
ひ	Prattasha Samazik Unnayan Sangtha (PSUS)	バングラデシュ国チュアダング県 環境にやさしい持続可能で安全な農業実践プロジェクト	48
つ	農ある暮らしを広める会	農ある暮らしの基盤となる自然環境を再生保全できるコミュニティづくり	49
ひ	ASED HABIGONJ	バングラデシュ北東部ハオール地域気候変動適応化農業普及プロジェクト	49
ひ	河北瀉湖沼研究所	流域がつながる仕組みを活用して、河北瀉湖流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する	50
ひ	DANKA DANKA	セネガル共和国において地域循環型採卵養鶏を育てるプロジェクト	50
ひ	The Energy and Resources Institute (TERI)	インドにおける持続可能な開発のための伝統的農業：SATOYAMAのアプローチ	51
復	ザ・ピープル	福島から次世代へ！ 国外へ！ オーガニックコットンで想いをつなげるプロジェクトstep2	51
つ	越後妻有里山協働機構	農と文化のフィールドミュージアム	52
ひ	DRCSC (Development Research Communication and Services Centre)	インド西ベンガル州ビルブム県における土地利用別アグロフォレストリーと環境に配慮した運用・利用の推進	53
ひ	シェア・ザ・プラネット	バングラデシュにおける環境・気候変動に適応する持続的農業の実践と普及	54
ひ	ラムサール・ネットワーク日本	ラムサール条約と生物多様性条約の水田決議に基づく田んぼ10年プロジェクトの加速化とSDGsを組み入れた新しい水田目標の構築と活動の推進	55

## 地球温暖化防止

は	南紀自然エネルギー	色川地区 暮らしの省エネ&再エネ化プロジェクト	57
ひ	環境エネルギー政策研究所	地域に根ざした地産地消エネルギーシステム (温熱・電力・蓄電等) の普及モデル構築と政策提言、社会実装化	57
ひ	公害地域再生センター (あおぞら財団)	誰ひとり取り残さない！ 気候変動を構造的にとらえ未来につなげる教育プログラムづくり	58
ひ	みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	キリバス共和国におけるトロニバイ人材 (環境マスター) 育成プロジェクト	58
ひ	環境政策対話研究所	脱炭素社会づくりに向けた熟議の輪を広げる。	59
ひ	自然エネルギー共同設置推進機構 (NECO)	自然エネルギー 100%を目指す「持続可能まちづくり」。電気・熱・交通での省エネ/シェア/創エネ	59
ひ	カーフリーデージャパン	ベトナムの典型的な農村景観が広がるタイビン省での自転車を中心とした持続可能な交通まちづくり活動	60
ひ	全国ご当地エネルギー協会	地域参加型温暖化対策としての「ご当地エネルギー地産地消」の仕組みづくり・協働・実装	60
ひ	生ごみリサイクル全国ネットワーク	通気式生ごみ保管容器「生ごみカラット」を使用した地球温暖化対策	61

ひ	パワーシフト・ キャンペーン運営委員会	市民や事業所の再エネ電力選択による持続可能な再エネ社会の構築	61
ひ	FoE Japan	アジア太平洋地域での気候正義に基づいた1.5度目標達成に向けた調査・提言活動	62
プ	Climate Action Network Japan (CAN-Japan)	パリ協定の目標達成のための国内制度への政策提言と対話	62
つ	PVネット兵庫グローバルサービス	神戸市灘区水車新田における都市型小水力発電による地域活性化	63
つ	若桜・こらぼ企画	若桜町における実践型自然エネルギー学校（小水力発電）の開催	64
つ	縁パワーしまね	未来対話ー大学生・若者と作る「2050年に向けた山陰エネルギーシナリオ」	65
つ	おらってにいがた市民 エネルギー協議会	「低炭素都市にいがた」を実現させるためのプロフェッショナル人材、「環境エネルギー教育 コーディネーター」の創成	66
ひ	あきた地球環境会議	サバ州地球温暖化防止センター SDGs達成へ寄与！“気候変動×スクールマニフェスト”で未 来を描くProject Phase II	67
ひ	エコプランふくい	福井とタンザニアの節電所・発電所共同事業	68
ひ	おかやまエネルギーの未来を 考える会	岡山版・自然エネルギー 100%プラットフォーム形成事業	69
ひ	Climate Youth Japan	若者による気候変動の解決を導くビジョン作成を通じた活動の拡大と提言の影響強化	70
ひ	環境首都創造NGO 全国ネットワーク	地域住民等主導の「気候変動適応の共創プログラム」の開発試行と、実践普及のための体制構築	71
ひ	地球環境市民会議 (CASA)	2050年温室効果ガス実質ゼロの実行可能性と政策措置、自治体、中小企業・市民との協働活 動の構築	72
つ	やまがた自然エネルギー ネットワーク	地域で持続可能なエネルギーを学び実践する「やまがた自然エネルギー学校」	73
ひ	エコ・モビリティ サッポロ	楽しく快適にSDGsコミュニティ創造事業	74
ひ	地域再生機構	地域に根差した実践型自然エネルギー学校（小水力発電）運営支援	75
ひ	気候ネットワーク	パリ協定実施のための脱炭素ビジョンの作成と普及	76

## 循環型社会形成

は	暮らしのデザイン室	社会貢献型ショッピングが体験できるチャリティショップの普及によりチャリティ文化の機 運を高めながらゴミ削減に貢献する活動	79
つ	せとうちんちゅネットワーク	廃校を拠点に地球環境を基盤とした地域循環共生圏の創造と奄美大島の自然と伝統文化を 活かした体験型SDGs学習の場の構築	79
ひ	ハロハロ	フィリピン・セブの漁村におけるコンポストを活用した緑化促進事業	80
ひ	大阪ごみ減量推進会議	2025年大阪万博でゼロ・ウェイストを実現するための調査研究と担い手養成	80
ひ	日本チャリティショップ・ ネットワーク	チャリティショップの普及に向けた情報発信・参加者育成・相互支援事業	81
特	いすみライフスタイル研究所	夷隅川流域を柱にした生きものの力を借りた地域循環共生圏づくり準備活動～生物多様性の 主流化とESD推進環境の充実をコンセプトに～	81
ひ	循環生活研究所	「ローカルフードサイクリング美和台」で目指す持続可能な共助社会	82
ひ	中部リサイクル運動市民の会	障がい者福祉施設との連携による地域資源循環ネットワークの構築活動「なごやハートス テーションPROJECT」	82
フ	パルシック	パレスチナ西岸地区北アシーラにおける循環型社会のモデル形成事業	83
ひ	京都市環境保全活動推進協会	プラスチックごみ削減活動を通じた住民と観光客の持続可能な共存	84



ひ	水Do! ネットワーク	給水スポットの拡大による使い捨て飲料容器の削減活動の全国展開	85
ひ	JEAN	調べてみよう！マイクロプラスチック市民調査	86

## 大気・水・土壌環境保全

は	日本サステナブル・レストラン協会	日本の飲食・レストランのサステナビリティを向上させる（オーガニック野菜、持続可能な水産資源、食品ロスの低減、自然エネルギーの使用を促す）	89
ひ	東京労働安全衛生センター	大気汚染防止法改正に伴うアスベスト飛散防止対策及び災害時のアスベストばく露防止対策におけるリスクコミュニケーションの普及・啓発活動	89
L	神戸海さくら	須磨の自然と歴史を学び海洋環境を守り育てる活動	90
ひ	ナシール教育文化振興財団	パキスタン・チニョット地域における地下水資源保全と適正利用に関する参加型アプローチによる地域コミュニティのエンパワーメント	90
ひ	有害化学物質削減ネットワーク	2020年目標以降の化学物質管理に関する取組みの推進に関する情報発信、普及啓発活動	91
ひ	ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステナブル・サプライチェーン	日本企業のサプライチェーン最上流の農家の環境・社会課題解決へ向けた取り組み	92
ひ	Pos Koordinasi untuk Keselamatan Korban Lumpur Lapindo (PosKoKKLuLa)	インドネシア共和国東ジャワ州シダルジョ地域における熱泥流被災者のエンパワーメント	93
ひ	ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議	有害化学物質による胎児と子どもの悪影響を最小限にするための政策提言と世論喚起活動	94
ひ	アジア砒素ネットワーク	バングラデシュの高濃度砒素汚染地域における持続的な安全水供給のための技術移転事業	95

## 総合環境教育

は	教育旅行ふくい	SDGsをテーマとした探究型学習プログラムの開発と実践・普及活動	97
は	能登里山里海マイスターネットワーク	映像制作を通じたGIAHS継承・発信プロジェクト	97
は	マナティー研究所	生物多様性について考える環境教育を国内外の専門家と協力して開発、普及する活動	98
は	やんばるビジョン	世界自然遺産を目指すやんばるにおける地域参加型フェノロジー調査	98
つ	カントリーパーク新浜	カントリーパーク新浜の環境学習、ESDによる地域包括型の自然保全と復興推進	99
つ	スノーパーク小出	多世代で里山を守ろう！～体験から関わる身近な自然保護の環境づくり～	99
ひ	おおいた環境保全フォーラム	ユネスコエコパークを活用したSDGsを学ぶESD環境教育推進事業	100
ひ	環境修復保全機構	カンボジア王国コンポンチャム州スレイサントール郡における持続可能な資源循環型農業の普及を通じた安全な農産物の生産と販売を目指した農業組合の能力強化と女性エンパワメント	100
ひ	環境パートナーシップちば	SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点づくり	101
ひ	次世代のためにがんばる会	八代市における青少年による水環境に係る自主活動の支援推進事業	101
ひ	日本ハビタット協会	ラオス国ルアンパバン県における地域ネットワークによる環境教育の定着	102
ひ	石川県自然史センター	自然環境調査に関する「いしかわ自然史塾」人材養成プロジェクト	102
ひ	水島地域環境再生財団	コンビナート地域におけるSDGsの実現を目指した協働の取り組み ～大気汚染公害資料館設立に向けて～	103
ひ	水俣フォーラム	オンラインと対面型の併用による水俣病の普及啓発と人材育成	103

プ	開発教育協会	社会教育における環境教育・ESDと市民参加の推進	104
L	アイサーチ・ジャパン (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)	西日本におけるイルカ・クジラに関する教育・啓発活動の充実と普及	104
つ	天草海部	SDGs (14) を目標に、天草の海の生物多様性を学ぶ！先端技術を活用した人材育成	105
つ	ななしんぼ	郡上市明宝地区における森の恵みの有効活用	105
つ	瀬戸内オリーブ基金	地球規模でのゼロエミッションを実現するための、豊島産業廃棄物不法投棄事件の歴史的資料の活用。	106
つ	地球のしごと大學	持続可能な林業及び農業人の育成事業を行う「地球のしごと大學」の運営と卒業後の実践へ向けた支援	106
ひ	いきものいんく	北欧の教育農場をモデルとした放課後自然塾(仮)を開講する	107
ひ	応用地質研究会ヒ素汚染研究グループ	バングラデシュの水供給困難地域における安全な水利用のための環境教育	107
ひ	畑とキャンプの自由な学校 みんなの学校	「子どもとつくる。未来の地球プロジェクト」SDGsスクール活動の実践	108
ひ	ラブグリーンジャパン	ネパール・タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる	108
ひ	田舎のヒロインズ	自然豊かな日本の農村を守るために女性農家が取り組む次世代・消費者教育	109
ひ	丸瀬布昆虫同好会	「虫のいえ」を学校に広げよう	109
ひ	LION	インドネシア、バンドン市の高校生に対する参加型総合環境教育プログラムの開発と実践	110
L	スピリット・オブ・セイラーズ	Ocean College ～海を学び、地球を感じる体験～	110
L	全国川ごみネットワーク	プラスチックごみ削減普及啓発プロジェクト	111
復	みちのくトレイルクラブ	みちのく潮風トレイル 普及・啓発事業	112
つ	石川県ユネスコ協会	北陸におけるSDGs達成に向けたESDプログラム開発	113
つ	キッチンるば	熊本県内の生活困窮家庭と被災した子どもたちの総合環境教育	114
つ	市民エネルギーとっとり	中山間地域の再生に資する総合的な地域環境教育実践活動	115
ひ	伊自良の里振興協会	木のある暮らしづくり	116
ひ	ezorock	災害時にも強い持続可能な北海道のための地域づくり人材育成事業	117
ひ	五ヶ瀬自然学校	世界農業遺産の里で行う耕作放棄地対策・環境保全型農業価値理解促進のための交流活動事業	118
ひ	日本環境教育フォーラム	バングラデシュ・シュンドルボンにおける生物多様性保全を目指した自然体験プログラムの開発及び実践	119
ひ	公害資料館ネットワーク	公害経験から教訓へ 公害教育の普遍化事業	120
ひ	長野県NPOセンター	長野発・SDGs実現に向けた学生アクションプラン「youth reach」	121
ひ	日本下水文化研究会	バングラデシュ都市スラムにおける衛生行動の変容促進と衛生環境の形成	122
ひ	おーでらす	集落の主体的な鳥獣害対策の実施と継続により、農村環境の生物多様性を保全する活動	123
ひ	しずおか環境教育研究会	乳幼児期の自然体験の実態調査と、認定こども園等でのモデル事業実施	124
L	能登半島おらっちゃんの里山里海	能登の里海環境・文化の持続可能性構築	125



ひ	さっぽろ自由学校「遊」	SDGsに基づくNPOのアドボカシー力の向上とセクター間対話の推進	126
ひ	まちなびや	全国の先生が手軽にできる！環境の仕事のイメージが広がる！「環境キャリア授業パッケージ」の開発と普及	127

## 総合環境保全活動

は	ダイヤモンド・フォー・ピース	リベリア共和国手掘りダイヤモンド採掘地域における環境保護活動のための基盤整備事業	129
ひ	公益のふるさと創り鶴岡	内川の河川環境保全のためのゴミの排出規制キャンペーン及び川底の環境美化活動の実施	129
ひ	泉京・垂井	持続的・包括的な地域・環境ガバナンスの実現に向けてのアドボカシー継承事業～あどぼのプラットフォーム人材育成～	130
ひ	ふくおかFUN	海と人をつなぐ 持続可能な海づくりプロジェクト	130
ひ	由良野の森	ブナの森づくりプロジェクト	131
ひ	Little Bees International	ケニア共和国・コロゴッチョスラムの6つのコミュニティスクールとの連携を中心にした行動変容による生態系の回復及び循環型社会の形成とポスト愛知目標の達成を目指した総合的な生物多様性保全活動	131
ひ	APEX	適正な技術選択に関する包括的フレームワークを活用した、持続可能な社会形成の促進	132
ひ	「環境・持続社会」研究センター (JACSSES)	日本による途上国への気候変動適応策支援のための提言・普及啓発～特にジェンダー・LNOB配慮の視点から～	132
ひ	Blue Earth Project	Blue Earth Project	133
ひ	メコン・ウォッチ	タイ・ムン川(メコン河支流)における住民主体の生態系配慮型治水確立に向けた情報発信・政策提言	133
フ	喜界島サンゴ礁科学研究所	奄美群島における環境サステナビリティを目指したサンゴ礁保全と教育、地域システムの循環形成	134
プ	関西NGO協議会	市民・市民社会のためのSDGs普及啓発と行動変容を促すための関西地域SDGsプラットフォーム形成に向けたネットワーク事業	134
特	アースウォッチ・ジャパン	長野県開田高原における木曾馬文化と草地の再生を軸にした地域づくり	135
特	持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク (SUSPON)	持続可能なスポーツイベントを実現するためのNGO/NPOによる提言・実践活動	135
L	夢創房室戸迎鯨の社	海辺の環境保全と海洋文化の伝承プロジェクト	136
L	大阪海さくら	大阪湾でアマモを育て海の生物を知ろう、淀川ゴミ拾い『大阪海さくら』	136
ひ	II NET	インドネシア・西部バリ国立公園周辺村における、地域に根ざした環境教育と若者ファシリテーター育成を通じた『子どもたちが生きいきと活動するカンムリシロムク保護村』づくり	137
ひ	アサザ基金	霞ヶ浦水源地の総合保全に向けたコンソーシアムの設立とコミュニティビジネスの流域ネットワーク化	137
ひ	SDGs市民社会ネットワーク	「持続可能な開発目標」(SDGs)に関する市民社会の活動の強化とマルチ・ステークホルダー・プロセスの定着を目指した活動	138
ひ	徳島保全生物学研究会	生物多様性活動認証制度の拡大による地域の生物多様性向上の推進	138
ひ	NPO地域づくり工房	市民からの持続可能性アセスメントの提案とモデル事業の実施	139
ひ	アジア太平洋資料センター (PARC)	電気自動車・再生可能エネルギー・SDGsを鉱物調達の視点から再検証するモニタリング・普及啓発・提言活動	139
復	九州エコファーマーズセンター	熊本地震被災地域における活性化の活動	140
復	フー太郎の森基金	被災農地で被災者を対象にした無農薬・減農薬の市民農園造成と実践的「食育」講座開催	140
フ	JARTA	旅行会社に向けたサステイナブル・ツーリズム国際認証制度の普及啓発	141

つ	Earth Company	企業・学校・NPOの誰もが使いやすい環境配慮施策パッケージの開発と導入支援	142
ひ	エバーラスティング・ネイチャー	ウミガメにおける海洋ゴミ問題のモニタリング調査と誤食ゴミを活用した参加型啓発プログラムの開発	143
ひ	北の里浜 花のかけはしネットワーク	東日本大震災被災地における地域のレジリエンス向上を目指した海浜植物群落の再生と環境・防災学習・地域交流ネットワーク形成	144
ひ	たてやま・海辺の鑑定団	南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」「伝える」ための仕組み強化による環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動	145
ひ	北九州・魚部	生き物好き発掘！身近な自然の危機を察知できる人材を増やすための取り組み	146
ひ	CSOネットワーク	持続可能性を高める中小企業をサポートするツールの開発及びそれに向けた調査～SDGs時代における地域のエコシステムを活用したアプローチ～	147
ひ	持続可能な社会に向けたジャパン ユースプラットフォーム協会	若者によるSDGs実施の推進のためのユースコンパクト発足、GDPに変わるビジョン・指標策定を中心とした政策提言、およびSDGs推進に関わる啓発活動	148
ひ	たねと食とひと@フォーラム	「たね」を通してみた食と農の持続可能性についての啓発活動	149
ひ	ACE	インドのコットン生産地の環境・社会課題を解決する持続可能なコットンの普及啓発活動	150
ひ	EnVision環境保全事務所	地理空間情報を使った、地域版SDGs達成に向けた生態系サービス評価のシナリオづくりと普及啓発—Evidence!に基づいた計画、評価、モニタリングの主流化のために—	151
フ	徳島地域エネルギー	熱利用転換で環境を守り未来につなぐ木質バイオマス地域アライアンス	152

## 復興支援等

つ	ふくしま再生の会	飯舘村の里山を守る	155
ひ	災害ボランティアチーム ランドアース	球磨川再生プロジェクト	155

## その他の環境保全活動

L	宗像フェスCSR推進実行委員会	日韓海洋プラスチックリサイクル環境学習事業	157
L	大阪自然環境保全協会	遠征観察会やごみ拾いの実施による『海洋プラスチックごみをなくす社会を目指した意識改革』活動	157
ひ	Mブリッジ	エシカル消費の啓発活動事業～消費者にできる身近なSDGsとして伝え広げる～	158
ひ	日本クマネットワーク	街に出るクマ ～アーバンベアとどう付き合うか～	158
L	ジョイライフさやま	環境保全の大切さを伝える自然体験・地域交流の創出	159



# 2021年度 地球環境基金助成実績

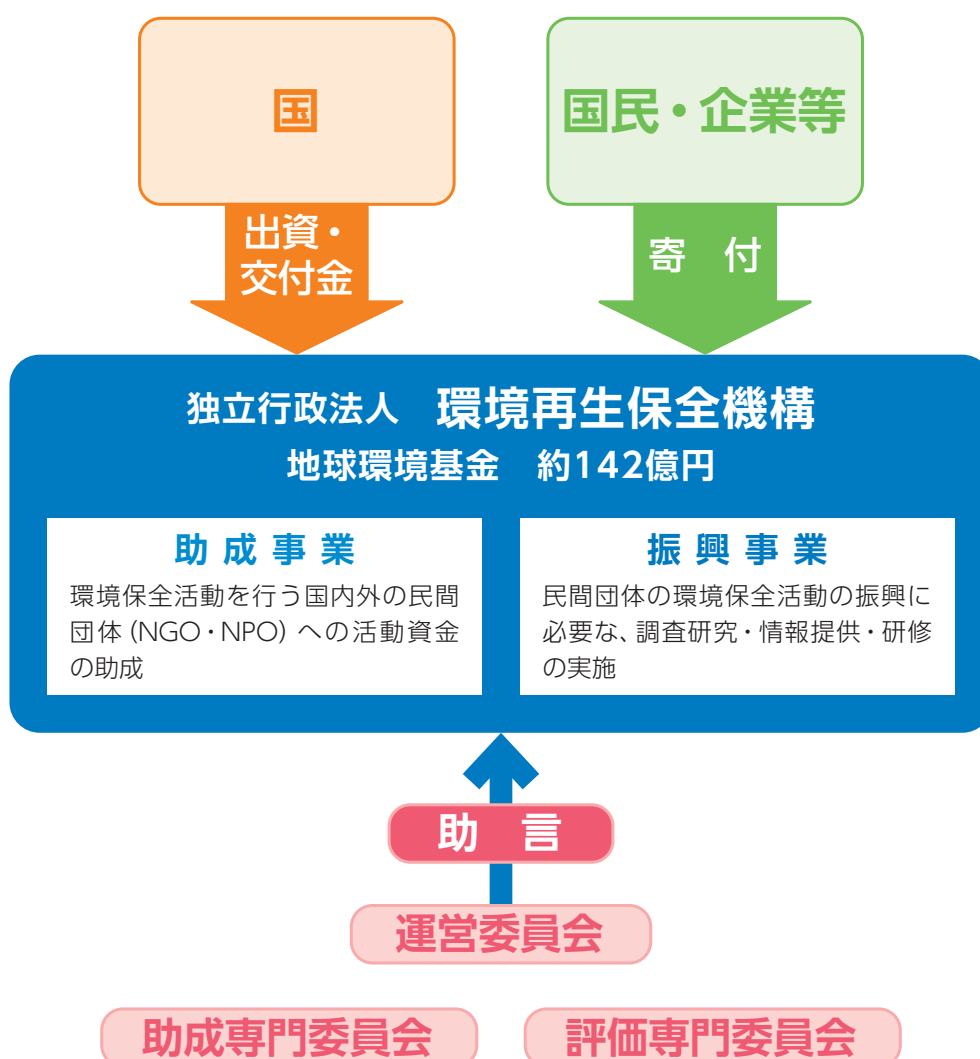
## 1 地球環境基金の仕組み

地球環境基金は、国と民間の双方からの資金拠出に基づいて基金を設け、その運用益等をもって国内外の民間団体(NGO・NPO)による環境保全活動への助成、その他の支援を行っています。

地球環境基金による支援の内容は、直接的にNGO・NPOの環境保全活動へ資金助成を行う「助成事業」と、間接的にNGO・NPOのための基盤整備として調査研究、情報提供、研修を行う「振興事業」の二本立てとなっています。

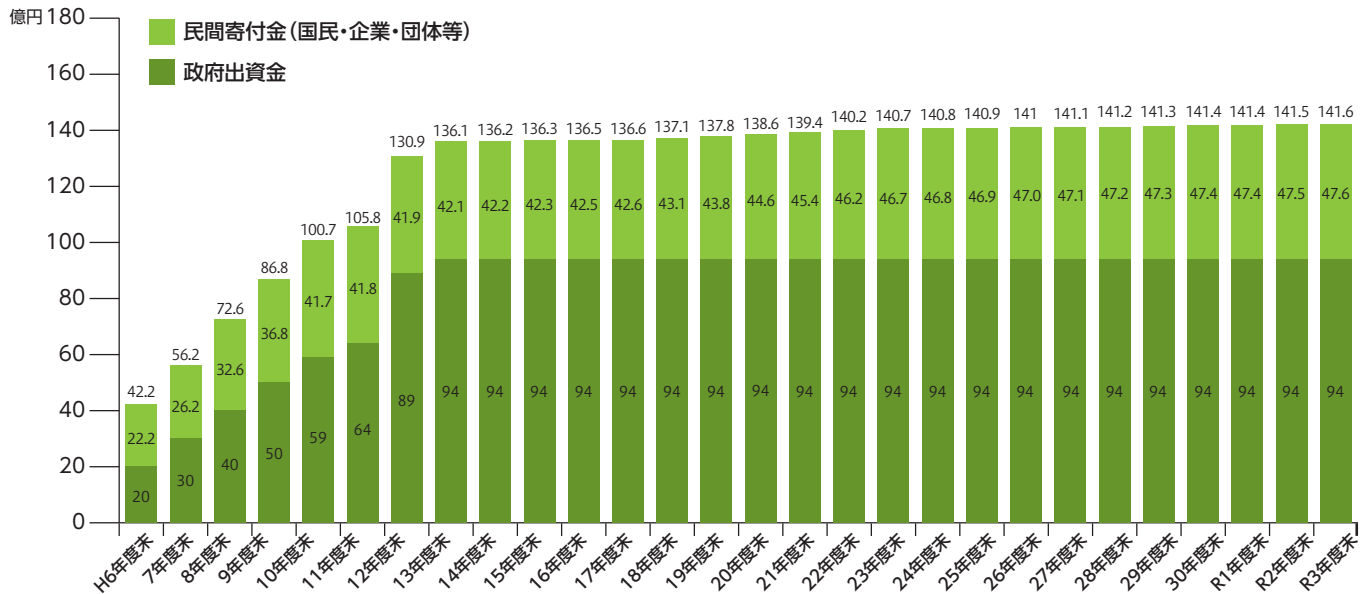
これらの事業の実施に当たっては、学識経験者からなる地球環境基金運営委員会の助言を受けることとされています。運営委員会の下には、助成専門委員会と評価専門委員会が設けられており、助成専門委員会では助成事業についての審査方針や具体的な助成先などについて、また評価専門委員会では助成対象活動の評価について、専門的見地から審議が行われています。

### ● 地球環境基金の仕組み ●



## 2

# 地球環境基金の造成状況(2022年3月現在)



## 3

# 2021年度の助成実績

2021年度助成金の募集は、2020年11月5日から同年12月2日にかけて行い、310件、総額約11億8,400万円の交付要望が寄せられ、180件、総額約5億2,056万円の助成を行いました。

また、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた2020年度の助成期間延長措置により、同年度から2021年度への繰越し16件についても計2,344万円の助成を行いました。

助成の種類	概要	要望件数 (要望総額)	助成件数 (助成総額)
はじめる助成	地域活動の種を育て、地域に根付いた活動を中心に、地域からの環境保全のボトムアップの充実を目指すことを支援	38件 (79百万円)	10件 (18百万円)
つづける助成	地域に根ざすことなどを目指してはじめた活動が継続し、持続的な活動へと定着することを支援	67件 (150百万円)	32件 (59百万円)
ひろげる助成	課題解決能力等に磨きをかけ、より効果的な活動の展開を実現し団体組織のステップアップを目指すことを支援	153件 (684百万円)	109件 (355百万円)
フロントランナー助成	日本の環境NGO・NPOが中心となり、市民社会に新たなモデルや制度を作ること支援	17件 (151百万円)	5件 (29百万円)
プラットフォーム助成	日本の環境NGO・NPOが横断的に協働・連携し国際会議等で意見表明を行うなどの大きな役割を果たすことを支援	10件 (50百万円)	3件 (15百万円)
復興支援助成	東日本大震災及び熊本地震の被災地域における環境保全を通じて、これら地域の復興に貢献しようとする活動を支援	8件 (31百万円)	6件 (19百万円)
特別助成	・NPO等が地域循環共生圏構築の中心となり、様々な関係者と連携・協働し環境・社会・経済の統合的課題解決を目指す活動を支援 ・東京2020大会に向けた環境保全活動を支援	7件 (21百万円)	4件 (11百万円)
LOVE BLUE助成	(一社)日本釣用品工業会からの寄付により、海岸や河川の清掃活動など水辺の環境保全活動を支援(企業協働プロジェクト)	8件 (12百万円)	11件 (12百万円)
合計		310件 (1,184百万円)	180件 (520百万円)

(※通常採択分のみ。要望総額及び助成総額は、百万円未満切捨のため合計が合致しない場合があります。)

## 活動区分別件数

活動区分	助成要望件数 (要望総額)	助成件数 (助成総額)
イ. 国内民間団体の開発途上地域での環境保全活動	41件 (199百万円)	22件 (75百万円)
ロ. 海外民間団体の開発途上地域での環境保全活動	29件 (110百万円)	14件 (51百万円)
ハ. 国内民間団体の国内での環境保全活動	240件 (873百万円)	144件 (393百万円)
合 計	310件 (1,184百万円)	180件 (520百万円)

(※要望総額及び助成総額は、百万円未満切捨のため合計が合致しない場合があります。)





## 海外活動地域別件数

### ●アフリカ

活動地域	イ	□	合計
カメルーン		1	1
ケニア	1		1
セネガル	1		1
タンザニア	1		1
リベリア	1		1
ルワンダ		1	1
合計	4	2	6

### ●中東

活動地域	イ	□	合計
パレスチナ自治区	1		1
合計	1		1

### ●大洋州・その他(広域ほか)

活動地域	イ	□	合計
キリバス	1		1
合計	1		1

### ●中南米

活動地域	イ	□	合計
ブラジル		1	1
合計		1	1

### ●アジア(東南アジア)

活動地域	イ	□	合計
インドネシア	1	3	4
カンボジア	1		1
タイ	1		1
フィリピン	1		1
ベトナム	2		2
マレーシア	2		2
ラオス	1		1
合計	9	3	12

### ●アジア(その他)

活動地域	イ	□	合計
アジア太平洋地域	1		1
インド		3	3
ネパール	2	2	4
パキスタン		1	1
バングラデシュ	3	2	5
モンゴル	1		1
合計	7	8	15



● 助成期間が2年以上で当該年度に活動が終了する団体用

(団体名) □□□□□□□□□□

(活動名) □□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□

活動地域  □□□□□

(助成メニュー)

(活動年数)

(活動形態)

(活動成果指標①) 00

(活動成果指標②) 00

今年度計画の達成度 00%

目標達成度 00%

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□

■ 工夫した点

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□

課題

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□

目標

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□

活動内容と成果

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□

全助成期間の活動を振り返って

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□

〒000-0000  
 □□□□□□□□□□  
 電話：000-0000-0000  
 E-mail：□□□□□□□□□□  
 HP：http://□□□□□□□□□□

(QRコード)

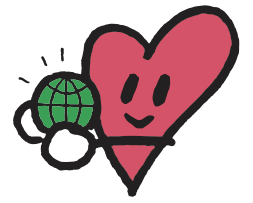


今後の  
展望

□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□







# 自然保護・ 保全・復元



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

## 静岡県最後のタガメ個体群の保全活動

活動地域  静岡県



タガメ生息地の保全・復元作業

### 課題

静岡県におけるタガメは県西部に限られた地域に生息しているのみで、絶滅の危機に瀕している。耕作放棄による水田や湿地の減少がハビタットの消失に大きく関わっている。

### 目標

既知のタガメの生息地(ため池、湿地)は環境の劣化が危惧されている。環境教育や自然体験活動として、耕作放棄地の湿地化(ピオトープ化)やため池の復元などを進めたい。



今後の展望

新型コロナウイルス禍のため、広く一般市民に向けた講座を開催することができなかった。再度、講座等を企画し、市民の関心を高めたい。タガメ以外の貴重な生物も生息していることから、多様な生息環境を再生していきたい。

はじめる助成

1年目

実践

### 活動内容と成果

- 静岡県西部でタガメの卵塊約100個を調査し、メタ個体群化した分布実態を把握し、貴重なデータを得ることができた
- 最大の個体数を有する老朽化したため池の生息環境を整備した
- 休耕田を改善したピオトープでも、造成後4年連続で産卵を記録した
- かつてタガメの生息していた大規模な谷津田を確認し、保全・復元作業に着手することができた
- 一般市民対象の講座は開催できなかったが、若い世代(地元の中学生や大学生)に向けて、講座やワークショップを開催できた。アンケートではタガメの保全に高い関心を示した



講座の様子

新たな生息環境を復元・創出する **1.9 ha**

講座及びワークショップの開催 **2回**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **80%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

- 耕作放棄地が予想以上に荒れていて、泥上げや畔の改修などの作業に苦労した
- 新型コロナウイルス禍で講座開催の判断が難しかった

#### ■工夫した点

- 現地に頻繁に通うことで、管理者や地権者と良好な関係を築くことができた

〒426-0084  
静岡県藤枝市寺島529-1  
E-mail: info@fuji-kankyolab.or.jp

## はしもと里山学校

## 村の誇りを取り戻す!

～農村の新しい価値を創造～

活動地域  和歌山県



棚田の田植えを親子で体験

### 課題

古来受け継いできた棚田の環境を守ることは大切であると同時に、汗と努力の結晶でもある。楽しく参加できる工夫が必要。

### 目標

意義を理解して参加する棚田オーナーの輪を広げ、農村(村人)と都市(街人)の良い関係を作り出した。



今後の展望

農村人口が減り後継者が減少する中、豊かな自然環境を求める都市住民の欲求は高まりつつある。その中で、棚田オーナー制を取り入れ、体験の楽しさと、農村環境の保全を同時に解決したい。

つづける助成

1年目

実践

### 活動内容と成果

450年以上受け継いできた棚田のうち田んぼ7枚(3,500m<sup>2</sup>)の米づくりを市民と子どもたちの力で行った。地元の小学校や幼稚園を受け入れて行ってきた、農業体験や自然体験はその実績を認められ、令和4年度農水省「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に認定された。今後さらに活動を広げ、子どもたちの育成にむけて活動を深めていきたい。同時に、古来里山環境に生息する希少な生物を守り、モニタリングしていくことによって、農村の素晴らしさと新しい価値を高めていきたい。



棚田の石積みを修復

イベント参加者 **1,000人**

棚田オーナー **6口**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **60%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

棚田里山の農業環境を維持するためには、体力のみならず、きめ細かい農作業が欠かせない。どれだけの人材を受け入れるかが問題。

#### ■工夫した点

ここで育ち成長した、高校生や大学生に役割を分担し、また、農作業の技術を伝え、スタッフとして活躍してもらっている。

〒649-7205  
和歌山県橋本市高野町名倉979  
川口ビル2F(事務所)  
電話: 090-8160-3076  
E-mail: s3103104@msn.com  
HP: http://satoyamagakkou.sakura.ne.jp





## (一社) Change Our Next Decade

# 生物多様性分野におけるユースの政策提言能力強化と次世代ユース育成プログラムの実施

活動地域  日本全域



### 課題

- ①日本ユースの政策提言能力の向上
- ②次世代ユースの育成

### 目標

日本人ユースの政策提言能力が強化され、生物多様性分野にて主体的に活動を行うユースが増加し、人と自然がより良い関係で共生できる社会の構築に寄与する。



### 今後の展望

今年度は、新型コロナウイルスの影響で国内外での活動を予定通り実施することができなかった。来年度は社会情勢を判断しながら、少しずつフィールドでの活動を増やしていき、次世代ユースの育成に取り組んでいきたい。

### 活動内容と成果

活動1では、政策提言セミナー(全8回・延べ45人参加)の実施、生物多様性条約の関連会合への参加(全4回、延べ17人参加)、SNSでの発信(18回)、政策提言に関する用語集の作成などを行った。  
活動2の次世代ユース育成では、次期生物多様性リーダー育成プログラム(全5回、延べ16人参加)を実施した。また、新型コロナウイルスの影響で、対面でのプログラム開催ができなかったため、オンラインで生物多様性サミット(50人参加)を実施し、生物多様性について興味を持ってもらうきっかけづくりを行った。



つづける助成  
**1年目**  
知識の提供・普及啓発

生物多様性サミットの参加者数	<b>50人</b>
SNSポスの投稿数	<b>18回</b>
今年度計画の達成度	<b>70%</b>
目標達成度	<b>50%</b>

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

対面でのイベント開催や国際会議への参加ができなかった。オンラインプログラムやイベントの集客が見込み数を大幅に下回った。

#### ■工夫した点

国際会議の様子などを参加できない方にも伝えるように、SNSやYouTubeなどを活用して発信した。

〒271-0092  
千葉県松戸市松戸1106番地  
1-101号  
E-mail: secretariat.cond@gmail.com  
HP: condx.jp



自然保護・保全・復元

## (特非) 日本オランウータン・リサーチセンター

# マレーシア・ダナムバレイ保護区におけるオランウータンの長期調査を基盤とした、普及啓発と観光復興支援

活動地域  マレーシア



オランウータンの大人メス

### 課題

ダナムバレイ地域に生息するオランウータンを、長期生存可能な個体群として維持する。

### 目標

地元に関連組織からの理解と協力を得ながら、ダナムバレイ地域に生息するオランウータンの生息密度を調べるモニタリング調査を毎月行う。

### 活動内容と成果

2021年度は、現地スタッフがオランウータンの生息密度と果実量の調査をほぼ毎月行い、個体数や食物資源に大幅な変化がないことを確認できた。しかし、新型コロナウイルスの影響により、今年度も、研究者がマレーシアに渡航することはできなかった。海外で活動できない分は、オンラインを使った普及活動に切り替えて積極的に行った。ホームページでは、オランウータンの情報提供や本の紹介、YouTubeによる動画を配信した。オンライン講演会は、NPO主催によるバーチャル動物園ツアーやトークイベントなどを計3回行った。



オンライン講演の裏方

つづける助成  
**1年目**  
調査研究

生息密度調査の回数	<b>10か月</b>
ホームページ閲覧数	<b>82,143回</b>
今年度計画の達成度	<b>80%</b>
目標達成度	<b>30%</b>

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

保護区で働くスタッフが少なくなり、生活のインフラ、例えば電気やWi-Fiなどの使用が大幅に制限され、生活が不便になった。

#### ■工夫した点

充電式の機材を使用したり、機材の予備を増やすことで、対処した。今後は、蓄電器などの購入を検討している。

〒168-0064  
東京都杉並区永福町四丁目  
5番1号  
電話: 03-5932-4618  
E-mail: info@orangutan-research.jp  
HP: https://www.orangutan-research.jp/



### 今後の展望

ダナムバレイでは、外国人の渡航制限によってエコツアー事業が壊滅的なダメージを受けた。その損害は、1~2年程度で元に戻るものではない。今後は、オランウータンの調査と平行して、現地の観光業を支援する。

上関の自然を守る会

カンムリウミスズメ他希少鳥類保護のための生態調査および普及

活動地域  山口県上関町



カンムリウミスズメ(幼鳥と換羽期成鳥?)

課題

上関海域はカンムリウミスズメやオオミズナギドリなどが独自生態系を有している。自然環境の変化が鳥類へ与えるダメージが懸念され保全対策に対する世論喚起が必要である。

目標

カンムリウミスズメ/オオミズナギドリ/アマツバメなどの生態調査を年間48回行い、希少鳥類生態解明と普及活動、オオミズナギドリ営巣地の修復を行う。



今後の展望

- ①調査手法に動画/定点カメラ/音声レコーダーなどを導入し効率化を図る
- ②マンパワー確保のため学生アルバイトやボランティアを養成する
- ③子どもたちに生態系の理解と交流の場を作り次世代の担い手を作る

つづける助成  
1年目  
調査研究

海上調査	49回
普及活動	128回
今年度計画の達成度	95%
目標達成度	95%

活動内容と成果

- 希少鳥類の生態解明
  - ①調査回数49回
  - ②確認種数カンムリウミスズメ229羽/ウミスズメ557羽/ミサゴ繁殖確認(八島・鼻線島・叶島・ホオジロ島・ハンドウ島)/アマツバメ131羽/イルカ230頭
- オオミズナギドリ営巣地修復
  - ①定点カメラによりカラス、ドブネズミ、イノシシの影響を確認
  - ②イノシシくくり罠により上陸の痕跡を確認
  - ③ネズミ捕獲器でドブネズミ15匹捕獲駆除
- 普及活動
  - ①パンフレット作成2冊・ブログ/Facebook66回更新
  - ②Instagram58回・YouTube4回更新



宇和島オオミズナギドリ(北10週程度)

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大による影響・調査&イベントスタッフ確保の困難・紙媒体での広報普及活動の困難・イベント開催判断の可否時期。

■工夫した点

調査参加者やイベントスタッフへの新型コロナウイルス感染対策の徹底・感染で参加できない人たちへのフィールドバーチャル体験の提供。

〒742-1403  
山口県熊毛郡上関町室津1103-5  
電話：090-8995-8799  
E-mail：midori356@gmail.com

(特非) 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子

ユネスコ未来遺産生物多様性センター孟子 不動谷未来館建設及び運営活動

活動地域  和歌山県



和歌山大学生と行った外来生物駆除風景

課題

孟子不動谷の活動が自立した活動として確立すること、海南市わんぱく公園を生物多様性保全に配慮した里山公園として運営管理が行えるようにすること。

目標

孟子不動谷の無農薬稲作実践、未来遺産運動実施、モニタリング調査、生物多様性センター準備。海南市わんぱく公園の自然体験活動実施及び管理インシアチブ作成。

ひろげる助成  
1年目  
実践

モニタリング確認生物種数	179種
活動参加人数	301人
今年度計画の達成度	93%
目標達成度	48%

活動内容と成果

新型コロナウイルスの影響で、孟子不動谷・わんぱく公園での活動が募集人員・実施回数を減らすこととなった。そのため目標人数の達成はできなかったが、参加したお客様には有意義であったと思う。わんぱく公園の里山エリアの除草等の管理時に、生息する主な生物モニタリングを行い、「管理インシアチブ」の第1版を作成することができた。孟子不動谷では無農薬稲作の実施、外来生物駆除、モニタリングを実現することができ、おおむね目標通りの成果を得た。テキストの原稿も若干ページ数が当初より増えたが完了することができた。



ウラニアアカシジミ(じじみちょう科)

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、イベントの実施が思うようにできなかった。

■工夫した点

新型コロナウイルスの感染予防対策をしっかりと行いつつ、未来遺産活動を実施した。



今後の展望

新型コロナウイルス感染拡大により障壁はあったが、感染対策を行い少人数での活動や、リモートでの活動ができ、withコロナにおける事業達成への展望ができた。1年目をステップとして最終目標の達成に繋がたい。

〒642-0022  
和歌山県海南市大野中995-2  
海南市わんぱく公園内  
電話：073-484-5810  
E-mail：info@wanpaku.pya.jp  
HP：http://mo-ko.jp/





## (特非) 水辺に遊ぶ会

# 中津干潟が公的保全の枠組みに指定されることを目指すプロジェクト

活動地域  大分県



写真・映像展を通じた中津干潟PRキャンペーン

### 課題

中津干潟は、公的保全の枠がかけられていない。何らかの公的枠組みの指定を受けるため、生物の基礎調査、勉強会、キャンペーンを通じて、公的枠組みの指定を目指す。

### 目標

中津市民に中津干潟及びそこに暮らす生物群について多く知ってもらうこと。そのための調査実績の蓄積、行政機関への働きかけなどを実施、公的枠組みへの指定を実現する。

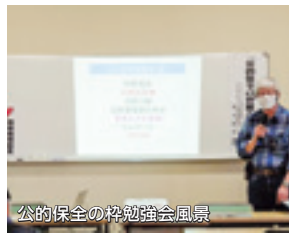


### 今後の展望

調査実績の蓄積を中心に、キャンペーン用の写真映像の記録を行う。公的枠組みについては、OECMが最も有望であることが分かってきたので、他の保全枠組みも学びつつ重点を決めて実施していきたい。

### 活動内容と成果

渡り鳥調査、ベントス調査などでは調査回数が少なかったものの一定の成果を上げることができた。写真・映像展は大型店を会場に、想定より長期間、多くの参加者を得ることができた。会として初めて行った真夏のトンボ観察会には10人の参加があった。事業の合間を見て適宜生物写真の撮影、一部映像撮影も行った。勉強会は、講師選定に苦労したが、結果として一番的確な講師選択ができ、10人の参加があった。キャンペーンとして、市内各団体にアクセスした。予定していた事業に関しては、ほぼ実施することができたものとする。



公的保全の枠勉強会風景

ひろげる助成  
1年目  
実践

主要調査の回数	10回
大型店におけるミニ写真映像展	25日
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	40%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

調査者の一人が新型コロナウイルスに感染し、予定の調査回数を行うことができなかった。ドローンがプログラム飛行できなかった。

#### ■工夫した点

ドローン活用は、可能な限り飛行回数を増やし、プレ調査を行った。結果、これまで難しかった産卵調査が容易になった。

〒871-0024  
大分県中津市中央町  
2丁目8番35号  
電話：0979-77-4396

E-mail: info@mizubeniasobukai.org  
HP: http://mizubeniasobukai.org



## ポレポレ自然環境観察会

# 能登半島の絶滅危惧種「ウミドリ群落」のドローンによる生育分布調査と被災地での「ウミドリ」の移植事例等の実態調査

活動地域  石川県



ドローンでのウミドリ生育海岸の空撮写真

### 課題

- ①現在の志賀町指定文化財から石川県指定文化財昇格への機運の醸成
- ②公的施設等による「絶滅危惧種ウミドリの生息域外・保全」への取り組み

### 目標

解決したい二つの課題に向けて、その第一歩となる行政機関への提案やその働きかけに必要な絶滅危惧種「ウミドリ」の現況DVD、リーフレット、パンフレットを作成する。



### 今後の展望

ウミドリの石川県文化財昇格問題のハードルは高いが、今回の提案（政策提言）に対し、行政当局が地域の絶滅危惧植物の保護・保全事業に取り組むよう継続して、マスコミを巻き込んで関係者に働きかける。

### 活動内容と成果

- 全国的な新型コロナウイルス感染拡大のため、被災地東北での「ウミドリ」移植事例の現地調査は中止となったが、目標達成のための成果品はほぼ計画通り作成できた。しかし、「絶滅危惧種ウミドリの生息域外・保全」の提案（政策提言）については、2022年3月、28年ぶりの石川県知事選挙で知事が交代するなど、当初想定していた課題解決に不可欠な行政的背景が大きく変化した。
- 目標達成度の観点からは、単年度計画の今回の活動としては、妥当性（高すぎた）に問題があったと反省している。



石川県指定絶滅危惧種「ウミドリ」

ひろげる助成  
1年目  
調査研究

リーフレット	300部
パンフレット	100部
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	70%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

全国的な新型コロナウイルス感染拡大のため、被災地での「ウミドリ」移植事例の現地調査が、最終的に中止となった。

#### ■工夫した点

インターネットによる文献調査の結果、宮城県土木部の「ウミドリ」移植成功の報告の情報を入手できた。

〒920-1154  
石川県金沢市太陽が丘3-44  
電話：090-4680-8945  
E-mail: kbysmskkt@yahoo.co.jp



(特非) 環境生態工学研究所

松島湾SDGs

(探そう 誰もが Go!!する社会)

活動地域  宮城県松島町



福浦橋での底質改善イベント(砂団子投入)

課題

松島湾の「藻場造成活動の定着、更なる活発化と継続化」と、幅広い視野を持って活躍できる「人材育成と社会システムの構築」。

目標

多様な参加者の協力の下、造成した藻場が維持され、地元で愛されるプロジェクトが確立し、これに参加する新たな担い手が50人増え、母体組織が構築される。



今後の展望

近年SDGsを意識した学習旅行が注目され、ワークブック(松島町)(当団体の活動が掲載)を見た学校から、旅行会社を通して問い合わせがある。藻場の再生を観光の一つのコンテンツにならないか検討していきたい。

活動内容と成果

継続して実施している松島湾全域の藻場分布調査の結果、アマモ場は震災前の15%の回復に留まっていた。この震災から10年の藻場の変遷について日本水環境学会年会で報告した。また、水族館スタッフの協力の下、伝統漁法等を用いた生物調査を実施し、サンゴタツを確認した。福浦橋での観光客を対象とした底質改善イベント(砂団子の投入)では、2,326人の方に協力いただいた。本活動は松島高校のオンラインツアーや修学旅行、先生向けの教育ツアーのコンテンツの一つとして取り入れていただき、幅広い方に情報発信することができた。



松島パークフェスティバルへの企画参加

フロントランナー助成  
1年目  
知識の提供・普及啓発

イベント年間参加者数 **2,326人**

アマモ移植株数 **150株**

今年度計画の達成度 **76%**

目標達成度 **20%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新たな担い手を引き入れるため、活動への参加者を募ったが、平日の活動や新型コロナウイルス禍に伴う自粛により、集めることが難しかった。

■工夫した点

活動に関わる団体が多様になってきたため、会員を中心とした小委員会もつくり、工程確認と情報交換はこまめに行うようにした。

〒984-0051  
宮城県仙台市若林区新寺  
1-5-26-104  
電話：022-293-2281  
E-mail：e-tec@world.ocn.ne.jp  
HP：http://www.e-tec.server-shared.com/



(一社) 日本海洋教育スポーツ振興協会

世界に誇れるセーリング会場にしよう！  
自然の環境活動への理解を深める江ノ島  
エコプロジェクト2021

活動地域  神奈川県



マリンスポーツの終わりに海岸清掃

課題

東京五輪セーリング競技開催地である江の島は、地元外からの観光客、海利用者、マリンスポーツ利用者が急増し、利用調整、海岸、砂浜環境、風紀の悪化が深刻化している。

目標

地元住民たちが中心となって、問題解決と、海外から東京五輪を目指してやって来る人たちに、環境を大切に、美しい街江ノ島を印象付けるための枠組みを作る。



今後の展望

2021年度のオリンピックを一つの区切りとして、スポーツと海岸環境保全の意識付けを継続して行っていくこと、夏季の砂浜利用者が多い時期に、どのような取組みができるかを地域住民の方々と調整していきたい。

活動内容と成果

●各種海岸環境保全啓蒙イベントの開催  
江ノ島で開催された東京五輪セーリング競技の種目であるヨットを、その競技を知らない地域住民たちが中心となって、トップアスリートと一緒にイベントを実施し、近くで観覧・応援できる機会を作ることで海やビーチという環境への理解、環境保全の意義や大切さを深めると同時に、マリンスポーツと海やビーチの関係について学ぶ機会を創出。結果、地域の子どもたちを中心に、自発的にマリンスポーツをしたら海岸清掃という習慣・考えを体感してもらえた。



ヨットの体験会の様子

特別助成  
1年目  
知識の提供・普及啓発

海岸清掃参加者 **912人**

イベント参加者 **53人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **13.3%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍におけるイベント等の開催可否の日程等の調整と参加募集に苦労した。

■工夫した点

目的意識を持ち海岸清掃を行うため、イベント後に清掃を実施し、自発的な意識付けを行った。

〒251-0035  
神奈川県藤沢市片瀬海岸1-12-4  
電話：050-2018-0944  
E-mail：info@oceansport.jp  
HP：https://www.oceansport.jp/



## 西なぎさ発： 東京里海エイド（ラムサール条約に登録された葛西干潟における漂着ごみ収集を中心とした保全活動）

活動地域  東京都



11月4日（木）活動実施状況

### 課題

ラムサール条約の登録湿地となった葛西海浜公園に漂着するごみは未だに絶えない。少しでも多くの漂着ごみを収集するとともにステークホルダーを増やしていく必要がある。

### 目標

東京湾及び西なぎさにおける海洋ごみの削減、またそれに向けたステークホルダーの拡大と連携による環境保全活動の維持・継続。



### 今後の展望

他のNPO団体と連携したフィールド活動やマイクロプラスチックの実態についての出前授業を実施していく。またリピート参加者を増やすべく「里海バスポート」を導入し、ファンやステークホルダーを増やしていく。

LOVE BLUE助成  
1年目  
実践

### 活動内容と成果

- 参加者総数：210人（大人：160人、子ども：50人）
- 【収集したごみ】
  - 漂着ごみ：45Lごみ袋×148袋
  - 粗大ごみ：75個（バイク部品、工事標識、プラかご、冷蔵庫蓋等）
  - 危険ごみ：83個（注射器、使い捨てライター、ボンベ類等）
- 【オフフィールド活動】
  - 「西なぎさ発：東京里海エイド」が評価されたことから、東京2020大会聖火ランナーとして選抜され、トーチリレーに参加
  - マイクロプラスチックに関する出前授業を3件実施
  - 読売新聞と江戸川テレビで活動と代表が紹介された



7月17日（土）活動実施状況

漂着ごみ収集 (45Lごみ袋換算)	148袋
参加者人数	210人
今年度計画の達成度	75%
目標達成度	75%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、前半のフィールド活動がほとんどできなかった。

#### ■工夫した点

臨時でフィールド活動や東京湾におけるマイクロプラスチックの実態についての出前授業を実施するなどの対応を行った。

〒134-0086  
東京都江戸川区臨海町5-3-2-302  
アリーナコースト参番街  
電話：03-5878-1173  
E-mail：hashikei@dexte-k.com  
HP：https://dexte-k.jp/



## 石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク

## 石狩川流域にわずかに残る湿地環境・文化をネットワークの力で守り育てる

活動地域  北海道



スグを使ったしめ縄ワークショップ

### 課題

保全団体の脆弱な組織基盤、守るべき湿地及び文化の未把握、湿地への理解の不足/湿地保全に関わる人の少なさ。

### 目標

人/団体/文化/地域が持続することで、湿地の様々な生態系サービスをだれもが享受し、石狩低地帯に残存するわずかな湿地が劣化・減少せず、湿原再生を実現する。



### 今後の展望

リアルとオンラインの繋がりの工夫により交流の機会を増やし、湿地の魅力により多くの人たちに伝えていく。そのためにVRの利用や湿地VR空間づくりも進め、湿地への入口と他業種のプラットフォームとして展開する。

つづける助成  
2年目  
実践

### 活動内容と成果

- 未保全湿地の調査/湿地調査WSの開催  
未保全湿地調査1回、生物相一斉調査（BioBlitz）の開催（76人参加）
- 残存文化調査の実施  
湿地文化WS「湿地文化体験スグでメ縄を作ろう」開催（22人参加）
- 湿原再生のための苗育成活動の輪を広げる  
養護学校と精神科医院デイケアで実施（28人参加）
- 湿地の魅力と学びの場を提供  
湿地カフェをゲストを迎えてWebで2回開催（YouTube再生回数 計約300回）
- 普及啓発の新しい手法の検討  
湿地VRワークショップ開催（14人参加）



浜厚真バイオフィット調査で見つけた生物

湿地文化WS参加者数	22人
Web湿地カフェ 再生回数	300回
今年度計画の達成度	60%
目標達成度	50%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍で予定していた活動ができず、多くの市民に湿地の大切さや魅力をってもらう機会が激減した。

#### ■工夫した点

オンラインでの活動を多く取り入れ、湿地カフェはWeb配信した。また今後の展開を考え、VRによって入口を広げる試みを始めた。

〒064-0808  
北海道札幌市中央区  
南8条西2丁目5-74  
市民活動プラザ星園201号  
電話：011-200-0973  
E-mail：ishikari.wetland@gmail.com  
HP：http://ishikarigawa-net.com/





(一社) 大雪山・山守隊

たまには山に恩返し  
～高山帯の自然環境保全活動～

活動地域 北海道



侵食により流れた土砂を集め、元に戻す作業

課題

総延長約300kmに及び大雪山国立公園の登山道では、侵食のスピードに管理が追いつかず各所で荒廃が進んでおり、登山道周辺の生態系に多大な影響を及ぼしている。

目標

生態系の復元を根底に置き、一般登山者や管理者である行政、民間企業や研究者などが協働で登山道を維持管理していく仕組みづくりを目指している。



今後の展望

民官学協働による維持管理の仕組みづくりのため、各所との連携、リーダーの育成、市町村と連携したボランティア受け入れ体制作り等様々な課題に取り組むとともに、全国で同様の問題を抱える地域との連携を行っていく。

活動内容と成果

- 登山道整備イベント「たまには山に恩返し」を白雲岳周辺にて計4日間、「高原温泉沼めぐり登山コース」にて「日曜日の登山道整備」を計5日間、愛山溪にて小規模イベントを計2日間実施。延べ129人の方々とともに作業を行った。
- 「高原温泉沼めぐりコース」にて、木道整備のための「荷上げボランティア」を募集。常時荷上げできる体制を作り、3トンの荷上げが完了。また、冬季にはスノーモービルによる木材運搬を実施し、3.5トンの木材荷上げが完了。今シーズンで計6.5トンの整備資材の荷上げを行うことができた。



スノーモービルによる木材運搬

つづける助成  
**2年目**  
実践

登山道補修イベント 延べ参加者数	<b>129人</b>
整備資材荷上げ量	<b>6.5トン</b>
今年度計画の達成度	<b>100%</b>
目標達成度	<b>40%</b>

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

短い夏山シーズンの中、侵食への対応が必要な場所でどれだけの作業を行うことができるか、人員とスケジュール調整に苦勞した。

■工夫した点

各スタッフが施工を行えるようリーダーへの施工指導を行い、別の場所で同日にイベントを開催できるように調整を行った。

〒078-1333  
北海道十勝郡当麻町伊香牛1区  
電話：090-7058-8357  
E-mail: yamamoritai@gmail.com  
HP: https://www.yamamoritai.com/



African Marine Mammal Conservation Organization (AMMCO)

カメルーン南西部で絶滅の危機に瀕する大型水生ほ乳類マナティーと漁業の共存を目的とした、環境配慮型漁業の推進とエコツーリズムの整備

活動地域 カメルーン



外来種の浮草Salvinia molestaの駆除

課題

マナティーの漁網への混獲、害獣駆除及び食肉目的の密漁が起きている。さらに、新たな問題として外来種の浮草が増殖し、マナティーの生息地を圧迫している。

目標

マナティーの混獲数を減少させ、環境教育によって保全への意識を高める。外来種の駆除を進めつつ、エコツアーの整備によって保全と地域経済の活性化を目指す。

活動内容と成果

マナティー混獲数・密猟数はともに0件であった。漁師らの協力を得て外来種の浮草120トン駆除した。そして駆除した浮草でエコ木炭の製造、販売をすすめる、漁師らの持続的な協力を得ている。ストライキや新型コロナウイルスの影響があったが、学校での環境教育等を継続し、目標を達成した。また、これら参加者を対象に意識調査を行った結果、80%がマナティー保全に賛同した。参加前は賛同率が15%程度だったことから、意識変化が確認された。エコロッジの建設許可が下りない代わりに、テントを購入してエコツアーの実施をすすめた。



小学生を対象にしたフィールド実習の様子

つづける助成  
**2年目**  
知識の提供・普及啓発

マナティー保全に賛同した人	<b>80%</b>
駆除した外来種の植物の量	<b>120トン</b>
今年度計画の達成度	<b>90%</b>
目標達成度	<b>90%</b>

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

教員らによるストライキが起き、学校での環境教育が困難であった。エコロッジ建設の許可申請を得るのに時間がかかっている。

■工夫した点

授業後に環境教育を実施するよう調整した。テントを購入してエコツアーを進めると同時に、許可申請のための手続きを進めた。



今後の展望

学校での環境教育に力を入れて進めていく。今後も漁師らの協力を得て人力での外来種の浮草駆除を進めると同時に、昆虫を用いた駆除も進めていく。エコロッジの建設は許可申請が得られ次第進める予定である。

Dizangue/  
Edea, Littoral Cameroon  
E-mail: info@ammco.org  
HP: http://www.ammco.org/



## 北極渡り鳥イニシアティブ優先種コクガン・カリガネの保全に向けた共同調査と普及啓発

活動地域  北海道、宮城県



捕獲して発信器を装着したカリガネ

### 課題

コクガン、カリガネは東アジア地域で優先して保全すべき渡り鳥に指定されているにもかかわらず、渡りルートが解明されておらず、直面している脅威について知見が不足している。

### 目標

コクガン、カリガネを発信器により追跡することで両種の渡りルート及び重要な生息地を解明し、東アジアの重要生息地での保全に向けた国際的な連携体制を構築する。



### 今後の展望

2020～2021年度の追跡調査により、コクガン、カリガネの渡りルートや生息地に関する新たな知見を得ることができた。今後は関連機関と連携し、現地調査を企画するとともに、その結果を国内外で発信する。

### 活動内容と成果

本年度は、北海道でコクガン9羽、宮城県でカリガネ4羽を捕獲し、発信器追跡を行った。また、2020年度のコクガン、カリガネの追跡結果から渡りルートに関する新たな知見が得られ、これまで知られていなかった、新たな中継地（ロシア）、越冬地（中国）を特定した。2021年7月には第9回東アジア生態学連合会議で成果を発表したほか、これまでの取組みや上記の発信器追跡で得られた知見を盛り込んだ、絵本「雁の道をたずねて」を制作し、1,000部印刷した。絵本は2022年度の普及啓発イベントで活用予定である。



今年度制作した普及啓発用絵本

つづける助成  
**2年目**  
調査研究

発信器追跡個体	<b>13羽</b>
普及啓発用絵本	<b>1,000部</b>
今年度計画の達成度	<b>100%</b>
目標達成度	<b>70%</b>

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響で中国への視察ができなかったこと。

#### ■工夫した点

昨年の捕獲調査経験をもとに、国内にわずか300羽程度しかいないカリガネを4羽同時に捕獲できた。

〒989-6315

宮城県大崎市三本木新沼字二又159-1

電話：090-7494-2847

E-mail：saway1217@yahoo.co.jp

HP：http://shibalabo.eco.coocan.jp/goose/index.htm



## (公財) 黒潮生物研究所

## サンゴの育つ温帯の海 —足摺宇和海国立公園における海洋生物多様性の解明とその保全および普及活動

活動地域  高知県、愛媛県



黒潮生物研究所サマースクールの様子

### 課題

足摺宇和海の生物多様性の根幹を成すサンゴ群集は食害生物により甚大な影響を受けている。また、地域の人々が資源の価値を理解しづらく直接的に関わる機会が不足している。

### 目標

足摺宇和海の特色と環境変動の影響を受けやすいサンゴ群集と海洋生物多様性の理解を深める。また、資源を継続的に利用するための保全活動を進め、その魅力を広く普及する。

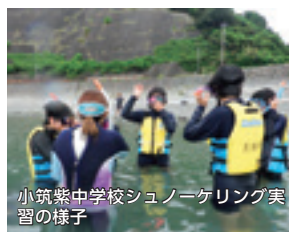


### 今後の展望

足摺宇和海の生物多様性を把握するため、重点的な調査を進める。また、サンゴ群集のモニタリングや食害生物の駆除を継続する。さらに講演会や観察会を実施し、足摺宇和海や生物多様性に関する意識を向上させる。

### 活動内容と成果

- 足摺宇和海におけるサンゴ群集の生物多様性把握のための活動を実施し、400種の生物を確認
- 本研究所のホームページのWeb図鑑「黒潮の生き物たち」に146種を掲載
- サンゴ群集のモニタリングを宿毛市沖の島、大月町周辺海域、土佐清水市電車で計5地点で実施し、全地点でオニヒトデの食害を確認。特に多くの食害が確認された大月町周辺海域と電車で駆除を実施し、計124個体を駆除
- Web図鑑の閲覧者数は約6,000人に到達。各記事の訪問者数は最大で2,658回。Web図鑑の執筆者として外部研究者5人を招聘



小筑紫中学校シュノーケリング実習の様子

つづける助成  
**2年目**  
調査研究

Web図鑑掲載数	<b>146種</b>
オニヒトデの駆除数	<b>124個体</b>
今年度計画の達成度	<b>90%</b>
目標達成度	<b>70%</b>

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

本年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、様々なイベントや勉強会の開催が中止に追い込まれた。

#### ■工夫した点

少人数での自然学習会、自然観察会を実施。SNSや動画配信を活用し、活動や生物を紹介したWeb図鑑を発信。

〒788-0333

高知県幡多郡大月町西泊560イ

電話：0880-62-7077

E-mail：mail@kuroshio.or.jp

HP：http://kuroshio.holy.jp/





Centre for Ecological Studies

# ネパールのシェイ・フォクスンド国立公園 における地域コミュニティに基づいたユキ ヒョウ保全の強化

活動地域  ネパール



ユキヒョウによる家畜襲撃防止柵の設置

**課題**

国立公園におけるユキヒョウの正確な生息状況を把握し、人とユキヒョウの軋轢緩和に役立てるための保全策を講ずる。

**目標**

ユキヒョウの研究により、人とユキヒョウの軋轢を減らすための改善策を明らかにする。また、エコツーリズムによる収入源維持が可能な地域コミュニティを構築する。



**今後の展望**

多数の地域コミュニティと国立公園当局の活動参画により、ユキヒョウの個体数維持と人との軋轢緩和のためのより良い対策法を明らかにする。京都大学との間で締結した覚書を活用し、資金調達と技術支援の向上を図る。

**活動内容と成果**

カメラトラップを約150台設置し、市民サイエンティストを36人、SLCCを5人育成した。コミュニティベースのユキヒョウ保全活動を主導する能力を備えたSLCCは、デントなどのフィールド装備を整え調査を行った。2021年は224世帯に家畜被害アンケートを実施、家畜被害補償申請のサポートにより、5,758,000ネパールルピーを受け取ることができた。また、国立公園当局とともに二つの家畜被害防止柵を作った。少なくとも10回、地域コミュニティと会合を開き、約500人がユキヒョウ保全に関する意識を高めた。



カメラトラップに写ったユキヒョウ

つづける助成  
**2年目**  
調査研究

家畜防止柵の設置	<b>2</b> か所
カメラトラップ設置数	<b>150</b> か所
今年度計画の達成度	<b>90</b> %
目標達成度	<b>65</b> %

**苦労した点と工夫した点**

**■ 苦労した点**

新型コロナウイルスによるロックダウンは大きな弊害となった。また、資金が限られているため、フルタイムの雇用不足が生じた。

**■ 工夫した点**

多くの市民サイエンティストを育成することで本活動を円滑に実施でき、活動を主導できる地域コミュニティの能力強化を図れた。

Lalitpur 44700, Province No: 3, Nepal  
電話: +977 984-8466166  
E-mail: info.cesnepal@gmail.com  
HP: <https://www.facebook.com/CESNepal/>



岩手山麓自然学校

# 町の天然記念物チョウセンアカシジミ保護！ 高畑牧野から広げる里のデワノトネリコ雑木 林づくり

活動地域  岩手県



高畑牧野の雑木林での森林環境学習

**課題**

町の天然記念物に指定されたチョウセンアカシジミは、郷土のシンボルとなる珍しい蝶であるが、組織的な保護は図られておらず、岩手山麓における絶滅が懸念されている。

**目標**

岩手山麓の林野域や水田農村域にデワノトネリコの育つ雑木林を再生し、環境学習の場として活用し、管理することで、チョウセンアカシジミを絶滅危機から防ぐ。



**今後の展望**

高畑牧野をはじめ、環境荒廃が進行しつつある岩手山麓の林野域・農村域において、チョウセンアカシジミの保護や生物多様性・自然景観の保全とあわせて、人が自然と共生する緑豊かな環境づくり・風景づくりを行う。

**活動内容と成果**

荒廃が進む高畑牧野において明るい雑木林の再生や自然観察コースづくりを進め、デワノトネリコの植樹活動を取り入れた自然体験型環境学習プログラムを実施したことで、町の天然記念物でもあるチョウセンアカシジミの保護や、高畑牧野など岩手山麓に広がる林野の環境を保全し、体験学習に活用する活動を広げることができたほか、デワノトネリコの植樹活動をチョウセンアカシジミなど蝶の生態や森林植生・樹木に詳しい地元有識者の指導・協力のもとに実施し、チョウセンアカシジミの繁殖地を水田農村域で拡大し、保全することができた。



民家の庭先でのチョウセンアカシジミの観察

ひろげる助成  
**2年目**  
実践

チョウセンアカシジミの生息地づくり	<b>5</b> か所
高畑牧野での自然体験学習会の開催	<b>11</b> 回
今年度計画の達成度	<b>60</b> %
目標達成度	<b>80</b> %

**苦労した点と工夫した点**

**■ 苦労した点**

新型コロナウイルスの感染症の拡大により、人の集まる調査保護活動や環境学習会での実施や参加者募集が難しくなった。

**■ 工夫した点**

環境学習会より感染リスクの低い高畑牧野での環境整備活動や水田農村域でのデワノトネリコの植栽活動を優先することにした。

〒020-0506  
岩手県岩手郡雫石町沼返467-2  
電話: 0196-92-5899  
E-mail: eacgreen1893@gmail.com  
HP: <http://biological-diversity.com/shizen/iwate/>





(特非) 隠岐しぜんむら

# 隠岐諸島の島前地域における自然環境の 保全体制の構築

活動地域 島根県



外来種セイタカアワダチソウで染め物に挑戦

### 課題

隠岐島前地域の住民は自然と関わりながら生活しているため、独自の生態系であることを認識していない。そのため、環境改変等で特殊な自然環境が破壊される可能性がある。

### 目標

隠岐島前地域の自然環境の現状が整理できる調査が行われ、島前地域の自然環境の現状が把握される。そして、各島ごとに島の環境に合わせた保全活動の実施体制が構築される。



### 今後の展望

調査を元にハンドブック第3弾となる動物編を制作する。また、これまで制作した植物編を活用してワークショップを開催し、地域で環境保全活動に取り組む人材を発掘・育成し、活動グループを立ち上げる。

### 活動内容と成果

#### 【調査活動】

- 島前地域3島での生物調査実施回数：43回
- 西ノ島・知夫里島の植物ハンドブック作成
- 調査による新知見を論文、隠岐の文化財で3項目発表

#### 【普及啓発活動】

- 自然観察会を2回実施 参加者：18人
- 自然観察会の動画を2本制作し、YouTubeで発信
- 外来種を活用したワークショップを2回実施 参加者：9人
- 外来種についての展示会を1回実施(中ノ島)
- 中ノ島の希少種生育域の整備を4回実施
- 中ノ島の希少種6種を保全する看板を作成、設置
- 普及啓発ツールとしてクリアファイルを作成



普及啓発用ハンドブックとクリアファイル

ひろげる助成

2年目

実践

島前地域内調査 **43回**

島あるきハンドブック作成 **1冊**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **60%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルスの感染拡大状況により、普及啓発活動の実施に影響が出た。

#### ■工夫した点

普及啓発のために、自然観察会の動画を制作しYouTubeで発信するとともに、ハンドブックにもQRコードを掲載した。

〒684-0403  
島根県隠岐郡海士町大字海士  
5328-6  
電話：08514-2-1313  
E-mail：sizenmura@navy.plala.or.jp  
HP：http://www.sizenmura.com/



(認特) 四国自然史科学研究センター

# 地域もクマも守る 四国の社会イノベーションプロジェクト

活動地域 四国



シンポジウム運営スタッフ

### 課題

四国に生息するツキノワグマは僅か約20頭と推定され、回復傾向がみられない。早急な保全対策が必要だが、地域住民のツキノワグマへの許容度は十分に高くない。

### 目標

①地域への普及啓発、②トラブル防止の体制整備、③生息状況の把握、④ツキノワグマの保全による利益の創出により、地域がクマの生息を許容できる体制基盤を構築する。



### 今後の展望

軋轢防止の体制を整備すると同時に、クマを残すことが地域にとっての価値と感じてもらえるような情報発信や地域協働の取組みを推進していく。地域住民を対象にした意識調査により一連の活動の効果を測定する。

### 活動内容と成果

- ①調査・活動ステーションの設置、座談会や展示会の実施、普及啓発パネルの展示、チラシ配布、映像制作、オンラインシンポジウムの実施、プロジェクトHPの公開など、地域への情報発信を行った
- ②養蜂実施者と協力して、電気柵を用いた養蜂被害対策を1か所で行った
- ③19地域に49台の自動撮影カメラを設置した結果、13頭のツキノワグマが識別された。既知の生息分布域周辺の一部地域では恒常的に生息している可能性が考えられた
- ④地元の企業・団体と連携して、ツキノワグマに関連する商品が3件商品化された



生息地で地元の学生にクマの現状を伝える

ひろげる助成

2年目

実践

シンポジウム閲覧数 **1,681回**

普及啓発パネルの展示施設数 **11か所**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **70%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

地域住民と対面交流する機会が減少し、地域住民のニーズや普及啓発活動による意識の変化具合を把握することが困難。

#### ■工夫した点

映像制作やシンポジウムのオンライン開催、プロジェクトHPの公開など、オンラインによる情報発信を強化した。

〒785-0023  
高知県須崎市下分乙470-1  
電話：0889-40-0840  
E-mail：sion@lutra.jp  
HP：http://www.lutra.jp/



(特非) ニッポンバラタナゴ高安研究会

高安の里におけるニッポンバラタナゴを保護するための地域循環共生圏づくり

活動地域 大阪府



ニッポンバラタナゴ一時避難のための地引網

課題

地元住民や行政及び都市部のものづくりの得意な企業や住民と連携し、ニッポンバラタナゴを含む生物多様性が保全される高安地域循環共生圏を構築する。

目標

高安地域の自然再生活動によって、持続可能な生態系サービスを維持しながら、ニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全するための地域循環共生圏を構築する。

活動内容と成果

高安地域の自然再生活動である、ニッポンバラタナゴ(キンタイ)の保護池調査やドビ流し(池干し)、里山の森林整備、及び里地の有機栽培を実施することで、ニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全するための地域循環共生圏の構築を目指した。その成果は、森林資源のバイオマスエネルギーとして利用や有機野菜やブランド米(きんたい米)、河内木綿の商品化など、自立分散型の持続可能な生態系サービスの利用方法を開発し確立すると同時に、ニッポンバラタナゴやドブガイの個体数も約10万尾と約5千個体を維持することができた。



高安山の森林整備と資源利用

ひろげる助成

2年目

実践

ニッポンバラタナゴの個体数 **10万尾**

きんたい米の生産量 **300kg**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

保護池における外来種アゾラを除去することとニッポンバラタナゴの産卵母貝である淡水二枚貝(ドブガイ)の繁殖を促進すること。

■工夫した点

タナゴファームのパーマカルチャーを導入したゼロカーボンステーションづくりを実施した。



今後の展望

高安中学校区まちづくり協議会と協働し、「八尾廃校SATODUKURI BASE」を拠点として、タナゴファームのゼロカーボンステーション及び高安山の森林資源を利用した自然体験の場づくりを開催する。

〒581-0872  
大阪府八尾市郡川5-131  
電話：090-6607-6336  
E-mail：n\_baratanago@yahoo.co.jp  
HP：http://n-baratanago.com



(特非) 大山千枚田保存会

台風被害が里山里海の生態系に与えた影響の把握と、そこから考える里山里海の保全活動

活動地域 千葉県鴨川市



オンラインシンポジウムの様子

課題

令和元年に発生した台風は私たちの自然環境・生活環境に多大な影響を与えた。台風が里山里海に与えた影響を把握し、新たな保全活用法を検討することが急務であると考えた。

目標

台風による里山里海の生態系への影響が把握されると同時に、それらを再生・保全するための活動が普及される。

活動内容と成果

- 年17回の観察会形式の里山の生物相、年2回の里海の生物相の調査を実施
- 都市住民、地元住民、大学生とともに年6回の体験プログラムを開発、実施し、5aの森林整備及び2回の森の健康診断を行った。海と山の結びつきを体験するツアーを1回18人の参加者で行った
- 山と里海の繋がりと台風の影響をまとめた図鑑を500部作製した
- オンライン形式でシンポジウムを開催した。台風後の南房総の自然環境の変化のみならず、その後に発生した新型コロナウイルス禍についても、今後どのように活動をしていくかを検討した



台風後の森林環境についての勉強会の様子

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

里山の生物相の調査 **17回**

プログラム開発と実施 **6回**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **50%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

海での活動が新型コロナウイルス禍で制限が掛かった。

■工夫した点

オンラインシンポジウムを開催したことでSNSを使ったオンライン活動のきっかけを作ることができた。



今後の展望

海辺との連携を強化するために地元観光協会に協力を得ながら、海辺の人々へ活動を周知していく。新型コロナウイルス禍という課題の中で、オンラインの活用で活動をどのように広げていくかを検討していく。

〒296-0232  
千葉県鴨川市平塚540  
電話：04-7099-9050  
E-mail：info@senmaida.com  
HP：https://senmaida.com/





## (特非) 森からつづく道

# オオキトンボを育む里地を知る・保つ・伝える・つなげるプロジェクト

活動地域  愛媛県松山市北条地域



### 課題

オオキトンボが生息するため池の水管理が改修工事等により変更され、産卵や孵化に適した環境が失われ、生息数が減少傾向にあるが、農業従事者に関心を高めてもらいたい。

### 目標

本種が発生する五つのため池の管理者により、生息地ネットワーク構想が共有され、広域で本種の生息に寄与するため池管理が導入され、生息数の増加傾向が継続する。



### 今後の展望

オオキくん通信(年10回発行)は3年目に入り、松山市内全52の小学校へ配布している。自然への関心が高まるよう、身近な生き物に関する情報提供を継続する。企業の協力を獲得するツールとしても活用する。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

### 活動内容と成果

- 2020年は本種の発生が増加したが、2021年は約3割減少となった。湛水開始の遅れが要因の一つと考えられるため、2022年は2月より水位を把握し、管理者に早期の湛水を依頼した
- 北条地域の多様な生態系への関心を高めるために、QRコードで解説が読めるポスターを2種作成して小学校に配布したほか、アクリル樹脂を使ったトンボの標本を作成した
- 地元銀行の協力を得て店舗ロビーでトンボの写真と活動の展示を行った。トンボ風づくりWSの様子がCATVのニュースで繰り返し放映され、活動の発信が充実した



WSでトンボ風を作り、風あげも成功！

調査日数	33日
ステークホルダー増加	2組織
今年度計画の達成度	75%
目標達成度	60%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

ため池管理者が2022年4月から交代するが、3月中に人選が定まらず、水管理に係る依頼の連絡を繰り返すこととなった。

#### ■工夫した点

本種保全の関心層を広げるため、トンボ風づくり&風あげWSを実施した。名物となれば、トンボの里の認知度アップが期待できる。

〒790-0827  
愛媛県松山市鉄砲町1-7  
電話：089-992-9152  
E-mail：info@morimichi.org  
HP：http://morimichi.org/



## (一社) はまのね

# 害獣として憎まれている鹿との共生を考える多様な関わりしるのデザイン

活動地域  宮城県



### 課題

人間都合で命を翻弄され、今また害獣の名の下に大きく数を減らされようとしている二ホンジカと共生するとはどういうことかを考えること。

### 目標

地域内外での事業参加者が鹿への理解を深めるとともに、新たな関わり方をデザインすることで、同じ環境の中に生きる生命同士として、共生の在り方が多様になるよう模索する。

復興支援助成

2年目

実践

### 活動内容と成果

害獣としてのイメージが強い鹿の新たな一面を引き出すためにクリエイターと協働し、人と鹿の暮らしが交わる場所を中心にフィールドワークを進めて、コマ撮り動画を制作した。その動画を用いて、獣害を受ける体験農園で農家さんの生の声を聞いてもらいながら、時に鹿料理を食べてもらいながら見てもらい、鹿と人との共生についてざっくばらんに話していく時間を設けた。獣害は解決しなければならない命題という世の中の的に陥りやすい構造から脱し、野菜を食べることと鹿の命の関係等に話が広がるなど、新たな見方の萌芽を感じた。



冬の食卓に並ぶ枯れ草

と体の環境負荷軽減の仕組み開発	1件
自家消費を増やすための解体講座	24人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	40%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

答えのない問いや矛盾をそのまま伝えることや、参加者にもモヤッとした気持ちになってもらうことに苦心した。

#### ■工夫した点

対立構造に陥らないことと、世の中の正解を盲信しないために、ユーモアと様々な見方への肯定感を醸成するよう努めた。

〒986-2354  
宮城県石巻市桃浦字蛤浜18  
HP：https://www.hamaguridou.com



### 今後の展望

「もやもや食堂」いう鹿を料理し食べながら共生について考える、という取り組みを通じ、答えのない問いに対する問答を繰り返し、野生動物は数で管理すれば万事解決という風潮へのカウンターとして機能できればと考える。

(特非) 石西礁湖サンゴ礁基金

複合ストレスの影響を受ける八重山地方のサンゴ礁保全・再生に向けたサンゴ認定制度の構築

活動地域 沖縄県八重山地方



課題

八重山のサンゴ礁生態系を保全・再生するため、赤土流出や栄養塩類の低減、海域の過剰な利用を転換するなど影響を低減し、海域の環境を適した状態へ回復する必要がある。

目標

八重山のサンゴ礁への様々な影響を低減するため、環境負荷の低減や保全・再生につながる取組みや製品などを認定する制度の構築と普及を目指す。



今後の展望

「八重山うみしまフレンドシップ」の普及のため、アーリーアダプターの獲得、インフルエンサーの協力獲得、マスコミ報道の活用、関係団体への働きかけを行い、普及を進める。また、ガイドラインの検討を深めていく。

活動内容と成果

今年度は、①サンゴ礁保全への行動変容を促す参加スキームとしての「八重山うみしまフレンドシップ」の制度設計と構築、②「八重山うみしまフレンドシップ」のWebサイト構築、③栄養塩低減のためのパイプ栽培実験での元肥の流出実態の把握、④畜産・海の観光・飲食店のガイドライン案の検討等を行い、これらを達成した。ただ⑤フォーラムについては、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の発令で年度内には開催できず、2022年4月の「八重山うみしまフレンドシップ」キックオフ・フォーラムとして行うことにした。



八重山うみしまフレンドシップ Webサイト

フロントランナー助成  
4年目  
調査研究

フレンドシップ登録制度構築	1制度
調査・研究ミーティング	5回
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	80%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルスのまん延で関係者への制度の紹介に制限を受けた。

工夫した点

石西礁湖自然再生協議会のワーキングとして位置づけ協力者を拡大した。登録制度への変更によって制度の起動ができ賛同も広げた。

〒907-0023  
沖縄県石垣市宇石垣221番地  
電話：0980-87-0935  
E-mail : sangosho@dream.bbexcite.jp  
HP : <http://www.strata.jp/sangokikin/>





## ルワンダ国Ntebeコミュニティにおける丘陵地帯の土壌侵食と湿地帯の洪水を防ぎ、住民の水へのアクセスを向上させる総合的雨水集水モデル

活動地域  ルワンダ



建設された配水タンク (5m<sup>3</sup>) と給水設備

### 課題

ルワンダの国土の多くは丘陵地であり、耕作地の60%以上は斜面上に位置し、その多くは農耕を推奨される範囲を超え、深刻な土壌侵食とともに、低い農業生産性に陥っている。

### 目標

住民の水へのアクセスを向上させることに焦点を置き、雨水集水モデルを活用した水利用のメリットとの相乗効果により、豪雨による土壌侵食と洪水の災害を抑制する。

### 活動内容と成果

- 丘陵地に暮らすNtebeコミュニティの住民を対象に雨水集水モデルを活用した給水システムを建設
- 過年度及び今年度に設立されたコミュニティの水管理委員会に対して運営・維持管理にかかる研修を実施
- ろ過槽 (容量10m<sup>3</sup>) 1基、配水タンク (容量5m<sup>3</sup>) 1基を建設し、二つ目の給水システムを完成



雨水集水槽への防塵ネット取付

つづける助成

3年目

実践

ろ過槽 (10m<sup>3</sup>) の建設 1基

配水タンク (5m<sup>3</sup>) の建設 1基

今年度計画の達成度 100%

目標達成度 100%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染流行対策による移動や集会の制限、様々な価格上昇が起こり、コミュニティに対する活動や施設建設のために多くの人員を集めることが困難であった。

#### ■ 工夫した点

集会は人数を減らして屋外で実施し、マスク着用、手洗いを励行して感染予防対策を実施した。市場価格の上昇に対処しつつ、目標を達成するための方法を検討した。



建設されたろ過槽 (10m<sup>3</sup>)

### 全助成期間の活動を振り返って

侵食や洪水の防止、山頂や丘陵に住むコミュニティの清潔な水へのアクセス向上に関する助成活動の実施により、活動の効果を明確に感じることができ、助成団体だけでなく地域のコミュニティ全体にとって非常に有益であったと考える。

P.O. Box 5618 Kigali/ Rwanda · Road KG 11 Av,  
Kigali/ Rwanda  
電話 : +250 788305443  
E-mail : info@arde-kubahorwanda.org  
HP : http://www.arde-kubahorwanda.org



今後の展望

プロジェクトの持続性を確保するために、受益者を代表する委員会や地元リーダーとの継続的な協力関係を維持する必要がある。ルワンダが丘陵国であることを考慮し、これまでの助成活動の経験を踏まえて、Ntebeで達成されたベストプラクティスを同じような問題に直面している他の地域にも拡大することを検討していきたいと考えている。助成活動で得られた知見を活かして様々なドナーに提案を行い活動を広げていく予定である。



# 絶滅寸前ザゼンソウとその環境の保全活動

活動地域 兵庫県但馬地方

つづける助成

3年目

実践

ザゼンソウ株調査数 **250株**

ザゼンソウ  
エコ・ツアー **5人**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **85%**



ザゼンソウ 湿地周辺保全作業

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍におけるセミナー、シンポジウム、保全活動等での人の集まり等における対応策と実践。

### ■工夫した点

保全活動等でも、できるだけ野外活動を中心としたり、5人ずつほどの団体に分け、時間差で実施するなど工夫した。またマニュアルを有効活用し、実保全作業の効率化を図った。

## 課題

ザゼンソウは近年の異常気象や害獣の食害により生存個体が著しく減少している。また湿地の消滅や崩壊もザゼンソウの生存個体数の減少に影響している。

## 目標

絶滅寸前のザゼンソウの生息環境(湿地)が60%保全され、減少したザゼンソウ株が20%増える。また、保全継続のための団体組織運営を確立する。

## 活動内容と成果

- ザゼンソウの株数調査を専門家、連携団体、調査員インストラクター、ボランティアにより実施し、250株(生息域面積調査実績90%)の残存株を確認した。また、参加者には保全マニュアルを渡し、活動運営を行った。継続運営のための保全インストラクター養成も実施した
- 普及啓発活動としてザゼンソウシンポジウムや保全啓発セミナー、写真展などを開催し延べ130人が参加。また、ザゼンソウ湿地見学ブッシュ・クラフト・エコツアーリズムでは5人参加した



ザゼンソウ保全マニュアル

## 全助成期間の活動を振り返って

ザゼンソウ株数調査により株数や分布の確認ができ、自然・食害の原因が考察できた。これらを保全・歴史・保全啓発セミナーで参加いただき、保全の重要性を発信できた。ボランティア、連携団体の保全参加も促進した。また、その際、保全マニュアルの配布で、保全活動がスムーズに運営できた。多くの町民の参加を呼び掛けるつもりだったが、新型コロナウイルス禍において目標の75%にとどまった。



小チームでの保全活動・株数調査

〒667-1511  
兵庫県美方郡香美町小代区神水738  
電話：0796-80-1521  
E-mail：inouekameo1858@gmail.com  
HP：inouekameo1958.wixsite.com/website



## 今後の展望

助成終了後も地域連携組織が主体となり、継続的な保全を実地する。フォーラムも継続開催して、保全啓発に努める。また、新型コロナウイルス禍で振るわなかった地域の積極的参加においても、地道に継続PRは実施していく。これに伴い保全インストラクター養成も積極的に行っていく。これら、保全活動はWEB等でもわかりやすく発信し、連絡体系等もLINE等で事務局参加者間のスムーズな対応を構築し継続保全をしていく。

# 建設工事における環境配慮行動の推進

活動地域 三重県

ひろげる助成

3年目

実践

大台町で配慮すべき動植物の把握 **326種**

活動参加者の意識向上、満足度 **100%**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **70%**



専門家2人を講師に招いた講演会の実施

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

職場体制の不足、関係者間の認識のずれにより話し合いが難航した。加えて、新型コロナウイルス禍で講演会の延期と申込取消しが発生し、町民向け自然体験等も中止を余儀なくされた。

### ■ 工夫した点

住民と専門家の協力を得て、話し合いの元となる町内自然情報の収集及び整理、公表に取り組んだ。専門家と行政、住民から広く意見の聞き取りを行い、認識の共有に努めた。

## 課題

ダムや堰堤、河川のコンクリート化等の建設工事により、地域の自然や風土で培われてきた文化や暮らし等の生物多様性の恩恵からなる地域財産が衰退または消失している。

## 目標

大台町独自の保安全管理指針を設け、町内の生物多様性と文化を総合的に保全する。公共工事でも壊されない、むしろ公共工事でも回復が図られる、より新しい形の保全を目指す。

## 活動内容と成果

実地調査と文献調査を行い、話し合いの基礎となる町内自然情報の収集、リスト化及び公表に取り組み、それをもとに町との話し合いを進めた。また、ユネスコエコパークの一つの柱である地域資源の持続的な利活用という観点から、漁協とともにアマゴの親魚放流による自然繁殖量の調査も実施した。

自然情報の総合的な把握と見える化 (GIS)、記録と公表の仕方についての内部研修も行い、理想像の明文化を進める素地を固めた。

自然と工事との共生についての講演会も実施し、環境配慮を行う機運の醸成に大きな一歩を踏み出すことができた。



地球環境基金関係者と専門家を招いた研修

## 全助成期間の活動を振り返って

この助成を受けることで、先進地の視察、事例収集、研修、調査を通し、事務所内だけでは得られない、多くの知見に触れ、見識を広められた。また、地域の方、行政関係者、専門家等、多くの関係者に話を伺い、他者と自分の想いに向き合うことができた。

来年度の予算組みや協議会の立ち上げ、本事業担当者が町のユネスコエコパーク推進委員になる話もあり、大台町として環境配慮に取り組んでいく機運を醸成できた。



アマゴの親魚放流による自然繁殖量の調査

〒519-2633  
三重県多気郡大台町久豆199  
電話：0598-78-8888  
E-mail：info@osugidani.jp  
HP：https://osugidani.jp/



## 今後の展望

来年度も環境省の予算を申請し、引き続き事業を行う予定である。現状の町内自然環境把握のために住民と専門家を巻き込んだ広域的な調査を行い、それにより現状の生物の分布状況、過去の記録と比較し推移の把握を目指す。調査結果をもとに大台町版RDBを作成し、それに則った独自の保安全管理指針の作成と運用を目指す。この取組みをふるさと納税の使途項目に追加し、資金調達を行い持続化し、環境保全のモデルにする。



## 流域単位の里山保全と体制づくり

活動地域  愛媛県



里山見守り隊活動 薪小屋作り

ひろげる助成

3年目

実践

里山見守り隊参加者 **265人**

耕作放棄地モデル化 **60a**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

ご多分に漏れず、新型コロナウイルス対応をどうするかで苦労した。地元参加者と地域外参加者が互いに不安を持ちながらの活動は、当初ぎこちないものになった。

#### ■工夫した点

地元参加者と地域外参加者の活動場所を遣える、昼食の提供見送りなどの対応をした。里山保全だより、メール、当法人スタッフの仲介などでいつもより密な情報交換を行った。

### 課題

当地区は平成30年西日本豪雨に被災。被害拡大の要因に耕作放棄地があげられる。遅々として進まない復興活動に住民から不安の声があり、里山保全の意識が高まっている。

### 目標

支流単位で里山見守り隊を結成し住民による里山保全を行う。耕作放棄地削減の取組み、環境保全、生物多様性の啓発を行い持続可能な里山モデルを構築する。

### 活動内容と成果

- 里山見守り隊活動は当初の計画を上回り、年4回の予定が8回実施。高校生による保全活動8回を加え、全16回の活動を行った
- 耕作放棄地を整備した里山見守り隊基地、こども果樹園、こどもヤギ園等は、地域の保育園、幼稚園、子育て支援団体などの体験活動に活用。またモデル農園の収穫物（もち麦、小麦）は体験活動で使用するほか、西予市ふるさと納税特産品として販売。自然商品店、カフェなどからも問い合わせが来るようになった
- 保全活動で集めた落ち葉を使った堆肥や麦わらを地区の方々に無償で運搬提供した



高校生による展望台作り



モデル農園で収穫した小麦でパン作り体験

### 全助成期間の活動を振り返って

初年度から地元住民の理解が得られ活動はスムーズに広がった。1年目に目標であった里山見守り隊を組織し、3か年で34回の保全活動を実施。里山保全への意識の高さを確認した。地元見守り隊員から次々に作業の要望が出され活発なコミュニティができています。耕作放棄地の利用も予定通り150a以上の整備が終わり、モデル農園、こども果樹園、こどもヤギ園、里山の基地として体験学習や幼稚園の遠足等にも活用されています。

〒797-0010  
愛媛県西予市宇和町明間1766番地  
電話：0894-67-0056  
E-mail：kokuoumail@gmail.com  
HP：http://www.pikara.ne.jp/donguri-oukoku/



今後の展望

宿泊施設の整備を継続して行い、高校生、大学生を含め若い世代（後継者）の育成に力を入れたい。また継続するための資金源として里山からでる木材を利用した薪、炭、堆肥、モデル農園で生産する小麦、野菜等の商品化を進め、販売ルートの確保をしていきたい。



# オオサンショウウオの暮らす清流を守ろう！ 自然体験のフィールドづくりからはじめる水 と緑の回廊の再生

活動地域  岡山県真庭市

啓発活動としての調査会・  
環境学習会の開催 **25回(日)**

活動の拠点となる  
フィールドづくり **8か所**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **75%**

ひろげる助成

**3年目**

実践



下和川長とろでの川の自然体験型環境学習

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

遡上スロープの設置を計画しているハンザキ大明神裏の堰堤下流の旭川にはチュウゴクオオサンショウウオ生息の可能性があるということで、スロープ設置が難しくなった。

### ■ 工夫した点

遡上スロープの設置という旭川での保護対策工事(作業)に向けての関係者対応と並行し、下和川水系での調査保護活動と自然体験型環境学習による清流環境保全活動を進めた。

## 課題

オオサンショウウオの個体群が豪雨の度に流され、元の生息域に戻れないことに加え、以前の生息域も河川工事などによって環境が改変されており、生息個体数の減少が進行。

## 目標

豪雨により流されたオオサンショウウオの個体群の保護を図るとともに、生息地となる清流環境の保全と再生を進めることで、オオサンショウウオの永続的保護を図る。

## 活動内容と成果

豪雨の度にオオサンショウウオの個体群が流され、生息個体数の減少が著しい岡山県北部の生息地について、「オオサンショウウオの暮らす川づくり」を進めるための調査・検討を行い、代表的な生息河川である田羽根川についてハンザキサンクチュアリ(オオサンショウウオ保護管理河川)として保護対策づくりを行うとともに、新型コロナウイルス禍においても、美しい清流の環境づくりを進めている下和川「長とろ」を活動拠点に、県内広くから多くの親子が参加する体験型環境学習会を開催し、オオサンショウウオ生息地再生活動の輪を広げることができた。



下和川水系でのオオサンショウウオ観察会



隣接地(倉見川)での自然体験学習

## 全助成期間の活動を振り返って

美しい渓流の環境を残し、自然体験学習のフィールドとしている下和川水系では、健全なオオサンショウウオの生息環境・繁殖環境が維持されていることが確認され、田羽根川水系での保護活動とあわせて、下和川長とろ、植杉川、山乗川をフィールドとした自然体験学習を進めたことにより、倉見川など隣接地域においても、オオサンショウウオの暮らす川づくりについても、地域住民の理解と協力のもとに活動を拡大させることになった。

〒689-2352  
鳥取県東伯郡琴浦町浦安250-10  
電話：0858-53-1237  
E-mail：eac-gren@po.harenet.ne.jp  
HP：http://fine-country.com/harenokuniyaseiseibutsu.htm



今後の  
展望

オオサンショウウオの生息地であり、美しい清流の自然や景観がみられながら、自然体験活動や環境学習の場として利用されていない岡山県北部の清流及びその流域をフィールドとした自然体験型環境学習プログラムを作成・実施するとともに、自然体験学習ワークショップの開催とフィールド整備と、清流域での自然体験学習の人材養成、実施・運営体制づくりを行いながら、「オオサンショウウオの暮らす川づくり」を進める。



(一社) ふるさとけものネットワーク

鳥獣被害対策における支援組織の  
育成・提言・ネットワーク化

活動地域  日本全域



獣害対策白書vol.3 発刊!

課題

- 獣害対策の担い手育成 (けものまчи医者の育成)
- 農村集落における過疎高齢化して年々厳しくなる獣害対策の体制
- 地域における「けものまчи医者」の地位確立

目標

- けものまчи医者が認知され、地域に根づく
- 狩猟を通じた都市農村交流のモデル完成と普及
- 手引きや獣害対策白書を活用した行政と市民への理解が広まる

活動内容と成果

- 計画当初から新型コロナウイルスによるオンライン化を余儀なくされたが、すべてのプログラムをオンライン開催に切り替えることにより実施できた。(けもの塾オンライン講座受講者数は延べ28人) 併せて、けもの塾受講生の地域 (4団体: 愛知県・和歌山県・岡山県・島根県) に対してフォロー研修を実施した。けものまчи医者が活躍している人数は18地域27人となった。また、野生動物対策技術研究会を実施し、51人が参加した
- 獣害対策白書vol.3を発行し、1,500の市町村に配布した



フォローアップ研修 (鹿柵設置)

ひろげる助成

3年目

実践

フォロー研修  
参加団体数

4団体

白書配布冊数

1,500冊

今年度計画の達成度

60%

目標達成度

70%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

アンケートを実施したが、アンケート結果がこちらの想定と違い、はっきりと言えることが少なかった。社会学などの外部の専門家などの協力を得て、提言をまとめた。

■ 工夫した点

獣害対策の視点だけではなく、地域づくりの視点から農山村の未来の展望や担い手育成について言及した。



集落支援ワークショップ

全助成期間の活動を振り返って

豚コレラという感染症の感染地域拡大から、新型コロナウイルス禍に突入するという外的環境で大きく振り回された3年間であった。講習会等は完全オンライン化を行い、体制を整えることができたが、現地に行っている現場支援ができなくなり、担い手育成事業が失速してしまった。一方で全国の市町村にアンケートを取ってヒアリングを行い、獣害対策白書vol.3を発刊することができた。今後の目指すべき獣害対策を提言していきたい。

〒501-4601  
岐阜県郡上市大和町大間見307番地  
電話：050-5276-2555  
E-mail: kouzen@metamori.org  
HP: <http://furusato-kemono.net/>



今後の  
展望

まだまだ新型コロナウイルス禍での環境は見通しが立っていないが、オンライン講座などをしっかり販売していくことで収益化を強化したい。また、白書作成の際に、自治体の困り度合いを指標化できたので、重点支援地域に一点突破で支援体制を構築していきたい。

# ネパールにおける猛禽類をはじめとした鳥類及び自然環境を保全していくための人材の育成

活動地域  ネパール



クマタカの営巣の様子

## 課題

ネパールは850種以上の鳥類が記録される自然豊かな国だが一方で開発が進み、人知れずクマタカなどの貴重な猛禽類の生息地が脅かされている可能性がある。

## 目標

ネパール人が自立して調査・研究及び啓発活動を行い、一般の人たちも巻き込んで鳥類の保護活動が進んでいく基盤が作られた状態にする。

## 活動内容と成果

- クマタカの営巣地の大まかな行動圏の把握・GPSの装着個体の追跡・GPSデータの解析・猛禽類の渡り調査・トレイルカメラを用いた生物調査をネパール鳥学会が実施し、リモートで指導を行った。またネパール鳥学会会員向けの一般鳥類の捕獲調査の指導用ムービーを作成した。猛禽類の渡りの調査を実施した際には地元の学生に望遠鏡の使い方や猛禽類の重要性について指導した
- 観光資源になる場所でのプロモーションビデオを制作した
- 普及啓発用のリーフレットと下敷きの案を作成した



トレイルカメラ調査で撮影されたヒョウ

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

猛禽類カウント総数 **7,724羽**

プロモーションビデオを制作した観光地 **1か所**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

現地に行けないことで一般鳥類捕獲調査指導や試験的エコツアーについては実施できない点があった。また直接会えないことでコミュニケーション不足にならないよう注意した。

### ■工夫した点

ネパール鳥学会会員に業務委託を行いメールやオンライン会議で連絡を取り合うことで目標達成に近づけることができた。一般鳥類調査については指導用ムービーを作成した。



地元の学生を指導している様子

## 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルスの影響で、2年目以降現地を訪問できないことで試験的エコツアーや一般鳥類の捕獲調査の指導など、在ネパール日本大使館など関係機関との関係構築などについては当初の計画を変更せざるを得ない部分はあったものの、ネパール鳥学会に業務委託を行ったこと、指導用ムービーを作成したことなどにより目標達成に近づけることができた。

〒166-0012  
東京都杉並区和田3-54-5 第10田中ビル3階  
電話：03-5378-5691  
E-mail：research@jspb.org  
HP：http://www.jspb.org/



## 今後の展望

ネパール鳥学会が自立していけるよう、エコツアーを定着させて資金源にする必要がある。ツアーのための場所や情報、そしてツアーのための技術的なことは、オンライン会議やメール、そして業務を委託することで進めることができたが実際にツアー客を受け入れるには至っていない。今後は、日本でツアーを組んでネパールに行くなど、ネパールでのエコツアーが定着するまでフォローアップしていくことが必要であると考えている。



# インド国ベンガル湾岸湿地 (バフダ入江およびルシクリヤ河口) における環境保全型クラブバンクの推進とプラスチックフリーエリアの開発

活動地域  インド

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

ワタリガニ卵放流  
推計数 **2億8,050万匹**

ごみ収集 **18トン**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**



抱卵カニ保護の様子 (クラブバンク)

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍の移動制限、異なる文化・言語を背景に、住民同士や住民と外部機関との意思疎通が難しい状況であった。

### ■ 工夫した点

湿地の賢明な利用を促進するために住民参加型の活動を多く取り入れるとともに、政府の支援も呼びかけ環境活動を活性化させた。

## 課題

対象湿地で見られる乱獲やごみ投棄、気候変動による海洋生物への影響と生活困窮が危惧されている。住民の環境意識は乏しく、地域社会の環境適応・回避能力は脆弱である。

## 目標

ベンガル湾岸湿地の自然環境を再生し、そこで生活する人々が湿地を賢明に利用するために、クラブバンクの導入とプラスチックフリーエリアを創出する。

## 活動内容と成果

- クラブバンクを運営し、推計2億8,050万匹のワタリガニ種苗をベンガル湾に放流
- マングローブ補植による緑化維持
- 住民グループ主導の清掃活動を実施、計18トンのごみを収集
- 女性自助集団を中心とした苗木生産やアロマ油用の花摘みなどの代替生計手段の支援
- 参加型エコゲーム、ニュースレター (計2巻4,000部)、クラブバンクのポスター (2,000部)、環境ラリー活動、先進地視察、環境エッセイや絵画コンテスト等を通じて環境普及啓発



プラスチックフリーエリア創出の活動



環境啓発エコゲームの様子

## 全助成期間の活動を振り返って

クラブバンクを導入し、漁業者の環境意識向上やカニ漁獲量が増加した。また、他地域からの活動視察を受け入れるなど、本取組みは注目されている。漁業者は資源収奪的な漁具使用の見直しを行い、自らの手で焼却処分したというエビデンスも得られている。新型コロナウイルス禍でも住民主導で定期的にごみ収集を行い、プラスチックフリーエリアの取組みを目指すなど、全助成期間の活動を通じて一定の成果が得られたと自負している。

502/2 Mallick Complex, P.O.-Khandagiri,  
Bhubaneswar-751030, Dist-Khurda, Odisha, India  
HP : <http://www.pallishree.org/>



今後の展望

環境親和的なビジネスモデルの確立、清掃活動の普及、そして住民の環境意識向上及び主体的な参加を促す本事業活動によって、対象の地元住民は本事業に対する主体者意識と責任感を持ち助成終了後も活動が継続されることが期待される。本事業で目指した湿地再生と経済活性の好循環を生み出す優良モデルを周辺村々に広めていく活動を行っていきたい。

## (特非) ワイルドライフ・プロミシング

# ケニア、マサイマラ国立保護区周辺、ゴイラレ地域の野生動物保全活動

活動地域  ケニア



家畜囲いの設置—地域住民とともに—

つづける助成

4年目

実践

野生動物保全に関わる意識の普及度 **70%**

野生動物個体数の増加 **40%**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **78%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

本年度の半分は、新型コロナウイルス禍の影響で地域に入ることができず、現地スタッフによる情報の収集や、視察に活動が限定された。政府の方針もあり座学等の実施が不可能となった。

#### ■ 工夫した点

現地職員にスマートフォンを提供することで、ビデオ通話を駆使し、コミュニケーションを図った。同時にスマートフォンによる動画・静止画撮影により、現地の様子を記録した。

### 課題

対象地域において、野生動物と家畜が居住地を共有することで、野生動物の生息地や水場が減少し、結果的に野生動物の個体数が減少している現状がある。

### 目標

対象地域において、野生動物と家畜の棲み分け (Zoning) を根付かせ、地域マサイの人々が自発的にエコツーリズムに関わることで、野生動物との共存を目指す。

### 活動内容と成果

活動地域は牧畜を生業とするマサイの人々が生活している地域であり、近年は野生動物による家畜被害が深刻化している。家畜が野生動物に襲われることを未然に防ぐため、家畜囲いの建設を実施した。今年度中に、5か所に家畜囲いを設置した。1か所につき、子どもから大人まで、20人前後の大家族で生活しており、本活動では、100人以上の地域の人々の生活を支える一端となったとともに、家畜を襲わざるを得なかった野生動物(特に大型食肉目)が、家畜にアクセスできないことで、地域コミュニティに殺される事態を回避し保全された。



ヤギの搾乳 現地スタッフによる生活の記録



地域の野生動物 美しいエランド

### 全助成期間の活動を振り返って

前半は、活動地域全体の資源の把握やマッピング、地域の人々との交流に時間をかけた。長老やチーフへの挨拶など、地元のマサイの人たちの力を借りるなど、地域に根差した活動を心がけてきた。家畜囲いの建設が、新型コロナウイルス禍の影響で最終年度になったが、地域コミュニティとコミュニケーションを取りながら5か所に設置できたことは大変意義があった。軋轢緩和が促進され、野生動物との共存が実現可能に一步步近づき成果となった。

〒063-0033  
北海道札幌市西区西野3条7丁目5-15  
電話：011-667-4618



今後の展望

今後は、地域のより多くの人々が、より積極的に野生動物保全に取り組むためにも、保全が地域の人にとってわかりやすく、目に見える「利益」を生み出すものとなり、活動がより促進されるようなシステム構築を目指していく。地域コミュニティが参加することで、持続可能を実現する。また、外部資金によらない、自主的に資金が回るような仕組みづくりのために、日本で動画配信やニュースレターの刊行など広報活動強化に努めたい。



国際自然保護連合日本委員会

国連生物多様性の10年における民間の取組・成果集約と国際発信による次期国際枠組みへの貢献

活動地域  日本全域



国際会議参加をしたユースが世界で活躍

ひろげる助成  
**4年目**  
知識の提供・普及啓発

国際交渉解説 ブログ記事数	<b>72件</b>
オンラインイベント 参加者数	<b>880人</b>
今年度計画の達成度	<b>50%</b>
目標達成度	<b>75%</b>

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

政策提言先である国際会議/交渉プロセスの延期や変化(オンライン化に伴うロビーイング機会の喪失)があり、事業の柱の一つが大幅な変更を強いられた。

■工夫した点

国内での政策提言はオンライン会議を活用し、全国規模で展開。イベントに複数分科会を設定し、ユース含む、ネットワーク団体の専門性をいかしたイベントを開催。

課題

愛知目標の合意から10年が経過。2020年までの目標達成に向けての更なる取組み強化とともに、10年の成果の把握と次期目標への日本からの提言プロセスを作る必要がある。

目標

日本の民間を中心とした愛知ターゲット達成の取組みと成果をまとめ、国内外に発信することを軸に、次期目標の担い手となるユースの参画や能力養成を図ることをめざす。

活動内容と成果

生物多様性条約COP15はプロジェクト期間内に開催されなかったものの、準備会合への参画、オンラインフォーラムの傍聴、海外情報の国内への展開、様々なNGOを巻き込んだ、ポスト2020枠組みを受けた国内検討へのインプット(環境省との意見交換5回、生物多様性小委員会での提言、オンラインフォーラムシリーズ計7回、880人参加)などを行い、フォーラム2022も開始することができた。  
ユース支援については、団体の法人化、国家戦略小委員会のヒアリング機会の獲得(今回が初)など成果を上げた。



対面でも難航する国際交渉の様子



共通バナーで連続オンラインイベント

全助成期間の活動を振り返って

日本で採択された生物多様性の世界目標(2011-2020)の実施を振り返り、次期目標(2021-2030)への橋渡しを行う重要な事業であったが、新型コロナウイルス感染症拡大による延期やオンライン化に振り回され、政策提言機会がなかなか得られない不完全燃焼に終わった。一方、オンライン会議への対応、戦略会議、政府への提言などを実施し、事業としての成果とネットワーク内の経験知見の蓄積は大きなものとなった。

〒104-0033  
東京都中央区新川1-16-10  
電話：03-3553-4101  
E-mail：iucnj@nacsj.or.jp  
HP：http://bd20.jp/



今後の展望

2年近くオンラインで開かれていた国際会議が、事業の最終年度の3月にやっと対面で開催。世界目標の合意が期待されるCOP15の開催目途も見えてきた。この間の議論を踏まえ、会員制度を変更し、より多くの組織と共同できる体制を作りあげた。COP15の成果を踏まえ、2030年までを見据えた事業と体制を2022年度は構築したい。

## 西部太平洋における海鳥の衛星追跡： 渡り鳥で繋げるアジアの海と人々

活動地域  アジア

ひろげる助成  
**4年目**  
調査研究

インドネシア海鳥フォーラム	<b>200人</b>
海鳥調査研修コース (2言語・国)	<b>180人</b>
今年度計画の達成度	<b>90%</b>
目標達成度	<b>90%</b>



インドネシアでのオンライン海鳥研修

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍により2020年～2022年にかけて、集会や調査など現地活動が大きく制限され、もしくは実施できなくなった。

#### ■ 工夫した点

インドネシア・フィリピンへ渡航できないため、オンラインで研修会・ワークショップを開催した。対面形式はより好ましいものの、多くの参加者を得られ、コストも低かった。

### 課題

東南アジアにおいて、海鳥保全に必要な人材を育成し、重要サイトの保全対策を構築、保全の意識啓発を進める。西太平洋で海鳥保全研究者の協力ネットワークを構築する。

### 目標

アジアの重要サイトを集めた海鳥保全ネットワークが形成される。保全を進めるため、インドネシア、フィリピンなど各国との共同プロジェクトを実施する。

### 活動内容と成果

新型コロナウイルス禍によって全ての会合及び研修をオンラインに切り替えるを得なかったが、より多くの人々に参加してもらうことが可能となった。インドネシア海鳥フォーラム及び海鳥調査研修コースには計400人以上が登録、参加した。また渡航制限により現地調査を実施できなかったものの、本プロジェクトの現地調査で協力してきた地元の大学がこれまでの経験をいかし、ヒガシシナアジサシに関する基礎的な調査を実施した。



オオアジサシと衛星追跡機材 (2020年)

### 全助成期間の活動を振り返って

東南アジアにおいて、海鳥研究・調査及び保全に係る強力なネットワークを構築するという目標を十分に達成したと考える。唯一の難点は、新型コロナウイルス禍により3年目に予定していた現地調査を実施できなかったことであった。EAAFP事務局が2022年を「アジサシの年」に指定したことは（この指定に係る主要な活動の多くを、本事業の関係者が担う）、本事業がアジアにおいて海鳥保全の確固たる基盤を築いたことの証左である。



現地海洋保護区事務所を訪問 (2020年)

7C, V Ga Building, 532 Castle Peak Road, Lai Chi Kok, Kowloon, Hong Kong  
電話：+852 2377 4387  
E-mail：hkbws@hkbws.org.hk  
HP：https://www.hkbws.org.hk/

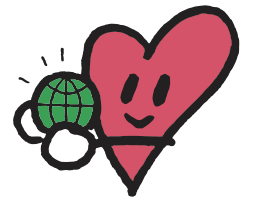


今後の展望

本事業のプロジェクトチームは、インドネシア、フィリピンと協力し、引き続きヒガシシナアジサシをはじめとする絶滅危惧種の調査、保全を進める。新型コロナウイルス禍が収束し、本チームをはじめとする関係者がより多くの現地調査と協働を進めるに連れ、西太平洋における海鳥調査と保全の活性化が進むものと確信している。2022年度の「アジサシの年」の活動を通じてアジア諸国への波及効果が期待できる。







# 森林保全・ 緑化



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

## 森づくりの健康診断プロジェクト

活動地域  愛知県、岐阜県、他



森の健康診断研修会

### 課題

山林所有者自身の林業への無関心と、現場に精通するものの学ぶ機会の少ない森林技能者と、それを憂う心ある研究者たちの学習と交流の場がないこと。

### 目標

市民と研究者の協働による「森の健康診断」を実施し、研究者と現場森林技能者の協働による「水源の森づくりガイドライン」を作成する。



### 今後の展望

①ガイドラインづくりのための会議を定期開催化し、実践的ガイドラインを編集発行する ②素人山主も都市住民も人工林と林業現場技能者への理解を深めて豊かで安全な水源の森づくり応援団になる

### 活動内容と成果

「森づくりガイドライン」のために現場森林技能者が自発的に集まり、研究者とともに現場目線からの水源林づくり作業のありようについて、一つ一つ課題の掘り下げから解決まで忌憚なく話し合える場を定期的に設けることができた。

「森の健康診断」を恵那市申原地域で実施することになった。今回は500mグリッド交点の山主を特定して同意を得て実施し、さらに分析結果を還元することに挑戦する。素人山主と研究者、現場森林技能者そして一般市民が協力して水源の森を科学と五感で体験する森の健康診断の準備が整った。



ガイドラインづくりMITGのフィールドワーク

つづける助成

1年目

知識の提供・普及啓発

イベント参加者 **60人**

地図精査境界杭確認 **40地点**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **60%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍で会議や学習会等の開催日程の調整や会場確保に苦労した。

#### ■工夫した点

屋外での活動を増やした。

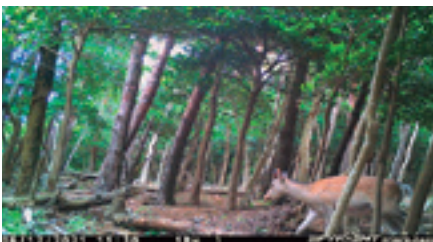
〒456-0023  
愛知県名古屋市長久区六野2丁目  
7番19-201  
電話：090-9916-1546  
E-mail：niwa\_ken2002@yahoo.co.jp  
HP：http://mori-gis.org



## (一社) おしかリンク

## 牡鹿半島流域環境再生プロジェクト

活動地域  宮城県



二ホンジカの密度調査の様子

### 課題

二ホンジカの食害と林業の衰退によって放置された人工林により、森林の多面的な公益機能が衰退している。

### 目標

牡鹿半島の荒廃した針葉樹林や裸地を複層混交林として再生し、または広葉樹林へと転換することで生物多様性環境が創出され、また、人の暮らしの資源として活用されている。



### 今後の展望

苗木生産や山林への試験植樹等、実践に重点をおき計画を実施する。また、二ホンジカ食害環境下において、下層植生回復の手法が課題であり、調査研究も継続し、二ホンジカ食害環境下における再生モデルを構築したい。

### 活動内容と成果

本年度は、二ホンジカ食害対策の検討と、山林所有者等の把握や意向調査の実施に重点をおいた計画とした。二ホンジカ密度調査であるREM法を習得し、最大64.5頭/km<sup>2</sup>という数字が得られ、適正な森林環境を維持する約20~30倍もの頭数があることが分かった。次年度以降も継続調査し、数値の確度の向上を図る。山林所有者については、およそ450ha分、666筆の所有者を把握し、約5ha分の地権者協力が得られた。新型コロナウイルス禍において意向調査が予定より進められなかったため、次年度以降、山林所有者の意向調査に力をいれる。



採取した種をまく様子

ひろげる助成

1年目

実践

森林マップ作成 **450ha**

二ホンジカ密度調査 **2か所**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **20%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

山林の区画が予想以上に細かく、山林所有者の人数が多いため、想定より多くの労力がかかった。

#### ■工夫した点

委託した専門調査も全て同行し、調査スキルの向上を図り、自立的な活動へつなげられるように心がけた。

〒986-2341  
宮城県石巻市萩浜町横山12-2  
電話：0225-98-9172  
E-mail：office@oshikalink.jp



## ウータン・森と生活を考える会

### インドネシア・ボルネオ島における「開発」圧力に抗する地域住民主体の伝統知に基づく収入創出と環境教育を通じた熱帯林保全及びそれを支える日本でのしくみ構築

活動地域  インドネシア



アグロフォレストリーに向けて接木を学ぶ

#### 課題

熱帯林破壊や森林火災の多くは、大企業の開発による土地転換によるものであり、開発圧力下にある地域住民の持続可能な収入創出と消費者側の啓発と支援の仕組み構築が必要。

#### 目標

アグロフォレストリー・エコツーリズム等大規模開発に代わるオルタナティブな収入創出を地域住民主体で実行されるように促し、当事者として日本から支援する仕組みを作る。



今後の展望

カリマンタンでの植林・アグロフォレストリー・環境教育は順調で、ウェブサイトを作成中。日本で動画やギャラリーを中心とした発信が広がり、今後支援を充実させてアクションを生み出すための仕組み作りを進める。

ひろげる助成

2年目

実践

#### 活動内容と成果

- 活動1：中央カリマンタンで①33種類の在来樹種や果樹を植林、②アグロフォレストリー実施に向けて村人対象の環境教育、③上記等の活動を紹介するウェブサイト案を作成
- 活動2：東カリマンタンで①アグロフォレストリー植林を10ha拡大、②その普及のための村人対象の環境教育
- 活動3：日本から支える仕組み構築のため①学習会を5回開催（参加者217人）、②広報メディア制作検討ワークショップを通して、昨年度に制作したサイトや動画を活用した新コンテンツの発信に学生ボランティアと取り組んだ



ボランティア中心にSNSやメルマガを発信

在来種や果樹の植林面積	16ha
学習会の参加	217人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	70%

#### 苦労した点と工夫した点

##### ■苦労した点

国立公園内での植林地の調整について公園事務所との許可手続きが滞ったため公園内で植えることができなかった。

##### ■工夫した点

国立公園に隣接する土地を管理している地元NGOと連携して、森林保護・再生に必要な彼らの土地での植林を進めることとした。

〒530-0015  
大阪府大阪市北区中崎西1-6-36-308  
電話：090-9916-1546  
E-mail：contact-hutan@hutangroup.org  
HP：https://hutangroup.org/



森林保全・緑化

## (特非) 森づくりフォーラム

### 人工林の生物多様性を高める森づくりの普及啓発と市民参加型の施業モデル実践

活動地域  神奈川県



高木層樹木の成長を促す低木層樹木の伐採

#### 課題

林業の衰退、木材価格の低迷と過疎化により、手入れがされていない人工林の荒廃が進み、森林の優れた公益的機能が十分に発揮されていない状況がある。

#### 目標

人工林の多様性を高める森づくりの認知、また森林の多様性の大切さを実感する人を増やし、市民参加による協働で荒廃した人工林を生態系豊かな森林へと移行させる。



今後の展望

「人工林の多様性を高める森づくり」の普及啓発と実践に関する情報発信を行い、企業等との森づくり協働体制を作っていく。最終的には、市民参加型で実践できる施業手法について提案を行いたい。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

#### 活動内容と成果

- 事例ガイドの作成と普及啓発  
人工林の多様性を高める森づくりに関する知見と事例を集めた「人工林の多様性を高める森づくり事例ガイド」を公開し、1,617件のダウンロードがあった。関連する普及啓発オンラインイベントを2回開催し、計650人の参加申込みがあり、全国各地の参加者への情報発信を行い、手法や現況に関する認知を広げた
- 森林フィールドでのモデル施業運営する「フォレスト21さがみの森」にて市民参加による実践を行った。高木性樹種の育成を促進するため、低木層樹種の除伐やヒノキ間伐を行った



完成した事例ガイド

事例ガイドのダウンロード	1,617件
普及啓発イベントの参加申込み	650人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	65%

#### 苦労した点と工夫した点

##### ■苦労した点

2022年1月から2月の新型コロナウイルス感染拡大と積雪によりフィールド活動と調査ができない時期があり、計画の再調整に苦労した。

##### ■工夫した点

PDF版ガイド公開後、内容を詳しく発信するオンラインイベントを企画、参加者と意見交換ができ、ガイドの認知も向上した。

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-25-14  
第一ライトビル405  
電話：03-3868-9535  
E-mail：office@moridukuri.jp  
HP：https://moridukuri.jp/





# 東部ネパール・ジャルタルの森再生のためのツルヒヨドリ除去に関する参加型アクションリサーチ

活動地域  ネパール

ひろげる助成

2年目

調査研究

侵略植物の除去 **11 ha**

天然更新苗保護 **3,500 本**

今年度計画の達成度 **85 %**

目標達成度 **90 %**



ツルヒヨドリを使ったコンポストづくり

## 活動内容と成果

本プロジェクトでは、①侵略植物（ツルヒヨドリ）の除去、②除去後の森林への植林、③天然更新苗の保護、④コンポスト生産という四つの活動を実施している。今年度は、11haの森林面積からツルヒヨドリを除去した。この作業には延べ400人日費やした。除去後の森林には、12種、9,000本の苗を植林し、3,500本以上の天然更新苗の保護を達成した。また、除去したツルヒヨドリを使ったコンポスト生産は12トンを達成する見込みである。



ツルヒヨドリ除去後の林地

## 課題

森林植生回復のためのコミュニティーが活用できる外来侵略種（ツルヒヨドリ）除去の技術の開発・普及。

## 目標

ツルヒヨドリにより荒廃したジャルタルの森が元の植生を回復すること。

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

ツルヒヨドリ除去後に植林した苗や天然更新した苗を野生動物（象など）や周辺住民の採取から守ることが非常に困難であった。

### ■ 工夫した点

森林から家畜飼料などを採取する必要のある住民に対して、代替手段を提供することを検討している。



今後の展望

このプロジェクトの活動は、森林保全だけでなくコンポスト生産を通じて地域の農業や生計向上にも貢献している。今後は、このアプローチをネパール国内の他の地域に展開していく予定である。

Krishnamohan Smriti Road,  
Bagdol, Lalitpur Metropolitan  
City-4, GPO Box: 12207, Nepal  
E-mail : fa@forestaction.org  
HP : <https://www.forestaction.org/>



# 里山林における在来種保全活動 — 特定外来植物 (オオハングソウ) 抜取の継続実施 —

活動地域  東京都、長野県

つづける助成  
**3年目**  
実践

環境調査実施	12回
抜取作業実施	8回
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	70%



森内で確認されている特定外来植物

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

- オオハングソウ属は栄養繁殖も行い、抜取り後に残したわずかな根からも翌年発芽する
- 同じ種でも周囲の環境により根の成長形態が異なり抜取方法に工夫が必要

### ■ 工夫した点

- 調査員と協働、環境の異なる地点を10か所選定しコドラートを設置。根の形態を記録
- 根の形態にあわせて抜取作業の方法を工夫。翌年度各地点での発芽状況を比較した

## 課題

在来植物が自生する中山間地の里山林に特定外来植物が侵入しはじめ、数か所で群落化している。在来植物保全のために、持続的な抜取作業による制御が必要である。

## 目標

- 森内の特定外来植物・在来種の状況を把握する
- 在来生物・生物多様性・里山の自然環境保全・森林生態系についての理解を地域に広げ、保全への意識を高める

## 活動内容と成果

- 森林内全域に点在する特定外来植物オオハングソウ属の位置をGPSにより記録し森林全域の侵入状況を把握、またこの地域での生活史、繁殖形態についての情報収集も行った。合理的な計画を作成し今後の抜取作業に反映、森全域の制御をめざす
- 調査過程で多数の在来植物、生物も記録できた。調査結果は今後の森林保全活動や普及啓発活動に活用する
- 新型コロナウイルス禍の影響により観覧会等のイベント開催が困難な状況が長期に続いたが、調査への個別見学、森内案内の動画作成と希望者への配信等、工夫しながら情報発信に努めた



## 全助成期間の活動を振り返って

- 調査員による生物調査の結果、植物以外の鳥類、哺乳類なども多種生息・繁殖あるいは往来し、野生動物の生息・避難場所となっていること、外来種の侵入は限定的であることを確認した
- 東日本台風で被災し調査地点のほぼ全域が流出、再調査を余儀なくされた。さらに新型コロナウイルス禍の影響で2年間イベント開催が中止となり、自然環境調査については計画どおり実施できたが地域住民への普及活動はほとんどできず、今後の課題である。

〒144-0043  
東京都大田区羽田1-1-3  
電話：03-5737-2744  
HP：http://www.save-earth.or.jp/



## 今後の展望

- 絶滅危惧種を含む在来種保全のため、特定外来植物の抜取作業を継続する
- 自然環境調査報告書や調査の過程で記録目的で撮影した写真データを、地元住民や関係機関等とのコミュニケーションや情報発信のツールとして活用する
- この森を繁殖地とする、また餌場・通行に利用する生物にとっての生息地・避難場所として保全していく。また、森林生態系や生態系サービスに関する普及啓発活動のフィールドとして活用する



(特非) 時ノ寿の森クラブ

森林・里山を社会財として「シェア」し、持続可能な森林保全を目指す

活動地域 静岡県



「人と森を結ぶプラットフォーム」開設式

森林体験プログラム  
延べ参加人数 **1,041人**

参加者リピート率 **56.9%**

今年度計画の達成度 **95%**

目標達成度 **90%**

ひろげる助成

**3年目**

実践

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

11/13の人と森を結ぶプラットフォーム内覧会は、今後当法人が、人と森を結ぶ活動を推進することを社会へ約束する目的だったが、新型コロナウイルス禍で現地に来れない人が多かった。

■ 工夫した点

人と森を結ぶプラットフォームの開設式及び掛川市長との森の対談をYouTubeでLIVE配信とアーカイブ配信を行い、行政とともに連携する森林保全を社会へ発信した。

課題

間伐等の保全活動により再生しつつある小規模民有林だが、生産的価値の減少した状態では、今後も所有者による保全管理は難しく、再び荒廃状態に陥る可能性が高い。

目標

所有者に代わって持続的に保全管理する仕組みを構築するとともに、その森林・里山の公益的価値を社会全体で共有(シェア)する仕組みを整備する。

活動内容と成果

- 土地所有者へ森林保全活動の理解と合意を結びとともに里山の保全と利用の両立を図るための制度「ナショナルトラスト的保全制度」を構築し、より多くの市民や企業等の参加を促す活動を実施
  - ① 個人所有林：新たな森林管理制度の対象地となった（経営管理権集積計画22人19.57ha）
  - ② 市所有林：協議の結果、当法人を含めた官民一体組織に使用貸借契約を結ぶことで合意（18.45ha）
- 森林体験プログラムを計59日開催し延べ1,041人が参加。新たな利活用として森林のワークスペース利用推進



掛川市長と森の対談「人と森を結ぶ必要性」

全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルスが人と人、人と自然のリアルなコミュニケーションの大切さを問い直したと感じている。森のようちえん等の参加が拡大し、その中から開催日以外の日常でも森で家族と過ごす流れができてきた。本助成活動により構築してきた体験プログラムが入口となり、個々の森との関わりがより深まってきていると感じている。



企業と協働で森林保全活動スタート

〒436-0341  
静岡県掛川市倉真7021  
電話：0537-28-0082  
E-mail：info@tokinosunomori.com  
HP：https://tokinosunomori.com/



今後の  
展望

持続可能な森林保全の肝となる新たな森林管理制度の基盤が整い、森林環境譲与税を活用した保全が2022年度からスタートできることになった。これまで確立してきた体験プログラムや新たに大人向けプログラムの開発を行い、事業収入拡大をさせ、安定した事業運営を目指す。それらのプログラムを、より多くの市民や企業等の参加を促す活動「人と森を結ぶプラットフォーム」の利用者向けコンテンツとしても提供していきたい。



# 単一的な針葉樹人工林を多様な針広混交林や広葉樹林に再生するための知識・技術の普及と人材育成

活動地域  北海道、岩手県、高知県、他

ひろげる助成  
**3**年目  
知識の提供・普及啓発

勉強会・研修会  
参加者数 **154**人

植林面積 **7.98** ha

今年度計画の達成度 **85** %

目標達成度 **90** %



植林作業の様子 (岩手県住田町)

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍で各地に頻繁に通うことができず、地域によっては県外からの来訪を制限しているケースもあった。

### ■ 工夫した点

各地の関係者とのやりとりをオンライン中心に切り替えることで、遠隔地かつ複数地域に対しても頻繁にコミュニケーションをとることができた。

## 課題

戦後に拡大したスギやヒノキなど針葉樹による単一的な人工林には、アクセスの悪さや経済面から手入れ不足の森林も多く、保水力などの森林が持つ機能の低下を招いている。

## 目標

また針広混交林や広葉樹に関する知識と技術を全国的に普及させ、適切な間伐や植林によって針広混交林や広葉樹林に導き、森林の公益的機能を回復させる。

## 活動内容と成果

- 高知県梶原町にて、全国の関係者を対象とした集合研修を開催/岐阜県東白川村で村民向けシンポジウム、ワークショップ、技術研修会を実施/奈良県天川村にて「天川村森林塾」を共同開催
- 鳥取県智頭町、宮崎県諸塚村において施業地の生育調査を実施
- 北海道美幌町、岩手県住田町、奈良県天川村、鳥取県智頭町、高知県梶原町の各地にて計7.98ha、12,541本の植林を実施
- 奈良県天川村など4地域で植樹イベントを実施し、計45人が参加



シンポジウム (岐阜県東白川村)

## 全助成期間の活動を振り返って

各地の行政や林業関係者、地域住民との対話を繰り返すことで、広葉樹や針広混交林を再生していく意義を浸透させることができた。また、全国7か所で約18haの植林を実施することができ、実施地域や面積はさらに増加傾向にある。森林の公益的機能が本格的に発揮されるまでにはもうしばらくの年月を要するが、その第一歩を踏み出すことができた。



視察研修会 (高知県梶原町)

〒151-0051  
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-9-11-103  
電話：03-5770-3969  
E-mail：info@more-trees.org  
HP：https://www.more-trees.org/



## 今後の展望

- 各地での勉強会や全国の関係者を対象とした集合研修は今後も継続的に実施する。各地の情報を地域外の関係者と共有することで、得られた知識や技術を全国へ水平展開させ、地域に限定されない大きな活動に育てていく
- 各地域において、住民参加型の苗木生産システムの確立を目指す
- 将来的には、地元で生産された苗木を用いて植林を進めるとともに、「企業の森」の事例を各地でさらに増やしていく

# 「環境林業」を担う人材の育成

活動地域 富山県南砺市利賀村



いざ、春の森へ！森の暮らし塾スタート！！

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

TOGA森の暮らし塾講座参加者数 **99人**

スキルアップ講座開催数 **6回**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、昨年度塾生募集の重要な場だった移住イベントが中止、リモート化されて募集に苦労した。また、塾生同士の懇親の機会が減りチーム作りが難しかった。

### ■ 工夫した点

日程を金～日から土日開催に変更。これにより、県内在住者が働きながら参加しやすくなった。また、講座中の塾生の発言機会を増やすことで、コミュニケーションを促した。

## 課題

富山県南砺市利賀村は、合併後、人口が約500人に半減。豊かな森林地域だが、多雪のため真直ぐなスギが育たず、地域資源である森林を活用した地域活性化が長年の課題。

## 目標

TOGA森の暮らし塾を開講し、「環境林業」を担う人材を育成することで、森林の持続的利用ができる移住者と林業従事者等を増加させ、持続可能な地域社会の構築を目指す。

## 活動内容と成果

森を見る、使う、暮らすチカラを習得し、環境林業を担う人材を育てるTOGA森の暮らし塾を2020～2021年に通年で開講した。試行した2018年以降、6人が利賀村へ移住。また、6人が林業に就業した。修了生の多くは2年生（専攻科生）として受講を継続。知識と技術の向上を図りつつ、スタッフとして運営にも関わる体制ができつつある。県内在住で仕事をしながらの受講者も、修了後利賀村に通っての活動を希望するなど、交流人口としての関係性が継続されている。本活動から派生した自然保育が市の事業として継続している。



森を知る！「森林調査実習」



製作中の軽トラハウス！成果発表会で披露！

## 全助成期間の活動を振り返って

TOGA森の暮らし塾を通年で2年実施、今年は、基礎講座に延べ99人、オプション講座に延べ114人が参加。ガラス作家との森とガラスの講座等、様々な団体との協力事業にも70人の参加を得た。利賀村という小さな過疎の山村の活動に多くの参加者を得、一昨年は、本郷林野庁長官の来訪も実現。少しずつ、確実に、目標に近づいていると感じる。「環境林業」の実績を挙げ、オルタナティブな選択肢として確立していきたい。

〒939-2512  
富山県南砺市利賀村上百瀬51  
電話：0763-68-2177  
E-mail：moribio@hotmail.co.jp  
HP：https://www.moribio.com/



## 今後の展望

活動フィールドであるロンレー・エリアや、利用について打診のあった地域の共有林において、現有のスギ林についても有効利用を図りつつ、近年、問い合わせなどが増えている飲食店や薬品会社などの異業種の方々とも丁寧連携し、広葉樹や下層植生の利用による収益性向上に努めていきたい。同時に、利用可能な資源の量を生態系保全の視点から提示しつつ、天然更新技術の確立など、将来的には恒続林の育成につなげていきたい。



## 岩沼市「千年希望の丘」植樹祭&収穫祭

活動地域  宮城県岩沼市



岩沼市千年希望の丘ファイナル植樹祭前編

復興支援助成

3年目

実践

植樹本数  
(ふるさとの森) **13,000本**

育苗数(宮城県産ハマナスポット) **565本**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍の影響で一般参加者を募る告知チラシの配布・公開ができなかった。

#### ■ 工夫した点

主力協力団体のみ参加のクローズド開催、3密回避の分散開催とし、8日間で延べ550人を集め、約13,000本の苗木を植えきることができた。

### 課題

東日本大震災を風化させることなく、復興の象徴である宮城県岩沼市「千年希望の丘」の完成を目指す。

### 目標

宮城県岩沼市「千年希望の丘」の完成により、東北被災沿岸部に本来あるべきふるさとの森と海浜植生が再生すること。

### 活動内容と成果

岩沼市千年希望の丘ファイナル植樹祭2021前編を主催。「復興支援ありがとうの8日間植樹リレー」を掲げて2021年6月12日～19日に実施し、約13,000本の苗木を無事に植えきることができた。また、千年希望の丘公園内にある圃場には、宮城県レッドリスト2016年版で準絶滅危惧 (NT) に指定されている宮城県産ハマナスのポット苗565本がすくすくと育っている。



宮城県産ハマナスのポット苗565本

### 全助成期間の活動を振り返って

3年間の助成期間のうちの2年間に新型コロナウイルスが直撃し、植樹イベントでは広く一般参加者を募ることができず、主催者としては大変苦労したが、創意工夫しながら、なんとか岩沼市千年希望の丘植樹祭ファイナル前編を終えることができた。



柴田農林高校の除草作業と海岸清掃活動

〒981-0931  
宮城県仙台市青葉区北山1丁目14番1号  
電話：022-234-5327  
E-mail：morinobouchoutei@yahoo.co.jp  
HP：http://morinobouchoutei.com/

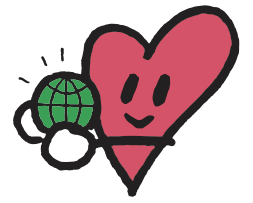


今後の展望

一般社団法人森の防潮堤協会は東日本大震災から10年という節目に岩沼市千年希望の丘植樹祭ファイナル前編を無事に終えることができたため、2022年3月末で解散する予定である。解散後は任意団体として活動規模を縮小しながら、千年希望の丘の補植作業などを中心に活動継続予定である。







# 砂漠化防止



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動



# モンゴル国ゴビ地域における牧民と協働した砂漠化防止活動

活動地域  モンゴル

ひろげる助成

3年目

実践

デルス保護管理区の設置数 **11** か所

飼料備蓄コンテナの設置数 **4** 個

今年度計画の達成度 **100** %

目標達成度 **100** %

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で日本人がモンゴルに渡航できなかった。

### ■工夫した点

モンゴル人スタッフの体制を充実させ、オンラインでの打ち合わせを行うことで、アウトプットを達成した。



濃厚飼料備蓄用コンテナ

## 課題

モンゴル国南部のゴビ地域では降水量が少なく、大きく変動する。そのような環境下で安定してある植物「デルス」が家畜に過剰に食べられ、局所的な砂漠化が進んでいる。

## 目標

モンゴル国・ゴビ地域において、デルスが回復し、砂漠化が防止される。

## 活動内容と成果

牧民がデルスを災害時以外は利用しないように管理するために、デルス保護・管理区を11か所、11ha設置し、牧民が管理・利用した。デルスの過剰な利用を防ぐために濃厚飼料を備蓄するためのコンテナ四つを設置した。これらの活動から牧民自らが、デルスを回復させ、デルスの過剰な利用を防ぐための飼料備蓄体制を運営するような体制を構築できた。



デルス保護・管理区と牧民

## 全助成期間の活動を振り返って

2004年から活動をしてきた地域であったため、新型コロナウイルス禍で日本人が渡航できなくても、モンゴル人スタッフのみでも活動を行うことができた。



備蓄した乾草

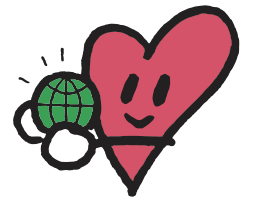
〒111-0051  
東京都台東区蔵前3-17-3 蔵前インテリジェントビル8階  
電話：03-5825-9735  
E-mail：contact@gef.or.jp  
HP：https://www.gef.or.jp/



今後の展望

長く活動してきた地域であれば、日本人がモンゴルに渡航しなくてもオンラインでの打ち合わせで活動を行うことはできる。しかし、今後、つながりのない地域で問題解決への協力をするための、人間関係の構築やその地域への日本人の理解向上のために、渡航できる機会を逃さずに、モンゴルに渡航することで、継続的にモンゴルにおける問題解決に貢献したいと考えている。





# 環境保全型 農業等



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

(特非) 自然栽培そらみずち

## 自然と人の共働ある場づくり

活動地域  鳥取県



放棄地を耕す難しさと楽しさを伝える

### 課題

環境調和型拠点作りと自然と人の共働のある栽培によって、自然豊かな景観を作り出す。

### 目標

環境調和型の自然栽培農地として活用面積、植生の多様な森林として活用できる森林面積が増加、支援者が増えることによって地域の景観に愛着を持つ住民が増える。



### 今後の展望

遊び場としてのプレーパークの他、森づくりの日を増やし、自然と暮らしをつなげることできかけを広げる。森づくりのオーナー制度などを取り入れ、積極的な参加を促し支援者となってもらう仕組みをつくる。

### 活動内容と成果

馬たちの放牧によって開拓総面積は5反と広がり、見晴らしの良い受け入れやすい景観に変わることができた。間伐が進んだことにより防獣フェンスを設置、その中を畑に活用した。食べることでできる実のなる広葉樹など植樹を行い、混植栽培を始めている。さらに開発した馬耕道具によって、茅場の根を切り耕すことができるようになった。10月から再開したプレーパークでは、毎月15人ほどが参加し、森に親しむ時間を過ごしている。また、大学生に米作りや馬耕体験に参加してもらい、食の自給の価値を考えてもらう機会を提供できた。



植樹に祈り感謝のことば

はじめる助成

1年目

実践

放棄地開拓総面積 **5反**

活動参加者 **135人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **70%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

これまで放棄地の茅場の土を耕すことができず、馬耕道具が折れてしまうので鍬を使って人力で耕していた。

#### ■工夫した点

幾度かの試行を経て、茅の根を切ることができる馬耕道具を開発し製作したことにより、茅場の土を耕すことができた。

〒689-1444  
鳥取県八頭郡智頭町野原29  
電話：0858-78-0699  
E-mail：soramizuchi@gmail.com  
HP：https://soramizuchi.jimdofree.com/



## Instituto piagaçu

## ブラジル・西アマゾンにおけるアグロフォレストリー普及による作物の多様化と高付加価値化プロジェクト

活動地域  ブラジル



カカオ加工に初挑戦したPinduca氏

### 課題

森林減少の新たなホットスポットであるブラジル・アマゾナス州南部では、「森の番人」である小農の経済的理由による離農や都市への移住が森林破壊を加速させている。

### 目標

アグロフォレストリーの普及による作物の多様化と高付加価値化を通じて、森林生態系を保ちながら小農の収入向上と安定化を目指す。



### 今後の展望

次年度は、技術の継続指導に加え、今年度設置した苗床を活用したファイナンシャル・リテラシー研修や高評価を得たECOAの第2回開催、地域性をいかした新たな高付加価値商品の開発等を進める予定である。

### 活動内容と成果

- アグロフォレストリーを実践し、参加型有機認証を取得する生産者が16人から64人に増加した
- 加工設備設置や技術指導の結果、高品質カカオの販売量が約4倍、買取価格が約3倍に上昇した
- 苗床を3か所に設置し、年間計15,000本の苗生産が可能となった
- 州内初となるアグロフォレストリー・有機カカオ生産者集会 (ECOA) を行政・国際機関・民間企業等との連携にて実施。養蜂や組織化等を含めた幅広いテーマの研修を行った。散住する農家達が交流を持つことでモチベーション向上や知見の広がりにも貢献した



ECOAでの実地研修

ひろげる助成

1年目

実践

参加型認証取得農家 **64人**

コミュニティ苗床の設置 **3か所**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **65%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で州都からの移動に制限がかかる中で新しく参加する生産者たちと信頼関係を築き、活動を継続してもらうこと。

#### ■工夫した点

地元出身の技術者を雇用することで定期訪問を継続し、指導だけでなく作物の販売まで繋げることで、信頼関係を築くことができた。

Rua UZ, 08. Conjunto Morada do Sol, Aleixo. Manaus Amazonas, Brasil  
電話：+55-92 9362-9949  
E-mail：institutopiagaçu@gmail.com  
HP：https://www.piagaçu.org.br/





## 日本自然農業協会

# ベトナム国ソラー省バンホー県における土着微生物と地域資源を活用した環境保全型農畜産業のモデル農場つくりと小規模農家を対象とした普及啓発活動

活動地域  ベトナム



自然農業ワークショップ参加者と集合写真

### 課題

ベトナムのプロジェクトサイトでは、土着微生物、天恵緑汁、漢方栄養剤の製造方法、また、栄養周期理論に基づいた使い方が正しく伝わっておらず、効果的に使えていない。

### 目標

地元にある資材を利用して有用な農業資材の作り方、使い方のノウハウを伝える。モデルファームを立ち上げ実践し効果を確認、ワークショップを通して近隣の農家に波及させる。



### 今後の展望

自然農業ワークショップが好評だったので、参加者の中から特に意欲を持つ人を集めて6月に勉強会を開く。農場にいる3人の青年に自然農業ノウハウの指導をし、能力向上を図りつつ、農場運営を軌道に乗せる。

### 活動内容と成果

- 核となるメンバー2人、有志青年3人を集めモデル農場の基盤を整えた
- 堆肥舎を建設し、土着微生物を製造した
- 天恵緑汁、漢方栄養剤、乳酸菌などそれぞれ製造、培養した
- 自然農業のテキストをまとめ、ベトナム語翻訳(122ページ)を行った
- 自然農業資材、自然養鶏の動画を作成した
- 自然農業ワークショップ(春)を行い、計24人が参加した。関心の高い参加者が集まり、栄養周期理論や自然農業資材の製造方法について学んだ。参加者から「有意義だった。自分達の畑や組織で適用したい」という声を多数頂いた



堆肥舎にて土着微生物肥料の説明会

ひろげる助成

1年目

実践

ワークショップ参加者人数 **24人**

自然農業を実践する青年の人数 **6人**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **20%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍でベトナム渡航が難しく、プロジェクトをリモートで始めるという試みを行った。現地に直接行けずもどかしい思いをした。

#### ■工夫した点

ベトナム語版自然農業テキスト(基本編)、自然農業ノウハウ動画を作成し、リモートでもノウハウを伝えられるよう工夫した。

〒833-0002  
福岡県筑後市前津1824-5  
電話：0942-80-4623  
E-mail：shizennogyo@gmail.com  
HP：http://shizennogyoweb.sakura.ne.jp/wp/



環境保全型農業等

## Prattasha Samazik Unnayan Sangstha (PSUS)

# バングラデシュ国チュアダング県 環境にやさしい持続可能で安全な農業実践プロジェクト

活動地域  バングラデシュ



節水のための灌漑用パイプ

### 課題

過剰な窒素肥料と農薬の使用と、それに伴う地下水・土壌への硝酸塩及び重金属の流出により生き物が汚染され、食物連鎖を経て人への健康被害が引き起こされている。

### 目標

①地下水の灌漑量低減等により、自然環境・人間双方に安全な食糧生産を行う。②行政と農民及び農民間の協力体制を整え安全な食品摂取と農民の収入増を追求する。



### 今後の展望

残り2年間で研修対象者400人全員が研修を受講し、安全な食糧生産技術・知見が事業地に蓄積される。また、事業地外の農民へも対象農民やネットワークを通して事業の効果が裨益する。

### 活動内容と成果

- 活動1：環境にやさしく安全な食糧生産：化学肥料・農薬の効果的な使用方法、土壌改良のためのミミズ堆肥の作り方及び使用方法について研修を実施。対象農民400人のうち200人が修了し、全員が習得した技術を実践している。また、研修を受講していない対象外の農民7人が研修受講者より技術を学び自発的に実践している
- 活動2：農民ネットワークづくりと行政との連携、市民への周知。郡以下の行政区画に農民ネットワークを形成し、定期会合を実施。ユニオンレベルでは農民が自発的に市民組織が形成し意見交換を行っている



果樹栽培の様子

ひろげる助成

1年目

実践

環境にやさしく安全な食糧生産実践者数 **107人**

土壌検査実施世帯数 **172世帯**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **30%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

肥料を使うことで土が固くなったという事実は農民の間で認識されているものの、肥料の使用量の低減には難色を示す農民が多い。

#### ■工夫した点

事前事業の成果を共有したり、肥料過多が起こす悪影響を研修することで理解を得られている。

Wapdapara, Wapda Road,  
Chuadanga-7200, Bangladesh  
電話：+8801715489207  
E-mail：psus95@gmail.com  
HP：http://www.psusbd.org



(特非) 農ある暮らしを広める会

## 農ある暮らしの基盤となる自然環境を再生 保全できるコミュニティづくり

活動地域  神奈川県



ぼくたちわたしたちの地球会議

### 課題

地域の過疎化や山林・農業の担い手が減ったことで、里山は生物多様性が失われ、ヤブ化が進み、子どもたちは自然体験の場が失われ、食の安全・安心が奪われている。

### 目標

遊休農地や荒廃した里山を復活することで高齢者や子どもたちの居場所となり、自然菜園を持続可能な形で営むことができ、自然環境の保全維持を住民自ら行う地域となる。



今後の展望

活動を次世代に受け継ぐために専門的知識と企画提案力を持つ次期リーダーの育成に積極的に取り組む。また、多くの仲間たちと多面的に活動を継続させるために住民、行政、関連団体の協働の仕組みづくりを進める。

### 活動内容と成果

二宮農園・子ども農園は新たに5期生を迎えた。また新たに第4農園を開墾した。以前、二宮町の特産であった原木椎茸栽培を復活させた。「ぼくたちわたしたちの地球会議」では17人の子どもたちが13の環境団体を訪問した。「鯨に学ぶヒトと環境との関係」では30人の子どもたちと7mのザトウクジラの模型を作り、環境問題を身近に感じた。「どんぐりの森プロジェクト」では40人の子どもたちがどんぐりの土おろしを体験した。「子どもたちが遊ぶ森づくり」を目指す山林整備では木曜日を定例日として活動し、最終の形が見えてきた。



「子どもたちが遊ぶ森づくり」活動

つづける助成

2年目

実践

農園活動、田圃沢整備、山林整備 **83回**

シンポジウム・イベントの開催 **5回**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **90%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

われわれの活動を次世代に受け継ぐための、次期リーダーの育成や若者の参加を促すための折に触れての活動状況の周知。

#### ■工夫した点

二宮町の多くの環境団体、専門家、住民との協働の仕組みを作るため、活動状況を町の広報誌やマスコミに積極的にPR。



〒259-0123  
神奈川県中郡二宮町二宮133番地  
E-mail : ein03stein1649@ozzio.jp  
HP : <http://www.chikyukaigi.com/>

## ASED HABIGONJ

## バングラデシュ北東部ハオール地域気候変動適応化農業普及プロジェクト

活動地域  バングラデシュ



初めての乾期野菜栽培の様子

### 課題

気候変動により不安定になっている自然災害(フラッシュフラッド・冷害)に対する農業支援(新品種の導入と作付け体系の見直し)。

### 目標

ハオール域で気候変動適応型農業(新品種の導入・作付け体系の見直し)が実証され普及する。



今後の展望

これまで以上に農業行政との連携を強化し、国際稲研究所(IRRI)をはじめとする国際機関や日本の行政との連携を模索。ローカルNGOとのネットワークの構築。

### 活動内容と成果

災害に強い新品種米の導入と年間を通じた作付け体系の見直しにより、災害の多いハオール地域の農民のレジリエンスを高める活動。本年度は国立稲作研究所(BRRI)から無償で新品種種子を配布するとともに栽培方法を研修。あわせて乾期の灌漑と農作物搬送のための農道建設を行った。結果、雨期の稲作ができることを実証し、乾期野菜栽培も始めることができた。また乾期稲作ではかなりの収穫増が見込まれている。また活動は複数のメディアで取り上げられ、農業大臣も視察に訪問した。



国立稲作研究所から新品種米の配布

ひろげる助成

2年目

実践

水路の掘削と農道整備 **300m**

種籾の買い付けと保管 **0.32トン**

今年度計画の達成度 **50%**

目標達成度 **65%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルス蔓延による人件費・交通費の高騰、農民からの種もみの買い付けが困難であったこと。

#### ■工夫した点

モバイルフォンの活用や早朝の訪問などで農民とのつながりを維持した。



House #5422, Rajnagar South,  
Judge Bari Road, Rajnagar R/A,  
Habigonj, Bangladesh  
電話 : +88 0831 63951  
E-mail : asedbd.org@gmail.com  
HP : [www.asedbd.org](http://www.asedbd.org)



## (特非) 河北潟湖沼研究所

# 流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する

活動地域  石川県河北潟



農業体験活動実施時の様子

### 課題

河北潟の水質改善を目指し、保全活動参加者は増えているが、流域の観点からの取組みを進めるため、流域の組織的な仕組み作りや流域保全を進める産業作りが課題である。

### 目標

流域協議会を設立し、流域での水辺保全活動参加者の増加、農業や化学肥料の使用を減らした圃場の増大、環境保全と調和する産業の推進を目標とする。



### 今後の展望

準備会から河北潟流域自然再生協議会の発足をめざす。水辺・湿地や保全活動について学ぶことができる講座、資格制度の立ち上げをめざす。子どもが気軽に保全活動を学び参加できるキッズプロジェクトを立ち上げる。

ひろげる助成

2年目

実践

### 活動内容と成果

- 流域で連携した環境保全活動を進めるため、専門家や流域の行政、団体等との話し合いを進め、課題を整理し、河北潟流域自然再生協議会の設立に向けた準備会を発足させた
- 河北潟流域の情報を紹介する「河北潟流域新聞」を河北潟流域の農地や食べ物、河北潟の利用方法を主なテーマにして、2号制作した
- 流域の市民が気軽に参加できる農業体験、農地の生物や河北潟の水質、流域のごみを調べるなど、多角的な体験や調査活動を実施し、延べ183人が参加した
- 流域連携・地域連携をテーマにしたシンポジウムを開催、62人が参加した



シンポジウム会場の様子

シンポジウム参加者	62人
農業体験参加者	144人
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	65%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で現地活動が少人数となるがあった。またスケジュール決定がぎりぎりとなった。

#### ■工夫した点

少人数で対話はしやすくなったため、参加者の満足度を高められるよう、要望を聞きながら活動の細かい部分を変更していった。

〒929-0342  
石川県河北郡津幡町字北中条南  
9番9  
電話：076-288-5803  
E-mail：info@kahokugata.sakura.ne.jp  
HP：http://kahokugata.sakura.ne.jp/



## (特非) DANKA DANKA

# セネガル共和国において地域循環型採卵養鶏を育てるプロジェクト

活動地域  セネガル



生まれたてのヒナが農園にやってきた

### 課題

大量生産・大量消費・大量廃棄型の近代養鶏が主流のセネガルでは、地鶏の減少、卵殻や糞といった産業廃棄物、化学物質の多用された卵を食する人々の健康が危惧される。

### 目標

セネガル共和国に、鶏、環境、人に負荷のかからない健康的で地域循環型の自然卵採卵養鶏を普及させる。



### 今後の展望

セネガル仕様の自然卵養鶏飼養管理技術の開発を最優先事項に、現地とのオンライン化を進める。with/afterコロナの変化に対応し、ビジョンを共有する現地組織とのパートナーシップを育成する。

ひろげる助成

2年目

実践

### 活動内容と成果

現地訪問できないままに2年が経過した。今年度は鳥インフルエンザも流行し、活動内容を縮小した。主要目標であるセネガル仕様の自然卵養鶏飼養管理技術の開発にむけ、動画テキストの準備をした。事業後半には、現地と日本、双方向の飼育実験を始めることができた。また、次年度の本格的なヒナ導入の準備として、腐葉土製造等の各テクニックを農園スタッフにオンライン指導した。卵加工品の製品開発では、燻製卵の製品開発を現地の食材で在セネガル邦人が継続した。卵石鹼やカヌレ等の卵菓子の試作も行った。



卵殻再利用 卵型エッグソープの試作

HOW TO素材動画	5本
卵製品開発	6種
今年度計画の達成度	62%
目標達成度	48%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

当事業の直接の要望者であった青年たちが、長らく新型コロナウイルス禍やセネガルで起きた3月の政治的騒乱で事業地を移動した。

#### ■工夫した点

現地訪問ができないまま、在日セネガル人のネットワークで事業地周辺に住む採卵養鶏に関心のある人々を発掘した。

〒890-0064  
鹿児島県鹿児島市鴨池新町  
28-1-1301  
電話：099-256-6214  
E-mail：camp@dankadanka.org  
HP：http://www.dankadanka.org



## インドにおける持続可能な開発のための 伝統的農業：SATOYAMAのアプローチ

活動地域  インド



焼畑マーケットでの栽培作物調査

### 課題

焼畑をはじめとする伝統的土地利用には、北東インドで育まれた知的財産が詰まっているが、誤った固定観念と農村からの人口流出による消滅・劣化が懸念される。

### 目標

伝統的な農業が、生物多様性の保全や持続可能な開発を達成する手段としての役割を果たせるよう、伝統的な農業に対する正しい知識が広がる。



### 今後の展望

今年度完成した学術論文集を使い、当該地の伝統的農業である焼畑 (Jhum) についての正しい理解を広める。タイ・カレン族の焼畑を視察し、土地利用の文化・伝統の継承について知識交流を行う。

### 活動内容と成果

- ①北東インドの焼畑に関する学術論文集を完成させた。編集委員会メンバーと論文執筆者とのワークショップを開催 (対面とオンライン) して論文の質を高める。エクスカーションで農家と知識交流
- ②焼畑に関するドキュメンタリーを地元のユースを動員して撮影し、英語版と日本語字幕版の短編ビデオを作成した
- ③ナガランド州ズニボト町で「焼畑マーケット」を開催。9村から農家100名が25の「露店」を出店。栽培する66種類の作物を持ち寄り、焼畑の農業生物多様性が記録された



ワークショップ参加者と農家との交流

ひろげる助成  
**2年目**  
調査研究

焼畑に関する  
学術論文集編纂論文数 **12編**

主催イベント  
参加者数 (延べ数) **約140人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **70%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍の中で人が移動したり集まることが制限される中、知識交流をどう進めるか。

#### ■ 工夫した点

近隣地でイベントを開催する、オンラインを活用する、州内の先進地を探し視察するなど、移動・集合を減らした知識集積を図った。

Darbari Seth Block, IHC  
Complex, Lodhi Road, New  
Delhi, India  
電話: +91-11-24682100  
E-mail: mailbox@teri.res.in  
HP: <https://www.teriin.org/>



## (特非) ザ・ピープル

## 福島から次世代へ！ 国外へ！ オーガニックコットンで想いをつなげるプロジェクト step2

活動地域  福島県



コットン畑での収穫作業

### 課題

東日本大震災後の福島浜通りでは復興が進む反面、震災体験の風化が進み、若い世代との学びや教訓の共有には大きな課題が残る。さらに地域外や国外ではなおさらである。

### 目標

福島と地域外、特に国外の若い世代を対象とした東日本大震災とその後の環境配慮型の取組みを通じた学びの共有が、若者自身の手で進められる。



### 今後の展望

大学側としても地域連携の先進的事例として高い評価を下していることから、この形での大学との連携は継続可能であると考え。さらに、幅広い若者たちへのアプローチを今後は検討していきたいと考えている。

### 活動内容と成果

コットン栽培に関わった大学生たちは、学園祭での活動紹介ブースの設置とコットンアイデアコンテストの運営、エコプロダクツ2021会場内でのプロジェクト説明と糸紡ぎ体験講師役といった、本事業の様々な場面で活躍を見せてくれた。10月に附属高校生がコットン畑に来た際には、プロジェクト説明を行い、本プロジェクトの意義を同世代の若者たちに伝えた。さらに、ネパールの女性たちに対しても、現地協力者とコラボしてオンラインでの説明を留学生自身の手で行い、糸紡ぎの手法と併せて本プロジェクトの取組み内容やその意義を伝えた。



エコプロ会場での講師役は大学生

復興支援助成  
**2年目**  
実践

参加大学生 **39人**

ネパールでの  
チャルカ伝授 **7人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍の中で、ネパールの女性たちとの交流事業は現地への渡航を行わずに進める形に方向転換せざるを得なかった。

#### ■ 工夫した点

カトマンズ在住日本人の協力を得て、現地の状況の変化に応じて事業実施の時期を探りインターネットで繋いで交流することとした。

〒971-8168  
福島県いわき市小名浜君ヶ塚町  
13-6  
電話: 0246-52-2511  
E-mail: [the-people@email.plala.or.jp](mailto:the-people@email.plala.or.jp)  
HP: <https://npo-thepeople.com/>





# 農と文化のフィールドミュージアム

活動地域  新潟県十日町市

つづける助成  
**2年目**  
実践

来場者	<b>1,963</b> 人
収穫体験参加者	<b>177</b> 人
今年度計画の達成度	<b>70</b> %
目標達成度	<b>80</b> %



生き物観察の様子

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

- 新型コロナウイルスの影響による集客
- 業務の範囲が広く、それぞれの活動をバランスよく進めること

### ■ 工夫した点

新たな職員がどの活動においても活躍できるように、一つの活動に絞らず、様々な経験をしてもらったこと。

## 課題

他の中山間地と同様に過疎・高齢化が著しく、里山内の耕作放棄地も増大しており、集落のコミュニティ低下が大きな問題となっている。

## 目標

- ① 耕作放棄地を開墾し、有機観光農園を創り出す
- ② 旧来の植生や生き物が里山を彩る
- ③ 多くの来場者が実感・体感する

## 活動内容と成果

- 19品目を有機栽培、耕作面積を1,000m<sup>2</sup>増やし15.6aを達成
  - ① 収穫体験参加者：177人
- 旧来の植生・絶滅危惧種の保護活動
  - ① カタクリ群生地整備：5回実施、新規面積100m<sup>2</sup>
  - ② ヤマユリ保護株数：5回実施、新規20株保護
  - ③ 絶滅危惧種保護活動：3回実施（卵塊保護・移動実施）
- アートと里山を楽しむフィールドミュージアム
  - ① 7/22～11/29の期間で来場者：1,963人



収穫した野菜

## 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルスの影響もあり、集客には苦戦した。職員の数に対して、日々の業務と助成活動の範囲が広く、未達成に終わった活動もあった。しかし、地元の方々の協力を得ながら、新人職員にも様々な活動に携わってもらい、経験を積んでもらった。



園路に咲いたひまわり

〒942-1526  
新潟県十日町市松代3743-1 まつだい「農舞台」内  
電話：025-595-6180  
HP：https://www.echigo-tsumari.jp/



## 今後の展望

活動資金調達においては、現在もNPOで行っている棚田保全分野（まつだい棚田バンク）と合体させ、都市部住民・大学・企業などが出資し、応援できるような仕組みを構築する。今後はプログラムを再検討する、来場者以外の指標を加えるといった振り返りをいかして、里山保全・有機栽培には職員を増員し、管理運営を継続して行っていく。



# インド西ベンガル州ビルブム県における土地利用別アグロフォレストリーと環境に配慮した運用・利用の推進

活動地域  インド

ひろげる助成

3年目

実践

植林した多目的樹 **8,000本**

設置した無煙かまど **180世帯**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **90%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

雨期前(5月半ばから7月)に新型コロナウイルス禍の制限が強化され、苗木の準備に苦労したが、植林は7月半ば過ぎから挽回した。雨水保水池掘りは雨期前にはできず、冬期に遅らせた。

### ■工夫した点

移植の際の苗木間隔を樹木の種類によって適切に保つようにした。新型コロナウイルス禍の制限が緩和されてから、遅れていた活動を実施した。



休閒地植林3年目、樹木の高さ3m超

### 課題

乾燥地域の限界小規模農民世帯の占める割合が高い地域で、飼料や燃料などの供給源である森林減少や土壌侵食が進んでいる。

### 目標

有効利用の余地のある土地に多目的樹植林が広まり、かつ適正技術の導入により住民の生活向上と温室効果ガスの排出量を減少させる。

### 活動内容と成果

活動は2地区の30グループ、計600世帯を対象。各土地利用別の植林に適した計40種以上の樹木を住民とともに選択し、道路沿い、休閒地、池周り、水田、家周りの計10haに、計8,000本の多目的樹を植林し、20kgのマメ科灌木等の種子を蒔いた。薪燃料の節約を促進する無煙かまど180ユニット、バイオガス8ユニットを設置。雨水保水池を10か所、屋根水保水タンクを4ユニット設置し、平行して魚養殖を10か所の池に推進した。200世帯の菜園に3から4種の果樹を各々植樹した。



共同育苗場で、15種15,000本を育苗

## 全助成期間の活動を振り返って

3年間の活動で、30の自助グループメンバー 600世帯が、公共地の休閒地、道路・用水路沿い、池周り、田周り、家周りに、45種類の多目的樹を合計5万本植林し、薪燃料や飼料のアクセスを増やすとともに、土地の生産性向上を図った。苗木の育苗とともに、対象世帯の8割に無煙かまどを設置し、46のバイオガスプラントを設置することで、薪燃料の節約を図り、主に女性の家事労働の負担を軽減した。



無煙かまど設置で、25%の薪燃料が節約

58A, Dharmotola Road, Bosepukur, Kasba, Kolkata  
700 042, West Bengal, INDIA  
E-mail: sc.enre@gmail.com  
HP: www.drcsc.org



今後の展望

地域行政とも連携し、自助グループメンバーたちがこの活動で得た経験と知識を地域に波及させるため、地域行政とも連携しアグロフォレストリー植林を学校周りなどにも実施していきたい。並行して、次世代の環境保全に関する認識を高め、地域でさらに自足的な植林活動が多角的に行われるようにしていきたい。



# Bangladeshにおける環境・気候変動に 適応する持続的農業の実践と普及

活動地域  Bangladesh

ひろげる助成  
**4年目**  
実践

灌漑に頼らない農業実践者数	<b>300人</b>
灌漑に頼らない農業実践面積	<b>226ha</b>
今年度計画の達成度	<b>100%</b>
目標達成度	<b>100%</b>



活動模型による展示 (行政官への説明)

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

2019年にはサイクロンが直撃し、2020年は新型コロナウイルスの感染拡大と困難な場面があったが、農民が活動の意義をよく理解してくれたため遅滞なく遂行できた。

### ■工夫した点

行政との関係強化と周知のため、農業省事務次官・農業普及局局长、県令・県農業普及所長など行政への働きかけに注力した。結果、彼らからの協力を得ることができた。

## 課題

地下水灌漑に過度に依存している農法の改善 (地下水の汲み上げ過ぎによる帯水層の低下、ヒ素の溶出等の環境汚染が顕在化している)。

## 目標

地下からの灌漑水に過度に依存する農法から節水型の作付けや農法が住民主導で実践される。

## 活動内容と成果

対象住民の8割が作付けをコメから野菜へと転換した。また9割以上の農民が節水型稲作を導入し、そのいずれかをすべての農民が実践した。またこうした農法を導入したすべての農民の収益が上がり、取組みに対して農業行政・地方行政ともに認知・協力が得られ、協力体制が構築できた。また地方紙や全国紙にも活動が取り上げられた。



毎月に行われるミーティングの様子

## 全助成期間の活動を振り返って

地下水の汲み上げ過ぎによる帯水層の低下や近代農業による土地痩せ、農業についてのリスクについては農民は危惧を感じている。しかし、それに対する処方箋がこれまで示せてこなかった中で、本事業は経済的な側面も含めしっかりと例示し実証ができたという面で、Bangladeshの農業のあり方について一石を投じることができたと思う。



世界食糧記念日のラリーで活動紹介

〒350-0046  
埼玉県川越市菅原町7-16-302  
電話：070-5363-5858  
E-mail：info@sharetheplanet.jp  
HP：http://sharetheplanet.jp/



## 今後の展望

この事業を通じて実証した農法をしっかりと伝播・普及するためには行政や市民社会への働きかけが極めて重要であるという考えのもと、事業を展開してきた。今後は「普及」を念頭に、より農業行政や地方行政、ローカルNGOとのネットワークを視野に働きかけていく予定である。

(特非) ラムサール・ネットワーク日本

ラムサール条約と生物多様性条約の水田決議に基づく田んぼ10年プロジェクトの加速化とSDGsを組み入れた新しい水田目標の構築と活動の推進

活動地域 日本全域、国外

ひろげる助成  
4年目  
知識の提供・普及啓発

「田んぼ10年だより」の発行	3回
後継計画書発行	1冊
今年度計画の達成度	60%
目標達成度	80%



田んぼ2030プロジェクトキックオフ集会

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

生物多様性条約COP15が再び延期となり、生物多様性保全のポスト2020目標が決定できなかったため、田んぼの生物保全の目標との関係性も決定できなかった。

■ 工夫した点

議論途上のドラフト版ポスト2020目標と田んぼの生物多様性保全目標と対応させることで、2030年に向けての保全計画を作成し、国際目標決定後に修正することとした。

課題

活動的な参加者を増やし、活動全体の活性化と、継続した事業としての基盤を強化する。その視点から人材育成、組織運営体制、将来ビジョンの重点項目の可視化を行う。

目標

これまでの成果と国内外の生物多様性保全の議論を基にSDGsとCBD新戦略計画を組み入れた新・10年計画を策定・発足し、ポスト2020に備える。

活動内容と成果

生物多様性保全ポスト2020目標に向けた後継計画検討のため学習会「気候変動と水田」と民間稲作研究所へのヒアリングを実施した。「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト・水田目標2030」を策定し、計画書を発行。キックオフ集会を栃木県小山市で12月に開催。動画「水田の生物多様性」を作成し、ウェブに掲載。農水、環境、国交省と水田決議円卓会議準備会を6回開催。「田んぼ10年だより」を3号刊行。



学習会（気候変動と田んぼ）参加者

全助成期間の活動を振り返って

愛知県、福井県、徳島県で地域交流会、東京での全国集会を開催し、オンライン参加を進めることによってプロジェクト参加者は300を越え、田んぼの生物多様性保全への全国的ネットワークの強化を進められた。しかし、水田地域の生物生息環境の劣化をとどめるまでには至らず、キックオフ集会を開催した「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト」の進展が必要である。



2019年地域交流会（中池見湿地）

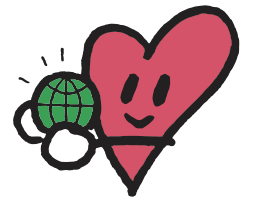
〒110-0016  
東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F  
電話：03-3834-6566  
E-mail：info@ramnet-j.org  
HP：http://www.ramnet-j.org/



今後の展望

助成を得て策定・スタートした「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト」において、各地で活動する団体・個人との生物多様性保全ポスト2020目標の実現を図る。2022年は参加者によるワークショップを開催し、具体的な行動内容を検討する。各地での実践活動、政府自治体の行政施策についての相互の情報共有と協働体制を構築する。国際条約会議の場などを活用して田んぼを持つ国同士の連携を図る。





# 地球温暖化防止



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

# 色川地区 暮らしの省エネ&再エネ化プロジェクト

活動地域 和歌山県



導水パイプの通水試験

### 課題

地域の脱炭素化を住民主体で進める上で、事業の担い手づくりと地区全体の省エネ・再エネ推進に向けた気運醸成が課題である。

### 目標

住民が水力発電の仕組みを理解し、事業の担い手になること。各家庭で電気の使い方の現状を知って改善点に気づくとともに手軽に再エネに置き換えできることを知ること。



今後の展望

3年後をめどに色川地区の脱炭素化の担い手となる事業体を住民主体で設立し、再エネ(小水力発電、太陽光発電)、交通(Eバイク、ライドシェア)、住宅の断熱と省エネに取り組む。また、近隣にも活動を横展開する。

### 活動内容と成果

小水力発電について理解を深めるためのピコ水車の設置ワークショップとパネル1枚の太陽光発電を家庭で利用し発電量と電力消費量を知る体験会を行った。3回のワークショップを通じて地元住民は水力発電の仕組みを理解し、3か所で事業化検討を行うこととなった。また完成お披露目を開催して広く地区内に活動について周知した。太陽光発電と電力見える化の体験会は7軒の家庭で実施し、電力消費量の多い家電製品や太陽光発電でどの程度賄えるか実感し、参加者の省エネと再エネへの取組み意欲が高まった。



取水部を見学する参加者

はじめる助成

1年目

実践

小水力発電の  
実践WSの開催回数 **3回**

PV独立電源の  
体感会参加者 **10人**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **75%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

環境活動に熱心な住民以外の地区住民に取組みについて広く周知し、参加者を増やすこと。

#### ■工夫した点

回覧板やSNSだけでは不十分なので電話などで直接声掛けを行ったり、地元新聞やケーブルテレビに取材に来てもらった。

〒649-3502  
和歌山県東牟婁郡串本町潮岬1774  
電話：090-9104-3354  
E-mail：y-niki@nanki-energy.org  
HP：http://www.nanki-energy.org



# 地域に根ざした地産地消エネルギーシステム(温熱・電力・蓄電等)の普及モデル構築と政策提言、社会実装化

活動地域 東京都、日本全域



大湯村と脱炭素地域事業連携協定書調印

### 課題

自然エネルギー熱利用を含むスマート化は理論的研究や体系的な政策も乏しく利用量は低下する一方である。地域熱供給も、都市部の一部を除き普及が進まず衰退傾向にある。

### 目標

- ①パイロット事業の企画と実装化を行い具体的な政策提言に繋げる
- ②エネルギー地産地消の社会ビジネスモデルで地域循環共生圏の形成に資すると示す

### 活動内容と成果

全国ご当地エネルギー協会と協働し、デンマークの地域熱供給白書の日本語翻訳監修を行った。大湯村、二本松市、松本市と地域スマート化について意見交換を行い、今後も継続することとした。経産省にエネルギー基本計画への意見を提出し、「緊急オンラインセミナー：エネルギー基本計画をどうすべきか？」を開催してエネルギー基本計画に対する課題の指摘とグリーン・リカバリー戦略の提案を行った。太陽光と蓄電池を用いた地域エネルギー事業について「ソーラー+バッテリーによるこれからの地域エネルギー」ウェビナーを開催した。



Freeing Energyのウェビナー

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

4DHフォーラム開催 **2回**

地方自治体と意見交換 **3か所**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **25%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で国際会議やセミナーへの参加が困難であった。

#### ■工夫した点

前年度からオンラインのノウハウを蓄積・発展させ講演や交流、意見交換の量と質の維持向上に努めた。

〒160-0008  
東京都新宿区四谷三栄町16-16  
電話：03-3355-2200  
HP：https://www.iseip.or.jp





## (公財) 公害地域再生センター (あおぞら財団)

# 誰ひとり取り残さない! 気候変動を構造的にとらえ未来につながる教育プログラムづくり

活動地域  大阪府



公害の経験から課題解決の糸口を考える教材の実施

### 課題

気候変動によって多数の災害が引き起こされ、社会的な弱者が取り残される状況になっている。気候変動を自分事として捉え自ら行動できる市民の力が必要である。

### 目標

気候危機に対して自律的に行動できる市民の力により、気候危機を緩和する。気候変動によって社会的弱者が取り残されない社会となる。



### 今後の展望

公害に関わった人へのインタビューを積み重ねて教材のブラッシュアップを行うほか、地域づくりを視野に入れた防災教育など多様な教育方法を検討し、教材を改善する。

### 活動内容と成果

- 研究会を開催し、気候変動×防災×公害を学ぶ教育プログラムの開発、公害の経験から学ぶ教材づくり、「誰一人取り残さない」ための教育に取り組んだ
- 成果物として、「気候変動×防災×公害を学ぶハンドブック」を作成し、ウェブページ「公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる」を開発した
- 教材案を高校、大学で実施し、公害や気候変動に対する理解が深まり、市民として何を果たすべきかを考えるきっかけになったとの感想が得られた



作成した教材の一つ

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

教育プログラム案実施 **2回**

公害患者のヒアリング **8人**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **30%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

参加型の教材を目指しているが、新型コロナウイルス禍のために対面での実施が困難になっている。

#### ■工夫した点

ネットで教材を見ることができるよう、ウェブページを開発し、教材をダウンロードできるようにしている。

〒555-0013  
大阪府大阪市西淀川区千舟  
1丁目1番1号  
あおぞらビル4階  
電話：06-6475-8885  
E-mail：webmaster@aozora.or.jp  
HP：http://aozora.or.jp/



## (公財) みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

# キリバス共和国におけるトロニバイ人材 (環境マスター) 育成プロジェクト

活動地域  キリバス



キリバスユースに対するヒアリング

### 課題

- キリバス共和国ユース世代の活躍の場の創出
- グローバル的環境問題を自分事として捉える意識の変革
- 環境問題を啓発していくためのプログラム開発

### 目標

- キリバス政府認定による環境マスターが誕生
- キリバスの環境政策において官民協働の取組み
- 外国からの支援に頼らない「トロニバイ」の精神を持った自発的な取組みが定着



### 今後の展望

- 日本とキリバスのユース同士の相互理解を進める環境整備
- 環境マスターのスキルについて、気候変動や環境問題の他に感染症対策や衛生等についても活動できるかを検討
- 学校との連携体制構築など活動の場の確保

### 活動内容と成果

- KiriCAN (現地協力団体) ユースを中心に10代から30代の計30人からアンケート調査を行うと同時に、KiriCANが推薦する3人からヒアリング調査を行い、ユースの潜在的ニーズを把握することができた。また結果を専門家やKiriCAN側と共有し分析することにより、人材育成プログラムの根拠となる
  - KiriCANとリモートによる意見交換を2回開催し、互いの活動の共有を行うとともに、人材育成事業の来年度の実施確認を行った
- ※「トロニバイ」とは現地キリバス共和国の言葉で「自立」を意味する



MELONとKiriCANの意見交換会

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

ユースアンケート・ヒアリング **33人**

KiriCAN意見交換 **2回**

今年度計画の達成度 **95%**

目標達成度 **15%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

キリバス共和国は新型コロナウイルスの影響で国境を閉鎖しており、タイミングを計りながら事業を遂行している点。

#### ■工夫した点

リモートによる意思疎通。感染症対策としてGoogleフォームでのアンケート導入を検討。

〒981-0933  
宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45  
フォレスト仙台5F  
電話：022-276-8756  
E-mail：melon@miyagi.jp  
HP：https://www.melon.or.jp/



# 脱炭素社会づくりに向けた熟議の輪を広げる。

活動地域 東京都、神奈川県、北海道、埼玉県、鹿児島県



かわさき市民会議第6回 市民との集合写真

### 課題

脱炭素社会形成は、社会・まち・生活様式の変革、その促進政策づくりと市民参加を必要とするが、日本社会では、市民が討議を重ね意志を発信する参加・熟議が未成熟である。

### 目標

脱炭素転換に向けて、市民による徹底討議のための手法開発を実践を通じて推進し、定着を目指すとともに、若い世代を対象に参加・熟議に対する必要な能力を身につけてもらう。



### 今後の展望

目標に向け着実に前進している。2050年カーボンゼロへの内外の追い風を受け、地域社会・高校・高専の教育現場と連携し、実践を積み上げ、脱炭素社会づくり参加・熟議型のプログラムの完成・普及に全力をあげたい。

### 活動内容と成果

- 三つの活動を推進
- ①脱炭素社会づくりに向けた地域レベルでの市民会議の開催  
川崎市をモデル都市として、川崎市地球温暖化防止活動推進センターとの協働で、無作為抽出で選出の一般市民(75人)による「脱炭素かわさき市民会議」を開催し、77項目からなる市民目線での政策提言を発信。この成果を基に川崎モデルを形成し、普及を目指す
- ②高校生・高専生向け参加・熟議型脱炭素・エネルギー教育プログラムの開発・実践(筑波大学附属坂戸高校、立命館慶祥高校、鹿児島高等専門学校)
- ③脱炭素転換に向けた若手人材の育成



かわさき市民会議第6回討議の様子

ひろげる助成

2年目

実践

脱炭素市民討議開催・検討都市 **5都市**

参加・熟議型脱炭素授業等実施校 **3校**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **50%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

脱炭素市民会議では、市民から多様な提案が出されたが、各提案について、賛否など多くの見解が示され、集約に苦勞したこと。

#### ■工夫した点

消極的意見が多数でない限り、可能な限り提案を受け入れ、同時に参加者に提案ごとに賛否投票を行い、投票結果を提案とともに示した。

〒215-0021  
神奈川県川崎市麻生区上麻生  
3-12-11 エスケーハイツ103  
電話：044-387-0116  
E-mail：office@inst-dep.com  
HP：http://inst-dep.com/



# 自然エネルギー 100%を目指す「持続可能まちづくり」。電気・熱・交通での省エネ/シェア/創エネ

活動地域 長野県



上田高校での断熱改修ワークショップ

### 課題

持続可能なまちづくりは重要だが①既存社会インフラが化石燃料多消費を前提②個別利害と全体最適な取組みがずれる③短期的にはコスト高、で進みにくい。

### 目標

2050年までに2013年度比実質100%の温室効果ガスの排出削減を目指す活動計画が上田地域全域で実行され、「自然エネルギー 100%地域」に近づいている。



### 今後の展望

既存の社会構造を変えることをポジティブにとらえてもらえるように、継続して行政との共催を続け、市民、市の職員や議員を巻き込んでいく。また、若い世代、さらに企業への働きかけを継続していく。

### 活動内容と成果

- 市全体の課題である公共交通や人口密度を維持する交通まちづくりは、同時に運輸部門で自動車からのCO<sub>2</sub>排出を減らすことができる。そこで、市の課題を市民と共有し対話する会を、上田市と共催で行ってきた(上田リバース会議と名付けた)
- 高校生、さらに大学生と一緒に断熱改修ワークショップを行ってきた。上田高校の学生や先生と一緒に教室を断熱改修した。また、信州大学の学生プロジェクトや学習塾でも断熱を行った
- 活動内容は、信濃毎日新聞や市議会でも好意的に取り上げられた



上田リバース会議での対話風景

ひろげる助成

2年目

実践

上田対話会議への通算出席者 **510人**

学生との断熱改修ワークショップ **3か所**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **70%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で対話の機会が限られ、Zoomやアンケート、個別訪問でカバーしたが、スタッフの負担が大きくなった。

#### ■工夫した点

共感者を増やして、多くの人を巻き込んで協力しあって続けられるように、上田ビジョン研究会を立ち上げた。

〒386-0018  
長野県上田市常田2-27-17  
電話：0268-75-5896  
E-mail：info@neco.or.jp  
HP：https://www.neco.or.jp





(一社) カーフリーデージャパン

ベトナムの典型的な農村景観が広がるタイビン省での自転車を中心とした持続可能な交通まちづくり活動

活動地域  ベトナム



ミンラン村電動アシスト自転車の貸出

課題

バイクや自動車の普及により、ひどい交通渋滞や環境汚染が進むベトナム大都市に近くタイビン省の環境維持や持続可能な交通まちづくりに貢献する。

目標

自動車が普及していない農村地域を有する地域なので、自転車を活用したエコツーリズムや農村での自転車移動の環境整備を進める。



今後の展望

今後は、渡航できる前提で、具体的な活動地バックトゥアン村での住民向けのワークショップを行う。また、その成果をもって、エコツーリズムの施策展開を目指した行政や関係機関を招いたワークショップを予定している。

活動内容と成果

- ①環境にやさしく安全な通学の推進  
小中学校での駐輪場調査(8校)、通学アンケート調査(2校/93人)により、タイビン省の子どもたちの通学実態を把握。郊外の中学校での貸出が開始(9人・世帯)。また、同村の集落交通安全計画案も作成
- ②自転車のエコツーリズムの展開  
タイビン省の自転車エコツーリズムルートの追加調査を行い、具体的なルートマップを作成
- ③自転車を中心としたエコ交通の展開  
観光協会や省との協議が実現し、具体的な活動地としてバックトゥアン村が選定され、同村での関係者ワークショップを開催



バックトゥアン村関係者ワークショップ

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

通学アンケート回答者 **93人**

電動アシスト自転車貸出 **9人・世帯**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **60%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

今年も、新型コロナウイルスの影響で当団体が渡航できず、タイビンの関係団体や行政との協議が開始できず、活動体制の構築が難航した。

■工夫した点

当団体の現地スタッフや協力団体との連携を深め、新型コロナウイルスの感染状況を見極めて、関係団体との協議を実現させたこと。

〒114-0014  
東京都北区田端2-4-19  
電話：03-6914-3404  
E-mail：carfreedayjapan@cfjdjapan.org  
HP：http://www.cfjdjapan.org



(一社) 全国ご当地エネルギー協会

地域参加型温暖化対策としての「ご当地エネルギー地産地消」の仕組みづくり・協働・実装

活動地域  東京都、日本全域



ご当地エネルギー2.0での講演

課題

系統制約やFIT価格の低下など事業環境が厳しくなる中で全国各地のご当地エネルギー事業を支援し協働で取り組める新たな社会ビジネスモデルの構築。

目標

- 非FIT・ポストFIT環境下で新たな地域エネルギー事業を10地域増やす
- 国際的な協働事業を少なくとも一つ以上立ち上げる



今後の展望

短期的に電力市場の高騰や世界的な半導体不足による各種機器の高騰、ウクライナ情勢によるエネルギー市場の混乱もあるものの、中長期的な脱炭素の動向を見据え、地域からの新しい事業モデルの検討を進める。

活動内容と成果

引き続き新型コロナウイルスの影響からウェビナー形式で知見の共有を行い、協働の可能性を探った。国内では脱炭素先行地域や4DH、地域エネルギーマネジメントシステム等を、海外向けにはアフリカ・マリ共和国での営農型太陽光発電をテーマにウェビナーを複数回開催した。ご当地エネルギー・インターンプログラムでは、感染が収まっている時期にPCR検査を受けた上で、9月に神奈川県小田原市(4人)、12月に福島県二本松市(2人)、3月に福島県富岡町(3人)を派遣した。



ご当地エネルギー・インターン小田原

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

国内セミナー等の実施 **4回**

地域へのインターン派遣 **9人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **25%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの感染が収束せず、ご当地エネルギー・インターンプログラムの実施を縮小せざるを得なかった。

■工夫した点

インターン派遣を縮小した分、オンラインインタビューを実施することで多くのインターンやご当地エネルギーの交流を可能にした。

〒160-0008  
東京都新宿区四谷三栄町16-16  
電話：03-3355-2212  
E-mail：contact\_info@communitypower.jp  
HP：http://communitypower.jp



## (特非) 生ごみリサイクル全国ネットワーク

### 通気式生ごみ保管容器「生ごみカラット」を使用した地球温暖化対策

活動地域  日本全域



食品残渣投入のための調整作業

#### 課題

生ごみからの水分除去について自治体とタイアップして広める。また、半乾燥生ごみの有効活用法として、堆肥をつくり有効性を確認する。

#### 目標

タイアップ候補自治体を把握するとともに、PR動画を作成する。半乾燥生ごみから数種類の堆肥を作成し有効活用するための方法を検討。

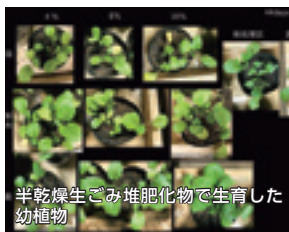


今後の展望

竹の粉は水分調整と堆肥化時の空隙の確保に有効であったため、重力により水分が最も高くなる最下層にやや厚めに竹の粉を敷くと、悪臭抑制にさらに効果的であると考えられる。食べ残しも堆肥化可能である。

#### 活動内容と成果

紙芝居形式のYouTube動画を作成。また栽培実験では、野菜屑のみ、野菜屑+動物性残渣、調理・調味後の食べ残しの3試験区を設け、生ごみカラットを用いて、竹粉を生ごみの間に入れ、それぞれの材料を半乾燥。容積が小さく堆積当たりの放熱が大きいことを抑制するために発泡スチロールを活用。途中1週間に1回程度切り直しを行い、堆肥化を実施。堆肥化中は悪臭はどの試験区もほとんど発生しなかった。堆肥化物は、土壌のpHを調整後、混和し、コマツナ栽培試験に供試した。栽培試験結果、食べ残し区が最も生育が良好であった。



半乾燥生ごみ堆肥化物で生育した幼植物

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

生ごみからの水分除去の動画作成 **1本**

半乾燥生ごみの堆肥を使った調査 **1回**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **60%**

#### 苦労した点と工夫した点

##### ■ 苦労した点

カラットでの水切りの際、最下層に竹の粉を入れていなかったため、一番下の層のみが水分過多になったこと。

##### ■ 工夫した点

家庭系では少量での堆肥化が実施されるため、放熱が大きい。これを抑えるために、生ごみの堆肥化は発泡スチロールで実施した。

〒101-0061  
東京都千代田区神田三崎町3-1-5  
電話：03-3483-3761  
E-mail：info@namagomi-rz.sakura.ne.jp  
HP：http://www.namagomi-rz.sakura.ne.jp/



## パワースhift・キャンペーン運営委員会

### 市民や事業所の再エネ電力選択による持続可能な再エネ社会の構築

活動地域  日本全域



(Zoomイベント) 再エネ電力会社見本市

#### 課題

再エネを選択したいという市民の声に逆行する電力制度の問題。とりわけ再エネ由来の電気であるFIT電気も電力市場を使わなくても高値になってしまうという制度上の課題。

#### 目標

パワースhift・キャンペーンは市民の声を反映するチャンネル、持続可能性を求める運動として役割を果たしたい。



今後の展望

シンプルに再エネを選びたいという市民の声を実現するため、障害となっている歪んだしくみである電力制度の問題の発信をしていきたい。またそのような社会全体の歪みと気候変動問題を一緒に考える機会を増やしたい。

#### 活動内容と成果

- パワースhiftアンバサダー 49人が参加。アンバサダーの発信により市民がインスタに参加しやすい場に
- 気候変動対策のために持続可能な社会とはどうあるべきかの発信
- 再エネを選びたくても選べないという電力市場価格高騰問題などの電力制度問題への取り組み
- 再エネを売りたい、持続可能な地域を構築したいという再エネ新電力の声を可視化
- 再エネ新電力のきわめて多様な魅力をイベント等で伝え市民の再エネ選択を促した



(インスタ) パワースhiftトーク

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

パワースhiftアンバサダー数 **49人**

紹介電力会社数(追加) **9社**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **50%**

#### 苦労した点と工夫した点

##### ■ 苦労した点

電力市場価格高騰が起き、再エネ新電力に切り替えたくても受け付けていないという異常事態への対処に苦労。

##### ■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍においてパワースhiftアンバサダーのSNS発信をいかして認知拡大を図った。

〒173-0037  
東京都板橋区小茂根1-21-9  
FoE Japan内  
電話：03-6909-5983  
E-mail：info@power-shift.org  
HP：https://power-shift.org/





# アジア太平洋地域での気候正義に基づいた1.5度目標達成に向けた調査・提言活動

活動地域  アジア



COP26で現地の気候正義運動に参加

### 課題

1.5度目標達成及び途上国での気候変動被害対策が「当該支援策に途上国の声が反映されておらず」、「先進国による途上国への適切な支援」となっていない。

### 目標

1.5度目標達成のため、先進国及び途上国の温室効果ガス排出削減目標が気候正義の考えに基づいたものまで引き上げられる。



### 今後の展望

2021年度からIPCCの第6次報告書が公表され、気候変動対策の緊急性が科学的に認められた。国際的な議論と実態の差は大きいですが、アジア太平洋地域での気候正義運動を支援したい。

ひろげる助成  
**2年目**  
調査研究

### 活動内容と成果

2021年度は、新型コロナウイルスの影響が残りつつも、COP26が開催された。COP26の開催に伴い、気候変動の国際的な議論をレポートの翻訳や交渉現場からのブログという形で発信できた。気候正義の普及啓発活動も、若者向けウェビナーを5回実施し、平均して30人ほどが参加し、「海外の気候変動政策にも目が向くようになった」「若者の気候変動アクションに参加したい」との感想が見られた。また、アジア太平洋地域の若者を対象とした研修プログラムもオンラインで継続し、6か国から約20人の参加者とともに5回実施した。



第2回スクール・オブ・サステナビリティ 2の登壇者

交渉内容の発信	10回
国際交渉に関する報告会の実施	120人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	33%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

国際気候変動交渉に関するレポートを翻訳したものの、そのレポートをいかした報告会の企画に難航した。

#### ■ 工夫した点

COP26でのつながりをいかし、途上国のメンバーに途上国における損失と被害の実態に関するウェビナーを開催できた。



〒173-0037  
東京都板橋区小茂根1-21-9  
電話：03-6909-5983  
HP：https://foejapan.org/

## Climate Action Network Japan (CAN-Japan)

# パリ協定の目標達成のための国内制度への政策提言と対話

活動地域  日本全域



マルチ・ステークホルダー対話イベント

### 課題

現行の気候・エネルギー政策をパリ協定に整合するように抜本改正する動きは国内ではわずかにとどまっている。1.5℃目標に整合するよう対策の強化が必要である。

### 目標

パリ協定1.5℃目標に整合的な、国内の気候変動政策が導入され、実施されること。



### 今後の展望

IPCCの第6次評価報告書も発表され、脱炭素への転換の加速が求められている。科学の警告、国際社会の潮流を踏まえて、国内での気候変動対策の強化に向けて、関連団体等と連携して提言と対話を進めていく。

プラットフォーム助成  
**2年目**  
知識の提供・普及啓発

### 活動内容と成果

気候変動に関する国際動向について分析しながら日本の気候変動・エネルギー政策やグリーンリカバリーに関する提言・情報発信・政府との対話に取り組んだ。幅広い市民団体やユースグループと連携し、ゼロカーボン宣言の増加や対策強化の枠組みづくりに取り組んだ。CAN-Japanでは、1.5℃目標のために2050年実質ゼロの目標設定を日本政府に要請してきた。2021年4月に、2030年目標が強化され、一歩前進した。この目標に適合する対策の強化など課題は多い。



COP26 (グラスゴー) 会場

国際会議に参加する	1回
イベントを開催する	9回
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	70%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続し、国際会議への参加やイベント実施を計画どおりに進めるのが難しかった。

#### ■ 工夫した点

事務局体制の強化やオンライン環境の改善を進めて対応した。感染対策を十分に行った上で、国際会議にも参加した。



〒604-8124  
京都府京都市中京区帯屋町574番地  
高倉ビル305号  
電話：075-254-1011  
E-mail：secretariat@can-japan.org  
HP：団体：https://www.can-japan.org  
プロジェクト：https://go100re.jp



# 神戸市灘区水車新田における都市型小水力発電による地域活性化

活動地域 兵庫県神戸市

つづける助成  
**3年目**  
実践

イベントの延べ参加者数	<b>309人</b>
他地域へ先進事例として紹介件数	<b>3件</b>
今年度計画の達成度	<b>90%</b>
目標達成度	<b>95%</b>



小水力発電設備設置敷地内活動時集合写真

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

- ①新型コロナウイルス感染拡大による行動範囲の制限
- ②国、県、市の関連許可機関との協議・許認可取得に時間と労力を要した

### ■工夫した点

- ①月次での活動打合せの会議をオンライン (Zoomシステム利用) 参加可能とし、活動内容に関する企画・推進が滞ることのないようにした
- ②根気強く交渉を実施した

## 課題

再生可能エネルギーは環境への影響が少なく、地球の環境問題解決に寄与することを地域住民各自が理解し、自ら地球温暖化防止に資する行動をするようになることが重要。

## 目標

小水力発電によるクリーンな電力が利用されることで都市近郊における低炭素地域づくりに貢献し、地域資源が有効活用されている。

## 活動内容と成果

- 1年目には、複数回の説明会を実施したことで、地域資源の一つとも言える地域住民とのつながりができた
- 2年目には、国、兵庫県、神戸市の河川管理、砂防管理部署との協議が終了し、設置に係る許認可を得られた。また神戸大学農学部との協力を得て学術的な観点での里山整備の助言を受け、実践面で里山整備・活用の経験、実績がある他の団体メンバーとの交流によりノウハウを収集できた
- 3年目には、小水力発電設備の設置が完了、発電を開始し自然エネルギーによるクリーンな電力の地産地消を開始した。また、里山整備活動を開始した



六甲川水車新田小水力発電設備



小水力発電設備現地見学案内

## 全助成期間の活動を振り返って

- 助成を受けることにより活動資金の後ろ盾ができて、活動規模が拡大できた
- 助成の応募書類、報告書等の作成をきっかけとして、PDCAのサイクルを回すことができるようになり、活動内容の見える化が進んだ
- 令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰の普及・促進部門/緩和分野で大賞を受賞できた

〒657-0068  
 兵庫県神戸市灘区篠原北町3丁目9-3  
 電話：078-861-2530  
 E-mail：pvnet\_hyogo@hera.conet.ne.jp  
 HP：http://pvnethyogo.g2.xrea.com/



## 今後の展望

都市型小水力発電設置敷地を持続的な里山林として活用することを目指し、年度以降以下を実施する。①敷地立入り者の安全確保：立ち枯れ木・倒木の除去、折損枝の撤去 ②里山林として持続可能な仕組み作り：小水力発電設備設置場所周辺樹木の管理方針策定、伐採樹木の資源化方針策定 ③環境学習や憩いの場として活用：遊歩道、学習広場作り、学習メニューの策定



(特非) 若桜・こらぼ企画

## 若桜町における実践型自然エネルギー学校 (小水力発電)の開催

活動地域  鳥取県若桜町

つづける助成

3年目

実践

小水力発電活用  
セミナー参加者数 **11人**

フォローアップ勉強会  
開催回数 **2回**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**



発電した電気の活用を学ぶセミナーを開催

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大により、セミナーの開催時期や参加対象者など、活動計画に変更が生じたものの、おおむね当初案どりの活動ができた。

#### ■ 工夫した点

活動を進めるにあたって地域住民との合意形成を最重要視しており、十分な話し合いの上、進行することを心がけた。

### 課題

鳥取県若桜町は県内有数の水資源やバイオマス資源を有しているものの、地域住民が事業主体の自然エネルギー事業が進んでおらず、小水力発電の事業化が課題である。

### 目標

受講者が小水力発電開発の担い手として、資源発掘、調査、事業計画策定や地域での主体形成へのコーディネートや、自らも事業主体者となり、事業を実施することを目指す。

### 活動内容と成果

今年度は、町内外に広く小水力発電について啓発するための手法を検討した。昨年度までに自然エネルギー学校で設置した小水力発電設備を活用し、子どもから大人まで幅広い年代が自然エネルギーや小水力発電について、また電気の仕組みや有効活用について学ぶためのプログラムを検討し、実際にセミナーを開催した。新型コロナウイルス感染拡大により参加者が限定されたものの、発電量を上げるために設備の改良や太陽光発電の設置などを引き続き検討することになった。一過性のイベントではなく、引き続き活動を継続・拡大していくことが合意された。



フォローアップ勉強会の様子



現在は発電所建設に向け計画策定中

### 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルスの影響で活動が大きく制限される中、ほぼ予定どりの活動を実施し、ごく小規模ながら発電設備を1基完成させることができた。本活動を始めた当初は、実際に発電所建設へ向けた動きを生み出せるかどうかまったく未知数であったが、3年経った今、小水力発電開発のノウハウを持つ担い手が育ち、その人たちによって、次のステップとして具体的な発電所建設計画へと進んでいることは、活動の大きな成果といえる。

〒680-0701  
鳥取県八頭郡若桜町若桜736-9  
E-mail : wakasa.korabokikaku@gmail.com



今後の  
展望

小規模な設備を来年度以降も町内各地に増やしていけるように住民と話し合いを進めていく。小規模な設備は大きな発電所建設とは違ってリスクも無く、比較的容易に設置でき、発電した電気を自分たちの生活に直接いかすことができる。この「利」が浸透すれば、自然エネルギーへの理解が進み、将来、住民主体のエネルギー事業が増えていく可能性が高まる。まず小規模な設備を町内各所に増やしていくことが次の目標である。

# 未来対話－大学生・若者と作る「2050年に向けた山陰エネルギーシナリオ」

活動地域  島根県、鳥取県

つづける助成  
**3年目**  
知識の提供・普及啓発

セミナー計7回の参加者数	<b>190人</b>
高校断熱改修プロジェクト参加者数	<b>90人</b>
今年度計画の達成度	<b>100%</b>
目標達成度	<b>100%</b>



島根県立高校で生徒自ら教室を断熱改修した

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

学校でのイベント開催は、新型コロナウイルスの影響だけでなく授業や学校のイベントの日程とも重ならないようにしなければならず、計画から実行まで準備期間が十分取れなかった。

### ■ 工夫した点

断熱すると快適に過ごせるようになるということがあまり知られていない。その効果が体感できる場所を身近な場所で作れば、関心を持つ人が増えるのではないかと考えた。

## 課題

山陰地域では、地域主体によるエネルギー事業の創出やエネルギーシフトへの機運が低調である。気候変動やエネルギー問題について自分ごととし、活動を始める人を増やしたい。

## 目標

自然エネルギーの利用など先進的に取り組む地域や人を増やすこと、そのための働きかけ活動をする人を増やすこと、地域の将来を考える若者がその活動を担うことを目指す。

## 活動内容と成果

今年度は、山陰のエネルギーの状況を可視化するとともに2050年に向けてビジョンを描く「山陰エネルギー白書」を完成させた。またワークショップやセミナーを主にオンラインで開催した。さらに、全国で5例目となる学校の断熱改修プロジェクトを実施した。これは学校の教室を生徒自ら断熱改修していくもので、生徒とともに地域の工務店など大人も一緒に汗を流して作業した。これにより断熱強化の重要性を地域の人たちに認識してもらうと同時に、今後の普及に向けて地域で検討していくことになった。



断熱改修ワークでの窓の温度計測の様子



地域の未来について話し合うワークショップ

## 全助成期間の活動を振り返って

小水力発電設置や断熱改修プロジェクトなど、地域や学校など実際に多くの人の「動き」を作り出すことができた。また一過性のイベントに参加するだけでは生まれない強いつながりを作ることができた。プロジェクト終了後も、地域の人たちが次の活動を作るために動き出している。まだ地域再生の良い循環が生まれているわけではないが、そのスタートを切ることができたと考えている。

島根県大田市  
E-mail: [office@empower-shimane.org](mailto:office@empower-shimane.org)  
HP: <https://www.empower-shimane.org/>



## 今後の展望

小水力発電プロジェクトでは、自分たちもやってみたくて次に続く地域が出てきた。さらに続く地域を増やすための働きかけを行う。また先行地域が次のステップとして新たなプロジェクトの検討を始めており、引き続きサポートしていく。次代を担う高校生に参加してもらうことができた。自ら計画し、実際に動くものであったので、自信につながったようである。地域作りについて若い人たちが学べるプログラムも検討していきたい。



# 「低炭素都市にいがた」を実現させるための プロフェッショナル人材、「環境エネルギー 教育コーディネーター」の創成

活動地域 新潟県



ユースマイプロジェクト (自然体験ツアー)

## 課題

地元新潟において、環境教育啓発活動の必要性を感じており、それを担う若い世代の人材育成が急務である。

## 目標

新潟の低炭素社会実現に向けて「環境エネルギー教育コーディネーター」を育成することを目的とする。

## 活動内容と成果

環境エネルギー教育コーディネーター育成プログラムの中でも柱となるインターン生によるマイプロジェクトでは、外部と積極的に交流をしながらイベントを開催することに成功した。また、オンラインセミナーでは県内外から多くのユースに参加してもらった。他にもエコイベントや出前授業などの多数イベントに参加、環境エネルギー教育コーディネーターの育成プログラムのカリキュラムも作成し、今後もインターンによる活動を積極的に行っていく予定である。



新潟市協働の「エネルギーカフェ」



## 今後の 展望

これまで構築した「環境エネルギー教育コーディネーター」育成プログラムは助成期間終了後も継続して活動を続けていく計画である。持続可能な教育プログラムとしていくための方法を模索し、より多くの人々を巻き込むように行政や企業との連携や当会会員との関係性を綿密にしていくこととする。

インターン育成 **4人**

オンラインセミナー参加者 **114人**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **70%**

つづける助成

**3年目**

知識の提供・普及啓発

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

チーム内でのコミュニケーションの難しさを実感した。学業や課外活動など学生生活もあるインターン生とスムーズな意思疎通を行うことが困難で連絡体制が確立できなかった。

### ■ 工夫した点

対面とオンラインの両方を用い、チーム内で何度も協議を重ねたり、外部コンサルのヒアリング調査を行ったりすることで直接対話することを大切にされた。



ユースマイプロジェクト (海岸清掃)

## 全助成期間の活動を振り返って

はじめの助成金、つづける助成金の計4年間を通して、「低炭素都市にいがた」を実現するための「環境エネルギー教育コーディネーター」育成の基盤を築くことができたと感じる。インターン生によるマイプロジェクトの実行、オンラインセミナー、出前授業、各種エコイベント等、様々な分野でユースが活躍する場を展開した。次世代の新しい社会をつくるユースらが新潟の地で個性と実力を発揮している姿を見ることができた。

〒951-8116  
新潟県新潟市中央区東中通2番町288番地2  
マンション101号室  
電話：025-385-6047  
E-mail：info@oratte.org  
HP：http://www.oratte.org/



# サバ州地球温暖化防止センター SDGs達成へ寄与！“気候変動×スクールマニフェスト”で未来を描くProject Phase II

活動地域  マレーシア

ひろげる助成

3年目

実践

サバ州認定地球温暖化防止講師 18人

気候変動プログラム授業受講者 335人

今年度計画の達成度 100%

目標達成度 100%



優良事例冊子とバーチャルギャラリー

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルスの影響によりサバ州への郵送物到着の遅延等が発生した。感染の拡大によるイベント開催の中止が相次ぎ、開催のスケジュール等にも影響が出た。

### ■ 工夫した点

オンライン会議と並行してマレーシアで汎用性の高いWhatsAppアプリを活用し、担当者レベルの細かな確認事項を共有した。

## 課題

資源産出国でエネルギーに係る意識が希薄であり、“地球温暖化防止の取組み”が全く見られず、マインドセットが不十分な状況であり、気候変動対策教育が喫緊の課題。

## 目標

スクールマニフェスト等によりサバ州と秋田の高校生の地球温暖化防止意識が醸成され、サバ州の学校ではパリ協定とSDGsが認知され、達成のための取組みが推進される。

## 活動内容と成果

- ①気候変動及びSDGs Goal-13達成へ向けた「SERASIコンテスト」開催。エントリー数182校（CEEAA賞：3校）▶優良事例集及びバーチャルギャラリー作成
- ②サバ州認定地球温暖化防止講師の人材育成。全州域18人認定/認定講師による授業参加生徒数335人。  
▶気候変動対策×スクールマニフェスト授業用サイドブック
- ③サバ州気候変動国際会議での報告▶参加者数557人。  
参加国：英国、米国、オーストラリア、タイ、インド、インドネシア、日本、マレーシア/YouTube視聴回数3,909回



SERASIコンテスト開催



サバ州認定講師養成研修会開催

## 全助成期間の活動を振り返って

SERASIコンテストでは、小学校の部、中学校の部に、気候変動とSDGsに関する特別賞を設定した。若年層の取組みの優良事例をまとめ、冊子とバーチャルギャラリーにて周知した。同州で初の開催となり、事務局も発表に参加した気候対策シンポジウム等、「地球温暖化対策」の重要性が州全体に周知された。構築した気候変動対策養成プログラムにより18人の認定講師が誕生するなど、広がりを見せている。

〒010-0912  
秋田県秋田市保戸野通町7-33 2F  
電話：018-874-8548  
E-mail：info\_ceeda@ceedakita.org  
HP：http://www.ceedakita.org/



## 今後の展望

18人の認定講師による気候変動対策プログラムの展開、優良事例として取り上げた児童生徒による地球温暖化への取組みなど、本事業がもたらした教育効果により事業が発展・継続されることが見込まれる。また、プログラム目標である気候変動を争点に考えられ、イノベーションの核となる人材が育成されることが期待できる。検証評価を経て、プログラムがより良いものに改変されるべく今後もサバ州環境局と連携していきたい。



## 福井とタンザニアの節電所・発電所 共同事業

活動地域  タンザニア、福井県



実証実験のドドマ市民ソーラーの設置工事

ひろげる助成

3年目

実践

節電所認定 **8か所**

新規年間節電量 **1,494 kWh**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **75%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

- タンザニアでの資材調達スムーズにできなかった
- 新型コロナウイルス禍でタンザニア渡航ができず、Zoomでのやり取りでは意思疎通がうまくいかなかったことがあった

#### ■ 工夫した点

- Zoom会議の頻度を上げて、計画・検討・結果点検を一つずつ行った
- オフセットの節電所や災害時のソーラー活用など日本の状況と合わせた内容をすすめた

### 課題

タンザニア市民共同発電所を作り非電化農村を再生可能エネルギーで賄う。福井では発電量をオフセットする節電所を設置する。共同運営体制で持続可能な社会づくりをめざす。

### 目標

- ①市民共同発電所システム作りと現地NPOとの共同運営体制作り
- ②発電所3か所、4,300kWh/年(3年間)
- ③オフセットの節電量6,000kWh/年(3年間)

### 活動内容と成果

タンザニアの非電化農村に市民共同発電所を設置することをめざし、ドドマ市民ソーラーを設置して、住宅の電気を賄う実証実験をすすめた。3年間で発電所1か所設置、830kWh/年の発電。

ドドマと福井でZoomによる交流会を開催し、ソーラーや文化の交流をすすめた。

タンザニアの消費電力増加をオフセットする節電所認定制度を作り、福井で節電設備の導入をすすめる活動を行った。節電量は3年間で76,757kWh/年に到達。

新型コロナウイルス禍ではあったが、市民ソーラー1号機の事業計画をタンザニアNPOと共同作成できた。



イベント出展の活動紹介

### 全助成期間の活動を振り返って

コロナで渡航できなかったことが最大の障害になり、お互いの国の状況の違いによる意思疎通の不十分さがあったが、実証実験のソーラーや節電所認定制度、文化と人の交流など実践できたことが多くあり、今後の非電化農村でのソーラー普及や日本の災害時のソーラー利用等活動の方向性を出すことはできた。



ソーラー設置後のドドマ市民ソーラー交流会

〒910-0004  
福井県福井市宝永4-13-4  
電話：0776-30-0092  
E-mail：npo@ecoplanf.com  
HP：http://ecoplanf.com/



今後の  
展望

非電化農村の市民ソーラー1号機の事業計画をもとに設置を行い、タンザニアでのソーラーの普及促進を図っていく。その際、ソーラーのメンテナンスの技術交流を行って、効率の良いソーラーとバッテリーの使い方をタンザニアと日本双方で啓発していく。

## (認特) おかやまエネルギーの未来を考える会

# 岡山版・自然エネルギー 100% プラットフォーム形成事業

活動地域 岡山県



真夏の熱波の中で小学校の断熱改修の様子

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

ユースチーム  
意見交流会参加者 **41人**

学校断熱改修  
ワークショップ参加者 **45人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

学生は学年によって部活、塾、受験、就活などがあり、時間の調整が難しい上、新型コロナウイルス禍で対面で意見交換する機会が少なく仲間意識が醸成できなかった面がある。

#### ■ 工夫した点

若者が気候変動対策を身近なところから進めるために再エネ導入や断熱改修などによる学校の「ゼロカーボン化」をしたいと岡山市長・教育長に直接、提案書を手渡し、訴えた。

### 課題

再エネ100%社会への理解や関心の希薄。再エネのデメリットを強調したり、取組み方が分からないという声が多い。県外に流出する燃料費を地域内で循環することも必要。

### 目標

県民、自治体、学校等が再エネ導入への意欲を高める。再エネ等の課題解決にステークホルダーの連携した取組みが増加。ユースチームが自分ごととして活動。

### 活動内容と成果

- エネルギーの効率化のため小学校の1教室で断熱改修ワークショップを実施。自治体や学校関係者、一般の人も参加、断熱の重要性を認識できた
- 自治体の中間支援セミナーを2回実施。研修を受けるだけでなく、それぞれの課題や状況など忌憚らない意見が出し合えた
- 再エネ100%の暮らし方を広めるためのリーフレットを作成、広く配布
- ユースチームが岡山市長・教育長に「学校のゼロカーボン化」の提案書を手渡し
- ユースチームが意見交流会を主催し、「学校のゼロカーボン化」をテーマに学校でできることを出し合った



若者の思いを直接、岡山市長・教育長に訴え

### 全助成期間の活動を振り返って

3年前には気候変動対策や再エネの重要性に対する社会の認識はまだ低く感じられ、行政の施策強化や人々の行動変容に繋がればと、様々な活動を行ってきた。2020年に国が2050年のゼロカーボンを発表して以降は県内でゼロカーボンを発表する自治体が過半数を超え重点対策と位置づける自治体が増えてきた。しかし再エネ導入に批判的な声はまだ根強い。社会が納得する形での再エネ普及が必要であることを感じている。



ユースチーム主催の意見交流会での集合写真

〒700-0807  
岡山県岡山市北区南方1-6-7  
電話：086-232-0363  
E-mail：enemira@okayama.email.ne.jp  
HP：https://blog.canpan.info/okayama-enemira/



今後の  
展望

4月4日、IPCCが2025年までに温室効果ガス排出量のピークを迎える必要があるとする報告書を公表。時間との闘いはますますタイトになり、一層の取組みが求められている。行政へ気候変動対策の重点化も求めつつ、作成したリーフレットを使って再エネ100%を目指す方法はいろいろあることや行動変容を起こすことの重要性をできるだけ多くの人に伝えていきたいと考えている。



## 若者による気候変動の解決を導くビジョン作成を通じた活動の拡大と提言の影響力強化

活動地域  日本全域

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

意見交換会の回数 **10回**

COPへのメンバー派遣 **4人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **90%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

組織の大型化に伴い、メンバーのモチベーションに差が生まれたため、全体としての活動方針の決定に苦労した。

#### ■ 工夫した点

メンバーを興味関心ごとにグループングし、勉強会や意見交換の機会を設けることで、個人単位での需要を満たすとともに、メンバーの有機的な繋がりも維持できるようにした。



COP26参加者の集合写真

### 課題

気候変動問題が現実的な問題として認識されていない、あるいは特に地方において情報摂取機会が限定されている。また青年の意見が政策に反映されにくい。

### 目標

日本青年の意識が向上し、気候変動問題解決を目指して多くの青年が行動する、また気候変動対策に対して青年の意見・ビジョンが反映される。

### 活動内容と成果

ライフスタイルに関連して、二つのプロジェクトを始動した。コンポスト、菜食について、メンバー自身の体験とそれに基づく対外発信を行うことで、若者のライフスタイル転換のきっかけ作りを図った。また、対外的な提言活動では、自民党やNIKKEI脱炭素シンポジウム、農林水産省官民円卓会議など様々な場で多くの団体メンバーが発信し、政策や企業活動への働きかけを企図した。さらに、国際会議であるCOPに4人のメンバーが参加し、現地で日本の脱炭素の取組みなどを紹介するとともに、帰国後は報告会をオンラインで開催した。



プラントベースプロジェクトの活動

### 全助成期間の活動を振り返って

3年間の活動を通じて、団体として大きく飛躍できたと考えている。こう考える背景には2点ある。1点目に、政策提言などの機会の大幅増加である。特に首相や環境大臣、農水省、企業連合体に対してなど、大きな場での発言機会も得ることができた。2点目に組織の大型化である。3年間で団体メンバーを3倍以上に増やすことに成功し、組織としての多様性を広げることができた。



原子力発電視察

〒248-0024  
 神奈川県鎌倉市稲村ガ崎4-10-11  
 電話：090-4418-0900  
 E-mail：climateyouthjapan@gmail.com  
 HP：https://climateyouthjapan1.wixsite.com/mysite



### 今後の展望

今後は、団体としてこれまでに蓄積した経験や知識をいかし、積極的に対外活動を増やしていきたい。具体的には、地方自治体や企業、中央省庁などあらゆるステークホルダーと協働しながら活動の輪を広げるとともに、持続的な気候変動解決という組織としての最終目標に向けて着実に歩を進めたい。

# 地域住民等主導の「気候変動適応の共創プログラム」の開発試行と、実践普及のための体制構築

活動地域  日本全国

ひろげる助成

3年目

調査研究

プログラム試行 **4**地域

報告会開催 **1**回

今年度計画の達成度 **80**%

目標達成度 **90**%

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大により、計画通りフィールドワークや撮影、会議メンバーを集めることに苦労した。

### ■工夫した点

2年目以降、オンライン教材の制作に活動をシフトしコンテンツを充実させてきた。



試行プログラムの様子（愛知県豊田市）

### 課題

地域住民等の参加と学習による適応策の具体的な取組みは、まだ不十分である。また、法的制度に加えて、それを補完する地域主体のネットワークの立ち上がりや取組みが必要。

### 目標

地域住民等主導の気候変動適応の共創プログラムが各地で用いられている。

### 活動内容と成果

山形県、愛知県豊田市、高知県高知市、神奈川県川崎市の4か所でプログラムの試行を行い、併せて映像教材制作を行った。プログラムの実施は現地パートナー団体との共催としたことで地域側の主体性と取組みの発展的継続につなげるために良い効果を発揮した。各地域のキーパーソン同士がつながるための成果報告・共有の場をもち、SNSで情報交換できる仕組みを構築することで、今後の各地域での展開や試行錯誤経験の共有、プログラムのブラッシュアップの仕組みを残すことができた。



作成した映像教材

## 全助成期間の活動を振り返って

気候変動適応に関する制度化が進んでいる中、気候変動適応の自分ごと化についてプログラムの試行を通じて実証的にその効果と課題を提示した意義は大きなものがあったと考える。適応共創プログラムを持続可能な地域づくりのプロセスから切り出して実施するのか、当該プロセスの各過程に埋め込んでいくのか、その際のコーディネーター人材をどう捉え確保していくのか、など次の課題も明らかにされ今後も活動の継続が期待される。



オンラインを併用した活動報告会の様子（京都市内）

〒604-0934  
 京都府京都市中京区菰屋町通二条下る尾張町225  
 第二ふや町ビル206号  
 電話：075-211-3521  
 E-mail：office@eco-capital.net  
 HP：https://www.eco-capital.net/



### 今後の展望

新型コロナウイルス感染拡大が収束しない場合でも、気候変動への適応は待たなしで求められる。制作したオンライン教材を活用し、オンラインワークショップを企画、地域のパートナー団体との共同運営することの可能性を検証し、モデルを提示することが求められる。また地域住民が主導した適応策の実装のためには当該地域で活動をコーディネートする人材や団体が不可欠であるため、それらの育成やネットワーク化を図る必要がある。



(認特) 地球環境市民会議 (CASA)

2050年温室効果ガス実質ゼロの実行可能性と政策措置、自治体、中小企業・市民との協働活動の構築

活動地域 大阪府、東京都、イギリス

協働した自治体数	2件
脱炭素社会のシンポジウム参加者数	100人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	70%

ひろげる助成  
3年目  
調査研究

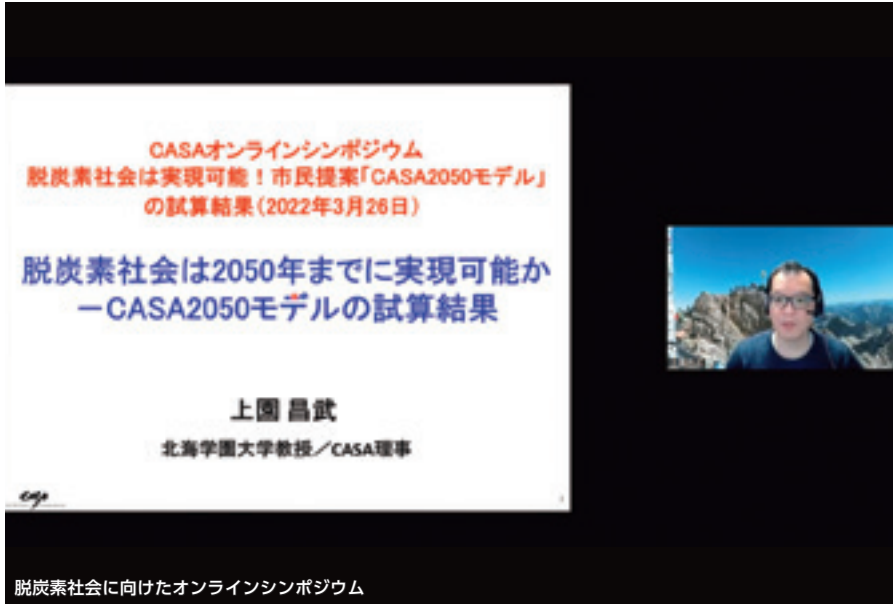
苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍の制約により、自治体や企業など対話する機会が少なくなり、協働する仲間を増やすことが困難であった。また、シンポジウムもオンラインでの開催となった。

■工夫した点

脱炭素社会に向けたシンポジウムでは、カーボンバジェットが逼迫している環境危機を伝え、全国や地域での脱炭素の取組み内容と実現可能性をわかりやすく伝えた。



脱炭素社会に向けたオンラインシンポジウム

課題

2050年温室効果ガス排出実質ゼロ(脱炭素社会の構築)の実現のためには、2030年のより高い削減の検討が喫緊の課題である。

目標

2050年に温室効果ガスの排出実質ゼロが可能であることを示し、脱炭素社会の実現に向けて自治体や中小企業などとの協働、市民への啓発活動を推進していくこと。

活動内容と成果

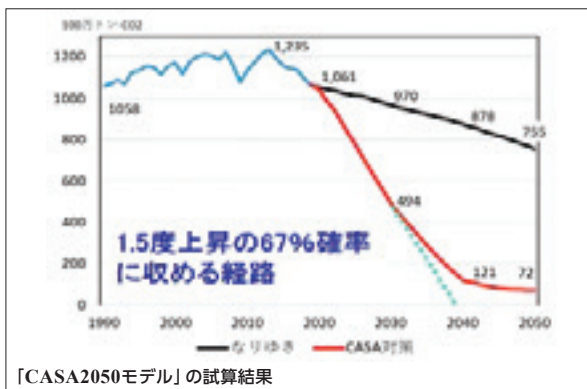
本活動では、国内外の気候変動対策の情報を収集・分析し、脱炭素社会の実現可能性をシミュレーションする「CASA2050モデル」を開発して市民提案の作成に取り組んだ。自治体や地域住民などと脱炭素社会の必要性についての認識を共有し、地域における脱炭素社会に向けた具体的な提言づくりの協働を進めた。そして、脱炭素社会を実現していくための意見交換を市民対話形式でシンポジウムを開催した(横浜、小田原)。これらの活動によって、市民の関心を集め、地域の脱炭素社会への移行を促すことが期待される。



COP26会場にて

全助成期間の活動を振り返って

本活動の目的は、パリ協定の目的に沿ったエネルギー政策の見直しや地域脱炭素発展計画の検討に資するよう、市民の立場から提言を發し、市民対話を進めることであった。この3年間の成果として、地域でのカーボンバジェットを含む脱炭素発展戦略の提言をとりまとめ、その内容をシンポジウムで発表し、市民や行政、企業とも意見交換して啓発活動に取り組んだ。また、提言の内容はCOP会場などで国際社会へ情報を発信できた。



〒540-0026  
大阪府大阪市中央区内本町2丁目1番19号  
内本町松屋ビル10-470号室  
電話：06-6910-6301  
E-mail：office@casa1988.or.jp  
HP：https://www.casa1988.or.jp/



今後の展望

脱炭素社会をどのように地域レベルで実現していくのが重要な社会課題となっている。「CASA2050モデル」の研究成果を活用して脱炭素社会の実現可能性を示し、それをもとにして自治体や企業・産業界を対象に意見交換を進め、産官民の協働に取り組んでいく。また、市民の意識啓発を高めていくために、脱炭素社会の具体像をわかりやすく解説した環境教育の教材を開発し、市民対話の活動を引き続き取り組んでいく。

## 地域で持続可能なエネルギーを学び実践する「やまがた自然エネルギー学校」

活動地域 山形県



地域新電力の取組みを学び考えるセミナー

イベント開催数	6回
イベント参加者数	205人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	100%

つづける助成  
**4年目**  
知識の提供・普及啓発

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

近年の新型コロナウイルスの影響から、対面での取組みが制限されたため、活動の実施計画、体制・スケジュール、対応人材の調整など見直して実施した。

#### ■工夫した点

現在の社会的な動向や地域の情勢を踏まえ、一般の方にわかりやすく、参加しやすいプログラムやオンライン普及啓発ツールを作成し普及啓発活動を行った。

### 課題

豊かな自然資源に恵まれる山形県で、住民・事業者・行政が主体的に関わり、地域特性に適した再生可能エネルギーの利活用を推進するため学ぶ機会の創出が必要である。

### 目標

山形県内の各地域や住民による再生可能エネルギーに関する学びや実践導入を促進し、地域資源を活用することによる地域循環共生圏の形成に寄与していく。

### 活動内容と成果

- 山形の地域・住民参加型の再生可能エネルギーセミナーイベントの開催
  - ①地域や住民参加型のテーマで「やまがた自然エネルギー学校2021」をオンラインと対面で実施。6回開催して延べ計205人が参加
- 地域の再生可能エネルギーに関する普及啓発ツールの開発
  - ①山形県内の「自然エネルギーを選んでCO<sub>2</sub>を減らすための電力会社切り替えのすすめ」のWEB情報サイトを作成
  - ②山形で再エネに取り組む「やまがたの自然からエネルギーを作るやまがたの人」オンラインツール作成・発信



地域の再エネに取り組むオンライン紹介ツール

### 全助成期間の活動を振り返って

当団体の活動において、いまの社会の情勢や地域などの現場で求められる情報など、ニーズを踏まえてサービスを提供する意識が醸成できた。地域や多様な人材と協力・連携を図り一緒に作り上げていく体制づくりを行い、一般の方が目に通しやすく、わかりやすい資料作成を作成したり、助成活動を通して実行力を培うことができた。



山形で地域の再エネに取り組む紹介

〒999-3776  
山形県東根市大字羽入2115-4  
電話：050-3479-2014  
E-mail：info@yamaene.com  
HP：http://yamaene.net/



### 今後の展望

山形県に住む県民やNPO、民間企業と連携して、山形県内の地域が主体となる再生可能エネルギーの取組みを支援するとともに、カーボンニュートラル、地球温暖化防止活動の推進につなげていく。



# 楽しく快適にSDGsコミュニティ創造事業

活動地域  北海道



まなびまくり社実行委員会として始動

ひろげる助成

4年目

実践

プロジェクト立案数 **10**件

配送システム  
モニター数 **23**件

今年度計画の達成度 **50**%

目標達成度 **80**%

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍で外出に不安を感じ食事等の配達希望者が増えた一方で、導入がハードルとなる声も聴かれIT格差も含めた地域ニーズにどう対応するか課題となった。

### ■ 工夫した点

配送システムを店舗側と配達側間のやり取りに簡易化することで、注文者はこれまで通り注文できるよう、段階的に導入が進むよう、地域にあった形にシステムを工夫した。

## 課題

SDGsコミュニティ創造には、地域住民の機運、合意の醸成、共有、発信することが不可欠であるが、それらを支援し持続性させるための事業主体が必要である。

## 目標

- まなびまくり社活動の継続と自立の仕組みを考える
- 宅配システムの地域性特性を検証、実験をする
- 地域循環型のプラットフォーム設立に向けた協議会を開催

## 活動内容と成果

- 「まなびまくり社」は活動を継続明確化するため実行委員会として体制を整えた。参加高校生25人 4回開催
- 宅配システム検証実験は4日間23件の配達を行った。超小型EV車両を使用。システムを地域にあった形に変え、導入のハードルを下げた。狭いエリアで顧客も固定されているため、本システムで十分な活用ができることがわかった
- 事業主体となるプラットフォームの設立は戦略会議からSDGs推進戦略会議へ名称を変更し4回開催。行政を巻き込んだ形で今後のプラットフォームづくりに向けた事業構想案が作られた



シンプルな配送を超小型EVで

## 全助成期間の活動を振り返って

最終年度の出口に向け、それぞれの活動を明確にし体制を整えた。これまでの活動を次世代にどのように引き継いでいくか、活動の自立が重要であった。延長したことで活動が縮小、中止したものがあつたが、体制を整えるための十分な時間があったと思われる。一方で多様なセクターが関わることで地域や目的のズレが生じることもあり、マネジメントの難しさも感じた。



プロジェクト案が地域の協力で実現に

〒060-0031  
北海道札幌市中央区北1条東7丁目10-58  
電話：080-4075-7806  
E-mail：info@ecomobility-sapporo.jp  
HP：https://ecomobility-sapporo.jp



今後の展望

若い世代にとってSDGsの実践がかなう場所となるような体制づくり。多様な主体がまちづくりに参画できるプラットフォームづくりを行い、環境エネルギー分野にとどまらず、南区のまちづくりに関する様々な施策や事業の検討、実践を役割とする。運営を多様な主体と連携、強化し人材育成・エリアマネジメントを担う組織としてのプレゼンスを高めていくことが、本事業の成果を持続させる重要なステップと考える。

## (特非) 地域再生機構

# 地域に根差した実践型自然エネルギー学校 (小水力発電) 運営支援

活動地域 

ひろげる助成

4年目

実践

自然エネルギー学校の  
成果の確認 **7地域**

6年間の成果を  
活用する報告書作成 **500冊**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **90%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、講座の開催や対面でのヒアリングが困難であった。

#### ■ 工夫した点

地域の事情を最優先に、可能な限りオンラインでの打ち合わせや講座の開催に努めた。



活動の成果や地域の変化のヒアリング

### 課題

豊富な資源がある中山間地において、地域資源の活用である小水力発電の開発には実践経験を踏まえた人材の育成が課題である。

### 目標

実践型自然エネルギー学校(小水力発電)の普及モデルの活用により、多くの地域で小水力発電導入の実践経験のある人材が育ち、小水力発電に取り組む主体地域が増加する。

### 活動内容と成果

実践型自然エネルギー学校が開催され地域の担い手が育成されるために以下の活動を行った。

- 自然エネルギー学校開催地において、開催後の成果や地域の変化等を把握するためのヒアリングの実施(7地域)
  - 6年間の成果を活用できるための報告書(資料)作成会議の開催(2回)
  - 報告書の作成(500冊)と報告会の開催(1回)
- 担い手の育成の体制が6地域で構築され小水力発電事業の事業化の取組が4地域で始まった。



活動の成果をいかす

### 全助成期間の活動を振り返って

活動のポリシーとして「地域の事情を優先し、地域に寄り添い地域の皆さんが主体かつ自立的に進める」ことを大切にしてきた。その結果、多くの地域の皆さんや行政機関等との信頼関係が構築できたのではと考えている。  
この活動を通して、「実践型自然エネルギー学校(小水力発電)」の手法が、小水力発電の普及拡大に繋がるためには、プログラムの構築やその運営などを地域の実情に合わせ柔軟に対応することが大切だと学んだ。



成果をまとめた冊子

〒509-7123  
岐阜県恵那市三郷町野井133-32  
E-mail: info@chiikisaisei.org  
HP: http://chiikisaisei.org



### 今後の展望

活動の目標は、全国の多くの地域で小水力発電導入の実践経験のある人材が育ち、小水力発電に取り組む主体地域が増加することである。これは、地域の担い手となることはもちろんではあるが、それを開催する地域の団体や人材が地域でのコーディネーターとなり、その牽引役となっていたくことにも大きな意義がある。地域再生機構として、それらを加速させる役割を担っているものと考え、地域の団体、行政機関と連携していきたい。

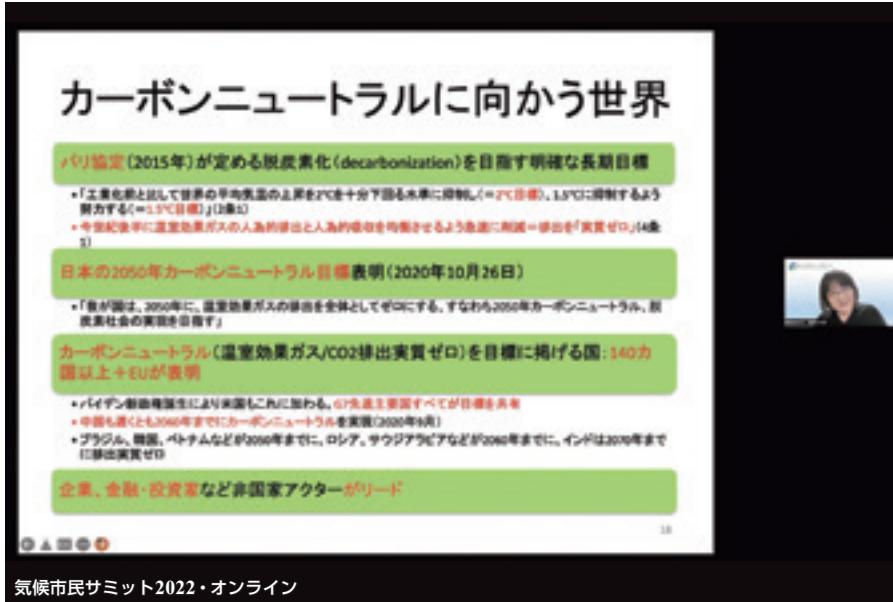


# パリ協定実施のための脱炭素ビジョンの作成と普及

活動地域 日本全国

ひろげる助成  
**4年目**  
知識の提供・普及啓発

セミナー・シンポジウム参加者数	<b>200人</b>
セミナー・シンポジウム満足度	<b>4.2</b> ポイント
今年度計画の達成度	<b>95%</b>
目標達成度	<b>75%</b>



## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

会場でのセミナー・シンポジウムの実施、対面での意見交換・会議・交流会などが実施できず、活動全体に制約があった。スケジュールどおりの実施も難しかった。

### ■ 工夫した点

オンライン環境の整備と、対応可能な人材のスキルアップに取り組んだ。オンラインのメリットをいかすための広報や情報提供の方法について検討し、実践した。

## 課題

パリ協定の目標を達成するためには、各国の目標引き上げ、対策強化が不可欠である。日本の対策強化に向けた脱炭素シナリオとその可能性が理解されていない状況がある。

## 目標

科学的根拠に基づく脱炭素シナリオ・ビジョンの作成を行い、その理解を広め、対策導入や対策実施につなげていくための調査研究、情報提供、人材育成を行う。

## 活動内容と成果

オンライン形式で、脱炭素シナリオ・ビジョンに関連するセミナー・シンポジウムを開催した。全国から多様な背景や年代の参加者があり、アンケートも高評価であった。様々な機会に情報発信を行った結果、脱炭素シナリオや気候変動対策に関連する多数の報道につながった。2050年排出実質ゼロ表明、2030年目標の引き上げの後、排出ゼロを宣言する自治体や再生可能エネルギー100%を宣言する企業が増加し、情報提供などの連携を深めた。自治体では脱炭素達成に向けた計画策定が増加し、意見交換やアドバイス等の活動を行った。



## 全助成期間の活動を振り返って

脱炭素に向けた国際的な進展、国内での目標引き上げもあり、活動を加速させる必要があった中で、期間の延長もあり、当初の想定以上の活動を実施することができた。しかし、新型コロナウイルス禍の影響により、多くの活動のスケジュールを変更して実施した。社会・経済の大きな転換が必要なことから、極めて難しい課題であるが、その解決に僅かながらも貢献することができた。



〒604-8124  
京都府京都市中京区帯屋町574 高倉ビル305号  
電話：075-254-1011  
E-mail: kyoto@kiconet.org  
HP: <https://www.kiconet.org/>



## 今後の展望

工業化前と比べて気温上昇を1.5℃に抑えるという目標と世界の脱炭素化が明確になっている。国内も2050年排出実質ゼロ宣言や2030年削減目標の引き上げから、自治体や企業も脱炭素への方向性が明確になっている。この状況の中、より具体的な政策導入、実践活動、担い手づくりが求められている。これまでの成果をいかし、一層効果的な活動を推進していき、持続可能な脱炭素社会の構築に貢献していきたい。





# 循環型 社会形成



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

(一社) 暮らしのデザイン室

# 社会貢献型ショッピングが体験できるチャリティショップの普及によりチャリティ文化の機運を高めながらゴミ削減に貢献する活動

活動地域 日本全国



店内で仕分け・値付けをするボランティア

### 課題

①衣料品の廃棄量が多い②チャリティショップに集まるものは多様なため店内のレイアウトが雑然としやすい③日本にチャリティ文化が根付いていない

### 目標

オシャレで楽しくできる社会貢献ムーブメントをつくるとともに、チャリティショップを通じてゴミ削減に貢献する。



今後の展望

実店舗のレイアウト調査・分析をし、店舗をリデザインしたいと考えている。また、コンパクトなチャリティショップをひらくためのノウハウをまとめた手引きを活用し、実践したい企業や団体の支援をしていきたい。

### 活動内容と成果

地域の方々から寄付いただいた物品を販売し、その利益を地域課題の解決に使うことを目指したチャリティショップの普及に取り組んだ。今年度は、46人のボランティアや協力企業、デザイナーと協働し、ポップアップストアを30日間開催した。その結果、年間の不用品の回収量は305kg(約1,000点)、リユース品・アップサイクル品のアイテム販売数は約620点(前年比 288%)となった。また、デザイナーの協力のもとアップサイクル商品を開発・販売するとともに、アップサイクルワークショップを開催した。



アップサイクルワークショップの様子

はじめる助成

1年目

実践

ポップアップストア開催日数 **30日**

回収ボックスの設置か所 **6か所**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **80%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍において人と人との交流が困難となり、積極的なボランティア募集や広報がしづらく、活動の制限や中止を余儀なくされた。

#### ■工夫した点

事前打合せやボランティア研修はすべてオンラインで進めたほか、健康管理表や対応マニュアルを作成。会場動線は一方通行とした。

〒102-0074  
東京都千代田区九段南三丁目7番10-903  
E-mail : loiduts-project@studio-l.org  
HP : http://loiduts.studio-l.org/



## せとうちんちゅネットワーク

# 廃校を拠点に地球環境を基盤とした地域循環共生圏の創造と奄美大島の自然と伝統文化を活かした体験型SDGs学習の場の構築

活動地域 鹿児島県奄美大島



「循環型有機農業での合鴨農法」のワークショップ

### 課題

自然と人が共生する持続可能な社会の在り方について、奄美の豊かな自然と文化の中で考え、体感しながら、廃校を活用することで過疎地域の活性化に貢献する。

### 目標

廃校を維持管理しながら、廃棄食材を活用した循環型農業の仕組みを確立し、奄美の自然と伝統文化の中で持続可能な社会について考える体験型SDGs学習の場を構築する。



今後の展望

廃校を拠点にしたSDGsカフェスペースを活用し、定期的な情報発信をしたり、地域住民だけでなく観光客なども参加できるように体験型SDGsプログラムを開発し、多くの方に啓蒙活動ができる仕組みを構築したい。

### 活動内容と成果

- 廃校の校庭を活用し、鶏を利用した循環型有機農業を実施
- 調理時に廃棄される食材(食品ロス)の回収量は年間約6トン。そのすべてを鶏の餌や肥料として活用
- 廃校を活用して体験型SDGs学習に関するワークショップや講演会等を21回開催、延べ参加者数は334人。田んぼでの合鴨農法、奄美の生態系バランスを学ぶフィールドワーク、奄美の木材を利用した伝統漁法イカエギ作りなどを体験した
- ワークショップ等には未就学児や小中学生の親子、大学生、高齢者などが参加し、過疎地の廃校が多世代間の交流の場となった



「環境教育と地域づくり」講演会

つづける助成

1年目

実践

ワークショップ等開催 **21回**

ワークショップ等参加者 **334人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **40%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍でSDGsに関心の高い大学生ボランティアを島外から受け入れる際、その判断のタイミングや感染対策に苦労をした。

#### ■工夫した点

新型コロナウイルス禍でイベント開催ごとに不特定多数向けの募集でなく、登録制にして感染状況を常に把握した登録者の中から参加者を募集した。

〒894-1514  
鹿児島県大島郡瀬戸内町節子1310  
電話 : 0997-78-0400  
E-mail : setouchinchu@gmail.com  
HP : https://setouchinchu.wixsite.com/website





(特非) ハロハロ

# フィリピン・セブの漁村における コンポストを活用した緑化促進事業

活動地域  フィリピン



広がる地域清掃の輪

### 課題

インフラの未整備により、河川、海、陸地が生活廃棄物で汚れ、周辺住民の衛生的で安全な生活環境が損なわれていること。

### 目標

ごみの総量を10%削減する。



### 今後の展望

2022年はコンポストから堆肥をつくり園芸に活用するまでの仕組みづくりが目標。トイレの重要性も啓発しており、共同トイレの設置と運用に挑戦予定。衛生的で安全な生活環境に向かっていく。

### 活動内容と成果

1年目にしてごみの総量の20%削減！ごみの活用に挑戦中。

- 清掃活動は年間29回実施し、延べ659人が参加
- 3人の専門家から、園芸・コンポスト・植樹に関し、年17回の研修を受けた。3月からはじめのコンポストに挑戦中
- 地域の各世帯で全270本の花・緑を育てた
- 地域の日用品店25店舗と、「ノープラスチックデー」を設定し、週3回エコパックの利用を推奨中



はじめてのコンポスト

ひろげる助成

1年目

実践

1世帯あたりの1日の  
ごみ総量削減 **20%**

地域清掃活動への  
年間参加人数 **659人**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **50%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

大型台風による被災で事業中止リスクもあったが、防災面からも当事業が重要という意識が住民に広がり発展的に取り組めた。

#### ■工夫した点

洪水や台風のリスクに備え、各世帯に鉢植えでの緑化を推進、コンポストやコミュニティガーデンも高台に設置している。

〒108-0014  
東京都港区芝4-7-1 西山ビル4F  
電話：050-5539-5524  
E-mail：mail@npohalohalo.org  
HP：https://www.npohalohalo.org/



## 大阪ごみ減量推進会議

# 2025年大阪万博でゼロ・ウェイトを 実現するための調査研究と担い手養成

活動地域  関西



ごみ減量連続セミナー第1回の様子

### 課題

2025年に大阪・関西万博が開催されるが、新型コロナウイルス禍もあって市民の関心は低い。また、SDGsの達成やプラごみゼロ宣言の具体化に向けた万博での取り組みが見えていない。

### 目標

大阪・関西万博でのゼロ・ウェイト(焼却・埋立ごみゼロ)が実現するとともに、それをきっかけにゼロ・ウェイトを基調とするライフスタイルが市民に浸透すること。



### 今後の展望

今年度も引き続き万博でのゼロ・ウェイトに向けた調査研究や担い手養成のための連続セミナーを実施。また、実現に向けてより具体的な提案・提言をまとめ、博覧会協会や大阪パビリオンの運営主体に投げかけていく。

### 活動内容と成果

- リユース食器や給水スポットの導入に向け六つの関連企業・団体にヒアリングした。またミラノ万博・ドバイ万博の廃棄物対策について英文資料を翻訳した
- 「万博×環境 夢を描こうプロジェクト」との合同ワークショップを2回開催。また市民アンケートを実施した
- ごみゼロの担い手養成のため、全5回のごみ減量連続セミナー(全体テーマは「ごみ問題最前線」)をオンライン配信併用で開催した
- 博覧会協会及び大阪府・市と市民・NPO・事業者との協議を計6回実施した



高校生・大学生とのワークショップ

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

連続セミナー参加者 **338人**

企業等ヒアリング **6回**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **30%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

今回のセミナーでは新型コロナウイルス対策として初めてZoomによるオンライン配信に挑戦したが、はじめは不具合やミスが多かった。

#### ■工夫した点

万博でのゼロ・ウェイトについてできるだけ多様な可能性を探るべく、多彩な企業・団体にアプローチした。

〒542-0066  
大阪府大阪市中央区瓦屋町1-4-2  
コシカイカン2階  
電話：06-6765-1112  
E-mail：info@osaka-gomigen.net  
HP：http://osaka-gomigen.net/



## チャリティショップの普及に向けた 情報発信・参加者育成・相互支援事業

活動地域 日本全域



人、モノ、想いをつなぐ  
チャリティショップ



チャリティショップPR動画のタイトル画面

### 課題

チャリティショップは不用品の再利用、非営利活動への寄付等を促進しているが、店数が少ない、新規設立のハードルが高い、参加者の世代的偏りなどの課題がある。

### 目標

情報発信（知らせる）、参加を拡げる体制作り（つなげる）、サポート体制の強化（ひろげる）の三つを軸に活動を展開し、チャリティショップの普及と発展を目指す。



### 今後の展望

CS設立に関する問合せが増えているため、設立から運営が軌道に乗るまでをサポートしていきたい。2022年度は、講演会の開催、CSの機能を伝える動画の制作、CS設立ガイドブックの制作等を予定している。

### 活動内容と成果

- チャリティショップ（CS）講演会を2回開催し、22人が参加した
- 行政、企業等の13人と面談し、「CS白書」を用いてCSの価値を伝えた
- インターンシップを受け入れたCS2団体と、CSでのインターンシップを行った2校の関係者にヒアリングした
- CSの動画を1本制作し、ネット上で公開した
- 開設検討中や開設間もない5団体にヒアリングし、10人/団体に対しサポート活動を行った
- CS設立・運営の手引書について調査を行い、目次案を作成した
- 「CS白書」を活用した勉強会を2回開催し、61人が参加した



オンラインで行った運営委員会

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

動画視聴数 **412回**

設立・運営サポート対象者数 **10人/団体**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **40%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍で面談活動などを行うことが難しくなった。また、動画撮影の際も、対策に気を使った。

#### ■工夫した点

新型コロナウイルス禍でも多くの人々にチャリティショップについてPRできるように、比較的短めの動画を制作した。



〒461-0002  
愛知県名古屋市中区代官町39-18  
日本陶磁器センタービル5階  
E-mail : jimuj@charityshop.jp  
HP : http://charityshop.jp/

## (特非) いすみライフスタイル研究所

## 夷隅川流域を柱にした生きものの力を借りた地域循環共生圏づくり準備活動 ～生物多様性の主流化とESD推進環境の充実をコンセプトに～

活動地域 千葉県



有機無農薬畑での食育イベントの様相

### 課題

夷隅川流域の環境保全とSDGsの推進のため、市民の意識変容やライフスタイルの変化を促すより身近な材料としてオーガニック・ブームを地域に定着させたい。

### 目標

地域内での地域循環共生圏ステークホルダーの協働活動と環境ビジネスを後押しする推進体制、「小・中学校合同部活動」などのESD実施推進体制の基礎ができる。



### 今後の展望

2年目は房総半島地域に広げる予定だが、それだけでなく今年度の活動をさらに深く掘ることも検討したい。モノを回すだけでなく、ヒトや情報を回すことも考え、地域の実情にあった地域循環共生圏づくりを検討したい。

### 活動内容と成果

- 活動1：①食育イベントを6回開催 ②夷隅川リパークリパーク6回開催ゴミ回収：174kg
- 活動2：①シリアスゲーム企画書作成 ②「小・中学校合同部活動」などのための教育関係者情報交換会1回開催
- 活動3：地域循環共生圏連絡準備会を7回開催、ステークホルダー・リストと地域循環共生圏マンガラを作成
- 活動4：いすみオーガニックをテーマにしたニュースレターを作成、地域イベントへの出展1回とオーガニック専門店でのパネル展示常設、「エコメッセちば」へのオンライン出展。「地域循環共生圏づくりに一歩進んだば」へのオンライン出展。地域循環共生圏づくりに一歩進んだ



夷隅川リパークリパーク活動の様相

特別助成

1年目

知識の提供・普及啓発

夷隅川リパークリパーク  
活動ゴミ回収 **174kg**

地域資源タネシート・  
マンガラ作成 **各1枚**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **50%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

人を集める活動（イベントや意見交換会など）が、新型コロナウイルス禍や天候不順、相手の都合などで予定よりも捗らなかった点。

#### ■工夫した点

事前のリサーチや調整を丁寧に行うことで、できるだけ円滑・効率的に行うよう心掛けた。



〒299-4616  
千葉県いすみ市岬町長者475  
電話：0470-62-6730  
E-mail : isumi-style@bz03.plala.or.jp  
HP : http://www.isumi-style.com/



(特非) 循環生活研究所

「ローカルフードサイクリング美和台」で  
目指す持続可能な共助社会

活動地域  福岡県福岡市



堆肥を使った菜園講座の講師と参加住民

課題

対象地区は高齢化が進みコミュニケーションが希薄化。コンポスト継続も困難な方が増え、これまで循環していた住民の生ごみがふたたび廃棄物となり焼却場へ行っている。

目標

食の資源循環(コミュニティコンポストを軸とした栄養循環のしくみ:LFC)が地域で定着し、地域住民の共助のしくみで実行される。



今後の展望

コンポストのニーズは高まり普及も進んでいるが、より加速させるには気軽に参加できコミュニティで継続を支える仕組みが必要だ。事業が自立して持続可能に実施できるよう、住民・地域・NPOの連携を強化していく。

活動内容と成果

住民自主活動によって環境と福祉・健康の同時解決をしながら、持続可能な共助社会を目指し地域自治組織とNPO、行政が協働で生ごみ・落ち葉などの身近な有機資源を堆肥にすることで食につながる循環システム(LFC)を実践している。  
コミュニティコンポストでは住民が自宅でダンボールコンポストに取り組み、スタッフが巡回してお手入れすることで継続をサポートした。また、同時に高齢者の見守りも行った。できた堆肥を活用する畑も新たに確保し、野菜を地域に出荷して栄養を循環させた。



地域住民にコンポストをお届けするスタッフ

ひろげる助成  
2年目  
実践

会員世帯 (3月31日時点)	48軒
コンポスト設置	82軒
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	49%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスで地域イベントや活動が制限されたことも影響し、会員獲得数が少なかった。また外部視察も断念せざるを得なかった。

■工夫した点

チラシ配布や様々な年代向けの講座を企画し、新規会員獲得や自立型のコンポストユーザー獲得を試みた。

〒811-0201  
福岡県福岡市東区三苫4-4-27  
電話：092-405-5217  
E-mail：info@jun-namaken.com  
HP：https://www.jun-namaken.com/



(認特) 中部リサイクル運動市民の会

障がい者福祉施設との連携による地域資源  
循環ネットワークの構築活動  
「なごやハートステーションPROJECT」

活動地域  東海



プロジェクトのPR動画のひとコマ

課題

名古屋市には、羽毛製品のリサイクルや、まだ使える不用品のリユースのための受け皿が足りていない。また、障がい者の就労機会の増加や工賃の向上も求められている。

目標

市内に多くのハートステーションができ、市民が持ち込む羽毛製品やリユース品をリサイクル・リユースする活動が障がい者の工賃向上とノーマライゼーションに寄与している。



今後の展望

アウトカム目標をハートステーションの「数」ではなく「質」に切り替え、リユース・リサイクル活動に多くの市民や企業が関わり、障がい者の工賃向上を実現し、ノーマライゼーションに寄与する活動を目指したい。

活動内容と成果

- ハートステーション3か所において、羽毛製品とリユース可能品の回収を行った
- プロジェクトのPR動画とウェブサイト上のブログ記事を制作した。また、Instagramで情報を発信した
- アパレル商社から定期的に軽欠点の衣類等の寄付を受け付け、ハートステーションでタグの処理を行った上でチャリティショップで販売するルートをつくった
- ハートステーション運営団体にお支払いする手数料は合計30,160円となり、1施設あたりの年間手数料は2年目の目標に近い金額を達成することができた



羽毛布団を解体している様子

ひろげる助成  
2年目  
実践

羽毛製品手数料	9,120円/施設/年
リユース品手数料	933円/施設/年
今年度計画の達成度	50%
目標達成度	40%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で障がい者福祉団体を訪問することが難しかった。企業からご寄付いただいた衣類のタグ処理の手法選定に時間がかかった。

■工夫した点

プロジェクトに関わる団体が自分たちの関わり方の深い部分をPRしやすいように、短時間の動画を複数バージョン制作した。

〒461-0002  
愛知県名古屋市東区代官町39-18  
日本陶磁器センタービル5階  
電話：052-982-9079  
E-mail：nagoya.heartstation@gmail.com  
HP：https://nagoya-heartstation.jp/



# パレスチナ西岸地区北アシーラにおける 循環型社会のモデル形成事業

活動地域  パレスチナ



地域の学生への環境ワークショップ

### 課題

日常的なゴミ投棄が行われている地域において、ゴミ分別を通して環境意識を醸成し、有機ゴミを用いた堆肥づくりと有機農業、リサイクルを促進させ、循環型社会を形成する。

### 目標

パレスチナ西岸地域でゴミの分別による廃棄物の資源化が促進され、地域循環型社会が形成される。



### 今後の展望

- 堆肥の製造量増加と現地の農業課題に合わせた品質改良
- 住民・行政・農家が協働しやすい仕組みづくりの強化と関係構築
- 資源ゴミリサイクル方法の確立

### 活動内容と成果

今年度は、事業参加住民に、自分たちの取組みがどのように町で循環しているかを再認識してもらい、さらにより多くの層の人々を事業に巻き込むことに力を入れた。堆肥の品質改良実験を行っている温室に地域の農家を招聘して生ゴミ堆肥の効果を実際に見てもらったり、ゴミ分別をしている住民と、温室で栽培した野菜と一緒に収穫したりした。新型コロナウイルス禍で活動延期となっていた公立学校でも、環境ワークショップを再開した。堆肥販売も徐々に軌道に乗り始め、町の外で本活動がモデル事業として紹介される機会もあった。



実験温室で育てた豆を分別参加住民と収穫

フロントランナー助成

3年目

実践

活動3年度生ゴミ堆肥の製造 **30**トン

地域内での生ゴミ堆肥の投入量 **32**トン

今年度計画の達成度 **75**%

目標達成度 **70**%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

活動成果や課題が内輪に留まっていたため、一部の活動に遅れが生じたり、事業参加者から主体的な協力が得られにくい状況にあった。

#### ■工夫した点

行政や農家、住民から具体的かつ事業を前進させる協力を得るため、活動を町中で周知する活動、話し合いの機会を繰り返し設けた。

〒101-0063  
東京都千代田区神田淡路町1-7-11  
東洋ビル  
電話：03-3253-8990  
E-mail：office@parcic.org  
HP：http://www.parcic.org





# プラスチックごみ削減活動を通じた住民と観光客の持続可能な共存

活動地域  京都府

ひろげる助成

3年目

実践

アンケート回収数 **186**件

大学生リーダー数 **32**人

今年度計画の達成度 **30**%

目標達成度 **70**%



嵐山での給水スポット

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍の影響で、活動の対象とした祇園祭での露店の出店が中止となり、当初計画した活動の実施が困難になった。

### ■ 工夫した点

祭りだけでなく通年の観光地も対象とし、活動内容も計画的な準備が必要なりユース食器から給水スポットも加えた。また、イベントやリーダー研修の一部をオンライン化した。

## 課題

観光やお祭りでは、来訪者がもたらす環境負荷が高くなり、地域住民の負担が増すことで文化的にも持続可能性が危ぶまれている。

## 目標

- 祇園祭で、地域住民と観光客が協力してプラスチックごみ量が減少する
- 地域の文化と環境について住民や関係者の意識が高まる
- 継続的な仕組みができる

## 活動内容と成果

- 当初計画した祇園祭では、露店の出店が中止になったため、祇園祭でのリユース食器の導入から秋の紅葉シーズンでの嵐山商店街での仮設給水スポットの設置に変更した。合計5日間で約430人が給水し、そのうち186人分のアンケートを回収した
- 2025年開催の大阪・関西万博を見据えた講演会を企画したが中止となった
- 3年間の成果をまとめた報告書を作成した
- 祇園祭では、大学生を含めたリーダー研修を3回行い、大学生32人が祇園祭ごみゼロ大作戦の運営やボランティアの支援活動を行った



大学生リーダー研修



大学生リーダーの活動

## 全助成期間の活動を振り返って

1年目はほぼ計画通り活動でき、リーダー研修も継続できたが、2年目以降は新型コロナウイルスの影響で計画通りの活動実施が困難になった。もともと観光での課題をテーマとしたが、新型コロナウイルス禍で現実的な課題が変化したり、活動自体も制限が多くなった。しかし、京都において持続可能性を考える際、観光の要素が重要になるので、この活動で観光関係者や地域組織等との関係性や連携の実績が得られことが一つの成果であると考えている。

〒612-0031  
京都府京都市伏見区深草池ノ内町13  
電話：075-647-3535  
E-mail：agenda@ma21f.jp  
HP：https://keaa.or.jp/



今後の展望

新たな観光地のあり方について、別途京都市と進めている脱炭素ライフスタイル推進や再エネ普及についての事業の他、(公財) 京都文化交流コンベンションビューローとMICE施設的环境対策について調査を行う予定であり、その中で地域住民と観光客がともに関わる環境対策について検討していきたい。また、大学生などによる活動の担い手育成については、「京エコロジーセンター」指定管理業務等の中で広げたい。

## 給水スポットの拡大による 使い捨て飲料容器の削減活動の全国展開

活動地域  日本全域



夏の江の島で給水ステーションのニーズ確認

給水スポット登録数 **1,812**件

活動地域数 **16**地域

今年度計画の達成度 **75** %

目標達成度 **75** %

ひろげる助成

**3**年目

知識の提供・普及啓発

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベントやお祭りが中止になり、仮設給水ステーションを使用した活動の機会が少なくなった。

#### ■ 工夫した点

数少ない開催されたイベントの機会を最大限にいかすとともに、駅構内や観光地で関係者と交渉して機会を作りニーズを実証した。

### 課題

ペットボトルなどの使い捨て容器に入った飲料の消費の増加は、資源消費量、CO<sub>2</sub>排出量等の環境負荷の増加につながっており、水道水や地域の水資源への関心は低い。

### 目標

日本の多くの地域で給水スポットが設置され、利用されることで、ペットボトル等使い捨て容器入り飲料の消費が減り、環境負荷の低減と潤いのあるまちづくりが広がること。

### 活動内容と成果

- 全国16地域 (15都府県) で、公共及び協力店舗等の給水スポットの拡大活動を実施した
- 夏の江の島、地下鉄天満橋駅、秋の京都嵐山、かしわら芸術祭等で仮設給水ステーションを設置運営した
- 全国の地域リフィルが集まるサミットを開催、「Refillサミット2021富士山宣言」を発表した
- 「給水スポット大賞2021」として自治体のすぐれた事例を表彰した
- 短編及び英語版の活動紹介動画、給水機導入マニュアルを制作した
- 3年間の総括するシンポジウムを開催、「リフィル」をさらに広げる鍵を議論した



コロナ禍でも給水スポット参加店舗は拡大



3年間の活動を総括するシンポジウムを開催

### 全助成期間の活動を振り返って

日本初の給水スポットを広げるプラットフォームとしてRefill Japanが活動を開始してから3年が経過し、「給水スポット」という言葉が企業や自治体でも使われるようになった。先進的に給水スポットのまちづくりに取り組む地域も生まれ、波及効果が表れ始めている。イベントや街中での水道直結式仮設給水機の活用や、地域リフィルの地道な活動が成果を出しつつある。

〒110-0015  
東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階  
電話：075-211-3521 (環境市民気付)  
E-mail: info@sui-do.jp  
HP: http://sui-do.jp, https://www.refill-japan.org/



### 今後の展望

活動の対象を、無料給水だけでなく、持参容器での飲食テイクアウト、リユース容器での宅配等、より広義の「リフィル」に広げることにより、さらなるムーブメントの拡大と、環境負荷の低減をはかる予定である。また、活動地域数、マップへの登録スポット数とともに、各スポットの利用頻度を上げるために、LCA等の調査や検討会を実施し、各地での普及啓発活動にいかせるツールを用意する。



# 調べてみよう！ マイクロプラスチック市民調査

活動地域  日本全域

ひろげる助成

3年目

調査研究

市民調査実施か所数 **42**か所

報告会参加者数 **36**人

今年度計画の達成度 **75**%

目標達成度 **85**%



報告会で展示した全国の調査地点を示す地図

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルスの影響で、人が集まることを避ける必要があったり、感染者数の多い東京から遠方への移動を控えざるを得ず、予定していた活動ができない状況がずっと続いた。

### ■ 工夫した点

会合は対面からオンラインへの切り替えや、回数を減らして対応した。報告会は、調査参加者中心のものとしたことで、調査の感想や今後の展望が深く共有できた。

## 課題

マイクロプラスチックへの関心は高まっているが、市民調査の手法が整っていない。分析、比較、実態把握などができるように市民調査手法を整えることが必要。

## 目標

海洋ごみに関心を持つ市民が、マイクロプラスチック調査を通じて、プラスチックによる海洋汚染の実態を知り、プラスチックの使用量削減の重要性に気づく。

## 活動内容と成果

市民調査と補完調査を継続して実施し、追加実施は11か所となった。そのうち4か所では、ポリマー分析用の試料も採取し、研究者に託すことができた。報告会はオンライン配信のみでの開催ではあったが、調査を行った市民団体と、調査手法についての助言をもらった研究者が出席し、専門家の視点から市民調査の意義についてのコメントも得られ、調査実施者一同にとって今後の継続への励みとなった。一部実施できなかったイベントもあったが、活動全体の記録集を作成でき、本活動の紹介資料として活用できる。



分類後のマイクロプラスチック



調査を行った海岸全体の様子

## 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍の影響が大きく、調査地点数が目標に達しなかったことは残念であったが、調査手法を専門家の助言もいれて整えることができたこと、気軽に調査ができるように貸出用器具キットをそろえられたこと、専門家との連携体制が維持継続できることなどは、市民調査を続けていくための基盤となると思う。25cm四方という小さな枠内でも、多数のマイクロプラスチックが見つかる海岸の実態を、啓発活動に役立てていきたい。

〒185-0021  
東京都国分寺市南町3-4-12-202  
E-mail: cleanup@jean.jp  
HP: <http://www.jean.jp>

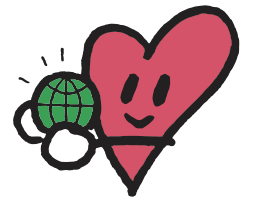


## 今後の展望

JEANでは、通年で全国クリーンアップキャンペーンを展開しており、多くの会場ではごみを拾うだけではなく調査も実施している。実施期間を区切ってマイクロプラスチックの調査も呼びかけ、広範囲で海岸等のマイクロプラスチックの状況を把握し、結果を改善のために発信していく予定である。







# 環境保全 大気・水・土壌



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

(一社) 日本サステナブル・レストラン協会

日本の飲食・レストランのサステナビリティを向上させる(オーガニック野菜、持続可能な水産資源、食品ロスの低減、自然エネルギーの使用を促す)

活動地域 日本全域



FOOD MADE GOOD Japan Award 2021

課題

日本の飲食店・レストランの原材料調達や店舗に関連する活動が、「気候変動問題」「食品ロス」「海洋プラスチック問題」「水産資源の枯渇」を助長している。

目標

加盟店が、サステナビリティの格付プログラムの実施を通してサステナビリティの課題解決へ向けた行動を行い、セミナーやメディアを通じて模範事例を拡散する。



今後の展望

2022年はwithコロナで、飲食店への制限がなくなることを期待しており、其中でサステナビリティの推進と一緒にできるレストランの加盟を増やす。また各地方都市へ現地の協力団体とともに働きかけを行う。

活動内容と成果

セミナーをオンラインとリアルで11回開催し平均38.2人が参加した。主要都市(北海道札幌市、兵庫県芦屋市、福岡県福岡市、宮城県仙台市、愛媛県松野町、神奈川県茅ヶ崎市、広島県広島市)の7都市を訪問、セミナーの開催や店舗でのプログラムの参加を呼び掛けた。生産者と消費者を繋げるネットワーク構築を1拠点にて開始するとともに、消費者の行動変容を促すためのプログラムを開始。また日本初となるレストランのサステナビリティのアワードを開催し、メディアを通じて飲食店のサステナビリティの重要性を伝えた。



札幌セミナー

はじめる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

FMG50アンケート回答	45%
FMG公式 Ratingに参加	73%
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	76%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

加盟店を増加させること、また加盟店が包括的なサステナビリティの取組みの現状把握を行うこと。

■ 工夫した点

サステナビリティアワードのノミネートのため、加盟店に現状把握するためのレーティングを実施していただいた。

〒150-0022  
東京都渋谷区恵比寿南3丁目4-16  
アイトリアノン301  
電話：090-8777-7672  
E-mail：info@foodmadegood.jp  
HP：https://foodmadegood.jp/



(特非) 東京労働安全衛生センター

大気汚染防止法改正に伴うアスベスト飛散防止対策及び災害時のアスベストばく露防止対策におけるリスクコミュニケーションの普及・啓発活動

活動地域 日本全域



石巻市での石綿スレート造の建築物の現況調査

課題

大規模自然災害や建築物等の解体・改修工事時に、建材等に含まれる発がん物質アスベストの飛散、ばく露防止対策に取り組み、新たなアスベスト被害の発生を防止する。

目標

災害地域の復旧活動や建築物等の解体・改修工事等で、関係者が連携し、アスベスト対策についてのリスクコミュニケーションが活発に行われるようになる。



今後の展望

大規模自然災害に備え、平時のアスベスト対策が問われている。行政、事業者、市民、専門家が連携したアスベストリスクコミュニケーションの取組みが重要。今年度の成果物を活用した啓発・普及活動に努める。

活動内容と成果

東日本大震災から11年の被災地石巻市でアスベスト含有スレート造の建築物の現況調査を行い、石巻市に報告、対策を提言した。被災地のアスベスト問題のシンポジウム(オンライン)を開催した。東京都の旧築地市場のアスベスト除去工事に伴うリスクコミュニケーション活動の実践記録をまとめ、報告書を作成、配布した。2020年大気汚染防止法が改正され、建築物のアスベスト対策の規制が強化された。大気汚染防止法改正を反映した「市民のためのアスベスト対策ガイド」を作成、配布した。活動成果報告会をオンラインで開催した。



建設現場のベトナム人技能実習生の石綿講習

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

シンポジウムの参加者	35人
活動報告会の参加者	30人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	30%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

車を乗り降りし、マップを片手に徒歩で移動しながらの調査はかなり体力を消耗する活動だった。

■ 工夫した点

東日本大震災発生時の調査記録をもとに、マッピングした146棟のアスベストスレート造の建物をまわり、劣化状況を確認した。

〒136-0071  
東京都江東区亀戸7-10-1  
Zビル5F  
電話：03-3683-9765  
E-mail：center02@tohsch.org  
HP：https://tokyo-oshc.org/wp/





(特非) 神戸海さくら

須磨の自然と歴史を学び  
海洋環境を守り育てる活動

活動地域 兵庫県



課題

須磨海岸の風光明媚な自然や歴史、豊かな地場産業について広く市民に知ってもらい、豊かで美しい自然海岸を地域住民の手によって周辺の住環境を損なわないよう守っていく。

目標

行政、地域住民、漁師、学校、企業等そこに関わる全ての人々が協働し、一緒に考えられる活動を数多く開催し、自然と共生する街づくりができる体制を構築する。



今後の展望

SDGsが注目される中、海の豊かさを守る取組みとして9年間続けてきたビーチクリーン活動を継続するとともに、漁業者や行政等とパートナーシップを組み、本来の海や自然の豊さを大切にする活動にも取り組む。

活動内容と成果

ビーチクリーンは毎月1回の計17回と海水浴場開設期間に該当する16回を合わせて、計33回実施し、延べ2,058人が参加した。また、2020年度は中止となった「スマイルビーチプロジェクト」が2021年度は開催され、海岸にクリーンステーションを設置し、海水浴場来場者にポイ捨て防止のマナーアップを呼び掛けた。海洋プラスチックごみ問題に対しては、専門家による啓発セミナーを3回開催するほか、海洋プラスチックごみで作ったアート作品を市内各所に展示する神戸市環境局主催イベント「プラごみ水族館」に協力した。



ビーチクリーンの活動状況

LOVE BLUE助成

1年目

実践

啓発セミナーの参加者人数 **337人**

一年間で回収したゴミ袋の量 **527袋**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で社会情勢が日々変化しイベントの開催可否判断が難しく、スケジュール調整や参加者への連絡に苦労した。

■工夫した点

ニュースを日々確認しながら関係各所と常に最善策を検討し、参加者の安全対策を最優先したプログラムや規模に変更して開催した。



〒652-0061  
兵庫県神戸市兵庫区石井町7-1-9  
E-mail : kobeumisakura@gmail.com  
HP : https://k-umisakura.com/

ナシール教育文化振興財団

パキスタン・チニオット地域における地下水資源保全と適正利用に関する参加型アプローチによる地域コミュニティのエンパワーメント

活動地域 パキスタン



課題

当該地域の帯水層の水質汚染の特徴や分布を調査し、地下水汚染の状況を面的な情報にし、地域住民の無秩序な井戸掘削戸取水をなくす。そのための調査と意識啓発を行う。

目標

当該地域での地下水資源に関わる全ての関係者が、地下水汚染や水資源保全に関する情報を共有し意識を十分に持つようになり持続可能な地下水開発と利用がなされるようになる。

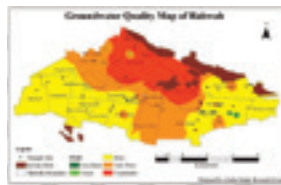


今後の展望

データを蓄積して地下水汚染度マップの信頼度を高くするとともに、地下水帯水層を電気探査で明らかにし汚染度マップを三次元的にしていく。これらの結果をもとにアプリを使うなどして、地域住民に意識啓発を行う。

活動内容と成果

野外調査に関しては計画の1.25倍の250点の地下水サンプルを採取し水質分析を行った。また電気探査は45地点で行い(目標の1.13倍) 地下帯水層の分布を調査した。これまでのデータにもとづきマップを作成し地下水汚染の著しい地区(赤色で示している)がどこにあり、井戸掘削等が不適な地区がどこなのかわかるようにした。意識啓発活動では、地下水に関する地域住民、井戸掘削・水道関係事業者の意識啓発ワークショップを開催し、ブックレットや地下水汚染度マップを用いて、地下水開発と利用について注意を喚起した。



地下水汚染状況マップ

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

地下水サンプル **250個**

電気探査 **45地点**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **67%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の広がりでパキスタン国内でもしばしばロックダウンが行われ、調査や意識啓発などの野外活動の制約を受けた。

■工夫した点

感染予防に十分配慮した野外調査活動・住民対話のほか、地下水汚染に関する情報の提供をオンライン・セミナーで繰り返し行った。



パキスタン国パンジャブ州  
チニオット県ラブワ市  
ダールル・サダル  
電話 : +92476215834  
E-mail : nmirza@njc.edu.pk  
HP : http://www.inehc.com/447054554

## (特非) 有害化学物質削減ネットワーク

# 2020年目標以降の化学物質管理に関する取り組みの推進に関する情報発信、普及啓発活動

活動地域  日本全域



### 課題

化学物質管理に関する2020年目標の目標年度以降も引き続き、香害や海洋プラスチックごみなど新たな課題の問題解決に向けた市民への情報提供や理解力向上に取り組む。

### 目標

公開講座や地域セミナーの開催で、市民の化学物質に関する理解力は増した。化管法見直しに関するパブコメを提出し、化学物質管理への市民参加は進んでいる。



### 今後の展望

2020年目標を総括する国際会議が延期されているが、自治体や事業者へのアンケート結果をもとに、日本の化学物質管理の現状を取りまとめ、目指すべき化学物質管理のあり方を市民向けに情報提供する。

### 活動内容と成果

化学物質管理に関する2020年目標の目標年度を超えたが、総括する国際会議への参加準備を進めた。香害や海洋プラスチックごみなど新たな課題に関し、問題解決に向けた市民への情報提供や理解力向上に取り組むために、地域セミナーを3回、公開講座を5回開催した。また、環境省、経産省の担当者から、PRTR制度の届出対象物質の見直し結果に関する学習会やPRTRデータ検討会を実施し、市民向けに情報提供を行った。PRTR制度の運用状況に関する自治体アンケートを実施し、現状把握を行った。



自治体アンケートの報告書

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

公開講座の開催 **5回**

自治体アンケートの実施 **1回**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **60%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス拡大防止のため、対面での学習会や運営委員会の開催を行わず、オンラインで活動しなければいけない点。

#### ■ 工夫した点

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、運営委員会及び公開講座や地域セミナーなどの学習会はオンラインで実施した。

〒136-0071  
東京都江東区亀戸7-10-1  
Zビル4階  
電話：03-5627-7520  
E-mail：info@toxwatch.net  
HP：https://toxwatch.net/





# 日本企業のサプライチェーン最上流の農家の環境・社会課題解決へ向けた取り組み

活動地域  日本全域

ひろげる助成  
**2年目**  
知識の提供・普及啓発

イベント開催 **1回**

オンラインイベントの参加者数 **176人**

今年度計画の達成度 **5%**

目標達成度 **5%**



## 日本サステナブル・コットン・イニシアチブ 設立イベント

日時：2021年5月27日（木）  
14：30～16：30  
場所：オンライン（ZOOM）

※新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の延長がなされたため、会場としていた日比谷図書館が営業解除まで臨時休館となりました。そのため全てオンラインでのみの実施に変更とさせていただきます。

イベントは終了です

## 日本サステナブル・コットン・イニシアチブ設立イベント

サステナブル・コットン・イニシアチブ設立

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

弊団体と他団体の目的は同じであれ、課題への解決方法や運営状況が異なるため、コンセンサスを形成することが難しかった。

### ■工夫した点

互いの団体の思いを伝え、また、運営に関する方法論等話すことに時間を費やすことを心がけた。

## 課題

発展途上国の綿花とサトウキビ農家の課題として、農業と化学肥料の不適切な使用が環境汚染と健康被害を発生させるとともに、その農業等のコスト負担により貧困に陥っている。

## 目標

綿花とサトウキビ農家の環境・社会課題の解決のために、日本の企業・消費者へ普及啓発し企業のサステナブル・コットンの調達量増加、サトウキビ認証の認知度を向上させる。

## 活動内容と成果

2021年度は綿花に焦点をあて、日本サステナブル・コットン・イニシアチブ設立イベントに計176人の方に参加いただいた。イベントでは綿農家で使用される化学薬品による環境影響を消費者やアパレルメーカーに周知し、今後下記の5団体が協働でサステナブル・コットンの更なる普及を行うことになった。

- テキスタイルエクステンヂ
- 認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン
- 一般社団法人ソリダリダード・ジャパン
- 一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会
- 一般社団法人持続可能なサプライチェーン研究所



ベター・コットン・イニシアチブ啓発資料



サステナブル・コットン・イニシアチブの説明資料

## 全助成期間の活動を振り返って

本年度の活動として、日本サステナブル・コットン・イニシアチブが設立されたこと、また、その運営団体が決定したことによる影響は日本にとって大変喜ばしいことである。他方で、弊団体においては人員不足や運営方法に問題があったと認識している。よりよい活動ができたことと猛省しているところである。

〒211-0006  
神奈川県川崎市中原区丸子通1-653-7-202  
電話：044-982-1967  
E-mail：info@g-assc.org  
HP：http://g-assc.org/



## 今後の展望

今後、5団体に運営を任せ日本サステナブル・コットン・イニシアチブが海外の協力団体とコミュニケーションを図り、日本におけるサステナブル・コットン使用量を増加させることにより、日本のみならず世界の環境負荷が低減され、より良い環境になっていくと考えている。

# インドネシア共和国東ジャワ州シドアルジョ地域における熱泥流被災者のエンパワメント

活動地域  インドネシア

ひろげる助成

3年目

実践

乾季・雨季各24地点に  
金属板設置 **48地点**

生物分解性水質  
浄化装置 **2か所**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **80%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍に伴う「大規模な社会的制限」政策により、被災者住民と行政担当当局との定期会合が開催できず、行政からの情報の共有や必要な支援が得られなくなった。

### ■ 工夫した点

セミナーやワークショップは、村の会場とZoomで結びオンラインで開催し、行政の担当者を招待した。ファクトシートを改訂し、行政やメディア関係者などに配布した。



大気モニタリング用金属板を住民自身が評価

## 課題

2006年5月に東ジャワ州シドアルジョで発生した熱泥流噴出事故は、8村2万世帯もの避難者を生みながら今日も噴出を続けており、周囲の村人は環境汚染に苦しんでいる。

## 目標

熱泥流による環境汚染の影響低減のための技術的・社会的・経済的スキルを住民が身につける。そのため①環境汚染の実態把握 ②汚染の影響低減 ③生業構築の支援を行う。

## 活動内容と成果

- ①銀板・銅板を用いた大気モニタリングは住民のみで実施できるようになった。また、重金属や芳香族炭化水素のサンプリングも専門家の指導の下、住民自身の手で行っている。バイオモニタリングは地元の高校生への環境教育とタイアップして実施した
- ②地元の植物種のうち汚染浄化が見込める樹種を特定し、生物分解性水質浄化装置2基の建設・稼働を行った
- ③水耕栽培と魚養殖を組み合わせたアクアポニックスが軌道に乗りつつある。プラウィジャヤ大学の研究者やNGOとの連携は進んだが、行政・ジャーナリストとの連携は一部に留まった



水草を用いた水質浄化システムの一つ

## 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍による制限が大きな障害となった。行政やメディア、専門家を招いての大規模なフォーラムが開催できなくなり、活動の目標だった被災者支援のプラットフォームを構築するまで至らなかった。住民自身による環境モニタリングはほぼ定着し、生物種を用いた環境観察も高校や専門学校と提携し、環境教育としての役割を担った。魚養殖と水耕栽培を組み合わせたアクアポニックス事業は、収穫実績を上げており、住民の評価は高い。



水耕栽培の講習風景。施肥について学ぶ住民

Jalan KH Khamdani Siwalanpanji No 13C Buduran  
Sidoarjo, Jawa Timur, Indonesia 6125200  
HP : <https://remedi-sidoarjo.eutenika.org/>



今後の  
展望

①環境モニタリング事業は国立プラウィジャヤ大学の研究者が中心の環境優生学会の指導を得て続行予定 ②生物分解性を用いた水質浄化システムは実績を上げており、住民からの要請も高いので今後の拡大が望める。重金属吸着実験については引き続きデータの収集を行う ③新型コロナウイルスが収束次第、被災者住民と行政担当当局との定期会合を再開し、今後の連携を図る。当面は貧困者向け無料健康保険制度の被災者への適用を目指す



# 有害化学物質による胎児と子どもの悪影響を 最小限にするための政策提言と世論喚起活動

活動地域  日本全域

ひろげる助成  
**3年目**  
知識の提供・普及啓発

請願署名数 **46,336筆**

国際セミナー 3回の  
延べ参加者数 **273人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **80%**



環境安全基本法案を環境省に提出

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

決して分かりやすくはない有害化学物質の問題を、一般の人たちに関心を持ってもらい、国の政策の改善が必要だと思える人たちを増やし、署名数の確保に努めたところ。

### ■工夫した点

海外の最新の研究や規制の情報を入手し、国内の研究者とも協力し、必要な情報を正確かつ分かりやすく提供し、政策提言の必要性を理解してもらうよう努めた。

## 課題

海外に比べ日本では有害化学物質の影響に関する認識が一般市民に浸透していない。市民の関心を高め、脆弱な子どもへの悪影響を考慮した化学物質規制強化が必要である。

## 目標

有害化学物質問題について市民の関心の拡大と理解の向上のため、国際セミナーや連続学習会を行い、化学物質規制強化の政策提言の請願署名3万筆を達成する。

## 活動内容と成果

会員や有害化学物質問題に関心を持つ全国の生協、市民団体、個人の協力を受け、規制強化策をまとめた環境安全基本法案制定のための請願署名を集めた。その間に有害化学物質の一例である有機フッ素化合物問題についての連続学習会や、海外ですでに導入されているヒト・バイオモニタリング制度の必要性についての国際セミナーをオンラインで開催した。最終的に目標の3万筆を超える4万6千筆の署名を集めて、国会議員の紹介を通じて国会の衆議院と参議院に提出した。また主務官庁の環境省にも提出した。



ドイツ連邦環境省研究者による国際セミナー

## 全助成期間の活動を振り返って

活動1年目の終了間際から新型コロナウイルスが感染拡大し、振り回された3年間であった。ライブのセミナーができなくなる中、急速にオンライン化が進んだ。良い面もあり国際セミナーでは、海外ゲストを招待する手間とコストが大幅に減り回数も増やすことができた。またセミナーや学習会の動画配信も実現できた。そうした活動の中で、活動の賛同者が増え、国会と行政への政策提言活動が達成できたと実感している。



有機フッ素化合物汚染が分かるパンフレット

〒136-0071  
東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル4階  
電話：03-5875-5410  
E-mail: kokumin-kaigi@syd.odn.ne.  
HP: https://www.kokumin-kaigi.org



## 今後の展望

国会に請願した環境安全基本法案について、紹介議員に今後国会の委員会でも取り上げてもらう予定である。また法案の施策の一つであるヒト・バイオモニタリング制度については、環境省が「前向きに検討に入った」という情報もあり、今後実現に向けて支援していきたい。次年度以降も引き続き、最新情報の収集、分かりやすい情報提供、政策提言の三つの活動を軸に、有害化学物質のリスク低減のために活動を継続する。

(特非) アジア砒素ネットワーク

バングラデシュの高濃度砒素汚染地域における持続的な安全水供給のための技術移転事業

活動地域  バングラデシュ

ひろげる助成

4年目

実践

Multi-GSF  
上級技術者認定 **11人**

Multi-GSF  
マニュアル作成 **300冊**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **90%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

モニタリングデータとして、砒素濃度と鉄濃度結果が日本の専門家に送られてくるが、測点番号が明らかに間違っている場合が多く、その指摘・修正に時間を要した。

■工夫した点

最終ジョソールセミナーで「測点～濃度関係グラフ」を説明したが、理解してもらうことが困難だったので、代替案として「砒素濃度表示板」の作業を確実にすることとした。



首都ダッカで開催した最終報告セミナー

課題

Multi-GSFの持続的な利用を担保する手段の一つとして、現地政府がMulti-GSFの性能を認め、その設置を安全な水供給の施策に組み込むことである。

目標

稼働中Multi-GSFの性能のモニタリング、その成果を取り入れた「Multi-GSFマニュアル」の作成、現地政府の水供給行政を主対象とした最終セミナーの開催。

活動内容と成果

- モニタリングはローカルNGOと協働して行ったが、技術レベル向上のためのワークショップを行い、Multi-GSF専門技術者(上級)を育成した
- 「Multi-GSF建設・メンテナンス」に関するマニュアルを英語およびベンガル語版で作成した
- 首都ダッカで開催した最終セミナーの際、現地政府の水供給行政機関(DPHE)にMulti-GSFの性能が高く評価された。現地政府はMulti-GSFの普及について努力すると表明した



ローカルNGOとのモニタリング打合わせ

全助成期間の活動を振り返って

最後の2年間、新型コロナウイルスの影響で日本人専門家の渡航は叶わず、直接指導やフィールド訪問をすることができなかったが、連絡体制を整備したことで現地スタッフの技術スキルが向上した。また、技術移転の方法としてマニュアルの作成だけでなく、撮影した動画をYouTubeに投稿していくことで、より普及しやすい環境が整った。マニュアルの学習を通じて「Multi-GSF専門技術者」の育成ができた。



メンテナンスを行っている現地スタッフ

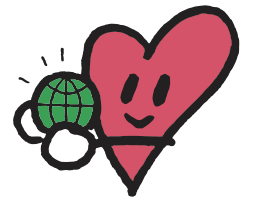
〒880-0014  
宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス208  
電話：0985-20-2201  
E-mail：webmaster@asia-arsenic.net  
HP：https://www.asia-arsenic.jp



今後の展望

現地政府はMulti-GSFを高く評価し、さらに普及していきたいと宣言した。当団体は今後、現地NGOをソフト面でサポートしながらMulti-GSFの一層の普遍化を図っていく。また、現地専門家からマニュアルに関して、「ヒ素汚泥の処理方法は改良を図っていく必要がある」という意見があったが、このように、マニュアルは現地でのMulti-GSF建設活動を通じてバージョンアップされていくことが期待される。





# 総合環境教育



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

## SDGsをテーマとした探究型学習プログラムの開発と実践・普及活動

活動地域 福井県



プログラム開発（森林の活用）の様子

### 課題

体験プログラムにSDGsのターゲットを結び付けただけのものが多く、体験を通じてSDGsの目標がそれぞれの生徒の自分事に落とし込まれるプログラムが少ない。

### 目標

SDGsのターゲット目標をローカルな視点で学び・考え・実践する探究型学習プログラムを開発することで、SDGsの理解促進を図り、SDGsの達成に寄与していく。



今後の  
展望

開発したSDGsプログラムをブラッシュアップし、ローカルな視点でSDGsの達成への実践ができるようなプログラムとしていくとともに、福井県内の他の団体とも連携をし、多様なプログラムを開発し、提供していく。

はじめる助成

1年目

実践

### 活動内容と成果

- 自然体験活動の専門家の指導を受け、SDGsをテーマにした探求型学習プログラムを5プログラム開発した
- 学校でのプログラムの実践活動を2校（高校1校、中学校1校）実施できた。また、小・中学生も含めた実践活動を3回行うことができた
- プログラムを紹介するパンフレットの作成することができ、関西への広報活動を行うことができた



プログラム開発（竹の活用）の様子

開発したSDGsプログラム数	5個
実践した学校数	2校
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	80%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の影響で参加者募集に苦労したが、対象を広げることで活動を行うことができた。

#### ■工夫した点

広報活動を積極的に行うことで、実践する学校を増やすことができた。

〒910-2464  
福井県福井市手中町30-1  
電話：0776-93-2335  
E-mail：info@e-kyouiku.org

## (特非) 能登里山里海マイスターネットワーク

## 映像制作を通じたGIAHS継承・発信プロジェクト

活動地域 石川県



今回制作した映像作品の撮影風景

### 課題

世界農業遺産「能登の里山里海」認定地域における生物多様性や希少種の保全に対する関心、様々な取組みの認知はまだ低く、伝統的な農林水産業の後継者不足が課題である。

### 目標

能登の里山里海の風景や生活の知恵の映像記録・情報発信・本事業に関わった学生や社会人などが、生物多様性の保全、GIAHSやSDGsについての理解を深め関係人口となる。



今後の  
展望

今回、制作した映像作品をより多くの人に見てもらえるようYouTubeやSNSでも配信・告知するとともに、里山里海の生業に関わる人材育成プログラムにも映像を活用してもらえるように働きかけたい。

はじめる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

### 活動内容と成果

- 能登地域の高校生55人が里山里海で生業を行う地域の担い手を訪問し、事業者との対話や体験ワークショップに参加した
- 能登の里山里海を利活用する地域事業者の取組みや外浦の海洋ゴミモニタリング活動を題材としたドキュメンタリー映像3作品の制作を行った
- 能登と交流のある同じく世界農業遺産認定地域、佐渡とみなべ・田辺を結び、それぞれの地域で作られた映像作品（能登地域は本助成金で制作）を上映し、対談や意見交換を行うオンライン上映会を実施した。43人（オンライン30人、会場13人）が視聴した



オンライン上映会（能登会場）の様子

制作した作品数	3本
取材対象のGIAHS構成資産	6個
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	100%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍でイベントのスケジュールや実施、開催形式の調整に苦労し、当初の計画からの変更を余儀なくされた。

#### ■工夫した点

イベント参加者を広く募るため、SNSやPeatix（イベント告知サイト）、プレスリリースを作成し、イベント告知を行った。

〒927-1204  
石川県珠洲市蛸島町1097番地3  
E-mail：info@noto-meister.org  
HP：https://www.facebook.com/notosatoyamasatoumimainetwork/





## (一社) マナティー研究所

# 生物多様性について考える環境教育を国内 外の専門家と協力して開発、普及する活動

活動地域  東京都



対面式ワークショップの様子

### 課題

生物多様性の価値が正しく理解されていないため、専門家と連携して環境教育コンテンツを開発、実践し、多様性の保全への意識を高める必要がある。

### 目標

国内外の専門家と連携して生物多様性に関する環境教育コンテンツを開発し、ワークショップ等での活用やウェブ公開を通じて、多様性の保全の大切さを理解してもらう。



### 今後の展望

教育コンテンツが継続して活用されるように、定期的なワークショップを開催していく。教育関係者等を対象にマニュアルの配布をすすめて、HPを整備してコンテンツを配布するためのプラットフォームを確立したい。

はじめる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

### 活動内容と成果

- 14件と連携して教育プログラムの開発、実施をすすめた
- 四つの環境教育プログラムを開発した
- 二つの教育コンテンツをオンライン公開した
- ワークショップを11回実施した(うち対面式は2回)
- 参加者の意識調査で97%が多様性の保全に同意した



ワークショップでの工作の様子

開発した教育コンテンツ	4種類
多様性保全に同意した参加者	97%
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	90%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

対面式ワークショップの実施に苦労した。また、オンラインワークショップの集客、及び参加者アンケートの収集に苦労した。

#### ■工夫した点

対面式は秋以降に少人数で実現することができた。SNSを活用した集客を図り、定期的なりマインドでアンケートへの協力を得た。



〒104-0041  
東京都中央区新富2-8-5-803  
E-mail : info@manateelab.jp  
HP : https://www.manateelab.jp/

## (一社) やんばるビジョン

# 世界自然遺産を目指すやんばるにおける 地域参加型フェノロジー調査

活動地域  沖縄県



調査講習会でのフィールドワーク

### 課題

現存するやんばるのフェノロジーカレンダーは1990年代のもので、昨今の我が国の自然環境の変化や人為的な影響を反映したものではなく、最新のデータが求められている。

### 目標

①地域住民によるフェノロジー調査の記録が12か月分蓄積される ②記録したデータから経年変化をとらえる意識と態度を備えた人材を養成する



### 今後の展望

フェノロジーの調査は単年度で終わるものではなく、継続性が重要である。今後も仲間を増やしながら地道に調査データを積み重ね、気候変動の影響評価につながる基礎データにつなげていきたい。

はじめる助成

1年目

調査研究

### 活動内容と成果

地域住民参加型のフェノロジー(生物季節節)調査を行った。任意の四つのコースを設定し、そのうち3コースは週1回、1コースは隔週1回の頻度で調査を計116回実施した。  
また地域特性に基づく伝統的な生活文化や習慣等の情報調査を並行して実施した。自然環境の変化に影響を受けやすい一次産業従事者や自然ガイドに聞き取りを行った。  
これらの調査結果の成果物として、フェノロジーカレンダーを作製した。



調査を通じた気づきや学びの共有

フェノロジー調査の実施	116回
活動の発信(HP・SNS)	39回
今年度計画の達成度	75%
目標達成度	80%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での調査指導やヒアリング調査の実施が難しかった。

#### ■工夫した点

調査指導については、県内や村内の新型コロナウイルスの感染状況を逐次把握しながら、感染対策を徹底して実施した。



〒905-1411  
沖縄県国頭郡国頭村字辺土名272  
電話 : 0980-41-5504  
E-mail : info@yambaruvision.org  
HP : http://yambaruvision.org/wp/

## カントリーパーク新浜

# カントリーパーク新浜の環境学習、ESDによる地域包括型の自然保全と復興推進

活動地域  宮城県仙台市



田んぼビオトープのメダカを観察する大学生

### 課題

東日本大震災の津波の影響を受けた仙台市沿岸域新浜地区では自然環境や希少動植物、生活文化の衰退が起り、かつて見られた自然と共生する人々の暮らしも失われつつある。

### 目標

当団体では関連団体と協働で新浜周辺の自然環境の保全や新たなESDプログラムの開発に取り組み、当地の自然環境の復興、まちづくり、賑わいの創出を目指している。



### 今後の展望

新浜地区の自然・文化の保全と復興の推進を図るために、仙台湾岸や河川流域に視野を広げ、活動内容を充実させながら、さらに多様な団体・市民とのネットワークを構築する。

### 活動内容と成果

当団体の田んぼビオトープにタイマー式井戸やパイプの送水網を整備することで、津波で被災したミナミメダカ等の希少動植物の保全や農薬不使用の伝統的稲作を推進した。また、隣接する貞山運河や丁沈釜湿地の生態系を継続的、科学的にモニターするための初年度調査を行った。さらに、当団体に生息する稀少生物を教材として、環境保全やまちづくりの担い手を育成するためのESDプログラムを開発した。また近隣の諸団体の視察や連携関係の構築も推進し、将来にわたって発展的に活動するための基盤を整えた。



地域の子どもと田んぼビオトープの生き物観察

つづける助成

1年目

実践

田んぼビオトープの整備面積 **0.4 ha**

環境調査・ESDプログラム開発 **6件**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **40%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルス流行の影響のため、開発したESDプログラムの実践の機会を十分に確保することができなかった。

#### ■工夫した点

田んぼビオトープの整備に注力しつつ、周辺の生態系の科学的調査、ESDプログラムの開発を行うなど、次年度以降への準備を進めた。

〒984-0003

宮城県仙台市若林六丁の目北町3-53

電話：022-762-6563

E-mail：countrypark.shinhama2021@gmail.com

HP：http://arhmctryprk.starfree.jp/



## (特非) スノーパーク小出

# 多世代で里山を守ろう！

～体験から関わる身近な自然保護の環境づくり～

活動地域  新潟県



駆除した外来種を活用してのワークショップ

### 課題

現在は高齢者の愛好家がボランティアで保全活動を行うエリアで、豊かな自然が身近にありながら、保全活動に関心が薄いという現状にある。若い世代の地域の自然への意識を変える。

### 目標

次世代を担う方々がワークショップや調査活動などに参加し、地域の自然の多様性を知ることで関心を高め、身近な自然を見る目や意識を変えること。



### 今後の展望

活動を通じて得られた自然に関するデータをいかに、地域の方々が関心を持ち続けられるような取組みを継続して行っていくことや、関わった方々を中心に、課題解決に取り組める環境を作っていく。

### 活動内容と成果

若い世代の方を対象に身近な植物をテーマにしたワークショップを実施した。身近な野草を使った草木染め体験やキャンドル作り体験などを企画し、図鑑を対象植物を調べる作業も取り入れ、身近な植物の名前を調べるきっかけを作りながら活動を行った。活動を通じて、幅広い世代、中でも特に若い世代の方が、様々な視点から身近な自然を改めてじっくりと見つめる時間をもち、新しい発見や気づきを持つきっかけを作ることができたと考えている。



野草を使った植物標本風ジェルキャンドル

つづける助成

1年目

知識の提供・普及啓発

植物に触れるワークショップの実施 **3回**

植物調査の実施 **5回**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **70%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

屋外での活動のため、当日の天候判断や、雨天時の対応、夏場の活動時間の設定等に苦勞した。

#### ■工夫した点

参加者が植物をじっくり観察する時間や、図鑑を使う時間を活動の中に取り入れるよう、工夫して企画した。

〒946-0043

新潟県魚沼市青島1609

電話：025-792-5320

E-mail：info@sp-koide.org

HP：www.sp-koide.org





(特非) おおいた環境保全フォーラム

ユネスコエコパークを活用したSDGsを学ぶESD環境教育推進事業

活動地域 大分県



サステイナブルツーリズム（星空観察ツアー）

課題

エコパークの理念、目的の啓発周知による意識変革を促し、MAB計画に基づく「環境・経済・文化」が統合的に機能した持続可能な社会の構築に向けた取組みが課題である。

目標

エコパークの理念・目的の認知と理解が地域社会や住民に広く浸透することで、自然環境の保全と利用が両立した持続可能な地域社会の形成。



今後の展望

不安定な状況変化への順応の対処に万全を期し、住民、自治体、地域大学や教育機関と協働、連携し、エコパークの理念・目的である持続可能な自然と共生した地域社会の創出という目標に向け活動を推進する所存である。

活動内容と成果

- 芽野国有林フィールドの環境整備は、作業スタッフで定期的に当該活動フィールドの約350m<sup>2</sup>の下刈り、約250m<sup>2</sup>の下枝切、間伐等の森林管理を実施した
- 自然体験活動及びESD教育活動の拠点フィールドの環境整備は、作業スタッフで定期的に通路整地等を約200m<sup>2</sup>、木柵80mの設置及び隣接する中岳キャンプ場を合わせた約600m<sup>2</sup>の除草、草刈りを行った
- ととの森自然学校フィールド及び遊学の森フィールドの七つの体験プログラムを開発した



活動スタッフと活動看板

ひろげる助成

1年目

実践

観察遊歩路整備	300 m
通路整地、駐車場整備	200 m <sup>2</sup>
今年度計画の達成度	90 %
目標達成度	30 %

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症対策のため市外からの移動自粛～小学生の感染増加とクラスター多発等で予測できない状況の中での活動日程の調整。

■工夫した点

地域住民を中心に活動スケジュールを組み、会員、指導員は、余裕を持って員数を準備しローテーションで調整を実施した。

〒870-0901  
大分県大分市西新地2-6-50  
ライオンズマンション大洲304  
電話：097-529-5046  
E-mail：kei\_hi\_uchida@yellow.plala.or.jp  
HP：http://www9.plala.or.jp/kei\_uchida/



(特非) 環境修復保全機構

カンボジア王国コンポンチャム州スレイサントール郡における持続可能な資源循環型農業の普及を通じた安全な農産物の生産と販売を目指した農業組合の能力強化と女性エンパワメント

活動地域 カンボジア



堆肥槽設置のデモンストレーションの様子

課題

残留農薬の多い農産物は付加価値をつけられないため市場の開拓が難しく、生産した農産物を安価に販売せざるを得ない。

目標

農村地域における女性を中心とした農業組合が付加価値をつけた上で安全な農産物を販売することで、女性の社会参加や地位の向上を図る。



今後の展望

農業組合を運営していくにはまだ多くの課題があるが、まずは少人数の組合メンバーが中心となり、しっかりと持続的農業を実践し、安全な農産物を生産し、組合を通して販売していけるよう活動をしていきたい。

活動内容と成果

- 持続的農業に係るワークショップを2コミュニティにて計14回開催し、延べ199人が参加した
- 地域にモデルファームが2か所立ち上げられ、周辺農家への持続的農業普及のための拠点づくりがなされた
- スレイサントール農業組合が立ち上げられ、規約や組合員の役割などが明文化された
- 成功している農業組合の視察を実施し、農業組合の運営方法等を学んだ
- スレイサントール農業組合の集出荷場が設置された



農業組合設立セレモニーの様子

ひろげる助成

1年目

実践

ワークショップ開催回数	14回
ワークショップ参加者数	199人
今年度計画の達成度	90 %
目標達成度	50 %

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

資機材を受け取った現地農家が農業組合員に必ずしもならなかったため、組合員を増員することが難しかった。

■工夫した点

1コミュニティで実施予定だったワークショップを現地農家からの要望に応じて2か所で実施し、対応した。

〒195-0064  
東京都町田市小野路町2987-1  
電話：042-736-8972  
E-mail：hq-erecon@nifty.com  
HP：https://www.erecon.jp



## (特非) 環境パートナーシップちば

# SDGs・ESDをひろげるための “ちば”拠点づくり

活動地域 千葉県



公開フォーラム開催 (事業スタート)

### 課題

SDGsを達成するための、多様な主体が相互の活動を知り共有する場がない。また、環境保全活動・環境学習・学校や企業・行政との協働取組みが広がらないことなど。

### 目標

SDGs・ESDへの取組みを多様な主体と協働して今後広げるために、「SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点」を作る。



今後の  
展望

2年目は、SDGsちば北拠点づくりを目指す。

### 活動内容と成果

「SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点」を作る拠点づくり会議、SDGs・ESDの理解促進のフォーラム、セミナーを開催した。拠点づくりの活動へつなぐために、ESDプログラム体験会、ユース活動支援等新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて実施した。事業には南房総市の支援もあり多様な主体の参加があった。拠点の見える化の一つとして、ホームページができ、2022年度から内容の充実を図る。「SDGsちば南拠点会議 (仮称)」で県南地域の輪と活動が広がることが期待され、県北拠点づくりにもいかしていく。



ESDプログラム公開体験会  
「安馬谷里山」

ひろげる助成  
1年目  
実践

ひろげる場づくり 11回

ひろげる人づくり 7回

今年度計画の達成度 100%

目標達成度 60%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

対面会議、ESDプログラム体験会等でオンライン併用のためのWi-Fi会場探いや、パス使用等新型コロナウイルス対応に苦労した。

#### ■工夫した点

ハイブリッド会議、オンライン会議、企画・運営会議では、協議内容等を事前に共有するなど、一体感を持つように工夫した。

〒262-0006  
千葉県千葉市花見川区横戸台  
21-13  
E-mail : info@kanpachiba.com  
HP : https://kanpachiba.com/



## 次世代のためにがんばる会

# 八代市における青少年による水環境に係る 自主活動の支援推進事業

活動地域 熊本県八代市



We Love YATSUSHIRO!

### 課題

八代海とその沿岸干潟を保全するために、水・干潟保全に関する企画を設けて、高校生に水利活用・対策の歴史、生き物との繋がりを学ぶ実体験の機会を提供しなければならない。

### 目標

自然と人との共生を学ぶことで干潟を守る人材が増え、魅力的な干潟保全が進み、自然との共生を願う市民の意識が向上する。



今後の  
展望

球磨川河口の環境を持続的に保全するために、若者が水環境や干潟に関する広範な知識・情報を学び、自発的に活動するための機会を提供 (サポート) し、持続可能な地域社会をつくるための担い手を育成する (ESD)。

### 活動内容と成果

- 「エコユース八代」が7月発足、現在50人がメンバー登録し、年間11の体験企画に参加
- 高校生動画募集に2作品の応募あり
- 2022年4月開催アジア水サミットでは、「エコユース八代」の登壇が決まり、その資料作りをオンライン会議で実施
- 企画に参加したメンバーが、次の企画に他の人を誘ったり、教員の後押しもあり、回を重ねるごとにメンバーが増加
- 発足時、「八代がいい所と思うか？」の問いにだれも手を上げなかったが、成果発表会ではメンバーが全員、「八代が好きになり誇れる場所」と回答



水の歴史散策学習会

ひろげる助成  
1年目  
実践

専門家を招いた  
学習会等 28回

青少年チームメンバー 50人

今年度計画の達成度 80%

目標達成度 40%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

メンバーが高校生なので全員が揃うことも困難な上、新型コロナウイルスの影響で会場開催も難しかった。

#### ■工夫した点

- ①オンライン機材の操作習得
- ②記録ビデオによる振り返り学習会や、オンライン定例会によるメンバー間の情報共有

〒866-0856  
熊本県八代市通町6-43  
電話 : 0965-32-5081  
E-mail : kankyo@eco-yukarin.info  
HP : https://www.ganbarokai.net/





(認特) 日本ハビタット協会

# ラオス国ルアンパバン県における 地域ネットワークによる環境教育の定着

活動地域  ラオス



中学校での植林活動

### 課題

ラオスでは、環境保全が喫緊の課題となっているが、若者たちが身の回りの環境問題について学び、保全技術を体系的に身につけることができる機会が少ない。

### 目標

ルアンパバン県において、環境教育が根付き、人々が自然と寄り添う暮らしを守りながら、生活を向上することが可能となり、次世代を担う子どもが安心して育まれる社会が実現する。



### 今後の展望

今年は、ロックダウンなどが行われる中で、工夫した活動ができたものの、住民の理解促進、及び今後の持続的な活動のための現金収入向上という面では課題が残ったため、2年目はこの課題解決に注力していきたい。

### 活動内容と成果

2020年まで実施していた前期事業を発展させ、今年は新たに4校に活動を拡大させた。これにより、生徒520人、教員12人が環境教育を受けることができた。新型コロナウイルス禍で、スケジュール等に変更があったものの、新規校でも、教員のリードにより、週に2回以上環境保全活動に取り組む時間が設けられ、校内の清掃や草木、学校菜園の手入れが行われた。また、地域住民の巻き込み以前から課題があったものの、農業大学の学生たちによる呼びかけにより、今年度は410人の村人が活動にゴミ分別に協力してくれた。



リサイクルバンクの設置

ひろげる助成

1年目

実践

ゴミ分別施設を整備 **6校**

周辺住民の参加 **410人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **75%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

ロックダウンなどにより、ワークショップの人数制限などがあり、予定していた住民を招いたワークショップが実施できなかった。

#### ■工夫した点

SNSグループなどを活用し、コミュニケーションが取れるよう工夫したことで、教員のモチベーションが増した。

〒102-0092

東京都千代田区豊町2-12

藤和半蔵門コープ103号

電話：03-3512-0355

E-mail：info@habitat.or.jp

HP：https://habitat.or.jp



(特非) 石川県自然史センター

# 自然環境調査に関する「いしかわ自然史塾」 人材養成プロジェクト

活動地域  石川県



研修会場ホテル前での受講生の集合写真

### 課題

- ①3か年計画でいしかわ自然史塾を開講し、自然史調査員を30人認定する
- ②自然史塾の修了生を核とする新しい自然史ネットワークの構築を目指す

### 目標

- ①初年度募集定員15人に対し、14人の受講生が集まり、9人を自然史調査員として認定
- ②自然史ネットワーク構築の意見交換会は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止



### 今後の展望

2年目は、能登地区を中心に受講生を募集する予定で、講師、会場、野外実習地を調整中であり、募集に当たっては、能登地区の高等学校の生物部会の先生などへの働きかけを行い、高校生の受講参加を積極的に進める。

### 活動内容と成果

- ①いしかわ自然史塾は、6講座を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大のため、計画の見直しを行い、5講座の開催となった。高校生2人を含む受講生14人のうち、9人を自然史調査員として認定した。(高校生は補習授業のため、一部欠席となり認定されなかった)
- ②自然史ネットワーク構築の意見交換会は、石川県が「まん延防止重点措置」の対象県に指定され、再三延長されたため中止となった。なお、広報・調査活動については、地元新聞での報道、機関誌への寄稿、広報用パンフの作成、石川県立自然史資料館でのパネル展の開催を実施した。



海士岬海岸での植生調査の実習

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

受講生 **14人**

自然史調査員認定 **9人**

今年度計画の達成度 **64%**

目標達成度 **30%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルス感染拡大のため、計画の見直しを余儀なくされ、講師との調整に努めたが、5講座の開催となった。

#### ■工夫した点

新型コロナウイルス感染対策として、広い研修会場を使用したほか、実習地への移動も極力大型バスを手配した。

〒920-1147

石川県金沢市銚子町441番地

E-mail：info-c@n-muse-ishikawa.or.jp

HP：https://ishikawanaturehistorycenter.com/



## (公財) 水島地域環境再生財団

# コンビナート地域におけるSDGsの実現を 目指した協働の取り組み ～大気汚染公害資料館設立に向けて～

活動地域 岡山県



水島メモリーズ

### 課題

公害をはじめとした地域にまつわる困難な歴史を、地域の価値に転換する。

### 目標

みんなの資料館としての公害資料館の実現。

### 活動内容と成果

公害の経験も含む地域の記憶の収集として、みずしま地域カフェを開催し、パブリックヒストリーの手法を用いて「水島メモリーズ」としてまとめて刊行した。「水島メモリーズ」は「ニューリンデン編」「朝鮮学校編」「水島臨海鉄道編」の3編をまとめ、地域内で配布した。公害の文脈を地域の中で受け入れられやすい形とするために、水島の記憶を様々な側面から掘り起こし、そのストーリーと公害との接点を見せるようにした。他にも公害患者のヒアリング、資料収集・整理、展示、教材開発、ホームページの整備の事業を行った。



みずしま地域カフェの様子

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

「水島メモリーズ」刊行 **14,000部**

地域カフェ開催 **3回**

今年度計画の達成度 **95%**

目標達成度 **35%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

「公害を伝える」というイメージの固定化(被害/加害構造の固定化)を壊し、多面的に公害を捉え直す。

#### ■工夫した点

「水島メモリーズ」及び教材、ホームページともに、視覚的にイメージを伝えられるように画像を多用した。



〒712-8034  
岡山県倉敷市水島西栄町13-23  
電話：086-440-0121  
E-mail：webmaster@mizushima-f.or.jp  
HP：https://mizushima-f.or.jp/



### 今後の展望

みずしま地域カフェ・「水島メモリーズ」の継続と、ミニ資料館づくりとしての患者会事務所の改装を行う。

## (認特) 水俣フォーラム

# オンラインと対面型の併用による水俣病の 普及啓発と人材育成

活動地域 東京都、熊本県、日本全国



オンラインと対面による水俣セミナーの様子

### 課題

昨今の世界中の問題に通底する「水俣病事件」を繰り返さない、また風化させないために、その経験を海外や未来を担う若い世代をはじめとする社会一般の人々に広く伝える。

### 目標

オンラインを含めた水俣病の経験の共有を軸に、若者を中心とした水俣病の導き手を新たに育成し、さらに国内外に向けてSNS等で情報発信する。

### 活動内容と成果

団体初の試みとしてオンラインと対面型の併用で水俣病講演会を2回、セミナーを3回開催した。総参加者数は2,100人(うち見逃し配信を含むオンライン視聴者1,540人)と、多くの人に「水俣病事件」について考える機会を提供できた。約7割がオンラインでの参加となったが、画面越しでも水俣病についての理解を深められたという声も寄せられた。また、SNSでの情報発信も新たに取り入れ、今年度は催しの案内にとどまらず、400人近くの継続受信者が支持、拡散等の協力を得られ、より多くの人に催し情報を広めることができた。



新たに開設したTwitterホーム画面

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

催し参加者数  
(オンライン含む) **2,100人**

SNS継続受信者数 **396人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **20%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルス禍での催しは、開催の可否、会場の収容人数制限、感染対策等、考慮すべき点が多く、臨機応変な対応が求められた。

#### ■工夫した点

オンラインではライブ配信と見逃し配信を設けたことで、同時性も持ち合わせながら、場所や時間の縛りがない参加も可能にした。



〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場1-34-12  
竹内ローリエビル404  
電話：03-3208-3051  
E-mail：mf1997@minamata-f.com  
HP：https://npo.minamata-f.com/



### 今後の展望

催しはオンラインと対面型を併用して社会情勢を注視しながら実施していき、SNSでは定期コラムのようにより中身のある発信とともに外国語での発信と問い合わせ対応の仕組みを構築する。



# 社会教育における環境教育・ESDと市民参加の推進

活動地域 日本全域



### 課題

環境教育・ESDや市民参加の促進は、全国各地で進められているが、多くは学校教育の実践であり、成人を対象にした環境教育・ESDは、重視されているとは言えない。

### 目標

社会教育におけるESDや市民参加への意識が高まり、議論が各自治体や組織内で主体的に行われていること、自治体の施策に反映され、実施を行政が支援していること。



### 今後の展望

第7回会議の報告会を開催し、国際的枠組みから国内・地域の社会教育にどういかしていくのか議論をし、各団体の既存の取組みを、成人学習・教育の価値を通して振り返り、捉えなおすサポートをしていく。

### 活動内容と成果

ナショナルミーティングには170人ほどが参加し、課題に対する意識喚起をすることができた。また、文科省と第7回ユネスコ国際成人教育会議の開催に向けた勉強会を開催し、対話を重ね、ナショナルミーティングへの登壇も実現した。ウェブページでは、情報を掲載し、社会教育への意識を高めていくためのプラットフォームづくりを行っている。社会教育における環境教育やESDへの意識をさらに高めていくためには、省庁への働きかけも必要である一方、ESDの普及を促す実践者用のツールの必要性が見えてきている。



ナショナルミーティングの様子

プラットフォーム助成  
**1**年目  
知識の提供・普及啓発

実践共有会(ナショナルミーティング)の実施	1回
文科省との対話	4回
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	33%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

省庁へのアドボカシーの難しさを実感しつつも、つながりや蓄積を駆使することができた。

#### ■工夫した点

団体内でも専門家による勉強会を実施し、組織全体として展開していくことで、本事業の理解を促した点。

〒112-0002  
東京都文京区小石川2-17-41-3F  
電話：03-5844-3630  
E-mail：main@dear.or.jp  
HP：http://www.dear.or.jp/



## アイサーチ・ジャパン(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)

# 西日本におけるイルカ・クジラに関する教育・啓発活動の充実と普及

活動地域 大阪府、兵庫県



ビーチクリーンアップでのワークショップ

### 課題

西日本において、身近にイルカ・クジラが暮らす海があることがあまり知られておらず、海の問題を自分事として捉えた取組みが普及されていない。

### 目標

西日本におけるイルカ・クジラに関する教育・普及啓発活動を定期的に行い、その活動が安定して行えるよう組織体制を確立する。



### 今後の展望

活動する中で、大阪・兵庫は海と密接に関わる地域であること、けれども身近な海にイルカ・クジラが生息していることは認知されていないと実感した。引き続き、地域と連携するなどし、普及・啓発に尽力したい。

### 活動内容と成果

海やイルカ・クジラを想いながら親子で楽しく海岸のごみ拾いを行うイベントや、ホエールウォッチングガイドや調査員による講演会を開催。また、イルカ・クジラを通して自然環境を考える子ども向けワークショップの実施と環境に優しい生活の提案を地域に密着したイベントにて実施した。助成を受けたことにより、関西圏での活動回数が大幅に増えた。団体の認知が高まり、会員やボランティアスタッフの西日本在住の方による新規参加が増加。また、企業や他団体からの活動実施やコラボレーションのお問合せも多数いただいた。



イベントでのクラフトワークショップ

LOVE BLUE助成  
**1**年目  
知識の提供・普及啓発

イベントの延べ参加者数	184人
イベント及び研修等の実施回数	10回
今年度計画の達成度	60%
目標達成度	30%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍により先を見据えた計画が立てづらく、特に自主開催においては実施場所及びスタッフの確保が困難であった。

#### ■工夫した点

プログラムをオンラインで実施することになり、既存のクラフト系ワークショップの指導要領をオンライン向けに改編した。

〒211-0068  
神奈川県川崎市中原区  
小杉御殿町1-695-1-302  
アトリエウェイブ内  
電話：080-5426-8446  
E-mail：contact@icerc.org  
HP：https://icerc.org/



## 天草海部

# SDGs (14) を目標に、天草の海の生物多様性を学ぶ！先端技術を活用した人材育成

活動地域 熊本県



指導者養成講座「水産系ガイド養成講座」開催

### 課題

地域住民の海への関心が低く、定量的な海の生物調査はほとんど行われていない。海を活用する人材に限られており、子どもたちが地域の海について学ぶ機会は限られている。

### 目標

天草の海の生物多様性を明らかにし、天草の海を学ぶ教材を整備する。水産業が持続的に行われるなど、海を活用し、保全する人材を増やす。



### 今後の展望

干潟やアマモ場だけでなく、磯など多様な沿岸域の生態系で生物調査を実施する。先端技術を活用した水質調査も取り入れ、海の調査を発展させる。VR動画教材を製作し、教材を活用した指導者養成を進める。

### 活動内容と成果

- ①天草市栖本町及び羊角湾において生物調査を2回実施し、Facebookのライブ配信を行った（リモート配信合計856PV）。御所浦のアマモ場で水温・照度計システムを構築し、環境調査を行った
- ②動画教材1本「みんなに伝えたい天草の海 羊角湾干潟編」を製作しHPに公開した。羊角湾の生物マップを制作及び指導者向けの海のデジタル教材「天草・海の冒険サポーターズテキスト」第8・9章を制作し、HPに公開した
- ③「水産系ガイド養成講座」を開催し、9人の指導者を養成した。海洋教育サミットで本成果を発表した



羊角湾干潟生物調査

つづける助成

2年目

知識の提供・普及啓発

干潟生物調査	2回
水産系ガイド養成講座開催	7回
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	85%

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルスの影響が長引き、イベントでは集客ができなかった。教材体験会や成果発表などの対面で普及する場も少なかった。

#### ■工夫した点

干潟生物調査はドローンを用いて動画を撮影し、リモート配信を行った。水産系ガイド養成講座は対面とリモートの両方で開催した。



〒861-6303  
熊本県天草市栖本町馬場215  
E-mail : amakusaumibu@gmail.com  
HP : https://umi-bu.com

## (特非) ななしんぼ

# 郡上市明宝地区における森の恵みの有効活用

活動地域 岐阜県郡上市



子ども向け木のスプーンづくり講座の様子

### 課題

高齢化により、林地や里山環境を維持する人手が減少していることから、獣害が深刻化し、森の恵みに感謝していただく命のサイクルが途絶えつつある。

### 目標

鹿の角や皮、森の素材を活用した商品開発やワークショップを通し、命を学ぶ機会をつくり、身近な里山とのつながりを回復させた小さな経済循環を目指す。



### 今後の展望

事業の継続によって、持続可能な里山環境と暮らし方に対する若者の関心が高まってきた。今後は地域の担い手の情報交換の場や、学びの場を定期的に開催し、ネットワークづくりにも力をいれていきたい。

### 活動内容と成果

- 「森と命のつながり」を伝える活動
- 地域の素材を使用した自然体験・キャンプ関連商品開発 (10点)
  - 講座、ワークショップの開催 (6回)
  - 情報交換会の開催 (6回)
  - キット商品のニーズ調査、キット商品の作り方レクチャー動画の制作
- 地域内サプライチェーンの確立
- 植樹イベントや自然体験ワークショップを開催。年間を通じて都市部から人々を呼び込む仕組みづくりを行った
  - 鹿革の販売体制の見直し
  - 道の駅明宝のオンラインショップで3人の作家が、木や鹿革を利用した商品の販売を開始



フセ網と箱メガネを使った川遊びの様子

つづける助成

2年目

実践

講座、ワークショップの開催	6回
参加者人数 (延べ)	150人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	75%

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

地域の木を使った商品を作るにあたり、大きな木を製材する工程に苦勞した。関係団体に協力してもらい、作業を進めた。

#### ■工夫した点

木材の乾燥実験を行い、材料の活用方法を模索した。作り手とも意見交換を行い、材料の供給の仕組みを考えた。



〒501-4307  
岐阜県郡上市明宝二間手361番地  
電話 : 0575-87-3799  
HP : http://nanashinbo.com/



(認特) 瀬戸内オリーブ基金

地球規模でのゼロエミッションを実現するための、豊島産業廃棄物不法投棄事件の歴史的資料の活用。

活動地域 香川県



整理された不法投棄廃棄物のサンプル

課題

日本最大規模の不法投棄事件であり、日本が循環型社会に転換するきっかけとなった豊島事件の意義と教訓を風化させないために、次の世代に引き継ぐ。

目標

豊島事件の継承を行い、法律だけでなく市民・企業のごみや不法投棄の意識を変え、不法投棄が二度と起こらない市民・企業意識を醸成させる。



今後の展望

豊島事件を教訓に不法投棄をなくし持続可能な社会への転換(ゼロエミッションの実現)を目指し、今後も当基金のミッションとして直轄事業の一つとして豊島事件の教訓の継承に取り組む。

活動内容と成果

- ユニクロスタディツアー(豊島事件を含めた環境保全についての学び)の際にメディア招致を実施した結果、4社報道に加え朝日新聞社説に掲載
- 資料の整理、展示レイアウトの変更の実施
- 公害資料館ネットワークに加入し、パンフレットやウェブサイトで紹介
- 資料の更新並びに、資料館の改修工事として床の撤去工事を施工
- 見学者資料としてリーフレットを作成
- 旅行会社への修学旅行の資料館見学の働きかけを行い今後受け入れを予定
- 過去の動画の編集作業を行い、今後YouTubeへアップを予定



スタディツアーの様子

つづける助成

2年目

知識の提供・普及啓発

テレビ局・新聞社への働きかけ **10社**

見学者の受け入れ **429人**

今年度計画の達成度 **50%**

目標達成度 **50%**

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

資料の整理・展示にあたっては、関係者に協力を呼びかけて、プロジェクトチームを結成し取り組んだ。

工夫した点

新型コロナウイルス禍においても大学や企業との連携に取り組んだことにより、予想以上の効果が得られた。

〒761-4661  
香川県小豆郡土庄町豊島家浦  
3837-4  
電話：0879-68-2911  
E-mail：info@olive-foundation.org  
HP：http://www.olive-foundation.org/top/



(特非) 地球のしごと大學

持続可能な林業及び農業人の育成事業を行う「地球のしごと大學」の運営と卒業後の実践へ向けた支援

活動地域 埼玉県、奈良県、千葉県、岩手県



自伐型林業学部 伐採研修

課題

【林業】①林業が事業として成立していない、②林業就業者が減少している  
【農業】③農業により自然環境が破壊されている、④農業就業者が不足している

目標

荒廃する日本の森林に対する健全な森林管理及び自然破壊に沿った豊かな土壌の創生・保全を目的として、持続可能な環境共生する林業及び農業人の育成事業を行う。

活動内容と成果

- 【林業】
- ①自伐型林業学部の開催(埼玉県、奈良県)参加者47人。林業実践者を9人育成できた
  - ②伝統構法建築学部開催(埼玉県)参加者16人
  - ③林業フォーラムの開催(2022年3月開催)申込者190人
- 【農業】
- ①循環型農業学部の開催(千葉県、岩手県)参加者30人。実践者を17人育成
  - ②耕さない田んぼ学部の開催(千葉県)参加者14人
  - ③農業フォーラムの開催(2022年1月開催)申込者333人



循環型農業学部 畑での実習

つづける助成

2年目

知識の提供・普及啓発

林業実践者の育成 **90%**

生態系多様性を守る農法の理解 **100%**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **80%**

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルス禍の影響で、講義日程の変更を行わなければならないことが度々あり、講師及び受講生との日程や講義方式の調整に苦勞した。

工夫した点

フォーラムをオンライン開催にし、アーカイブ視聴もできるようにしたことにより、昨年度より多くの方に参加いただけた。

〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町  
3-21-1042  
E-mail：chikyunoshigoto@gmail.com  
HP：https://chikyunoshigoto.com/



## (特非) いきものいんく

# 北欧の教育農場をモデルとした 放課後自然塾(仮)を開講する

活動地域 北海道



### 課題

支笏洞爺国立公園を身近に有しながらも、観光優先で、地域住民の環境保全への意識も非常に低い。学校教育や社会教育活動においても十分な環境教育の場が提供されていない。

### 目標

年間を通して、より深く自然や生態系について学べる場づくり。観光や経済発展優先ではなく、環境問題を自分事として考えられる人々が地域のなかで増えるよう働きかける。



### 今後の展望

さらなる受講生獲得へ向けSNSやチラシにて広報予定。川や湖学習を重点的に行い、地域の外来種や環境問題をより深く学べるプログラムを実施。テキストブックを作成し、地域の環境保全への意識向上に繋げたい。

### 活動内容と成果

小学生以上を対象とした放課後の「いきもの塾」を開講。木曜・金曜教室あわせ28人が受講した。ツリーハウスつみきを拠点に生きものつながりや外来種、ロードキル・バードストライクなど人間が引き起こす環境問題について学習したり、川や海でトカゲやヘビ、野鳥を観察したり、馬耕や植樹、稲刈りをしたりと環境教育や生きもの学習を軸に農業や歴史に至るまで毎週様々な体験プログラムを実践した。6人の外部講師へ依頼し、より専門的な内容の授業を行った。3月には受講生による活動報告展を開催し、これまでの学びを地域へ発信した。



ひろげる助成

2年目

実践

いきもの塾受講者 **28人**

SNSでのリアクション **2,956件**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **55%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で、開講が8月下旬に延び、田植えや苗づくり、川や湖でのシュノーケルの時期を逃した。受講生の欠席も続いた。

#### ■工夫した点

田植えはあらかじめスタッフで行い、今年度は稲刈りのみを実施。川学習では、遊泳はせずにも網で生きものさがしなどを行った。

〒052-0005

北海道伊達市清住町47番地1

電話：080-1886-0698

E-mail：info@ikimonoinc.jp

HP：https://ikimonoinc.jp/



## 応用地質研究会ヒ素汚染研究グループ

# バングラデシュの水供給困難地域における 安全な水利用のための環境教育

活動地域 バングラデシュ



### 課題

バングラデシュの水供給困難地域で、安全な水利用の持続的な実現のために、子どもたちが主体的に関わる環境教育実践の支援、環境教育モデルの普及、調査・解析・広報を行う。

### 目標

目標は住民主体の給水施設の維持管理と持続的利用であり、子どもたちの実践活動や環境教育はその目標達成のための重要な手段として位置づけている。



### 今後の展望

研修を受けた教員たちにより生徒を対象とした水利用啓発セミナーが実施され、その成果を子どもたちが地域に伝えていく。さらに学校、住民、地方行政関係者の参加によって、経験交流会とワークショップが実施される。

### 活動内容と成果

ヒ素汚染地域と塩化地域で実施した教員研修に参加した教員は、趣旨・内容を理解し環境教育実施に積極的であった。住民主体の給水施設維持管理支援は18施設のうち13施設481世帯が適切な維持管理によって安全な水を利用できている。塩化地域でも5か所の停止した給水施設の住民に対して、利用者組合組織化支援と施設修繕作業を行うことができた。実態調査ではヒ素汚染地域、塩化地域の合計10校で教員20人、生徒40人に聞き取り調査を行い、学校での水利用啓発セミナーに向けた課題、今後の展望を知ることができた。



ひろげる助成

2年目

実践

安全な水利用のための  
教員研修 **20人**

維持管理支援による  
給水施設の利用 **3,680人**

今年度計画の達成度 **50%**

目標達成度 **40%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルスの影響により学校閉鎖が続き、学校関連の活動が制限された。給水施設維持管理の状況把握が難しかった。

#### ■工夫した点

現地NGOとオンライン会議を定期的に行い、状況把握、意見交換に努めた。オンラインによる教材提供で教員研修を支援した。

〒350-2201

埼玉県鶴ヶ島市富士見4-2-7-306



(一社) 畑とキャンプの自由な学校みんなの学校

「子どもとつくる。未来の地球プロジェクト」  
SDGsスクール活動の実践

活動地域  大分県大分市



廃材プランコを作る

課題

大分県のフリースクールで受け入れきれない数の不登校児童が存在する。彼らの学ぶ機会を確保し、活動を周知するとともに、子どもたちの自己肯定感を取り戻す。

目標

体験的に活動をすすめることで、環境や自然から学びSDGsへの意識を深め、主体的に活動へ参加することで自身への理解を深め自己肯定感を取り戻す。



今後の展望

子どもたちが主体的に学ぶ環境をつくるために、施設と人材面の拡充を予定。また大分県のフリースクールとの連携や協議会設立で民間の学ぶ機会の確保や質向上を図る。

活動内容と成果

- SDGsプロジェクトを子どもたちと行い、子どもたちの提案で修学旅行や宿泊のキャンプの活動を行った
- フードロス削減の活動では、フードバンクを活用したり、周辺の耕作放棄地を活用して団体内での食料自給率を上げた
- SDGsイベントでは、264人の参加があり、より多くの市民が体験的にSDGsに関する活動へ参加できた
- 昨年度より、参加者数・活動数は大幅に増えた。また活動に参加する子どもたちが自己肯定感を取り戻すシーンが多かった



生き物みつけたよ

ひろげる助成

2年目

実践

SDGsスクール参加者 **1,353人**

SDGsイベント参加者 **264人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **80%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

参加者はこちら側のコンセンサスをとることに苦労した。日常的に活動に参加する意義をこちら側も言語化する必要を感じた。

■工夫した点

施設を充実させることで活動面の幅が広がった。またボランティアメンバーの育成と募集をすることで作り手が増えた。

〒870-0879  
大分県大分市金谷迫1052-6  
電話：070-4480-1328  
E-mail：minnananogakkou@gmail.com  
HP：http://min-nano.2-d.jp/



(特非) ラブグリーンジャパン

ネパール・タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる

活動地域  ネパール



野ざらしのゴミ集積場を分別場へと改修中

課題

開発による都市化が進み環境問題が喫緊の課題であるネパールだが、タハ市においても環境の保全について何ら対策が取られていない。

目標

地域全体で里山の景観を保全し、持続可能な里山を維持していくため、エコツーリズムをととして地域が活性化する基盤づくりを行う。



今後の展望

清掃活動を行うローカルグループのモチベーションを維持するため、主体間のネットワークを構築し、「自然を保全することにより地域が発展する」という構図を活動を通して示したい。

活動内容と成果

- 学校環境教育活動 8校 233人参加
- その他啓発活動 6回 138人参加
- パンフレットを作成し、啓発活動時に配布した 1,000部 (昨年作成したビデオを使用した)
- 啓発看板を8基設置した
- 清掃活動 8回実施 163人参加 2,420kg回収
- 植林 172本
- 水質・土壌調査を各1回実施
- 分別場に改修を行った 1基
- コンポスト研修を行った 21人参加
- バイオガスを併設したトイレを10基設置
- ホームステイ研修を開催した 延べ99人参加
- モデルハウスを10施設整備した



コンポスト研修

ひろげる助成

2年目

実践

ゴミ収集量 **2,420kg**

イベント参加人数 **756人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響により、スケジュール調整や現場の把握に苦労した。

■工夫した点

新型コロナウイルス感染症対策により、研修やプログラム時に大人数での開催にならないように、回数を増やし小規模で行った。

〒247-0063  
神奈川県鎌倉市梶原3丁目18-10  
電話：080-7968-0059  
E-mail：lgjkamakura@nifty.com  
HP：http://lovegreenjapan.org/



## (特非) 田舎のヒロインズ

# 自然豊かな日本の農村を守るために 女性農家が取り組む次世代・消費者教育

活動地域  日本全域



現役女性農家と現役女子大生による出前授業

### 課題

日本の農村人口や農業者数が減っており、将来的に農地や里山を維持する人手が確保できないと、食糧も生物多様性が失われ、持続可能な社会が実現できなくなる。

### 目標

都市と農村が協力し合って持続可能な生産と消費が「当たり前」となった社会。またそれを可能にするため、意識が高い生産者を確保するための次世代育成体制の確立。



### 今後の展望

質の高い教育ができる仲間を増やすため、月1セミナーを今後も続ける。それを受講した女性農家が大学等の教育機関や消費者団体に向けて環境教育ができるようにしていくことで、里山を守るという上位目標に近づける。

### 活動内容と成果

2020年度に好評だったオンラインファームツアー(ライブ配信)を週1ペースで実施。教育機関への出前授業もオンラインがメインとなったが、一部、対面式の授業ができた。農業を営むことで維持されている自然(里山)の大切さを伝えることができる女性農業者を増やすために、女性農業者を主なターゲットとした月1のオンラインセミナーも実施。学生や消費者団体の関係者、公務員なども参加してくれ、新たな広がりを見せた。新型コロナウイルスの感染拡大により企業研修が実施できずにいるものの、学生の受け入れ実績は計画を上回った。



講師になれる女性農家の数を増やすセミナー

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

オンラインファーム・セミナー等 **78回**

学生受入れ **63人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **50%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

オンラインファームツアーを毎週配信するための手配(人を見つけて依頼し、配信の趣旨や方法を伝達)。悪天候や電波不良への対処。

#### ■工夫した点

電波状況や天候が悪いと予想される場合、録画配信バージョンにした。人を集めるのではなく、出向いて普及啓発活動を行った。

〒869-1501  
熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併1283-3  
電話: 080-3987-2160  
E-mail: inakano.heroine@gmail.com  
HP: <http://inakano-heroine.jp/>



## (特非) 丸瀬布昆虫同好会

# 「虫のいえ」を学校に広げよう

活動地域  北海道



「虫のいえ」に木を入れました

### 課題

これまで学校での「虫」の学びは、教科の中での学習であり、学校周辺に集まる理科の教科書の中の虫の学習が中心で、写真や標本で終えることが多い。虫に触れない子も多い。

### 目標

市街地の学校に「虫のいえ」を設置し、児童のすぐそばの環境にまだたくさんの生き物がいることを知る。まだ残っている自然を虫を通して体感し、それを守る心を育てたい。



### 今後の展望

今年度は、市街地の学校に設置した。児童数が多く、思っていたより多くの虫を採集した。昨年度と種類の変化もあり、気象との関係もあると考えられる。次年度は、もう1棟住宅地の学校に設置する。

### 活動内容と成果

春に市街地の学校の校庭に「虫のいえ」を設置した。子どもたちと一緒に木を入れ虫が集まる環境を作った。このことにより身近な虫へ関心が高まり、秋の木出しの時はもちろん、普段でも、たくさんの虫を観察・採集してくれた。事前事後の調査比較では虫に触れる子、飼育する子が増加した。また、子どもたちの積極的な取組みで、採集数や種類が多く、その中には北海道では珍しい昆虫もいた。採集した昆虫は同定し、標本にして学校に展示した。同じ町内の2校で採集した虫との種類の違いもみられ、今後の取組みにいかせるものとなった。



標本を展示。「ほくのつからえた虫だ」

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

「虫のいえ」制作維持管理 **3棟**

虫のセミナー実施 **45人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **70%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で、学校・学級閉鎖があり、同好会の参加者を絞らざるを得なくなった。また学校との連携も難しかった。

#### ■工夫した点

学校との連絡相談は、電話やメール・郵送で行い訪問回数を絞った。活動は感染の合間をぬって行った。

〒099-0203  
北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町3番地  
電話: 0158-47-3732  
E-mail: asari39@gmail.com  
HP: <https://www.maru-mushi.com>





## インドネシア、バンドン市の高校生に対する 参加型総合環境教育プログラムの開発と実践

活動地域  インドネシア



教員トレーナーによるワークショップ

### 課題

バンドン市の高校生が学校・家庭で直面する環境問題を多面的に理解し、低コストで実効ある解決策を見出す方法を、参加型活動を通じて定着させ、全ての高校に拡大する。

### 目標

参加型総合環境教育をバンドン市各学校が自主的に継続し、生徒が好事例に着目して、学校・家庭・地域で参加型環境改善活動を行い、実証的な変革を継続的に実践する。



### 今後の展望

イスラム教校とキリスト教校の成果を引き継いで宗教ネットワークを通じて他校への拡大を目指すとともに、公教育機関が本プログラムを受け入れる準備を行う。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

### 活動内容と成果

イスラム教Assruur校とキリスト教SMAK校において、参加型総合環境教育=WINDYを実践し、Assruur校300事例、SMAK校220事例の改善成果を収集した。また同プログラムを指導する教員トレーナーを、SMAK校で18人養成しトレーナーマニュアルも提供した。これによりプログラム実施団体LIONが直接指導しなくても、SMAK校の教員らの手で同プログラムが実施できる体制ができ、その後全校生徒対象のWINDY改善活動が行われ、優秀改善が表彰された。



使用済みペットボトルの再利用を行う

参加生徒数	245人
改善事例収集	520件
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	50%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍で学校訪問ができなくなる月が出たため、いくつかの会議とワークショップはリモート開催とした。

#### ■ 工夫した点

学校行事と参加型総合教育(WINDYと命名)を結合させ、クリスマス週をWINDY週間とした。

Jalan Manjah Beurum Rt/Rw 02/03 Desa Cileunyi Kulon, Kecamatan Cileunyi, Kabupaten Bandung, Provinsi Jawa Barat  
電話：+22-63735095

E-mail : ajatsudrajat.lion@gmail.com  
HP : http://lionindonesia.org/



## (一社) スピリット・オブ・セイラーズ

### Ocean College

～海を学び、地球を感じる体験～

活動地域  愛知県、日本全国



清掃活動を通年全国各地でオンライン共有した

### 課題

2016年度に全国の自治体が回収した海岸漂着物はおよそ3万トン。漂流ゴミは船のプロペラにからまり航行トラブルの元となる。

### 目標

海上漂流ゴミ、海岸・港への漂着ゴミを減少させ、行動の元となる環境保全への意識向上を目指す。海洋体験活動参加者や船に乗る人が発見したゴミを拾うようになる土台を作る。



### 今後の展望

今後も、引き続きオンラインを通じた清掃活動を行う一方で、新型コロナウイルス禍による社会情勢との兼ね合いを見ながらも、船に参加者の方と乗り漂流ゴミ・漂着ゴミの清掃活動を行い、環境保全への意識向上を目指す。

LOVE BLUE助成

2年目

実践

### 活動内容と成果

- 清掃活動をオンラインで毎月実施。参加者がそれぞれの居住地の近くで清掃活動を行い、その様子や感想、拾ったゴミの量をSNSにアップして全国でゴミ拾いの輪を広げていった
- 船に乗り、海上での漂流ゴミ清掃を行った
- [水辺の自然環境教育Project Wild]を題材に、自然環境と自分たちの行動について考える機会となるオンライン動画を配信。海ゴミ・海洋プラスチック・水の汚染・水辺に生きる生き物を中心とした問題をオンラインで考えながら学べる機会を作った



船で漂流ゴミを拾う参加者

拾ったゴミの量	2,563.78kg
参加者数	412人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	70%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍の影響で、活動の予定を変更することや、告知ができないことがあった。

#### ■ 工夫した点

清掃活動をオンラインで共有することで予定通り行うことができ、また船の活動は予備日を多く設け小規模でも開催できるようにした。

〒232-0061  
神奈川県横浜市南区大岡  
4-15 B502

E-mail : sail@spiritofsailors.com  
HP : https://spiritofsailors.com



# プラスチックごみ削減普及啓発プロジェクト

活動地域  東京都、埼玉県、他

LOVE BLUE助成

2年目

知識の提供・普及啓発

普及啓発イベント	2回
出前授業の実施	6校
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	50%



出前授業の様子

## 活動内容と成果

- 前年度実施したアンケートの結果を元に、6校で海や川ごみ削減のための出前授業を実施した。実施の際には学校周辺地域で活動されている方にもサポートを依頼し、地域での環境学習の広がりを視野に入れて臨んだ
- 子どもたちが各自で自分ができるごみ削減の行動を考えた
- 普及啓発ツール教材の検討会を3回開催し、役立つツール等を検討した。地域のリーダーが啓発する際に役立つようなポイントブックの必要性が議論された
- 啓発ツールを一部更新し、さらに貸し出ししやすい態勢を整えた



普及啓発ごみ拾いの様子

## 課題

川や海ごみの問題は、まだ自分ごととして捉えられず、その対策の具体的な行動に至っていない人が多い。また、対策のためのごみ削減普及啓発のツールも十分でない。

## 目標

プラスチックごみ削減の啓発のための出前講座の実施、及び啓発ツールの活用などを通じて、海洋プラスチックごみ問題を自分ごととして捉え行動できる人を増やす。

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

普及啓発ごみ拾いのうち1回が荒天により中止となった。高校生中心の活動のために延期日調整を行ったが叶わなかった。

### ■工夫した点

出前授業に出向く前には、学校周辺のごみ状況を見下して、子どもたちにとっての身近なごみと海ごみを結び付けられるようにした。



今後の展望

出前授業や地域の出前講座を実施するのに役立つようなポイントブックを作成する。それを活用し、すでに川や海ごみについて学んだ人がリーダーとなり地域で普及啓発を進め、ごみ削減啓発が広く展開されることを目指す。

〒132-0033

東京都江戸川区東小松川

3-35-13-204

電話：080-8167-8577

E-mail：kawa53@kawagomi.jp

HP：https://kawagomi.jp/





# みちのく潮風トレイル 普及・啓発事業

活動地域  青森県、岩手県、宮城県、福島県

復興支援助成

3年目

知識の提供・普及啓発

データブックの販売数 **298冊**

フォーラムのメディア掲載回数 **5回**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**



みちのく潮風トレイルフォーラム

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍で、フォーラムや整備活動等の現地での活動が人数の制約を受けたり、開催が延期か判断を迫られるなどその時の状況に応じて対応する必要があったこと。

### ■工夫した点

地元メディアへの取材依頼以外にも、講師経由で発信してもらって広報することができたこと。オンラインでフォーラムを開催し、遠方の方にも視聴いただけるようにしたこと。

## 課題

みちのく潮風トレイルは2019年6月19日に全線開通を迎えたが、まだ認知度が低く、沿線地域でのハイカーの受入体制が整っておらず、整備の行き届かない路体もある。

## 目標

地域住民のおもてなし精神を醸成してハイカーの受入体制を整えるとともに、安全・安心に歩くための情報を提供して、より多くのハイカーが歩きに訪れる道にする。

## 活動内容と成果

- みちのく潮風トレイルの情報を発信するホームページ(日英版)を作成・公開した
- 沿線事業者を訪問して協力を依頼し、ハイカーにサービスを提供するMCTサポーターズ74件をHPに公開した
- 岩泉町(2日間)、気仙沼市、洋野町、石巻市、名取市で地域住民向けのフォーラムを開催し、計122人に参加していただいた
- 整備活動を16回実施するとともに、整備ボランティアに合計98人(個人・団体)登録いただいた。このうち、10月には生命保険会社主催で行っていただく清掃活動のサポートをした



生命保険会社主催のトレイル清掃活動



みちのく潮風トレイルサポーターズの1人

## 全助成期間の活動を振り返って

地球環境基金の助成を受け、①データブックの作成、②ホームページの作成、③サポーターズの周知、④フォーラムの開催、⑤整備ボランティア体制の構築、という五つの活動を行った。これにより、ハイカーが安全・安心に歩くための情報提供と地域の受入体制強化(路体整備・おもてなし文化の醸成)が実現し、さらには、協力していただく団体・個人との繋がりができて、活動の幅を広げることができた。

〒981-1232  
宮城県名取市大手町5丁目6-1 名取市民活動支援センター内  
電話：022-398-6181  
E-mail：info@m-tc.org  
HP：https://m-tc.org/



## 今後の展望

みちのく潮風トレイルの取組みを理解し、協力してくださる団体・個人が沿線各地に広がってきている。行政、民間団体、企業、地域住民などたくさんの皆さまと協力しながら、トレイルを維持していきたい。また、たくさんの方に歩きに来ていただいて東北太平洋沿岸の交流人口を増やし、歩き旅の体験を通じて、この地域のファンを増やすとともに環境保全の芽を育てていきたい。

## 北陸におけるSDGs達成に向けた ESDプログラム開発

活動地域 石川県

つづける助成

3年目

実践

SDGs達成に向けた  
授業の実践校 **150校**

北陸SDGs・ESD  
連絡協議会開催 **3回**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **80%**



富山市立楡原中学生・岩瀬浜で海洋ゴミ調査

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍や学校現場の多忙化で連絡調整が難しく、対面の研修会もできず計画通りに活動ができなかった。

#### ■ 工夫した点

オンラインでの会議・研修会・セミナーに変更した。そのため、質の高い個別の支援が増えた。また、Zoomではアウトブレイクルームを活用した。

### 課題

学校や地域社会ではSDGsとESDの関係に対する理解に混乱があり、具体的にどのようにSDGsを達成するためのESD教育を行うのかの具体的な方策を提示し、普及する。

### 目標

北陸においてSDGsが達成され、持続可能な地域社会が実現している。SDGs達成に向けて授業を実践している学校が増え、推進のためのプラットフォームが機能している。

### 活動内容と成果

- 北陸ESD推進コンソーシアムと綿密な連携の下、『北陸版SDGs・ESD実践ガイドブック』及び改訂版を作成し、北陸3県のユネスコスクールや地域ユネスコ協会等のステークホルダーに配布し、SDGs達成のためのESD教育の促進、普及の研修会・セミナーを実施した
- 北陸3県のSDGs・ESD推進するステークホルダーを委員とした「北陸SDGs・ESD推進協議会」を設立し、情報・経験を共有し、SDGs達成のためのプラットフォームとした



勝山市立勝山南部中学校・班での話し合い

### 全助成期間の活動を振り返って

3年間で、『北陸版SDGs・ESD実践ガイドブック』及びその「改訂版」2冊を作成し、このガイドブックを活用して普及・啓発活動ができた。また、ステークホルダーの連携・協働を目指した「北陸SDGs・ESD推進協議会」を設立し、SDGs・ESD活動のためのプラットフォームができた。これからが本当の始まり、協働の事業開始である。



SDGs・ESD実践ガイドブック I・II

〒921-8105  
石川県金沢市平和町1-3-1 石川県平和町庁舎  
HP : <http://unescoi.exblog.jp/>



今後の  
展望

地域ESD活動推進拠点として、北陸ESD推進コンソーシアムと連携・協力をより緊密にして、本事業の発展・継承を図る。特に、北陸SDGs・ESD推進連絡協議会の企画・運営・事務を担っていく。また、新型コロナウイルス終息後にベトナム・カンボジアへのスタディツアーを再開し、ユネスコスクール等への出前授業も再開したい。この事業でステークホルダーとの連携を学び、今後一層協働してSDGs活動を促進したい。



# 熊本県内の生活困窮家庭と被災した子どもたちの総合環境教育

活動地域 熊本県

つづける助成  
**3年目**  
実践

キャンプの参加者数	<b>32人</b>
体験活動の参加者数	<b>472人</b>
今年度計画の達成度	<b>70%</b>
目標達成度	<b>80%</b>



リサイクルプラザでの紙すき体験

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による、

- 受入れ休止施設が多い中での体験活動受入れ先の確保
- 屋内での環境教育活動の実施方法

### ■ 工夫した点

- キャンプについては、予約や日程変更等について柔軟な対応ができる日帰りキャンプとした
- 屋内活動では、換気をし、アクリル板を設置し実施時間をずらして3密を避けた

## 課題

生活困窮世帯、人間関係に困難を抱えた子どもたち、子どもたちの生活リズムをマネジメントできない親への支援が不足している。さらに熊本地震によるPTSDも加わっている。

## 目標

子どもたち、ひいてはその家庭の環境意識が向上して、環境保全に配慮した暮らしが家計を助ける一助になることを知るとともに、子どもたちが主体的に生きる力を身に付ける。

## 活動内容と成果

- 福岡市クリーンパーク臨海リサイクルプラザを訪問し、ごみ処理工程の説明を受けるとともに、雑紙をリサイクルしてハガキを作る紙すきを体験した。紙すき道具を使えば、不要になった物で有用な物を作れることを学んだ
- 環境保全型農業における植え付け・収穫を通して自分の思い通りにならない自然の奥深さを改めて知り、自然と共生することの難しさと大切さを学んだ
- エコな生活が家計を助けることを知り、主体的に実践するようになるのと同時にそれを保護者などに伝えるようになった



「食べられる野草、雑草」についての学習



椎茸の駒打ち作業体験

## 全助成期間の活動を振り返って

環境教育活動への参加が、環境意識のみならず生きる力の向上にも好影響を与えることがわかった。子どもたちは、環境保全の必要性や主体的に考え動くことの大切さなどを知り、大人も巻き込んで、意識や行動に変化がみられるようになった。

日々の生活に追われて環境に配慮する余裕がない家庭の子どもたちについて、ベースにある子ども食堂の取組みと相まって、いわゆる「心の貧困」のさらなる緩和に繋がったと感じている。

〒865-0064  
熊本県玉名市中1835-1  
電話：0968-82-7585  
E-mail：rupa@sound.ocn.ne.jp  
HP：http://rupa26.wix.com/npo-rupa



## 今後の展望

この3年間の環境教育活動への参加を通して、子どもたちの環境意識が向上し、主体的に考え行動する意欲がみられるようになった。課題を抱えた子どもたちの成長の歩みは決して速くないが、子どもたちの成長欲求に応え、子どもたちが本心から興味・関心を持つ活動プログラムを子どもたちと一緒に考えていきたい。

## 中山間地域の再生に資する 総合的な地域環境教育実践活動

活動地域  鳥取県



地域団体と多世代参加による実践講座の様子

### 課題

鳥取は自然に恵まれ、地域エネルギー利用を中山間地域の再生の鍵にできる可能性があり、多様な地域活動が行われている一方で、耕作放棄地の増加や森林荒廃が進んでいる。

### 目標

分野横断的な人材を育成し、実践を支援する体制が構築されることにより、鳥取で地域エネルギー事業も取り入れた、中山間地域の再生に取り組む地域・主体を増やす。

### 活動内容と成果

- 人材育成講座を「衣食住の地産地消」を軸に開催し、視察研修を実施した。地域の再生、未来ビジョンを考える上映会や「持続可能な未来への移行」連続講座を開催した。計33回開催し、延べ442人が参加
- 地域課題の解決に役立つ地域エネルギー利用として、独立型等太陽光発電を制作・設置、教育団体施設、里山活動拠点等に発電設備を参加型で設置し、地域の主体的なエネルギー活用の実践例を4か所増やすことができた
- 中山間地域の自然と共生する暮らしの記録・保存・継承活動として小冊子を制作した



自然と共生する暮らしの記録 研修の様子

つづける助成

3年目

実践

実践講座・研修・上映会など参加者 **442人**

地域エネルギー利用例 **4か所**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **90%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍の影響で、活動が滞る時期や断念せざるを得ない活動が生じた。連携に向けた関係づくりやスケジュール調整、オンラインイベントの対応体制づくりにも時間を要した。

#### ■工夫した点

地域づくり団体等と連携しニーズを確認しながら少人数や野外の企画を具体化した。参加者層の多様化、体験型・実践的・主体的に考え行動することにつながる企画に努めた。



地域の発電所づくり×防災・農器具等に利用

### 全助成期間の活動を振り返って

- 里山・農地保全に取り組む団体、教職員、親子サークル、行政など、多様な層・世代・団体などと連携し、それぞれの課題や展望をもちより、双方向的に活動領域や活動地域を拡げることができた。活動を積み重ねながら、中山間地域の再生活動と地域エネルギー利用（7か所で実現）を組み合わせた実践について連携する地域・主体を増やすことができた
- 地域エネルギー活用の相対対応、伴走支援、小水力発電の適地検討等も続けていく

〒680-0834  
鳥取県鳥取市永楽温泉町505-406  
E-mail: shiminenergy.tottori@gmail.com  
HP: <http://energytottori.jugem.jp/>



### 今後の展望

- 活動の連続性、持続性、認知度向上、活動地域との連携強化の点から、実践的な学び・活動の拠点を里山エリアに設け、自然共生的な農村・里山の暮らし方の保存、継承をすすめ、気候変動への適応も促進する
- 並行して地域の未来づくりと課題解決に資する、地域エネルギー利用拠点をさらに増やしていく
- 上記活動を通して、地域のレジリエンス・連携を強化し、鳥取地域の自然共生的な脱炭素社会への移行の加速をめざす



## 木のある暮らしづくり

活動地域  福井県



間伐材を活用した燃料用薪

ひろげる助成

3年目

実践

さとやま遊歩道に関わった地域住民 **20人**

作成したウッドプログラム **5個**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **70%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルスの影響により人が集まる活動ができなかったため、関係者や人数を絞って活動を行った。

#### ■ 工夫した点

薪ストーブを温泉施設に設置することができ、薪の更なる利用促進を行えた。また、さとやま遊歩道も基盤整備を完成させることができた。

### 課題

今まで密接していた森とひとの暮らしとの関係が現代において離れてきており、それにより森林の荒廃、また、自然災害時の林地残材の流出などが課題となっている。

### 目標

森林資源を活用して森や木の価値を再評価し、森とひとの暮らしの関係を再構築することで、森と親しみ、森とともに暮らす調和のとれた木のある暮らしづくりを実践すること。

### 活動内容と成果

- 森林の間伐や山での林地残材の搬出作業を行うことができた。また、薪ストーブも温泉施設に設置した
- さとやま遊歩道の整備のための植樹活動を地域住民の協力を得て行うことができた。計画した里山景観の整備を完了することができた
- ウッドプログラムを五つ作成することができ、提供できる状況を構築した



薪ボイラーでの活用

### 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルスの関係で思うように活動が進まなかった部分もあったが、おおむね計画通りの活動を実行することができた。地域住民が主体となり、人と森林との関係を再構築していくことが大きな目標であったが、森林資源の活用を促し、人と森とのふれあいの場の整備を行うことができ、目標達成への環境整備が行えた。また、地域へ木材の供出を呼びかけるなど地域全体としての取組みとしていくことができた。



さとやま遊歩道の整備

〒910-2461  
福井県福井市南野津又町19-46  
電話：0776-93-2040  
E-mail：info@ijira.jp  
HP：https://www.ijira.jp



今後の展望

温泉施設に設置してある薪ボイラー、薪ストーブを活用していくことで、地域での森林資源の利用を促進し、里山における木のある暮らしづくりを実現させていく。また、地域への来訪者にウッドプログラムの提供やさとやま遊歩道でのイベントを行うことで収入を得て活動の継続やさとやま遊歩道の追加整備を行っていく。

(特非) ezorock

## 災害時にも強い持続可能な北海道のための 地域づくり人材育成事業

活動地域  北海道

ひろげる助成

3年目

実践

活動人数 **554人**

活動地域 **13地域**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **70%**



未活用なエゾシカ皮のなめしに取り組む参加者

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍での感染対策や参加基準のすり合わせなどに苦労した。特に地域差や個人差があり、現地での活動が困難な時期も長かった。

#### ■ 工夫した点

オンラインの場づくりでは、雑談できる時間を意図的に取るなど工夫した。配信型と交流型等オンラインの中でも使い分けを行った。

### 課題

慢性的に人材不足である地域団体と現場実践型学習の場を求める大学等教育機関のマッチングによる人材育成が求められているが、資金面等の課題から継続的な運営が困難である。

### 目標

本事業が持続可能な地域のための人材育成手法として継続的に運営され、オンラインと現場実践型プログラムによって各地で次世代を担う地域づくり人材が育成されている。

### 活動内容と成果

教育機関や地域NPOと連携して、延べ167日にわたって、現場実践型プログラムを実施。延べ554人が参加した。そのうち、13人が2週間以上の長期滞在型で活動に参加した。また、オンラインを活用したプログラムを30回実施し、延べ334人が参加。参加者、受入側、送り手からも継続的な運営が望まれており、運営に関わるボランティアメンバーとともに議論を重ねながら、広報活動などを実施した。eラーニングシステムを構築し、北海道全道を対象に学びと実践を行うプラットフォームづくりの目的が立った。



オンラインイベントを配信する運営メンバー

### 全助成期間の活動を振り返って

都市部に暮らす若者が北海道各地の地域を訪れ地域の方とともに現場実践型プログラムに取り組むという活動内容のため、新型コロナウイルスの影響を多大に受けた。一方で、事業のオンライン化と本事業の相性がよいと感じた3年間でもあった。遠隔地との繋がりが求められる中、オンラインでの場づくりやイベントによりこれまで参加できなかった関心者層の巻き込みや地域との対等な関係構築を行うことができたと感じている。



大雪山国立公園の植生復元に取り組む参加者

〒064-0809  
北海道札幌市中央区南9条西3丁目1-7  
電話：011-562-0081  
E-mail：info@ezorock.org  
HP：https://www.ezorock.org/



### 今後の展望

助成期間中の大きな成果である、下記2点を中心に他地域への横展開や応用したネットワークづくりを行いたい。 ●現場実践型プログラム前後でオンラインを活用したプログラムを実施することで、関心者層の参加を促したり、現場での学びを促進することができるようになった ●運営に関わるボランティアチームができたことで、コーディネート人材が増加し当初よりもコストを削減しながら活動を展開することができるようになった



# 世界農業遺産の里で行う耕作放棄地対策・環境保全型農業価値理解促進のための交流活動事業

活動地域 宮崎県

ひろげる助成

3年目

実践

イベントの延べ参加者数 **742人**

イベントの満足度・理解度 **100%**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**



秋づく！世界農業遺産の里で行う耕作放棄地対策・環境保全型農業価値理解促進のための交流活動事業の様子。

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

新型コロナウイルスの影響を考慮して開催するために、国や県が出す規定を基準に判断したが、開催日のギリギリまで感染の広がりを注視する必要があり、非常に難しかった。

### ■工夫した点

フットパスについては、参加者を少人数に、さらにリピーターを増やすために顧客リストを作成し、郵送によるダイレクトメールが効果があった。

## 課題

世界農業遺産の価値を住民が認識できていない。農業生物多様性、持続可能型農業への理解が低い。耕作放棄地増加、農業後継者不足。インバウンド対策。若者への社会教育。

## 目標

世界農業遺産の価値をいかした取組みを移住者も含めた住民が主体となってい、都市住民や外国人観光客とともに継続することで、持続可能な進化した農村の実現を目指す。

## 活動内容と成果

フットパスイベントを15集落で春9回・秋8回計画通り実施、食事処や加工グループが地産地消を意識したお昼ご飯を提供した。山楽校へ行こうを4集落で15回計画し5回中止となったが地元中心で活動を支えた。耕作放棄地対策での農業ボランティアを2集落で38回開催、栽培したトウモロコシをお礼に贈った。生き物調査は日本ミツバチに注目しフットパスと合わせて4集落で、巣箱づくりを1集落で実施し、参加者全員がLINEグループでつながり、日々情報交換ができる仕組みを作った。



五ヶ瀬町大石集落 たかきび帚づくり体験



日本ミツバチの巣箱づくり体験

## 全助成期間の活動を振り返って

この3年間でフットパスは大きく飛躍したと感じている。新型コロナウイルス禍で集客が難しい時期であったにもかかわらず、リピーターがしっかりと付き、受け入れ側の集落住民も自信を持ち始めている。農業ボランティアは集客が難しいが、人手を必要としているので粘り強くやっていくが、都市部の意識が醸成されていないと感じている。生き物調査は専門家から手法は学べたのでスマホアプリを駆使して行う手法を確立する。日本ミツバチの養蜂は非常に奥が深く自然を理解するには良い教材である。

〒882-1201  
宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字鞍岡6452番地乙  
電話：0982-73-6366  
E-mail：gns@gokase.org  
HP：http://www.gokase.org



## 今後の展望

フットパスは企画すれば直ぐに定員となる人気企画となった。今後は、外国人観光客に向けて英語でもPRし、平日も視野に入れて開催日数を増やしていく。農業ボランティアは継続しながら、本格的に農業を行う担い手を役場と連携し、農地・住宅・新規就農支援助成金を組み合わせ募集したい。2500年以上行っている日本ミツバチの養蜂は、このエリアの住民の取組みが絶えることの無いようSNSをいかして若者に継承していく。

# バングラデシュ・シュンドルボンにおける 生物多様性保全を目指した自然体験プログラムの開発及び実践

活動地域  バングラデシュ

ひろげる助成

3年目

実践

地域住民と植えた  
マングローブ **10,000本**

助成活動により増えた  
月収の割合 **16%**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **80%**



自然体験プログラムの様子①

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、イベント等が制限されてしまい予定していた自然体験プログラムがなかなか実施できなかったこと。

### ■ 工夫した点

自然体験プログラムに代わる新たな収入手段として「養鶏プログラム」を地域住民と始めたこと。これにより地域住民の平均月収が16%向上した。

## 課題

地域住民の環境保全に対する意識不足や経済的貧困により、マングローブを過剰利用していることから、シュンドルボンの生物多様性は急速に失われている。

## 目標

シュンドルボンの自然をいかした自然体験プログラムを開発し、地域住民が主体となって実施することで自然環境の保全と生計向上の両立を図り、生物多様性の保全を目指す。

## 活動内容と成果

助成3年目は参加者がプログラム費を全額負担することで運営委員会が自立して活動することを目指した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で活動制限を受けたことにより、予定していた自然体験プログラムを実施することができず、目標としていた地域住民の生計向上も十分には達成できなかった。一方で、運営ガイドラインの策定や広報ツールの開発等により運営委員会が自立して活動する基盤が整った。バングラデシュ国内でも旅行に対するニーズが高まっているので、地域住民とともに今後巻き返しを図っていく。



自然体験プログラムの様子②



植林イベントの様子

## 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍において地域住民やカウンターパートとともにオンラインで相談しながら活動を進めてきた。活動の鍵である「地域住民の生計向上」を助成期間中に達成できなかったことは非常に悔しいものであった。一方で、運営委員会の設置や自然体験プログラムの開発など、自然学校を運営するうえでの基盤を整えることができた。助成期間終了後も地域住民の生計向上につながるように活動をサポートしていく。

〒116-0013  
東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル1階  
電話：03-5834-2897  
E-mail：info@jeef.or.jp  
HP：https://jeef.or.jp/



今後の  
展望

バングラデシュ国内では環境教育があまり普及していない。そのため、将来的には助成いただき活動した自然学校がバングラデシュ国内における環境教育/ESDの拠点となることを目指す。また、プロジェクトサイトであるシュンドルボン以外にも自然学校を同様に設立し、生計向上と自然環境保全の仕組みをバングラデシュ全土で展開していく。



## 公害経験から教訓へ 公害教育の普遍化事業

活動地域  長崎県、日本全域

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

フォーラム参加者 **144人**

ネットワーク参加団体 **26団体**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

苦勞した点はフォーラム実行委員会の持ち方と、事務局の伴走支援の方法。トップダウン方式ではなく、フラットな関係性を大切にに対応した。

#### ■工夫した点

フォーラムはハイブリッド形式で開催したため、音声のトラブルがないように努力した。また、現地見学をオンラインでも別途実施した。



公害資料館連携フォーラム in 長崎

#### 課題

公害の経験の継承が課題。公害の被害にあった地域では情報の風化が著しく、公害の経験を共有することが困難になっている。

#### 目標

国立公害資料館を創ることが必要ではないかということが世論になるくらい、公害の経験から学ぶことが重要視される。

#### 活動内容と成果

- 公害資料館連携フォーラム in 長崎を開催した。「平和と環境の重なりを考えよう」をテーマにして、カネミ油症と長崎の被爆体験の継承から、公害・環境・平和の重なりを学び合うフォーラムを行った
- 公害学習入門書『公害スタディーズ』刊行と、それに伴う普及イベントを開催した
- 公害資料館ネットワークリーフレットをリニューアルし34か所に配架を依頼、公害資料館の存在をアピールした



長崎現地フィールドワーク

### 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍での助成期間となったが、岡山と長崎の地域事情に寄り添い、フォーラムという学びの場があることで、刺激となって現地が元気になっていく機会を持つことはできた。また、新型コロナウイルス禍でオンライン会議を開催することが普通となったことで、遠方の人でも議論しやすくなり、その議論の深まりを持って『公害スタディーズ』という公害学習の入門書を刊行することにつながりもできた。



公害資料館ネットワークパンフレット

〒712-8034  
岡山県倉敷市水島西米町13-23  
電話：086-440-0121  
E-mail：kougaishiryokan@gmail.com  
HP：https://kougai.info/



#### 今後の展望

異なる社会課題と公害との重なりを学ぶことを意識して、公害の経験の継承を多角的にとらえて、担い手を増やしていくことを目指したい。

# 長野発・SDGs実現に向けた 学生アクションプラン「youth reach」

活動地域 長野県

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

アクションプラン数  
参加者(高大生) **40人**

アクションプラン数 **11個**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **90%**



長野市スマートシティコミッション妄想会議

## 苦労した点と工夫した点

### ■苦労した点

対面での活動が制限されたため、集客や個々の活動が思った以上に活発に行うことができていない場面もあった。

### ■工夫した点

できる限りオンラインを軸に、毎週木曜日にオンラインミーティングを実施。ユースリーチメンバーのコミュニケーションを図った。SDGs公開講座等もオンライン開催した。

## 課題

環境活動を含む地域活動の担い手の高齢化と、持続可能なまちづくりへの若年層の意識低下。

## 目標

長野県内の高大生が自然環境や長野の将来などを自らの課題として捉えて行動を起こし、様々な方々と関わりながら、複数の課題を自分たちなりの方法で解決している状態。

## 活動内容と成果

今年度も昨年度と引き続き、自治体などの協働事業が誕生した。長野県環境政策課主催の信州環境フェアにて、カーボンフットプリントを提案したり、SDGs未来都市に指定された長野市においては、官民連携プロジェクトスマートシティコミッションの妄想会議に参加。長野市の将来ビジョンに関して、企業・自治体と一緒に考えてきた。さらに芋井地区、篠ノ井地区の住民との交流、活動参加により、地域に密着した活動と協働することができた。



芋井地区での農業体験、食事提供

## 全助成期間の活動を振り返って

初年度からユースリーチへの高大生、学校機関の関心が高く、新学期交流会の参加者が100人に達した。毎年参加するメンバーは40人から50人を推移し、様々な視点を持った高大生がアクションをしていった。特に、ゲーム要素を兼ね備えたゴミ拾い活動「清走中」は、とても人気イベントになり、老若男女の参加で、環境意識醸成に役立っていた。



通信高校企画手作りワークショップ

〒381-0034  
長野県長野市大字高田1029番地1  
電話：026-269-0015  
E-mail：info@npo-nagano.org  
HP：www.npo-nagano.org



今後の  
展望

当初、当センターが主になりSDGsコミュニティを形成することを考えていたが、信濃毎日新聞など地元メディアがSDGsプロジェクトを実施したり、長野県や長野市がSDGs未来都市に指定され、非常に活発な活動につながった。次年度以降は、長野市においてZ世代と一緒にSDGsアクションを考えるSDGs未来会議を創設し、ますます地域を巻き込んだ活動へと発展している。



# バングラデシュ都市スラムにおける衛生行動の変容促進と衛生環境の形成

活動地域  バングラデシュ

ひろげる助成  
**3年目**  
知識の提供・普及啓発

ワークショップへの参加率	<b>89%</b>
トイレ使用後の石鹸で手洗い習慣化	<b>70%</b>
今年度計画の達成度	<b>70%</b>
目標達成度	<b>75%</b>



## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

トイレの故障等の対応において、その都度お金を集め、対応する実態があり、持続可能な衛生環境形成のために必要な将来への備えについて、コミュニティの意識を高めることが難しい。

### ■ 工夫した点

想定される事態や将来の修繕に備えるため、共益費の積立てを薦めたり、衛生環境はコミュニティにとっての共有財であるという認識形成を試みたりした。

## 課題

都市貧困層コミュニティでは、下痢症等感染リスク軽減のために、衛生行動の変容と定着が必要であり、関連設備の改善並びにその自立的な管理が求められている。

## 目標

啓発活動により、下痢症リスク認知レベルの向上を図り、必要な設備を住民参加のもとで計画、設置する。さらに、自立的に衛生管理ができるコミュニティ組織を形成する。

## 活動内容と成果

衛生環境を形成するため、①行動変容を促すための啓発活動（ワークショップⅠ）、②衛生行動を定着させるための設備等改善計画作成（ワークショップⅡ）、③衛生管理を担うコミュニティ組織の形成、④設備改善、という住民参加型のプロセスを確立した。家族の健康に関心の高い女性が、①で衛生行動の必要性を認識し、②で必要な設備を考え、③のコミュニティ組織に参加することで、衛生環境形成とそれを維持するための人づくりを行った。また、飲み水を汚染から守るため、トイレで使用する水を汲む井戸と炊事や飲用の井戸の分離を図った。



## 全助成期間の活動を振り返って

コミュニティにおいて衛生環境を形成するためには、そこに暮らす人々の衛生行動が重要と考え、その変容と定着を促す活動を実践してきたが、共同トイレが以前よりもきれいになったと感じる人も多いことから、衛生行動は浸透していると考えられる。また、衛生管理に女性がイニシアティブを取るべきだという認識も大いに高まった。一方で、衛生管理において、更新期への備えなど持続可能性に関わる課題が見出された。

〒101-0027  
東京都千代田区神田平河町1 第3東ビル710号室  
電話：03-5829-5843  
E-mail：jade@jca.apc.org  
HP：http://www.jca.apc.org/jade/



## 今後の展望

都市貧困層コミュニティにおける衛生環境形成のターゲット拡大と持続可能性を担保するためには、現地の関係者が協力して活動が進められること、マネジメント面において、複数のコミュニティが協力し合えるような仕組みが必要と考えられる。前者については、関係者へのこのプロジェクトの成果伝播、後者については情報や資材の共有、地方政府等との交渉にあたるよう、コミュニティ組織からなる協同組合を作ることを提案したい。

# 集落の主体的な鳥獣害対策の実施と継続により、農村環境の生物多様性を保全する活動

活動地域 福島県

ひろげる助成

3年目

調査研究

支援2集落における  
報告会の開催 **2回**

支援2集落における  
希少種総出現数 **54種**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **80%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス対策として、対面による報告会等、情報のフィードバックを紙面に変更したが、一方通行の情報提供にしかならず、双方向からの意思疎通が図りづらかった。

### ■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍での対面報告会開催に向けて、開催可能な基準を探った。報告会のための集まりにはならなかったが、地区の集会との抱き合わせで実施など、住民と調整した。



調査報告会の様子

## 課題

鳥獣害対策は短期的に解決できる問題ではないため、対策の継続性が重要であるが、実践できているところは少ない。また、農村環境の荒廃から生物多様性の減少も危惧される。

## 目標

集落の主体的かつ継続的な鳥獣害対策の実施が、農村環境の生物多様性保全につながるプロセスモデルを確立する。

## 活動内容と成果

- 支援2集落を対象に、獣による被害調査及び被害対策の効果検証について過年度比較のための調査を実施した。結果は、両集落ともに被害金額・面積が軽減していたが、対策改善に向けての課題が見えてきた
- 各集落で植物、鳥類、哺乳類、両生・爬虫類、魚貝類、水生昆虫類、陸生昆虫類の生物相調査を実施した。両集落延べ1,126種が出現し、そのうちレッドデータ掲載種(国・県)が54種確認された
- 支援2集落に対して、上記調査結果の報告会を実施した。その結果、対策の改善点などが活発に議論された



侵入防止柵の設置により被害がなかった水田

## 全助成期間の活動を振り返って

本活動において掲げていたプロセスモデルを確立するためには、住民が豊かな自然環境は集落の魅力の一つとなることを理解することが大前提として必要であるが、その点についての成功法を見出すことはできなかった。

しかしながら、鳥獣害対策と生物多様性の繋がり、及び、鳥獣害の最前線となる谷津田等が生物多様性の宝庫であることも再確認できた。今後は、地域の魅力を住民が理解し、行動変容に繋げていくことが課題である。



設置した巣箱で確認されたムササビの親子

〒969-3302  
福島県耶麻郡磐梯町大字更科字権現森45番地  
電話：0242-73-3071  
E-mail：info@ohderasu.com  
HP：https://www.ohderasu.com/



## 今後の展望

プロセスモデル確立に向けた新たな課題について次のステップを検証し、集落の主体的かつ継続的な鳥獣害対策の実施と生物多様性を結びつける地区を増やしていく。①聞き取り調査により集落の動機(動くきっかけ)を探る⇒②動機に応じて、集落のキーマンと繋がる⇒③動機づけを行う(情報発信)⇒④集落のキーマンと活動内容を一緒に作り、当事者にしていく。



# 乳幼児期の自然体験の実態調査と、認定こども園等でのモデル事業実施

活動地域 静岡県



自然体験プログラムでめばえた「探究力」

ひろげる助成

3年目

調査研究

自然体験モデルプログラム実施 **120人**

動画撮影、YouTubeにて公開 **3本**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **80%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

教育の効果をどのように測るのか、事業評価軸の策定がとても難しかった。また、活動内容をふまえたうえで、アウトプット、アウトカム、上位目標の考え方は未だに難しい。

### ■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍でのこども園の実態や先生方の声を調査し、ニーズに応えられるような新たなプログラムを開発したり、動画を製作して発信することができた。

## 課題

乳幼児期の子どもが人生のベースを築き、主体的に様々な学びを得るためには自然の中での体験が必要だと考えるが、自然に触れる機会が激減していることが課題である。

## 目標

子どもの自然体験が増え、大人も行動変容の機会が増えることで、自然に向き、環境に配慮することや、持続可能な社会づくりを意識して行動できる人が静岡市に増える。

## 活動内容と成果

認定こども園等3園を対象に、自然度の高い場所にて自然体験モデルプログラムを実施した。同時に、学識経験者とともに評価指標を策定することができた。プログラム評価では、乳幼児期だからこそこの「探究力」が育まれ、日常生活でも発揮されていることが明らかとなった。

1、2年目に行った実態調査の結果や、こうしたモデルプログラム評価、保育者や保護者向け自然遊びやリスクマネジメントの動画など、3年間の成果について関係者にわかりやすく発信し、さらに乳幼児期の自然体験を広げていくため、特設サイトを製作し公開した。



プログラムの評価作業

## 全助成期間の活動を振り返って

3年間を通してニーズ調査を行い、モデル事業を行いながら事業評価軸を策定までさせていただけしたのは、組織基盤強化と今後の事業展開において、とても大きい。プログラム評価において予想外の嬉しい成果が多くみられ、スタッフの自信につながり、さらなる事業発展への兆しがみえてきた。さらに、予測不可能な新型コロナウイルス禍でたくさんのチャレンジをさせていただき、次々と新たな事業展開につながっている。



調査結果をもとに製作した動画

〒422-8002  
静岡県静岡市駿河区谷田1170-2  
電話：054-263-2866  
E-mail：e-info@ecoedu.or.jp  
HP：https://www.ecoedu.or.jp/



## 今後の展望

実態調査やモデル事業実施など、3年間の成果を発信していくことで理解者や協力者を増やし、静岡市内の0～5歳児3,000人(人口の5%)以上が自然度の高い場所での遊びを体験できる体制を整えたい。また、3年間の成果物や、構築することのできた行政、学識経験者、保育者とのネットワークをいかして、多様な自然体験のあり方を提案するとともに、自然体験の場を増やすための新たな事業展開を目指していく。

## 能登の里海環境・文化の持続可能性構築

活動地域 石川県

LOVE BLUE助成

3年目

実践

海岸清掃活動参加者 **273**人

魚種調査 **7**回

今年度計画の達成度 **100**%

目標達成度 **80**%



多くの参加者でにぎわった釣り大会

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

特に里海の活動は風雨のみならず波浪などの影響を受けることから、安定的な事業実施が難しい。半面、魅力的な活動も多いことから、天候に留意して実施した。

#### ■ 工夫した点

春から秋の活動が多くなる中で、いわゆる閑散期となる冬季の体験プログラムの発掘を心掛けた。また、楽しみ中にも「学び」の要素を入れるよう配慮した。

### 課題

里山里海を楽しみながら、その魅力や生活文化との関連性を参加者に学んでもらい、結果的に自然への関心を高め、これまでの課題であった保全活動等への参加率を向上させる。

### 目標

里山里海活動そのものが楽しく、意義あることを知っていただくため、まずは様々な活動への参加者を増やすことを目指した。新型コロナウイルス禍以外の期間はおおむね良好。

### 活動内容と成果

楽しむ活動として近年少なくなった釣り大会を開催したが、コロナ感染リスクも低いことから、今年度も多くの参加者があった。クリーンビーチも例年多くの方に参加いただいていたが、蔓延防止期間や荒天のため例年より少ない参加となった。また、新たに冬の里海の魅力を発掘するため「里海ウォーキング」を実施したが、好天にも恵まれ今後の魅力的なプログラムとしての手ごたえを得ることができた。

NPOの対応スタッフや通年の運営を考慮すると、いわゆる夏場などハイシーズンのみならず冬季の体験プログラム開発も重要な視点である。



冬の新たな魅力発見 里海ウォーキング



地域に定着してきたクリーンビーチ活動

### 全助成期間の活動を振り返って

助成事業を計6年間実施することができた。それまでは里山活動を中心に活動を展開してきたが、助成事業を契機に、会員はもとより多くの市民や児童生徒が改めて能登半島最先端珠洲の「里海文化」を再認識し、その魅力や潜在力、ひいては「里海」の重要性を感じていただいたと実感できた。特に、里海調査や里海ウォーキング等は、当NPOの通年活動展開の契機となり大変有意義な助成事業であった。

〒927-1462  
石川県珠洲市三崎町小泊33-7  
電話：0768-88-2528  
E-mail: satoyamasatoumi2006@gmail.com  
HP: <http://www.satoyama-satoumi.com>



### 今後の展望

当助成事業の活用によって、当NPOは名実ともに里山里海活動を実践する団体となり、ほぼ通年13事業（生業系4、調査4、保全系3、体験2）を展開している。近年、会員の高齢化が進んでおり、若年会員を中心に会員拡大や各事業の安定化が必要な状況である。今後は、年間を通じた多様な活動の映像を学習素材や広報ツールとして編集し、積極的な広報活動及び環境学習に取り組む予定。



(特非) さっぽろ自由学校「遊」

# SDGsに基づくNPOのアドボカシー力の向上とセクター間対話の推進

活動地域 北海道

ひろげる助成  
**4年目**  
知識の提供・普及啓発

参加した属性別グループの数	<b>10グループ</b>
プロジェクト参加人数	<b>200人超</b>
今年度計画の達成度	<b>80%</b>
目標達成度	<b>90%</b>



2021年度全体ミーティンググラフィック

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

当事業の実施期間が、新型コロナウイルス・パンデミックの期間と重なってしまったため、対面で予定していたミーティングの多くが実施困難になった。

### ■工夫した点

新型コロナウイルス禍で急速に普及したオンラインミーティングを積極的に活用することで、活動を休止することなく進めていくことができた。

## 課題

持続可能で公正な社会の実現のためには、健全な「市民社会」の成熟が不可欠であり、NPO/市民活動のアドボカシー力の向上とともに、諸セクターの「市民化」が必要。

## 目標

SDGsが北海道における多様な主体にとっての共通の目標となり、市民活動の実践や提言がいかされる民主的な市民社会が形成されていくこと。

## 活動内容と成果

SDGsが掲げる「誰ひとり取り残さない」社会づくりを地域で具現化するため、北海道メジャーグループ・プロジェクトを立ち上げ、各グループで話し合いや活動を進めていくとともに、それらを全体で共有するミーティングを実施した。2021年度には10グループ(ユース、女性、障害者、農民、先住民、地域コミュニティ、NGO・NPO、協同組合、企業、研究者)がそれぞれグループミーティングを実施し、未来へのビジョンやその達成に向けた取組みについて共有した。2020年度の活動成果は、冊子にまとめ各関係者に配布した。



プロジェクト2020報告冊子



メジャーグループ立ち上げに向けた話し合い

## 全助成期間の活動を振り返って

国連が提唱する2030アジェンダのスタンス(包摂性、統合性、バックカスティング、人権ベースなど)に倣い、地域で多様な主体が自分たちの未来のビジョンを描き、共有しあう対話の場を作り出したこと、その多様性の意義や豊かさを発信できたことは大きな成果であった。とかく画一性や横並びが求められる日本社会において、当事者性を重視した活動のあり方は、健全な市民社会の形成・発展の重要な基盤となると確信している。

〒060-0061  
北海道札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5F  
電話：011-252-6752  
E-mail：syu@sapporoyu.org  
HP：http://sapporoyu.org/



## 今後の展望

市民、とりわけ社会的に弱い立場に置かれている人々にとって、自らの意見や考えを社会に発信していくこと自体に大きな抵抗や壁があり、そのことが真に民主的な社会を形成していくうえでの大きな障壁となっている。弱い立場にある当事者の声を社会やその基盤となる政策に反映させる仕組みを作っていくことが必要であり、それを常識化していきたい。

## (特非) まちなびや

全国の先生が手軽にできる！  
環境の仕事のイメージが広がる！  
「環境キャリア授業パッケージ」の開発と普及

活動地域  静岡県



講師の職場からビデオ通話授業を実施

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

ビデオ通話授業の実施 **4校**

ビデオ通話授業の分析 **4校**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **70%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響での学校の行事変更等により、なかなか今年度の実施校が集まらなかったこと。

#### ■ 工夫した点

学校の長期休暇に合わせて複数回実施校の募集を行い、学校の従来の学習計画（環境教育等）に活用できるように、SDGsの学習のきっかけとして本授業を案内したこと。

### 課題

- 講師が学校へ訪問する「出張授業」で、実施できる地域や規模が限定されてしまうこと
- 「環境保全」＝「自然を守る仕事（第一次産業の仕事）」に直結してしまうこと

### 目標

- 学校の教員が気軽に実施できるキャリアパッケージを全国の小学校3校で実施すること
- 実施授業を受けた小中学生が多様な環境の仕事への理解・仕事への興味が深まること

### 活動内容と成果

- 活動内容
  - ① 「環境に配慮している職種（今年度は環境教育スタッフ）」の講師と学校をビデオ通話でつなぐ小・中学校向けの環境キャリア授業を全国の小学校3校で実施
  - ② ①の実施校のアンケート事前・事後のアンケート調査をもとに、成果を分析
- 成果
  - ① 静岡県内小学校4校で実施した
  - ② 授業実施の成果として、環境保全や環境教育スタッフへの興味・関心が向上した



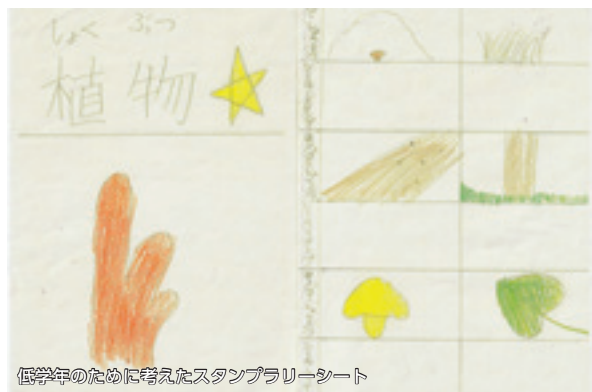
児童が画面越しに講師に質問

### 全助成期間の活動を振り返って

今回本助成金を通して、4種類の小4～6向け環境キャリア授業パッケージを作成することができた。

また、環境保全につながる仕事を伝える子ども向け情報紙を4種類発行、さらにこれまでの総集編を発行し、静岡県内830校のすべての小中学校に配布することができた。

今後の課題として、環境保全につながる仕事の魅力についてさらに子どもたちに伝えていくために、環境キャリア授業パッケージの教材の工夫を検討したい。



低学年のために考えたスタンプラリーシート

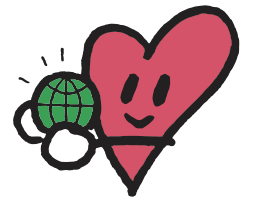
〒420-0813  
静岡県静岡市葵区長沼631番地の1  
電話：054-264-7170  
E-mail：info@machinabiya.com  
HP：http://machinabiya.com/



### 今後の展望

これまでビデオ通話授業を実施してきた知見をいかして、静岡まちのお仕事図鑑「コドモンデ」に登場した団体・企業へ、ビデオ通話授業の教材開発・実施などキャリア教育事業について提案を行っていきたい。また、ビデオ通話授業の教材ができたことで、全国での授業実施の可能性ができた。今後は全国実施も視野に入れて、小中学校の学習計画における教材の位置づけ・機材の運用の検討を行っていききたい。





# 総合環境 保全活動



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

(特非) ダイヤモンド・フォー・ピース

# リベリア共和国手掘りダイヤモンド採掘地域における環境保護活動のための基盤整備事業

活動地域  リベリア



ゴミ拾いをする住民たち

**課題**

対象地は多種多様な生態系が存在するギニア森林の一部だが、森林消失が加速し、同時に採掘後の鉱山の放棄、屋外排泄、ゴミ放置により、環境破壊・健康被害が起こっている。

**目標**

地域の環境保護に関する住民の意識が向上し、公共トイレの利用が進み、本事業終了後に本格的に開始する環境保護活動の準備が進む。



**今後の展望**

今回活動に積極的に参加するようになった住民を中心に、まだ活動や集会に参加していない住民を取り込めるよう工夫しながら活動を展開する。また、子どもたちへの啓発により大人も影響を受ける仕組みも取り入れる。

**活動内容と成果**

- 住民集会を開催し、環境に関する基本的な知識を啓発
- 主要放棄鉱山、屋外排泄場所、ゴミ放置場所のマッピングを行った
- 付近の水質、土壌の簡易検査を実施  
→これらの結果を基に住民集会を開催し、結果について協議するとともにアクションプランを作成  
→衛生向上委員会が設置された
- 公共トイレの建設地を決め、村による自助努力とともにトイレを建設・設置
- トイレ管理委員会を設置し、トイレ使用の基本的ルールを策定
- クリーンキャンペーンとして住民がゴミ拾いを行い、ゴミ処理方法について協議



公共トイレ建設の様子

はじめる助成

1年目

実践

集会、イベント延べ参加人数	130人
公共トイレ建設数	1か所
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	90%

**苦労した点と工夫した点**

**■苦労した点**

村の自助努力としてトイレ建設に必要な砂、水、労働力が提供される約束であったが、その提供が遅れ工事が遅延した。

**■工夫した点**

環境破壊が住民自身にどのような悪影響を及ぼしているかを常に啓発し、自分ごとと思ってもらえるようにした。

〒247-0007  
神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1  
地球市民かながわプラザ  
NPOなどのための事務室内  
電話：050-6863-3111  
E-mail：info@diamondsforpeace.org  
HP：https://diamondsforpeace.org



(特非) 公益のふるさと創り鶴岡

# 内川の河川環境保全のためのゴミの排出規制キャンペーン及び川底の環境美化活動の実施

活動地域  山形県鶴岡市



鶴岡工業高校の実習授業での凧刈り体験

**課題**

内川に流れ着くプラスチックごみが減らない状況のため、家庭ごみ・農業資材等のごみ削減キャンペーンをする必要があり、そのための基礎調査や分析をする必要がある。

**目標**

市民参加川底ごみ除去活動組織が編成され、川底のごみ除去と毎年恒例の凧刈り作業及び関係者への環境意識調査を行い、河川環境意識が向上していることの指標とする。

**活動内容と成果**

内川の河川環境を改善するため、市民参加型の川底ごみ除去の活動組織を編成して、内川4キロ区間で全6回の川底のごみ拾いをしながらごみ指標調査を実施。また、夏の風物詩となっている凧刈り活動を実施した。同時に内川の水質調査及び生物調査も行った。この実績をもとに市民向けにごみの流出を防止するキャンペーンを行い、河川環境に対する意識が向上していることの調査を行った。この一連の活動が新聞社の目に留まり「第12回地域再生大賞」に推薦され、優秀賞を受賞することができた。



内川の川底ごみ指標調査

ひろげる助成

1年目

実践

ごみ指標調査	6回
キャンペーン活動	4回
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	60%

**苦労した点と工夫した点**

**■苦労した点**

流域の住民や事業者の方たちへの認知や、同様の活動をしている団体の方たちから理解していただくまでに時間がかかった。

**■工夫した点**

マスコミ等への説明や認知をしていただく機会を多くつくり、記事にしてもらったことにより市民の認知も高まった。

〒997-0028  
山形県鶴岡市山王町8-21  
電話：0235-25-6320  
E-mail：k.tsuruoka2017@gmail.com  
HP：http://k-tsuruoka.com/





(特非) 泉京・垂井

## 持続的・包括的な地域・環境ガバナンスの実現に向けてのアドボカシー継承事業 ～あどぼのプラットフォーム人材育成～

活動地域 日本全国



あどぼを紡ぐ研究会の様子

### 課題

NGO・NPOの活動分野・地域、世代を超えて、ODAアドボカシーの系譜について、系統立ててアドボカシーの経験共有とその分析を学び継承する機会を設けること。

### 目標

アドボカシーの実践例が記録され、全国各地で実践例から得られるアドボカシーの理念、手法などが継承され、政策提言・世論喚起に効果を発揮し、政策実現へと繋げていく。



今後の展望

あどぼの人材育成・継承記録作成の2年目は環境分野のアドボカシーを取り上げる。環境分野はODAよりも多岐にわたるため、早期に始動してより実のある研究会開催や継承記録作成に努めていきたい。

### 活動内容と成果

- あどぼのすごろく試行 京都・名古屋開催 オンラインすごろく、対面型すごろくキットを完成させ、試行により改良、製品化に向けての第一歩
- あどぼの人材育成WG (ワーキンググループ) 6回開催 「あどぼを紡ぐ研究会」プログラムを策定
- 「あどぼを紡ぐ研究会」全6回開催 ODAアドボカシーの系譜について、多様なNGO・NPOから延べ35人が参加 全10例の継承記録を動画で作成、文字起こしの作成に着手
- あどぼのプラットフォーム会議開催 全国8拠点から12人が参加 次年度以降の展開について検討



あどぼのすごろく試行の様子 (名古屋)

ひろげる助成

1年目

実践

あどぼの人材育成事業参加者 **35人**

あどぼの継承対象記録作成 **10例**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **35%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### 苦勞した点

WG立ち上げに際して、対面開催にこだわったことで、全体の開始時期が当初予定から大きくずれ込んでしまった。

#### 工夫した点

WG並びに研究会をすべてオンラインで開催するために、参加者間の交流の時間や機会を増やして、相互理解の促進を図った。

〒503-2124  
岐阜県不破郡垂井町宮代1794-1  
電話：0584-23-3010  
E-mail：info@sento-tarui.org  
HP：https://www.advo-citizen.org/



(一社) ふくおかFUN

## 海と人をつなぐ 持続可能な海づくりプロジェクト

活動地域 福岡県



ダイバーによる海底ごみ回収の様子

### 課題

海ごみや脱炭素といった海洋課題は地球規模で問題となっているが、福岡に住む人々にとって水中世界の様子は極めて想像しづらく、環境への意識が高まりにくい。

### 目標

博多湾近海において、水中環境に関する情報を蓄積するとともに、藻場の再生や海ごみ削減に向けた取組みと啓発の場を増やすことで、環境活動を主体的に行う人々を増やす。



今後の展望

生物多様性、貧酸素、富栄養化、脱炭素、底質悪化、海洋ごみ、藻場づくり等をわかりやすく関連性をもって社会に伝えていく。行政、漁業者、大学機関等と密な連携をとり、貴重なデータ源としても機能していく。

### 活動内容と成果

- 水中生物及び海底ごみの調査・観測・撮影を行い、情報を記録するとともにWEBを活用した発信を行った
- 「海のゆりかご」と呼ばれるアマモ場(藻場)を増やすため、生息に適した水域の調査や、アマモ苗の植付け等を行った。結果として、これまでアマモの群生地ではなかったエリアに約350㎡の藻場を確認した
- 市民向けの体験型活動を合計10回、授業や講演を合計38回実施し、延べ約2,140人が参加した
- 多様な主体と協働した活動を行い、福岡市周辺の行政機関や、漁業者、研究機関等との連携が深まった



市民とともに行ったアマモ場づくり活動の様子

ひろげる助成

1年目

実践

環境への意識が高まった参加者 **90%**

新たな連携先 **7件**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **40%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### 苦勞した点

海況(波や透視度)によって中止や延期を余儀なくされるため、スケジュールの調整に苦勞した。

#### 工夫した点

難しい内容を様々な世代に伝わるようデザインし、継続的な活動を行い続ける場作りをした。

〒819-0044  
福岡県福岡市西区生松台  
3丁目19番5号  
電話：092-407-6970  
E-mail：uminogakko@fun-fukuoka.or.jp  
HP：www.fun-fukuoka.or.jp



(特非) 由良野の森

ブナの森づくりプロジェクト

活動地域 四国



奥山での植栽作業

課題

戦後すぐまで残されていた奥山は拡大造林で伐られてしまった後、放置林化したり皆伐ではげ山になったりと不可逆的な環境の変化が大きな問題になっている。

目標

「社会的共通資本」として四国の奥山の天然林を復元させていく過程で、事業に関わる方たちのそれぞれの自然観・世界観・人生観が拡大していくようにする。



今後の展望

森の自然再生は膨大な時間と費用労力がかかるため、日本人がもともと持っていた自然観復活が必須になる。そのために様々な問題を同時解決しながら自然再生の成功の雛形になるようにしていきたい。

活動内容と成果

奥山復元のための小さな雛形づくりを行っている。遺伝子の攪乱を起こさないよう国有林の天然林や社叢林の天然記念物の種子を採取し、播種し、苗を育て、放置林の立木を伐倒しその木で鹿よけの柵をつくる。つくった林冠ギャップに森づくりの骨格となる樹木を植栽する事業を展開。それらの木々は何十年か後に、あたりに種子を散布する母樹として重要な働きをすると期待している。活動には社会的弱者や親子を中心に、植生や法律の専門家、林業関係者や企業も主体的に参加し、完全なボトムアップの活動が広がり始まっている。



知的障がい者の方々によるブナ等の育苗

ひろげる助成

1年目

実践

参加者数 **1,789人**

自然観が広がった人の割合 **93%**

今年度計画の達成度 **87%**

目標達成度 **53%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

母樹を探し種を集めるところからの森づくりには膨大な時間と作業が必要。育苗が難しい樹木を扱っているため、試行錯誤が続いている。

■工夫した点

問題解決のために多方面の専門家に関わっていただくことで知恵を集め、さらに彼らにも事業の役割や意義を認識していただいた。

〒791-1222

愛媛県上浮穴郡久万高原町

二名乙787番地13

電話：0892-50-1977

E-mail：yuranonomori@gmail.com

HP：https://yuranonomori.jp/



(特非) Little Bees International

ケニア共和国・コロゴッチョスラムの6つのコミュニティスクールとの連携を中心とした行動変容による生態系の回復及び循環型社会の形成とポスト愛知目標の達成を目指した総合的な生物多様性保全活動

活動地域 ケニア



環境授業で、環境衛生ポスターをつくって実践

課題

コロゴッチョは、ナイロビ川の河川敷という恵まれた自然環境が、長らく不適切な廃棄物管理から川にはゴミがあふれ環境汚染が進み生物多様性が危機的な状況にある。

目標

学校を中心とした行動変容をコミュニティに広げること、コミュニティの規律や治安を向上させ、緑のコミュニティとして住民が健やかに暮らせる地域の創出を目指す。



今後の展望

学校間の交流が進むにつれ子どもたちの活気が増し、生活態度も向上している。ナイロビ川河川敷の生物多様性の保存・回復を目指しノウサギと蜂の飼育と活用を進め地域住民と連携も深め活動のうねりを生み出したい。

活動内容と成果

- 学校間で協働で定期的に環境授業を行い、子どもたちの行動変容を促した
- 植樹活動に毎回80人以上が参加。1,200本以上を河川敷に植え、約2.4トンの温室効果ガスを吸収した
- ノウサギを三つの学校で20匹以上、養蜂箱を河川敷の3か所に設置
- "Mottainai" 環境セミナーを実施し、250人以上の住民が参加
- リサイクルワークショップにHIV陽性、シングルマザーを中心に40人以上の女性が参加
- 国連気候変動枠組み条約のオブザーバー団体に認可され国際的議論への参加が促進



ナイロビ川河川敷での植樹活動

ひろげる助成

1年目

実践

子どもたちの学校の欠席率 **10%改善**

植樹活動 **約1,200本**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

“子どもたちが変われば大人も変わる”を期待しているが、社会経済的脆弱性から子どもたちが将来に希望を持ちづらいつつあった。

■工夫した点

スラムの社会的脆弱性が子どもたちの意欲を阻害していたが、地域の学校間での協働を進めることで支え合い意欲の向上につながった。

〒116-0014

東京都荒川区東日暮里6-40-22

電話：03-3805-5548

E-mail：littlebees@littlebeesinternational.org

HP：https://www.littlebeesinternational.org/





## (特非) APEX

# 適正な技術選択に関する包括的フレームワークを活用した、持続可能な社会形成の促進

活動地域  インドネシア、フィリピン、東京都



インドネシア国際フォーラム

### 課題

持続可能な開発のための適正な技術選択に関する包括的フレームワークを、国際的・セクター横断的な対話と協力を促しつつ、社会に浸透させ、当該選択を促進する。

### 目標

上記包括的フレームワークを周知して賛同を集め、事例を収集して公開し、適正な技術選択をする企業や団体を増やして、国際的ネットワークを形成する。



### 今後の展望

包括的フレームワークは、協力団体などにより、適正な技術選択の促進が図られていく見込み。また、有志により、適正な技術選択と親和性の高い経済システムの先駆となる事業者の立ち上げが図られる予定である。

### 活動内容と成果

- 包括的フレームワークに6団体と4人の個人が賛同（累計23団体、個人48人）
- フレームワークに関する講義が3校の大学で実施され、計370人が受講
- フレームワークから派生した「脱炭素社会構築のための適正な技術選択に関する提言」に141人が賛同
- 公開の国内セミナー・フォーラムを計3回開催、平均39.3人参加
- 適正な技術選択の事例を5件収集
- 国際フォーラムを、インドネシアとフィリピンでオンライン開催し、各53人、273人が参加
- 国際会議における、フレームワーク関連の発表を2回実施



第11回適正技術フォーラム

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

国際フォーラム参加者 **326人**

大学での講義受講学生 **370人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **30%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■ 苦勞した点

包括的フレームワークの新規個人の賛同者数が思うように増えなかった。しかし、新規団体賛同数は目標を上回った。

#### ■ 工夫した点

脱炭素提言の賛同をオンライン署名を活用して募集し、目標数を上回る個人からの賛同が得られた。

〒110-0003  
東京都台東区根岸1-5-12  
井上ビル2F  
電話：03-3875-9286  
E-mail: [tokyo-office@apex-ngo.org](mailto:tokyo-office@apex-ngo.org)  
HP: <https://ja-jp.facebook.com/apex.ngo/>



## (特非) 「環境・持続社会」研究センター (JACSSES)

# 日本による途上国への気候変動適応策支援のための提言・普及啓発～特にジェンダー・LNOB配慮の視点から～

活動地域  日本全域



気候変動適応策に関するウェビナーの様子

### 課題

気候変動の悪影響は新型コロナウイルス禍で増加する脆弱な立場におかれる人々（例えば貧困に苦しむ女性等）の方が受けやすく、そうした人々を取り残さないための適応策が必要。

### 目標

日本の途上国適応策支援や多国間開発銀行との適応策における連携にLNOB（誰一人取り残さない）・ジェンダー視点が反映され、プロジェクト形成等にいかされる。

### 活動内容と成果

- 気候変動適応計画改定のパブリックコメントで当初案に対する改善意見6点を提出し、反映された。
- 目標に「国内外の脆弱性の高い集団や地域への配慮」が明記
  - 基本戦略①に「ジェンダー平等や脆弱性の高い集団や地域にも配慮した意志決定・合意形成プロセスの充実を図りつつ」との文言加筆
  - 基本戦略⑥に途上国支援において「脆弱性の高い集団や地域への配慮」と「適応分野の支援促進」が明記等
- また、他団体と共同発表した「気候変動対策・施策におけるジェンダー平等の推進を求める声明」にも多くの賛同をいただいた。



作成したレポート類の表紙

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

提言インプット回数 **10回**

メディア掲載/寄稿/会合招聘 **23回**

今年度計画の達成度 **92%**

目標達成度 **27%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■ 苦勞した点

オンラインでよりわかりやすく効果的に情報発信するために、どのように広報ツールを改善すべきか検討に時間を要した。

#### ■ 工夫した点

情報発信がしやすくなるよう、広報に関心のある学生インターンとともに、ウェブページを改訂し、インスタグラムを開設した。

〒107-0052  
東京都港区赤坂1-4-10  
赤坂三鈴ビル2階  
電話：03-3505-5552  
E-mail: [jacsces@jacsces.org](mailto:jacsces@jacsces.org)  
HP: <http://jacsces.org/>



### 今後の展望

2022～23年度にかけ日本で開催されるG7等の国際会議の機会を活用し、政策提言・普及啓発活動をスケールアップさせる。その際には、様々なNGOと連携してステークホルダーとの対話・提言インプットを行う。

## (特非) Blue Earth Project

# Blue Earth Project

活動地域  日本全域



高校生向けの環境ワークショップ

### 課題

次世代を担う女子高生・女子大生ならではの環境問題への感性、あるいはSNS等での発信力をいかした環境活動を全国規模で継続実施するための人材育成システム。

### 目標

ワークショップやイベントやSNSを通して環境問題に対する深い問題意識と普及啓発活動を実践できる高校生を自治体や省庁の協力も得つつ3年間で1,500人程度増やす。



今後の展望

Blue Earth塾への参加校をさらに増やし、Blue Earth Projectで環境活動を始める高校生を増やす。エコ啓発イベントやSNS発信も女子大生ならではの発信力をいかして実施していく。

### 活動内容と成果

活動の柱であるBlue Earth塾では、スタッフの大学生113人が全国8都道府県に出向き、499人の高校生が参加した。事後アンケート1,045件では環境意識の変容が確認できた。その後高校生の多くが長期にわたる環境啓発活動のBlue Earth Projectに参加して全国で活動している。

特に若年層に向けたエコイベントでは、オンラインで総計2,970人がアクセスし環境問題について考え、対面では総計876人が来場してエコアクションを起こしてもらった。様々な環境問題を発信しているSNSでは41万834回のアクセスがあった。



海洋プラスチックごみ啓発イベント

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

Blue Earth塾に参加した高校生 **499人**

Blue Earth塾アンケート収集 **1,045件**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **85%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルスの感染拡大の状況によりBlue Earth塾もエコイベントも予定した形態での実施が難しいことがあった。

#### ■ 工夫した点

オンラインをいかしたBlue Earth塾の実施や成果発表、あるいはエコ啓発イベントを行った。

〒651-2217  
兵庫県神戸市西区月が丘  
5丁目25-2  
E-mail: npobep@gmail.com  
HP: <http://www.bepbep.net/>



## (特非) メコン・ウォッチ

# タイ・ムン川(メコン河支流)における住民主体の生態系配慮型治水確立に向けた情報発信・政策提言

活動地域  タイ



現地調査(灌漑用水路で住民の説明を受ける)

### 課題

メコン河の支流ムン川で、地域で農業や漁業を営む住民の求める、自然資源豊かな氾濫原を残し、かつ生態系配慮型で持続的資源利用が可能な灌漑や水利用を実現する。

### 目標

ムン川(メコン河支流)における住民主体の生態系配慮型治水確立に向けた情報発信・政策提言。

### 活動内容と成果

環境配慮の不十分な過去の開発の影響の残るムン川で、住民の自然資源利用、生態系に配慮した水をめぐる課題などをタイで使用率の高いソーシャルメディアを利用して拡散、世論喚起を行い、水管理政策に関する議論に住民の意見がより強く反映されることを目指している。初年度は、生業に不可欠な氾濫原の利用や氾濫原に生息する魚の生態の情報、現在の灌漑事業の課題などを映像化した。Facebookのページを立ち上げ、6万人以上からのアクセスを確保、掲載したビデオの視聴者も延べ2,000人となり、オンライン上で関心層と繋がった。



会議風景

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

Facebookページのリーチ **66,000人**

Facebookビデオ視聴者 **2,050人**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **20%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

やはり新型コロナウイルス感染症の広がりが、円滑な事業実施の妨げとなった。日本からの渡航も難しく、今年度は見送っている。

#### ■ 工夫した点

オンラインのZoomの会議がタイでも普及し、住民との意見交換をオンラインで実施した。

〒110-0016  
東京都台東区台東1-12-11  
青木ビル3F  
電話: 03-3832-5034  
E-mail: [info@mekongwatch.org](mailto:info@mekongwatch.org)  
HP: <http://www.mekongwatch.org>





## (特非) 喜界島サンゴ礁科学研究所

# 奄美群島における環境サステナビリティを目指したサンゴ礁保全と教育、地域システムの循環形成

活動地域  鹿児島県



喜界島荒木でのサンゴ礁調査

### 課題

地域の環境保全活動を持続可能にする社会を実現するための地域の仕組みづくりを行政・教育機関・事業者と連携して行う必要がある。

### 目標

サンゴ礁資源の保全ルールづくりや、教育機関でのサンゴ礁保全を担う人材育成、地域事業者のサンゴ礁資源を活用した商品・サービス開発を支える地域システムの構築。



### 今後の展望

奄美群島5島の連携団体を通して環境サステナビリティを支える教育カリキュラムの水平展開をめざす。また、サンゴの島の未来協議会は、サンゴ礁保全やサンゴ礁文化等の環境保全活動につながりが期待できる。

### 活動内容と成果

奄美群島内のサンゴ礁の調査に合わせて、喜界島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島の行政及び地域活動団体とイベントの共催や事業計画において連携を深めることができた。喜界島において小中学校・高校でサンゴ礁を題材とした環境教育を実施した。サンゴ礁と環境を学ぶ離島留学の協議会も3回実施され、令和5年度からの高校への離島留学受け入れを目指し準備が進んでいる。継続した連携体制を教育委員会と確立している。昨年度までの活動で発掘したサンゴ礁文化資源を活用した地域団体と協働したモデルツアーを実施することができた。



喜界島阿伝集落でのサンゴの石垣修復体験

フロントランナー助成

1年目

実践

奄美群島内の連携団体数 **22**団体

喜界町内での環境教育 **6**回

今年度計画の達成度 **80**%

目標達成度 **20**%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

奄美群島5島でのサンゴ礁調査や関係団体との打合せが、現地状況により計画と時期がずれが生じてしまった点。

#### ■ 工夫した点

ワークショップやイベントのオンライン併用を進め、感染症対策と現地に来れない人も巻き込んだ活動を実施できた。

〒891-6151  
鹿児島県大島郡喜界町大字塩道1508  
電話：0997-66-0200  
E-mail：mail@kikaireefs.org  
HP：https://kikaireefs.org



## (特非) 関西NGO協議会

# 市民・市民社会のためのSDGs普及啓発と行動変容を促すための関西地域SDGsプラットフォーム形成に向けたネットワーク事業

活動地域  関西



高校生チームによるシンポジウム配信

### 課題

関西の市民社会が、SDGs達成に向けて主体的に、かつ連携して活動を行って行くにあたり、その基盤となるプラットフォームが無い。あるいは上手く機能していない。

### 目標

開発系・環境系団体双方を含むプラットフォームが基盤となり活用され、ユースを中心とした関西の市民・市民社会が、SDGs達成に向け行動変容を起こしていること。



### 今後の展望

引き続き環境系団体を中心に新たな繋がりを作り、協働でセミナー開催などを行って行く。また海外の市民社会リサーチで得た情報を、次のステップ(ウェブ公開、実際のコンタクト・連携など)に繋げていく。

### 活動内容と成果

環境系団体との連携を意識しながら、これまでに繋がりの無かった団体との協働機会を多く創出し、セミナーやシンポジウムを複数行うことができた(JICA環境社会配慮ガイドライン、VLRなど)。その中には高校生提言セクションによるユース提言の策定も含まれる。また、そうした団体との繋がりを継続していけるよう努力している。他、海外の市民社会とのネットワークングについては、まずリサーチを、全世界を対象に、ユースとの協働や地域でのSDGs推進活動を行っている団体を中心に、時間をかけて丁寧に行い情報を集めた。



VLRセミナーでの質疑応答の様子

プラットフォーム助成

1年目

知識の提供・普及啓発

イベント参加者数合計 **174**人

アンケートサンプル数 **974**人

今年度計画の達成度 **85**%

目標達成度 **35**%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

イベント(オンライン)開催日のスケジューリング段階では新型コロナウイルスの状況が読めず、結果的にタイミングが悪く集客に苦労した。

#### ■ 工夫した点

新型コロナウイルスの影響で旅費予算の執行見通しを立てきれなかったため、その分アンケート(実施・分析・冊子作成)への注力に切り替えた。

〒530-0013  
大阪府大阪市北区茶屋町2-30  
大阪聖パウロ教会4階  
電話：06-6377-5144  
E-mail：knc@kansaingo.net  
HP：https://kansaingo.net/



# 長野県開田高原における木曾馬文化と 草地の再生を軸にした地域づくり

活動地域 長野県木曾町



草をはむ木曾馬

### 課題

開田高原において、伝統的な草地管理が継続的に  
行われて草原環境の生態系が保全されること、木曾  
馬の文化を核とした地域の人的・物的資源が地域振  
興に役立てられること。

### 目標

長野県木曾町において木曾馬の文化が復活し、開田  
高原の草地利用が促進され、草原環境の生物多様性  
が保全されること。



### 今後の 展望

地域外からボランティアを呼び込み、植生調査や伝統的な草地管理に関わる機会  
を創出するほか、伝統的な干し草積みのある景観の再生や草地での木曾馬の放牧  
など、木曾馬文化と草原のつながりを見える化していく。

### 活動内容と成果

新型コロナウイルスの感染拡大により、現地での植生  
調査を中止したが、オンラインの勉強会に地域内外含  
めて延べ96人が参加し、交流や学びの場を提供できた。  
地域が持つ知恵、研究者の知見、地域外の関心が勉強会  
で浮き彫りになり、回を追うごとに参加人数が少しづ  
つ増え、本活動の人的基盤ができてきた。  
また、2022年3月6日に開催したシンポジウムには、地  
域内外から122人が参加した。開催案内を木曾町全戸に  
配布、地域のケーブルテレビや新聞による取材などに  
より、地域内に本活動の意義を周知させることができ  
た。



シンポジウムの準備をする  
現地NPO

特別助成  
**1年目**  
知識の提供・普及啓発

勉強会6回の参加者数	<b>96人</b>
シンポジウムの参加者数	<b>122人</b>
今年度計画の達成度	<b>65%</b>
目標達成度	<b>65%</b>

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルスの感染拡大によ  
り、開田高原の植生調査や伝統的な  
草地管理ができず、また代替活動の  
検討や調整にも苦勞した。

#### ■工夫した点

オンラインを活用した地域内の勉強  
会、地域外との交流、シンポジウム  
など、プロジェクトの周知を図るべ  
く広報展開を工夫した。

〒113-8657  
東京都文京区弥生1-1-1 東京大学  
大学院農学生命科学研究科  
フードサイエンス棟4階  
電話：03-6686-0300  
E-mail：info@earthwatch.jp  
HP：https://www.earthwatch.jp



## 持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク (SUSPON)

# 持続可能なスポーツイベントを実現する ためのNGO/NPOによる提言・実践活動

活動地域 日本全国



2/24開催SUSPONオンラインセミナー

### 課題

持続可能性オリンピックが注目される中、東京大会  
においてもNGO/NPO等の市民社会の参画・関与は  
大会の持続可能性評価に関わる重要な課題である。

### 目標

東京大会の持続可能性実現のためのプラットフォーム  
としてSUSPONが果たした役割や経験を次の大会  
開催国のNGO/NPOへの共有し、国内のスポーツ  
関係者に伝える。



### 今後の 展望

今までのようなSUSPONとしての主だった活動は終了するが、SUSPONで培った  
繋がりは緩やかに継続し、関心のある企業や組織からの問い合わせについては可  
能な限り対応したい。

### 活動内容と成果

東京オリンピック・パラリンピックを持続可能な大  
会とすることをきっかけに、その後の持続可能な社  
会づくりに繋げていくことを目指し、大会関係者と  
コミュニケーションを図るための窓口として「持続  
可能なスポーツイベントを実現するためのNGO/  
NPOネットワーク (SUSPON：サスポン)」を2016  
年度に立ち上げた。2021年度は「スポーツ関係者の  
ための環境対策アクションガイド」を作成・公開し  
た。各部会での活動では、リユースカップ導入実証実  
験や、木材調達に関する調査・企業向けのイベント  
開催等を行った。



スポーツ関係者用環境対策  
アクションガイド

特別助成  
**1年目**  
知識の提供・普及啓発

環境対策アクションガイド	<b>31頁</b>
リユースカップ導入実証実験	<b>1社</b>
今年度計画の達成度	<b>80%</b>
目標達成度	<b>80%</b>

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

SUSPONは環境分野の団体がほと  
んどということもあり、スポーツ分  
野の繋がりが薄く今回の対象への広  
報の当てがなかった。

#### ■工夫した点

昨年度に調査したスポーツ関係団体  
や、過去のイベント参加者へのメー  
ルに加え、SNSの広告機能も利用し  
てイベントを告知した。

〒111-0051  
東京都台東区蔵前3-17-3  
蔵前インテリジェントビル8階  
(地球・人間環境フォーラム内)  
HP：https://suspon.net/





(特非) 夢創房室戸迎鯨の杜

## 海辺の環境保全と海洋文化の伝承プロジェクト

活動地域 高知県



### 課題

かつて、この地域では生活の糧を海に求め、海とともに生活をしてきた。失われた海洋環境、文化伝承を再生し自然との共生の枠組みを再構築する活動が求められている。

### 目標

自然体験活動を通じて、生物多様性の重要性や海洋文化の伝承などを醸成していき次代を担う青少年の育成を図る。また、環境保全のネットワークを構築する。



今後の展望

この活動が一過性のもので終わることなく、持続可能な推進体系の確立を目指していく。そのために、自然体験活動のグループ化を図るとともに保全活動を行う推進体制の確立と拡大に努めていきたい。

### 活動内容と成果

- イベント(観察会、自然体験活動、地域文化等)を5回開催し、生物多様性や地域の生活・食文化への理解を参加者に深めてもらった
- 関係機関、団体と連携し、海岸清掃活動の持続的な取組みを行うためのネットワークづくりに取り組んだ。クリーンアップ作戦では、多くの方に参加いただいた
- 関係団体や環境活動者と実施したワークショップでは、活動の方針や内容、今後の方針等について活発な協議を行うことができ、イベントや今後の活動方向に大きく貢献した



クリーンアップ作戦(海岸清掃)

LOVE BLUE助成

1年目

実践

イベントの延べ参加数 **97人**

クリーンアップ(海岸清掃)でのゴミ回収 **1,920L**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **40%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

やはり新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が参加者にとって一番の心配事であったので、状況を見極めながらの実施となった。

#### ■ 工夫した点

感染防止の徹底をお願いする際、万全を期して対応していくことへの理解を求めた。幸い、活動が大自然の中だったことが良かった。

〒781-7103  
高知県室戸市浮津823-2  
電話：090-8694-9104  
E-mail：geiginomoroi@yahoo.co.jp  
HP：https://npo-mac.com



## 大阪海さくら

## 大阪湾でアマモを育て海の生物を知ろう、淀川ゴミ拾い『大阪海さくら』

活動地域 大阪府



アマモ移植、さっそくヤドカリが訪問

### 課題

大阪湾には海洋生物に必要なアマモ場がない。また町のゴミが川から海へ行き、多くのゴミが大阪湾に流れ込み続けている。私たちは海や海洋生物を少しでも守りたい。

### 目標

大阪市民が海の素晴らしさを学び、自然豊かな大阪湾になって、みんなで幸せになるため、淀川清掃活動とアマモ移植活動と自然観察会活動を継続すること。



今後の展望

清掃活動は日を固定し継続的に参加しやすくし、楽しいゴミ拾いを続ける。アマモ移植は発芽率を上げアマモ里親を増やし多く移植し、定着する可能性を高める。観察会を実施し海の魅力を十分に知ってもらいたい。

### 活動内容と成果

清掃活動は継続的に参加するメンバーが増えた。ゴミは毎回たくさん回収するが、次月もまた同じようにあるため一向に減らない。参加者は参加者同士の会話等弾み楽しんで活動をしているようだった。延べ500人参加、延べ530袋回収。音楽、スポーツイベント実施。アマモ移植はちきり浜にて、4月に0.8㎡、3月に1.2㎡分移植した。アマモポットは200個配布した。4月移植分は3月移植時に確認したところ全て消失していた。3月移植分に期待したい。新型コロナウイルス禍であったが有志でアマモ移植会、地引網を実施できた。



そくそく集まったゴミを今日は展示してみた

LOVE BLUE助成

1年目

知識の提供・普及啓発

アマモポット配布 **200個**

アマモ育苗 **100個**

今年度計画の達成度 **50%**

目標達成度 **30%**

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

アマモを種から育て約10cmの苗を移植、砂が流されたりアオサが覆ったり定着が難しく、4月移植分はすべて消失。

#### ■ 工夫した点

前回は苗の一部が高温で茶変したため、早い時期の3月に移植した。また1か所にかためずに違う場所に分散し移植した。

〒554-0051  
大阪府大阪市此花区西島6-4-19  
E-mail：oceanloverock@gmail.com  
HP：https://www.osakaumisakura.com/



## インドネシア・西部バリ国立公園周辺村における、地域に根ざした環境教育と若者ファシリテーター育成を通じた『子どもたちが生きいきと活動するカンムリシロムク保護村』づくり

活動地域  インドネシア



ちびっ子ファシリテーターの村資源地図作り

### 課題

インドネシア・バリ西部において、カンムリシロムクの野生復帰をテコにエコツーリズムを発展させるためには、多くの村人による生息地復元や野生復帰支援活動が必要である。

### 目標

西部バリ国立公園周辺村において、子どもや若者が積極的に参加するカンムリシロムク野生復帰活動が進み、他地域からの視察や村落エコツーリズムの対象となる。



今後の展望

環境教育シラバスは地域科カリキュラムとして採用を目指す。子どもたちによるカンムリシロムクのモニタリングや村落エコツアーガイド活動を進め、住民グループによるカンムリシロムクの生息地保全を活性化していく。

### 活動内容と成果

環境ファシリテーターや教員らの有志による環境教育シラバスが作成され、いくつかの学校でのトライアルに向けた準備が進んでいる。また、ムラヤ村クラタン集落の子どもたちを中心に14人のちびっ子ファシリテーターが育成され、同村やギリマヌク村の環境ファシリテーターの支援を受けながら、カンムリシロムクの定期的なモニタリング、エコツアーガイド活動に向けたトレッキングルートの作成等を開始している。ちびっ子ファシリテーター向けのガイドブック(虎の巻)も制作した。



カラン・セウ海岸でのクリーンアップ活動

ひろげる助成

2年目

実践

ちびっ子ファシリテーター	14人
シラバス作成チームの会合	10回
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	50%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍で学校の対面授業が長期間行われず、環境教育シラバス作成やちびっ子ファシリテーター育成活動に制限が生じた。

#### ■工夫した点

オンラインでの話し合いを活用するとともに、ちびっ子ファシリテーターは自主的な学習活動をしている子どもたちから育成した。

Nayu Ceklik RT02 RW020  
No.1 Nusukan Banjarsari  
Surakarta, Jateng, Indonesia  
E-mail : iinetworkbb@gmail.com

## (特非) アサザ基金

## 霞ヶ浦水源地の総合保全に向けたコンソーシアムの設立とコミュニティビジネスの流域ネットワーク化

活動地域  茨城県霞ヶ浦流域



馬を導入し水源地再生への循環の輪を拡大

### 課題

霞ヶ浦流域では水源地を管理してきた集落の過疎化が進み、耕作放棄地の増加や森林の荒廃が進んでいる。流域を視野に水源地を総合的に保全再生することが課題となっている。

### 目標

霞ヶ浦流域の主要3水系で、水源地の耕作放棄地再生と森林整備を過疎集落の活性化と一体化したコミュニティビジネスを興し、流域展開への体制作りを行う。

### 活動内容と成果

水源地再生と過疎集落の活性化を一体化したコミュニティビジネスの拠点となる古民家の改修を終え、活動を試行的に開始した。新たに改修した空き家をシェアハウスにして4人の移住者を誘致し、再生した耕作放棄地や里山への働きかけを行ってもらっている。かつて農村にいた馬や山羊を導入し、輸入飼料等に一切頼らず、採草等を通して水源地の耕作放棄地や里山への働きかけを拡大し、稲藁の活用や堆肥づくりを通して循環の輪を作った。水系間の情報交流によって、物や技術をシェアできる可能性が見えてきた。



シェアハウス入居者による水源地活用会議

ひろげる助成

2年目

実践

水源地の再生面積	16.9 ha
イベント参加人数	463人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	50%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で、計画していた集落間の交流が困難となったため、スタッフが集落間をつなぐ役割を果たし情報交換を行った。

#### ■工夫した点

水源地保全の体験としての田植えや稲刈り、自然観察会等は、オンラインも活用して現場の雰囲気伝えるように工夫した。

〒300-1222  
茨城県牛久市南3-4-21  
電話：029-871-7166  
E-mail : asaza@jcom.home.ne.jp  
HP : http://www.asaza.jp/





(一社) SDGs市民社会ネットワーク

「持続可能な開発目標」(SDGs)に関する市民社会の活動の強化とマルチ・ステークホルダー・プロセスの定着を目指した活動

活動地域 日本全域



SDGsジャパンが発表したレポート

課題

SDGsの進捗は近年、気候変動やパンデミック、武力侵襲などの影響で逆行している。社会の変革に向け多様な当事者を含む市民社会が十分に参画した意思決定が必要である。

目標

SDGs達成に向けたマルチ・ステークホルダー・プロセスが定着し、この制度の質を向上させるためのフォローアップ・システムが確立されること。



今後の展望

2023年は「2030アジェンダ」達成までの中間年であり、国連SDGサミットが開催される。また国内では政府SDGs実施指針の改定が予定される。2022年はそれに向けて市民社会の活動を加速化していく。

活動内容と成果

市民社会の意見が政策決定に取り入れられるプロセスの確立と定着を目指し、政府SDGs推進円卓会議事務局や各政党/議員との意見交換会を実施した。また、地域活動を行うNPOが進めているSDGsの実践活動をつなげ、ネットワークの強化に取り組んだ。

- SDGsに関する政策提言集「SDGsボトムアップ・アクションプラン2021」を発表
- 7月に開催された国連ハイレベル政治フォーラムに合わせて、日本のSDGsの進捗評価レポート「SDGsスポットライトレポート2021」(日/英)を発表



5周年記念フォーラム (2月25日)

ひろげる助成

2年目

実践

議員勉強会	7回
主催/共催フォーラム	8回
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	80%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

SDGsに関するオンラインフォーラムや勉強会で多様な人々の参加を保障する点に課題があった。

■工夫した点

SDGsに関するイベントで通訳をつけるなど参加の質の確保に努めた。

〒102-0072  
東京都千代田区飯田橋1-7-10  
山京ビル本館604号  
電話：03-5357-1773  
E-mail：office@sdgs-japan.net  
HP：https://www.sdgs-japan.net/



(特非) 徳島保全生物学研究会

生物多様性活動認証制度の拡大による地域の生物多様性向上の推進

活動地域 徳島県



圃場の市民による生き物調査

課題

生物多様性活動認証制度の普及により、徳島県における生物多様性の保全活動が推進拡大する。

目標

徳島県内の企業における生物多様性活動を普及させ、企業における認知を向上させるとともに、農業や消費者に認証制度を普及啓発する。

活動内容と成果

生物多様性の向上を図るため、生物多様性活動認証制度を企業に普及させる準備として、企業版チェックシート、及び講習会資料を作成し、課題を抽出し検討した。実際に進めるにあたり、企業の代表者が組織した「SDGsとくしまみらい会議」と連携し、所属企業の経営者へ制度の説明等をインプットした。農業者への普及啓発を併せて実施し、県西部と県南部の農業従事者の協力を新たに得ることができた。また、消費者への普及啓発にオーガニック・フェスタ会場からオンラインにより生物多様性の取組みや重要性を伝えた。



生物多様性活動認証制度の広報活動

ひろげる助成

2年目

実践

事業者を対象にした認定制度登録	1社
認証取得者のHP掲載者数	5軒
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	70%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら、かつ、新しいスキルをマスターしながら実施しなければ活動が推進できなかったこと。

■工夫した点

対面の場合は、関係者が新型コロナウイルス感染を起ささないように細心の注意を払いながら実施したこと、オンライン会議のスキル習得。

〒774-0016  
徳島県阿南市中林町東45番地1  
電話：090-2828-6181  
E-mail：sachiyoww@hotmail.co.jp



今後の展望

作成したチェックシートと講習会資料で企業に生物多様性活動認証制度を推進していく。並行して農業従事者への中上級認証制度を検討する。さらに、消費者に取組みを普及啓発し、生物多様性の向上を図る。

## 市民からの持続可能性アセスメントの提案とモデル事業の実施

活動地域  長野県、日本全域



夢洲生きものフォトアルバム (2回/年)

### 課題

日本では持続可能性アセスメントが導入されていない。開発行為の持続可能性を評価する仕組みを構築することで、SDGsに向けた取組みの実効性を高めていく必要がある。

### 目標

持続可能性アセスメントを市民活動の分野から提言し、実践を広げていくことで、日本における持続可能性アセスメントの導入を促進する。



### 今後の展望

モデル事業では、これまでの環境アセスメントの枠組みとは違った市民参加による開発手法の開拓につながるの確信を得つつある。3年目にはこれらを集約させて、事例集としてまとめていきたい。

### 活動内容と成果

- ①環境アセスメント学会研究発表大会での発表
- ②オンライン学習会等の開催 (5回、延べ162人参加)
- ③大阪万博アセス「私たちからの準備書 (生物多様性編) 及び (持続可能性編)」の発表
- ④夢洲の生物多様性調査 (42回、延べ182人参加)
- ⑤小冊子「夢洲 生きものフォトアルバム」刊行 (2回)
- ⑥水島環境再生プラン持続可能性評価指標の追跡調査
- ⑦オンラインSDGs学習ソフト「つきのくんと考える <<開発と環境>>」プログラム案の作成と検討
- ⑧環境教育関係者とのオンライン研究会 (2回)



夢洲の生きもの調査 (42回/年)

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

提言、冊子等の公表、刊行、発信 **5件**

調査活動、学習会等の開催 **52回**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **90%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

「環境教育への展開」が新型コロナウイルス禍で思うように実施できなかったため、オンラインでのプログラム案を専門家とともに検討した。

#### ■工夫した点

各地の環境NPO (大阪、倉敷、東京) と協働したモデル事業の実施と、専門団体・学会との連携。

〒398-0002  
長野県大町市大町3302  
電話：0261-22-7601 (FAX兼用)  
E-mail: npo@omachi.org  
HP: http://npo.omachi.org/



## (特非) アジア太平洋資料センター (PARC)

## 電気自動車・再生可能エネルギー・SDGsを鉱物調達の見点から再検証するモニタリング・普及啓発・提言活動

活動地域  フィリピン、インドネシア、エクアドル、日本全域



キャンペーン動画

### 課題

気候変動対策として電気自動車等の需要が急速に拡大しているが、その生産に必要なリチウム・ニッケル・銅の獲得のため、拙速かつ破壊的な鉱山開発が進んでいる。

### 目標

「責任ある鉱物採掘」が資源開発セクターの標準となり、気候変動対策などの切迫した問題に対して十分な環境配慮がされて採掘された鉱物が活用される状態を目指す。



### 今後の展望

現地訪問により見えてくること、伝えられるものがあるという認識は変わらず、次年度は現地渡航ができることを期待する。渡航不可の場合も、引き続き関係各所と連携強化し、目標達成にむけ効果的な活動を行いたい。

### 活動内容と成果

- 連続ウェビナー「低炭素技術とSDGs—気候対策だけでは済まされない企業の社会的責任とは」(全3回)を開催
- キャンペーン動画「カルロス・ソリージャ氏の語るトランジションと鉱物需要がもたらす危機」、「悲鳴を上げるパラワン」を制作し、オンライン配布を開始
- 普及啓発活動に資するためのキャンペーンウェブサイトを制作
- 協力団体と戦略会を開催し、NGO間の連携を強化
- 鉱山開発にかかわる企業1社と面会を実施
- Electronics Watch主催国際会合へ参加し、127人へ国際発信



キャンペーンウェブサイト

ひろげる助成

2年目

調査研究

オンラインウェビナー 延べ参加者 **477人**

国際会合での情報発信 **127人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **35%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルス禍により引き続き現地調査・取材ができず、代替手段を模索しながらの活動となった。

#### ■工夫した点

他団体やカウンターパートとの連携強化にこれまで以上に重点を置いた。また、オンライン上の情報発信手段を整えた。

〒101-0063  
東京都千代田区神田淡路町1-7-11  
電話：03-5209-3455  
E-mail: office@parc-jp.org  
HP: http://www.parc-jp.org/





(特非) 九州エコファーマーズセンター

熊本地震被災地域における活性化の活動

活動地域 熊本県



農業体験(含む食農体験)の活動

課題

熊本地震の被災住民に暮らし再建の希望を持てるようにすること。そのため住民自らの力で修復可能な農地や施設を再生し、特産農産物で経済基盤の強化を図ること。

目標

地震で被災した阿蘇の集落が、自然豊かで多くの生命の営みが感じられる農村集落として復活する。



今後の展望

新型コロナウイルス禍で大打撃を被っている中、地方が見直されている。この機会に阿蘇の魅力をいかすための農地や施設整備を行い、農業人材育成、特産農畜産物開発を進め、景観維持と農業の持続的発展につなげる。

活動内容と成果

- ブランディング化のため赤牛肥育、コーヒー豆生産、スイゼンジノリの実証実験とブランディング化研修会を実施
- 復興イベントとミニコンサートを駅カフェ、仮設店舗、農家マルシェの3か所で開催。参加者75人
- 農業復興の一環として、開墾塾、たかな祭り、農業体験に206人が参加。新規就農予定者5人を農業研修中
- 地震後の耕作放棄地(水田1ha、農地5ha)を重機を利用して整備。延べ108人が参加



熊本地震後の耕作放棄地を重機で整備

復興支援助成

2年目

実践

研修会、塾、イベント、農業体験 **290人**

農地・農業用施設整備 **5か所**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **70%**

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルス禍で、3密となる大規模なイベントや塾が開始できなかったこと。

工夫した点

小さなイベントや小規模塾の開催に重点をおくとともに、地域住民や行政との繋がりや地域からの発信力を強化した。

〒861-1113

熊本県志市栄3802-4

熊本県農業公園内

電話：096-247-3333

E-mail: [ecofarmers@asoeco.jp](mailto:ecofarmers@asoeco.jp)

HP: <http://www.facebook.com/npoecofarmers/about/>



(特非) フー太郎の森基金

被災農地で被災者を対象にした無農薬・減農薬の市民農園造成と実践的「食育」講座開催

活動地域 福島県



様々な野菜や花が育つ9月の市民農園

課題

津波で被災した農地で遊休閑地と化しているところに環境や景観に配慮した市民農園(農地公園)を造成し、被災者らに利用してもらう。

目標

草丈の高い耕作放棄地だった場所が、市民の憩いの場と安全な野菜の生産の場になるよう造成する。食育の重要性も併せて伝えていく。



今後の展望

小学校の通学路に面していることから、ブラックベリーの垣根と花壇を造成中。また園内に小さな庭園を造り、地域の方々が散歩に立ち寄れる場所を作っていく。

活動内容と成果

津波で被災した耕作放棄地に市民農園(農地公園)を造成中。45区画の農園の整備が完了し、本格的に畑の利用が始まった。利用者は、6割が被災者、4割が子どもの食育を気づかう母親。園内に井戸を掘っていることから、地下水を汚染する神経毒性のあるネオニコチノイド系農薬の使用は禁止。利用者の皆さんは手作りのハーブによる農薬などで対処している。いよいよ公園部分の工事も完了し、植栽を開始。市民農園造成と併せ、境野米子氏らによる「食養生講座」を年3回の予定で開催している。多彩な内容で、好評をいただいている。



三浦伸章氏を招いてのガッテン農法実習講座

復興支援助成

2年目

実践

農地公園の利用 **43区画**

食養生講座参加者 **55人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **65%**

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

津波の後に埋め立てられた土質が悪く、排水がうまくできていない。庭園部分に何がどう根付くか試行錯誤になりそうだ。

工夫した点

道具置き場兼作業小屋の建設を予定していたが、近頃の強風から建設を断念。ぶどう棚を作り、その下を作業スペースにしていく。

〒976-0022

福島県相馬市尾浜字南ノ入241-3

電話：0244-38-7820

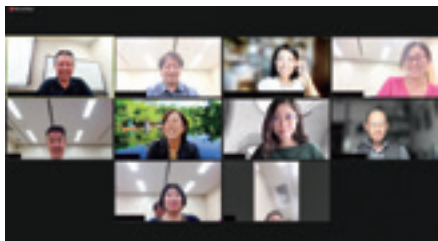
E-mail: [info@futaro.org](mailto:info@futaro.org)

HP: <http://futaro.org/>



# 旅行会社に向けたサステイナブル・ツリズム国際認証制度の普及啓発

活動地域  日本全域



トラベライフハイブリッド研修会 in 大津

### 課題

近年の急激な訪日観光客の増加や一極集中による「観光公害」が我が国の自然環境、文化遺産、そして地域経済に深刻な影響を与え始めている。

### 目標

国際基準に沿った持続可能な「責任ある旅行」を普及啓発し、観光地域の自然環境の保全と、地域資源や文化をいかした観光活動により美しい日本を次世代に残せるようにする。



今後の展望

旅行会社向けのトラベライフに加えて、宿泊事業者向けのグリーンキーとビーチやマリーナを対象としたブルーフラッグの三つの窓口業務を担うことになり、より包括的なサステイナブルツリズムの実践を推進していく。

### 活動内容と成果

- Travelife研修会開催 大津
- Travelife研修会開催 東京
- エコプロ2022出展 東京ビッグサイト
- インパウンドマーケットEXPO 出展 東京ビッグサイト
- 環境教育基金のグリーンキー及びブルーフラッグのナショナルオペレータとして認定を受ける
- 国内ブルーフラッグの視察(逗子、鎌倉、藤沢)、関係団体との意見交換など

新規事業を始める準備が整いつつある。会員間の交流も深まってきている。多方向から問い合わせがあり、業界全体の意識が変わりつつあるという手ごたえを感じる。



国内ブルーフラッグ施設視察及び意見交換

フロントランナー助成

3年目

知識の提供・普及啓発

研修会参加者 **13人**

新規会員 **6社**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **45%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルスの感染状況により、会場や日程を何度も変えての開催となり十分な告知期間などがとれなかった。

#### ■工夫した点

ハイブリッドの開催としたので海外を含めて遠方からの参加者を取り込むことができた。参加者8人中半数がオンライン参加。

〒604-8811  
京都府京都市中京区  
壬生賀陽御所町8-2  
電話：075-406-7700  
E-mail：secretariat@jarta.org  
HP：http://www.jarta.org





# 企業・学校・NPOの誰もが使いやすい環境配慮施策パッケージの開発と導入支援

活動地域  東京都

協働パートナー **48** 組織/人

実践的な環境施策 **96** 施策

今年度計画の達成度 **85** %

目標達成度 **80** %

つづける助成

**3**年目

調査研究



ごみ分別指導を行うシェアオフィススタッフ

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

「心に火をつける」研修でマインド変容を促しパッケージ導入につなげたいが、研修と動画教材の完成のスケジュール上、助成期間でこのシナリオの実現を叶えることが難しかった。

### ■ 工夫した点

イベントや会議を全てオンラインに切り替えただけでなく、オンラインでも高いインパクトが生まれる研修、パッケージ、伴走支援のコンテンツ作りに尽力した。

## 課題

組織のオペレーションをエコ化する施策は多く、やりやすいところから始められ環境効果も高いが、情報の散在や、進め方がわからないなど、取り組めていない組織は多い。

## 目標

環境施策のパッケージ化、パッケージの導入可能性向上、支援体制の確立により、すべての組織のオペレーション面がエコであることが当たり前の社会を実現する。

## 活動内容と成果

マインド変容を重視した研修と動画教材・組織のCO<sub>2</sub>排出量を可視化するツール・ケーススタディ集の開発により、組織の環境配慮施策パッケージ導入へのモチベーション向上を図ることができた。具体的な施策数は96に増加し、オンラインイベント参加人数は530人となった。協働する団体は、アンバサダー 5人、テックパートナー 20法人、導入パートナー 18法人、海外協力団体5法人となり、合計で48法人/人のパートナーと協働し、導入支援プラットフォームがより強化された。



学校の環境負荷可視化に取り組む生徒

## 全助成期間の活動を振り返って

実践的な施策のまとめ、環境負荷可視化ツール、エコシステムマップ、マインド変容を促す研修・動画教材など、組織の実践フェーズへの移行を実現可能にするパッケージを確立できた。導入組織やモデルケースも着実に増え、導入を検討する組織への良いインスピレーションを生み出している。2年目からはアライアンス運営に注力し、支援体制強化と組織同士が互いに教え志を高め合うコミュニティ形成が大きな成果であると考えている。



アライアンス交流会

〒107-0062  
東京都港区南青山2-15-5 FARO 1階  
E-mail: [operationgreen@earthcompany.info](mailto:operationgreen@earthcompany.info)  
HP: <https://www.earthcompany.info/ja/>



今後の展望

モデルケース発信、意識調査公開イベント、英語版ウェブサイトなどを通し、国内外でのパッケージ導入の啓蒙活動により力を入れ、導入組織の増加を目指す。「心に火をつける」研修からパッケージ導入へのフローをよりスムーズに行えるよう、フォローアップ、動画教材活用、アライアンス運営に引き続き注力していく。

# ウミガメにおける海洋ゴミ問題のモニタリング調査と誤食ゴミを活用した参加型啓発プログラムの開発

活動地域 関東

ひろげる助成

3年目

実践

ウミガメ個体調査数 **192頭**

イベント参加者数 **68人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルスの感染状況と職員の出張が重なることで、現場で調査できるスタッフが少ない時期もあり、人員が不足している時期があった。

### ■ 工夫した点

SNSを使い積極的にストランディング(漂着)調査や海洋ゴミに関する情報を発信するよう努めた。



オサガメ(世界最大のウミガメ)調査を実施

## 課題

海洋ゴミの生物への影響は未解明な部分が多く、現状把握が急務となっている。

## 目標

海洋ゴミ問題についてウミガメへの影響を解明し、一般へその情報を拡散する。

## 活動内容と成果

- ウミガメストランディング(漂着)個体及び混獲個体の調査を192頭に対して行った。過去最高の調査数となった。また、小笠原の捕殺個体も加え、ゴミの誤食状況を調べた結果、平均7割のウミガメが誤食していた
- ウミガメのフンに含まれるマイクロプラスチックを分析した
- ストランディング(漂着)個体調査に関する対面イベントを6月に実施。また、10月にはゲスト講師をお招きしてのオンラインイベントを実施。延べ2回でアンケートは回答が得られた34人のうち33人が「環境問題への意識が変化した」と回答した



ウミガメのフンの分析を実施

## 全助成期間の活動を振り返って

プロジェクト期間の3年間で、過去と比べて多くの調査を行うことができた。メインの海洋ゴミとの関連性に関しては、ウミガメが誤食していたゴミサンプルを分析することで、誤食の傾向が見えてきた。ウミガメの生態はまだ謎な部分が多く、今回のプロジェクトで得たデータは貴重なデータとなる。自分自身もプロジェクトに主体的に関わることで成長することができたと感じている。



ウミガメ個体はその場で解剖を行い埋設する

〒221-0822  
神奈川県横浜市神奈川区西神奈川3-17-8 4F  
電話：045-432-2358  
E-mail：info@elna.or.jp  
HP：https://www.elna.or.jp/



## 今後の展望

今後も継続的にウミガメ漂着個体の調査を継続していく。今回のプロジェクトで得られたデータを、今後のウミガメの保全・研究に役立てられるように、発表できる体制を作っていく。また、海洋ゴミの問題はまったなしの状況だ。環境問題に関心をもち、行動できる人を増やすべく、海洋生物や海洋環境への学びが得られるようなプロジェクトをこれからも開発していきたい。



# 東日本大震災被災地における地域のレジリエンス向上を目指した海浜植物群落の再生と環境・防災学習・地域交流ネットワーク形成

活動地域  北海道、宮城県、岩手県

ひろげる助成

3年目

実践

育てた海浜植物の数量 **2,500株**

植栽活動に参加した人数 **150人**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **90%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

被災地においての活動の主体となる町内会やNPOなどとのネットワークの構築や関係づくりを持続的に行っていくこと。

### ■ 工夫した点

想いを色褪せないものとするため、そして学び合いや心のふれあいを目的として双方の市民による交流会を併せて実施した。



仙台市荒浜でのいきもの観察会の様子

## 課題

震災から10年が経過し、被災地では時間の経過による風化に対し状況の改善が必要である。継続的な活動として定着させていくため地域での担い手の発掘・技術移転が求められる。

## 目標

地域との連携で継続性を担保しつつ、海浜植生の保全・復元活動を続けることで、環境教育+防災教育が定着し、海辺の生態系保全と防災への意識を維持していけるようになる。

## 活動内容と成果

北海道内での市民や企業、地域との活動において、海浜植物のレスキュー活動で集めていた種子より約2,500株を育苗。約1,500株を宮城県などの海岸現地3か所の適地と近隣仮植地へ、双方の市民延べ150人で移植した。例年6月に仙台で行っている植栽交流会とフォーラムは開催できなかったものの、WEB上で行うことによりこれまでより多くの地域からの活動報告を聞く機会となり交流することができた。その様子を映像として保存することもでき、今後の活動に向けた新たな取組み方法を見つけることができた。



岡田小学校での苗づくりの様子

## 全助成期間の活動を振り返って

ここまで目標としていた地域での活動へと移管していく形が、仙台市と気仙沼市で小学校、地域の方々を交え確実に進みはじめ、教材などとして使えるツールづくりまでは実現できなかったものの、モデルづくりは進めることができた。この地域を越えた交流を続けてきたことによって、普段つながることのない人たちが自然の大切さ、そして防災や減災に繋がる学びの場を提供するかけはしとなれたものと感じている。



大谷小学校との植栽活動の様子

〒064-0808  
北海道札幌市中央区南8条西2丁目5-74  
市民活動プラザ星園405  
手稲さと川探検隊内  
HP : <https://hamahirugao.jimdo.com/>



## 今後の展望

構築されたネットワークをもとに、各々の地域の学校や活動団体との協働を進め、自主的な活動となるよう進めていく。また本活動で得られた成果をもとにモデルとなるようなツール作りを併せて実施していく。

(特非) たてやま・海辺の鑑定団

## 南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」「伝える」ための仕組み強化による環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動

活動地域  千葉県館山市

ひろげる助成

3年目

実践

移植したアマモの株数 **1,020株**

配布した普及啓発用ガイドブックの数 **12,000冊**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **70%**



地域の方たちとのアマモの移植会

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

- ごみ軽減策として行政へ提案を行ったが、有効な方策の実行には至らなかった
- 海藻類が全般的になくなってしまいう「磯焼け」が進み移植したアマモが消失してしまった

#### ■工夫した点

新型コロナウイルス禍で、沖ノ島が閉鎖となり、普及啓発やイベント開催ができない状況であったが、オンラインでの実施や映像コンテンツの作成に切り替え着手することができた。

### 課題

環境保全等に有効な規則が存在しないため、一部のマナーが悪い人たちによるごみ問題、自然環境や海洋生物へのインパクトなど、周辺環境悪化が地域の課題となっている。

### 目標

沖ノ島の保全・再生と活用を両立する。「普及啓発活動」により「大切さ」を共有し、持続可能な「仕組み」、常に管理ができる体制を構築し、自然環境を次世代に継承する。

### 活動内容と成果

- 10月に環境保全協力を活用した森の再生活動やアマモ場再生活動について、行政との意見交換を行い、環境保全協力金による仕組み強化につながった
- 6月に市内小中学校を通じて「沖ノ島を遊びつくすガイドブック」を約2,000部配布し、普及啓発を行った。夏季のパークレンジャーでは、約10,000部活用した
- 5月30日に、24人で移植会を行った。1,020株を100m<sup>2</sup>に移植した
- 森の再生活動を計10回実施した。沖ノ島の自生種タブノキの実生苗約50株を移植し、約30株程度残存成長している



自生種の種を拾い集めて移植用の苗を育成

### 全助成期間の活動を振り返って

台風被災や感染症拡大により大幅な計画変更が必要だったが、環境保全再生に取り組み始めたことで、新しい分野に挑戦することができた。環境保全活動を通して地域の小学校、高校との連携、活動の賛同者・協力者を得ることができた。引き続きシンボルマークやガイドブック等のツールをいかし、常駐のビジターセンターの開設を視野に入れ、地域の若者の活躍の場を目指し、地域の自然環境を未来に繋げるための仕組みとしたい。



森の再生活動

〒294-0034  
千葉県館山市沼979番地  
電話：0470-24-7088  
E-mail：info@umikan.jp  
HP：http://umikan.jp/



今後の展望

今後は、全国アマモサミットをきっかけとした新しい連携を模索し、地域の若者や子どもたちに対して「学びの場・活躍の場・発言の機会」の提供しながら、「ローカル環境ビジネスの育成」を実践し、沖ノ島のノウハウをいかにしながら、活動の幅を少しずつ広げ、その担い手となりながら認定NPO化を目指し、そのチャンスをいかに自立につなげたい。



# 生き物好き発掘！身近な自然の危機を察知できる人材を増やすための取り組み

活動地域 福岡県



近隣の小学生向けに実施したワークショップ

## 課題

だれにも知られないまま消えてゆく自然や生き物を少しでも減らす。自然との関わりを持てる人材を増やす。

## 目標

様々なコンテンツを提供し「自然を観る目」を持つ人材を増やす。そのような人物が増えることで危機を察知される自然も増加すると仮定し、間接的な自然保護の実現を目指す。

## 活動内容と成果

生き物への関心を高めるための多目的施設「バイオフィリア」を運営し、千冊以上の蔵書がある「生き物ブックカフェ」など様々なコンテンツを提供している。今年度は、「到津市民センター」「日本カブトガニを守る会」「地球環境基金若手PL研修成果発表会」など参加者が限定的なコラボイベントを実施した。また、稲作と地域の生物多様性が共存できるかをテーマにした湿地整備と農業体験イベントの実施と、お米の活用その他、地元河川で近年自然下絶滅したタナゴの調査保全についても研究結果を報告した(2022年4月実施予定)。



包装は参加者が制作商品化で活動をPR



## 今後の展望

まずは、完全な自走化をさせること。そして、この場所が起点となり、利用者同士で新たな自然に関する活動が自然発生してほしい。この報告書を書いている最中、新任の水族館職員と長年カブトガニの保全をしている方が、偶然この施設で出会い、干潟の生き物話に花を咲かせている。少しずつではあるが、ステークホルダー同士を繋げるハブのような施設になっていけたらと思っている。

累計来場人数 **1,800**人

サイエンスカフェ **1**回

今年度計画の達成度 **20**%

目標達成度 **50**%

ひろげる助成

**3**年目

知識の提供・普及啓発

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大が収まり、予定プロジェクトの準備を進めた途端、再び緊急事態宣言が発令され、中止となるのが再三あり、モチベーションを保つことがとても難しかった。

### ■ 工夫した点

直接のコミュニケーションを重要視し、あえてオンラインのみのイベントについては実施しなかった。



若手PL報告会成果報告会を当施設で実施

## 全助成期間の活動を振り返って

これからという時期に新型コロナウイルス禍となった。思うようにイベントは実施できなかったが、それでも、多くの方に施設にカフェとして足を運んでいただき、お話しすることができた。なかでも、近隣住民の中にこんなもたさんの生き物好きがいるのか！と驚くばかりだった。この生き物は何だ？という疑問や進路相談など様々相談もあり、「あそこのカフェのおじさんに聞いてみよう」という気軽に生き物相談ができる場所を創出できたと感じる。

〒803-0814  
福岡県北九州市小倉北区大手町2-12  
電話：093-287-0517  
E-mail：gyobu.subsidy@gmail.com  
HP：https://gyobu.or.jp/



(一財) CSOネットワーク

持続可能性を高める中小企業をサポートするツールの開発及びそれに向けた調査  
～SDGs時代における地域のエコシステムを活用したアプローチ～

活動地域 東京都、佐賀県

ひろげる助成  
**3年目**  
知識の提供・普及啓発

セミナー参加人数	<b>160人</b>
メディア露出回数	<b>5回</b>
今年度計画の達成度	<b>90%</b>
目標達成度	<b>70%</b>



サステナブルブランド国際会議で活動を紹介

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、オンラインの活用等、柔軟な活動展開に努めたが、やむを得ず出張回数を削減するなど対話・連携の機会には制限があった。

■工夫した点

- オンラインを活用し、セミナーの開催、アプリでの進捗管理、SNSによる情報発信等を行った
- 活動の成果をまとめ、様々な場面で活用しやすいハンドブックとして発行

課題

中小企業は地域経済を支えるのに欠かせない存在だが、取り巻く環境の厳しさを背景に、自社や地域社会への持続可能性向上に関する取組みは限定的であると思われる。

目標

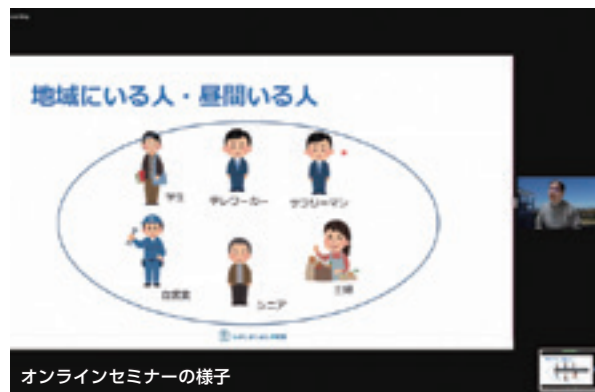
中小企業の持続可能性における現状と期待値のギャップを調査し、地域・社会の関係性の中で理解し、ギャップを埋めるために必要なことを地域・社会のシステムから考える。

活動内容と成果

- 調査等からの気づきや学びを踏まえ、中小企業が抱える課題からサステナビリティ経営を考えるハンドブック「課題解決からはじめよう サステナブル経営」を発行。約100か所に配布
- 「ビジネスと人権」を主テーマとしたハンドブック「ケースから考える『ビジネスと人権』～個人や尊重される社会を目指して～」発行。約100か所に配布
- 動画「10分でわかる『ビジネスと人権』」を制作（動画再生数：2022年3月31日現在550回）
- 自主開催セミナーを3回開催。参加人数約160人
- 外部メディア露出5件



発行したハンドブックの表紙



オンラインセミナーの様子

全助成期間の活動を振り返って

中小企業や関係者へのインタビュー等からの気づきや学びを踏まえ、サステナブル経営を考えるハンドブックの発行という成果を生み出すことができた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響から行動の制限があり、オンラインを活用せざるを得ない状況となったが、全国の様々な関係者との対話や連携の機会を得たり、オンラインセミナーに全国から参加をいただき、活動を知っていただいたというポジティブな影響もあった。

〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18 アバコビル5階  
電話：03-3202-8188  
E-mail：office@csonj.org  
HP：https://www.csonj.org/



今後の展望

発行したハンドブックを活用したことによる中小企業や関係者への具体的な効果の把握についてはまだ行えていないため、今後、弊団体が取り組んでいる「企業のサステナビリティ推進」や「持続可能な地域づくり」といった事業を進める中で機会を創っていきたい。助成期間を通じて得た様々な関係者とのつながりをいかし、経営と地域社会の持続可能性向上に寄与するための活動に引き続き取り組んでいきたい。



若者によるSDGs実施の推進のためのユースコンパクト発足、GDPに変わるビジョン・指標策定を中心とした政策提言、およびSDGs推進に関わる啓発活動

活動地域  日本全域

ひろげる助成

3年目

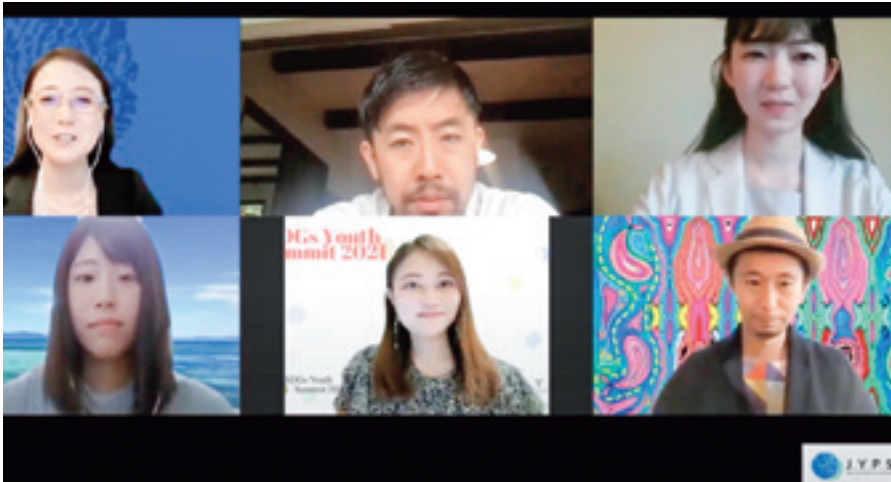
国際会議

Youth Summit参加者 **213人**

2021年度の加盟員増加 **120人**

今年度計画の達成度 **65%**

目標達成度 **70%**



SDGs Youth Summit 2021

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

- 若者による自治民主的な仕組みを保持すること、若者によってのみ運営していくこと
- 仕事や学業との両立の中で活動を持続させ、インパクトを最大化させること

■工夫した点

- オンラインを利用した国際会議への派遣、参加、登壇
- 様々なステークホルダーと関わり、幅広いユース団体と連携により「誰一人取り残さない」仕組みの実現を目指した

課題

「次世代のために続く世界」の達成のために、若者が現在主流である成長中心とは異なった、GDPでは測れない価値ある社会のあり方を示すことが必要である。

目標

SDGsに関連する活動や問題に関心を持つ若者が自発的に集うプラットフォームとして、アドボカシー活動に取り組み、様々な分野において政策の変革の最前線にいること。

活動内容と成果

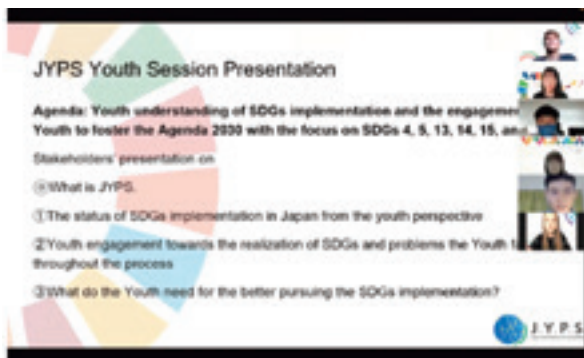
- HLPF2021で、ユース17人を会議に派遣した
- 日本政府のVNR (自発的国家レビュー) に対しインプットを行った
- COP 26 Japan Pavillionでの登壇を行った
- 北東アジアマルチステークホルダー会議に参加し、ユースセッションを初めて開催した
- 次世代のSDGs推進プラットフォームに参加し、若者主導の7団体で意見交換を行った
- 持続可能な開発目標 (SDGs) 推進円卓会議において、若者の参加枠が設けられ、ユース世代の意見を届けことが実現した



外務省地球規模課題総括課長への提言

全助成期間の活動を振り返って

3年間の活動を通して、2030アジェンダ、SDGsの社会的あり方や人々の関心は大きく向上した。若者の地球規模課題に対する社会構造への不信感の増大とともに、政策決定会議への参画の必要性が大きくなった。JYPSの活動を通じて、国際・国内会議での日本の若者のプレゼンスを発揮し、参画の機会を得られるようになった。しかし、未だ継続的な席の保証や若者の間で包摂的な議論ができるシステムづくりが必要である。



APFSD Youth Forum

〒300-0311  
茨城県稲敷郡阿見町島津3-137  
E-mail: [japanyouthplatform@gmail.com](mailto:japanyouthplatform@gmail.com)  
HP: <https://www.jyps.website/>



今後の展望

アジェンダ21より受け継がれる若者というステークホルダーを確立するために、2023年G7の日本開催や同年の日本政府によるSDGs実施指針の改訂などの国際・国内の政策決定の枠組みに対してユースの参画を保證することはJYPSが日本で唯一の若者のプラットフォームとしての社会使命である。それらの達成のために、今後も継続的なアドボカシー活動と日本の若者に対する知識啓発活動を行っていく。

## 「たね」を通して見た食と農の持続可能性についての啓発活動

活動地域  東京都



大豆の収穫感謝祭オダイズサイ2021

ひろげる助成  
**3年目**  
知識の提供・普及啓発

調査及び取材活動	<b>73</b> 団体
講座等啓発活動 参加者数	<b>1,063</b> 人
今年度計画の達成度	<b>90</b> %
目標達成度	<b>90</b> %

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナ感染拡大により、現場へ赴く取材活動は難しく計画の変更が余儀なくされた。また、学習会や交流会など直接会って交流する機会が極端に減った。

#### ■ 工夫した点

オンラインの活用により、講座企画をテキスト付き、ライブ視聴、録画配信にしたことで参加しやすくなり、幅広い層の参加があった。広報紙のカラー化等情報提供を強化した。

### 課題

「たね」を巡る考え方は立場の違いや情報の所在の偏り等により、主体的に考え責任ある取組みに関わることができたであろう多くの市民の関心を集めることができていない。

### 目標

講師等、啓発活動の担い手の育成拡大。環境、農、食をテーマとする市民団体のネットワークや国会議員連盟の発足。種子生産条例制定の自治体の増加。ウェブ等閲覧数の増加。

### 活動内容と成果

調査活動により、啓発活動の講師が増え5人となった。ミニ冊子「ゲノム編集食品が食卓へ 表示とトレーサビリティの必要性」作成やカフェ、学習会講師、他紙の執筆等の啓発活動やテーマ別チーム（ゲノム編集食品・種・講座企画・広報）を作り取り組んだ。連続講座「地域をつくるコモン農」、「大豆から世界が見える」、「タネとひと」出版記念トークのオンライン開催により幅広い層の参加があり、活動への賛同者が増えた。広報紙をリニューアルし、見やすく伝わりやすい広報を心掛けた。大豆の収穫感謝祭オダイズサイ2021を開催した。



ミニ冊子「ゲノム編集食品が食卓へ」

### 全助成期間の活動を振り返って

より多くの市民が主体的に責任ある意思決定を行うよう、シンポジウム、調査活動、啓発活動の三つの活動に取り組んだ。問題提起の手法として立場を異にする当事者も互いに認める客観的な論点を明らかにし、専門的知識をもたない市民の責任ある判断を可能にすることをめざした。この手法を評価して下さる専門的研究者等との信頼関係を構築した。今後も正確な情報発信と見解を示し、啓発活動の担い手として信頼される団体をめざす。

〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-21  
ちよだプラットフォームスクウェア1342  
電話：03-6869-7206  
E-mail：info@nongmseed.jp  
HP：https://nongmseed.jp/



オンライン連続講座・地域をつくるコモン農



### 今後の展望

オンラインを活用した活動により参加の広がりをつくるとともに繋げていくことをめざす。運営メンバーの多様化により、テーマ別チームで専門性のあるメンバーを配置し、さらに外部専門家のサポート体制を整備し安定した活動を行う。役割分担を一層明確にしていくことで、目標管理を強化する。「たねと食とひと」をテーマに連続講座やシンポジウムの開催、実践者の紹介等の啓発活動、他団体との交流、協働による活動をめざす。

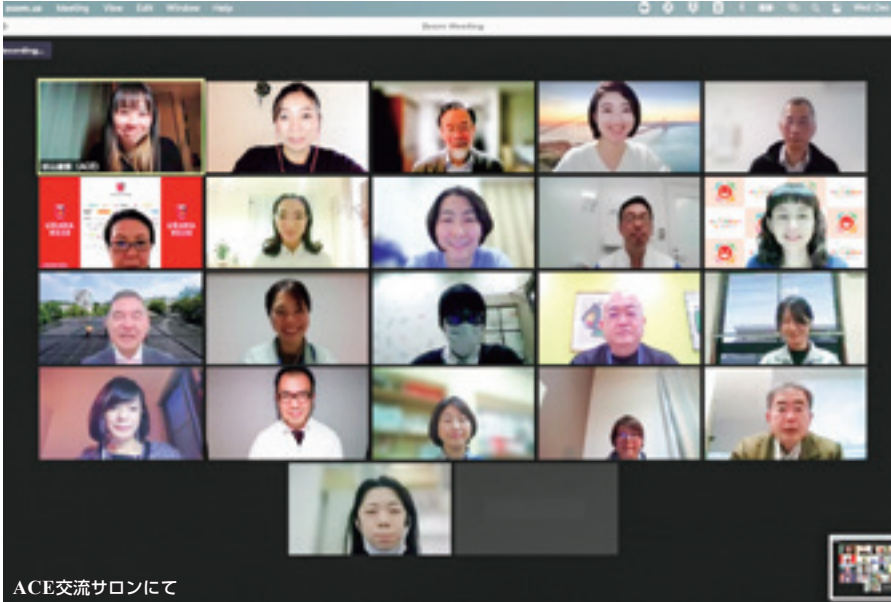


# インドのコットン生産地の環境・社会課題を解決する持続可能な Cotton の普及啓発活動

活動地域  インド、日本全域

ひろげる助成  
**4年目**  
知識の提供・普及啓発

アンケート回答企業	<b>96社</b>
イベント・講師派遣	<b>916人</b>
今年度計画の達成度	<b>80%</b>
目標達成度	<b>90%</b>



ACE交流サロンにて

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

助成期間中に活動内容を見直し、一つの活動で大きなインパクトを創出できるように、人員体制・時間調整を行った。

### ■ 工夫した点

弊団体より発信能力のある企業や報道機関と連携することで、活動が社会へ波及・浸透するよう意識した。関係者との定期的な打合せを行い、関係構築を徹底した。

## 課題

Cotton の栽培には農薬等が使用され、土壌や水質の低下や健康被害などを招いている。また栽培に労働力が必要となり、種子栽培を行う地域で児童労働が増加している。

## 目標

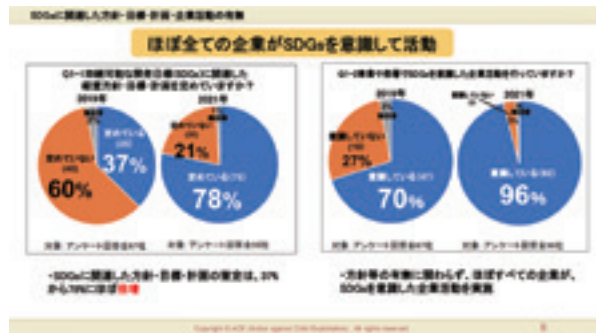
サステナブルな Cotton の使用量が増加し、持続可能な開発目標のゴール12「持続可能な消費と生産」に貢献する Cotton のビジネスが促進される。

## 活動内容と成果

- サステナブルな調達に関する企業アンケートの実施  
助成1年目に実施したアンケートとの比較・分析を目的とし、織研新聞社と共同で日本の繊維・ファッション企業を対象としたアンケート調査を行った  
回答結果(一部):  
①SDGsを意識した活動をする企業が90%以上を占める  
②「長時間労働」「地球温暖化」課題認識が進んだ(地球温暖化に関しては21社→67社に増)
- 本アンケート調査をホームページに掲載し、企業・消費者へ情報提供を行った



オーガニックコットン(ツアーにて撮影)



アンケート回答(一部)

## 全助成期間の活動を振り返って

比較アンケート調査を行うなど、助成期間の長い地球環境基金の特性をいかした活動を試みた。4年目には Cotton を含むサステナブルなビジネスを促進する外部環境の変化が見られ、目標に近づく社会基盤ができはじめたことを実感した。2年目にインドへの視察ツアーを企画・催行を経て、サステナブルな Cotton を活用した商品開発が実現した。消費者への世論喚起は、新型コロナウイルス禍で機会が減少してしまった。

〒110-0005  
東京都台東区上野6-1-6 御徒町グリーンハイツ1005号  
E-mail: cotton@acejapan.org  
HP: http://acejapan.org/



## 今後の展望

助成活動の中で関係を築いた企業・専門家から情報収集の機会を作り、外部環境状況のヒアリングを継続していく。新型コロナウイルス禍の Cotton 生産地の状況を含め、オンラインを中心に情報発信していく。国内のSDGsへの認知が高まりを見せ、日本企業の環境・人権に配慮したビジネスの促進が求められるようになった。これらを好機ととらえ、人権に関する講演やセミナーなどを定期的に開催していく。

# 地理空間情報を使った、地域版SDGs達成に向けた生態系サービス評価のシナリオづくりと普及啓発

## —Evidence1に基づいた計画、評価、モニタリングの主流化のために—

活動地域 日本全域

ひろげる助成

### 4年目

知識の提供・普及啓発

講習会や勉強会  
実施回数 **6回**

講習会や勉強会への  
参加者人数延べ **155人**

今年度計画の達成度 **98%**

目標達成度 **90%**



第2回富士宮市OECM勉強会実施の様子

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

新型コロナウイルスの影響を考慮し、講習会や勉強会を対面もしくはオンラインで実施するか、延期にするかを早めに判断し、内容や進行方法を臨機応変に変更する必要があったこと。

#### ■ 工夫した点

対面で実施した講習会では操作実習を、オンラインで実施した勉強会ではGISの活用方法についての議論をメインとし、実施方法に合わせた内容で進行した。

### 課題

生物多様性や生態系サービスの保全のための、「意思決定が地域単位で行われるための資源」、「データや情報を利用するためのツール」、「人材」が不足していること。

### 目標

生物多様性や生態系サービスの保全のための「人材育成とネットワーク形成」、「データや情報を利用するためのツール」、「情報資源」が充実すること。

### 活動内容と成果

GISに関する講習会や勉強会を計6回実施した。うち2回は今年度から新たに関係を築いた組織での講習会であり、「GISを目標設定に活用するための考え方」や「基礎的な技術」の講習を行った。他4回は、昨年度までの基礎的な技術講習に続き、次のステップとしてテーマを定めた勉強会を実施し、地域のネットワーク強化を目指した。実施した勉強会のテーマはOECMやタンチョウ、ワシなどとし、課題に関するステークホルダーを巻き込んだ内容とすることで、より具体的で現実的な情報共有や課題整理を実施することができた。



GIS個別実習実施(対面)の様子

### 全助成期間の活動を振り返って

自然情報が地域で活用されていくための情報整理の支援や人材育成を目的とした「GIS講習会」や「個別実習」を日本各地で実施し、継続的に支援を行った。本講習会や実習の実施に当たって、地域のネットワーク強化を意識したことで、関係者間での情報共有やGISの考え方、操作技術が向上した。また、環境情報やGISに関する教材を作成し、それらを閲覧できるウェブサイトを開設したことで、広く情報提供する基盤を整えた。



活動について関係者と議論をする様子

〒060-0809  
北海道札幌市北区北9条西4丁目5-2  
電話：011-726-3072  
E-mail：kudo@env.gr.jp  
HP：http://www.env.gr.jp/



### 今後の展望

本プロジェクトを実施したことで「データや情報を利用するためのツール」の有用性が浸透し、「人材の育成とネットワーク形成」が進んだ。地域やテーマによって、意思決定が地域単位で行われるための情報資源の共有、情報やツールを扱う人材が不足している場所は数多くある。今後も、本プロジェクトで作成した教材や経験をいかし、国内外問わず、生物多様性や生態系サービスの保全が促進されるよう支援を続けていきたい。



# 熱利用転換で環境を守り未来につなぐ 木質バイオマス地域アライアンス

活動地域  日本全域



地域アライアンス連絡会 (宝塚市)

フロントランナー助成

6年目

実践

新規熱利用  
地域アライアンス形成 **1地域**

ボイラー導入支援  
CO<sub>2</sub>排出削減 **2,054トン**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **95%**

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

①木質バイオマス熱利用に対する理解。②需要側の事業者、山側の燃料製造者と設計・設置技術者の育成。③自治体等の慎重な決断。④新型コロナウイルス感染症の影響

### ■工夫した点

①地域に出向き、講演や研修等を繰り返し行った。②と③の条件が揃い、意欲的な地域に対し、粘り強く活動を行った。④対策を行い、対象地域を絞り、規模を小さくした。

## 課題

温暖化防止、地域環境の保全、地域活性化のために、木質バイオマス熱利用の導入が有効である。その方策として地域ごとのアライアンス (同盟) を組織し、持続的に推進する。

## 目標

木質バイオマス熱利用地域アライアンスを6年間に16組 (今年2組) 形成する。ボイラー導入支援でCO<sub>2</sub>排出量を6年後に年間4,680トン (今年810トン) 削減する。

## 活動内容と成果

CO<sub>2</sub>を排出せず、地域資源を活用し、地域経済にも貢献する地域アライアンスを育成した。単年度 (6年間通算) の成果は、アライアンス形成1地域・対目標50% (17地域106%)。研修会等による実務人材育成は延べ148人 (実質55人) であった。木質バイオマス導入・転換簡易診断は26施設289% (118施設174%)、ボイラー導入支援は新規8施設3,170kW (35施設100%、12,155kW 227%) であった。推定CO<sub>2</sub>排出削減は2,054トン/年285% (8,997トン/年192%) であった。



木質バイオマス現地研修 (茅野市)

## 全助成期間の活動を振り返って

本活動の研修やアライアンス形成を通じて木質バイオマス熱利用への理解が得られた。最新のボイラーにより、木質バイオマス熱利用の有用性を示すことができた。実際にボイラー導入に至り、①CO<sub>2</sub>排出削減、②地域で資金が回る循環経済や、アライアンスによる協業化により、地域活性化に貢献できることを実感した。アライアンスには、地域のエネルギーに関心がある団体、環境に関心がある自治体や全国規模の企業が多数参加した。



木質バイオマスボイラー導入支援 (平戸市)

〒770-0935  
徳島県徳島市伊月町1-32  
電話：088-624-8375  
E-mail：info@tene.jp  
HP：https://www.tene.jp

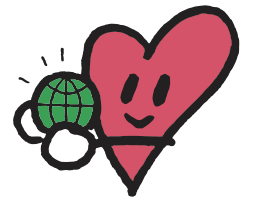


## 今後の展望

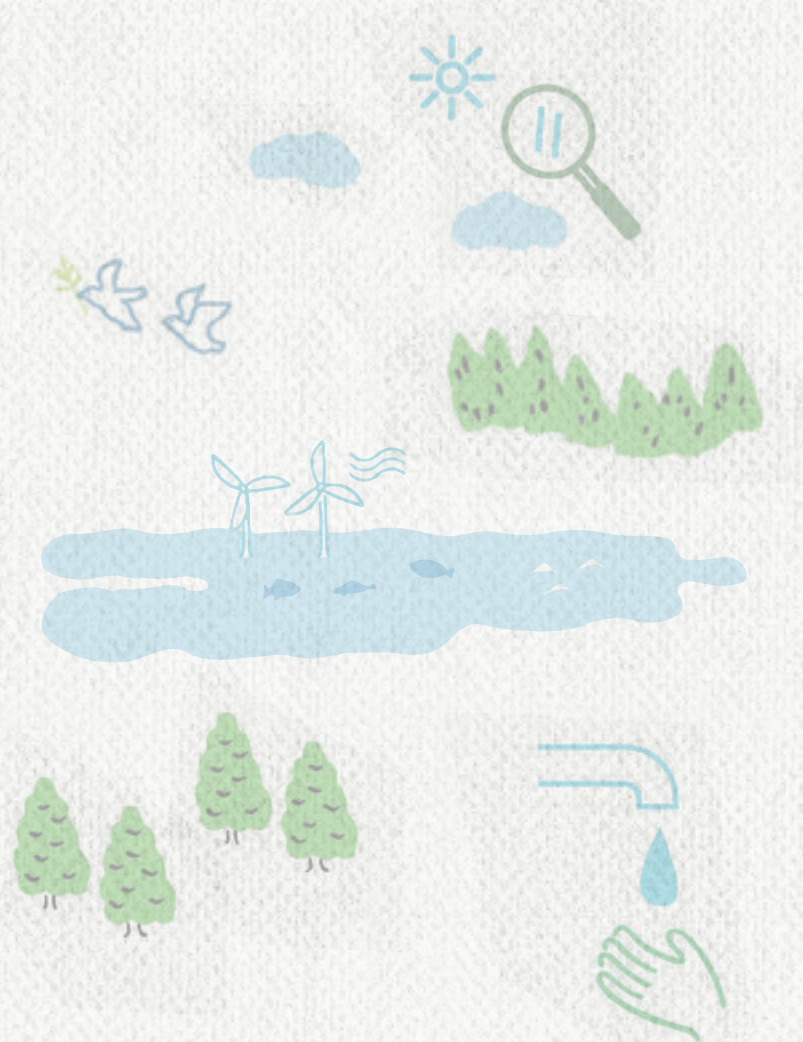
日本の木質バイオマス熱利用は端緒についたばかりであり、本法人の活動の柱として木質バイオマス熱利用の拡大、そのための啓発活動、導入支援を続ける。同時にアライアンス形式の提案によって地域に根ざした脱炭素・地域循環経済の推進も継続する。また、2022年度からは、地域と一緒に燃料チップを製造する実証実験を新たに関西地区で開始し、燃料供給の問題解決を含めた熱利用の全国へのモデルケースとする。







# 復興支援等



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

(特非) ふくしま再生の会

## 飯舘村の里山を守る

活動地域  福島県相馬郡飯舘村



里山の再生活動体験WSの中の間伐研修会

### 課題

里山は未除染で放置され、土壌と樹木の放射能濃度が高い。農産物に対する獣害も発生している。高齢化で草刈りが負担となっている一方、若手と連携した活動が課題。

### 目標

里山林の空間線量を測定し、間伐や除染等により整備し、地産木材を利用する。農産物の獣害を無くす。長泥地区で空間線量を測定する。村民学生を対象に体験研修を実施する。



### 今後の展望

本年3月の里山の再生活動体験WSを、福大農林サークル・東大むら塾の学生、村民・森林組合と協働して実施し、相互に良い経験となった。今後も福大農林サークル・村民・森林組合と協働して里山再生活動を実施する。

### 活動内容と成果

広さ60km<sup>2</sup>のモデル里山林内の空間線量を測定、平均0.3μSv/hで林内作業の基準以下を確認。星空観測小屋は地産木材を使って2022年3月26日に竣工、木材からの放射線は無視できる程低く、問題が無いことを確認。炭焼窯を再建し炭焼を実施、炭の放射能濃度が基準を上回り高いことを確認。2022年3月16日の地震で窯の天井が落ち、その後の炭焼は延期。新しい仕組みの電気柵をブドウ畑(2か所)に設置、獣害はなかった。里山の再生活動体験WS・星空鑑賞会・間伐研修会を実施、参加者数は延べ100人を超えた。



里山の再生活動体験WSの堆肥作りの座学

つづける助成

1年目

実践

モデル里山林の平均空間放射線量 **0.3** μSv/h (60km<sup>2</sup>)

環境保全の研修会の延べ参加人数 **102**人

今年度計画の達成度 **56** %

目標達成度 **19** %

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

会員の高齢化と新型コロナウイルスの感染で、ふくしま再生の会会員の現地活動の人数が大幅に減少した。

#### ■工夫した点

里山生活に豊富な知識と経験を持つ地元村民・森林組合と協働して活動を実施する。里山の再生活動を若い学生と協働して取り組む。

〒960-1815  
福島県相馬郡飯舘村佐須字滑87-1

E-mail : desk@fukushima-saisei.jp  
HP : http://www.fukushima-saisei.jp



## 災害ボランティアチームランドアース

## 球磨川再生プロジェクト

活動地域  熊本県



球磨川氾濫により壊れた環境を再生！

### 課題

豪雨により、球磨川流域には多くのごみや瓦礫が山積みとなっている。河川の川底や河川敷には流木や金属破片等が放置され危険な状態であり、生態系の乱れも危惧されていた。

### 目標

地域住民やボランティア、球磨川流域で生業をしていた人々を中心に清掃・調査、川魚の漁師による生態調査の実施。これらを通じて復興へのモデル的な活動としていきたい。



### 今後の展望

今年度は新型コロナウイルス禍により、イベント関連がほぼできず、協力体制の活用もなかなかできなかった。今後は少人数でもできる範囲で回数を重ねて、引き続き活動を進めていきたい。

### 活動内容と成果

令和2年豪雨で甚だに被災した人吉球磨の活性化に繋げるべく、地域の復興と安全で自然豊かな清流の復活に向け、地域住民とボランティア等が力を合わせ、瓦礫撤去や泥出し、清掃等の活動を行った。危険を伴う作業もあり、専門家も伴い安全確保にも留意した。球磨川流域の復元なくして人吉球磨地域の復旧・復興、活性化は難しい状況である。多くの共同の力で球磨川流域に鮎やヤマメ等の魚たちが多く育めるような清流に復活させるような活動も同時に行い、ラフティングなど安全で自然を満喫できるモデル地域の再建に向け進めてきた。



再生しつつある球磨川でのラフティング

ひろげる助成

1年目

実践

危険物実態調査 **10**回

ごみ撤去、清掃活動 **134**人

今年度計画の達成度 **60** %

目標達成度 **30** %

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

新型コロナウイルス禍により、勉強会や調査発表会、川魚を食べる会等が開催できなかった。ボランティアに来ていただくのも非常に大変だった。

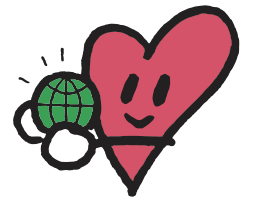
#### ■工夫した点

タイミングを計りつつ以前来ていただいた方々や団体にお声掛けをする等、配慮しながら進めた。不特定多数が集まることは避けた。

〒869-6401  
熊本県球磨郡球磨村渡乙1379-1  
電話 : 0966-34-7222  
E-mail : info@landearth.co.jp  
HP : https://www.facebook.com/577918392899851/







# その他の 環境保全活動



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

復興支援等

その他の環境保全活動

## 日韓海洋プラスチックリサイクル 環境学習事業

活動地域 福岡県



日韓同時海洋清掃（日本側）

### 課題

世界遺産登録地である宗像の海岸線は、大陸から漂着する大量のペットボトルで汚れ深刻な状況にある。この問題を海峽を挟んだ日韓で考え取り組む必要がある。

### 目標

地域と協力し日韓の学生が環境と音楽を切り口に国境を越えて学び、活動することで海洋プラの問題に取り組みゴミを資源化しリサイクルすることで幅広い世代で環境意識を向上させる。



### 今後の展望

基盤ができたこの体制を、さらに学生主導の団体を組織して自主的に環境問題を考え取り組んでいく運営スタイルを宗像フェスCSR推進実行委員会が学校、企業、行政と連携して運営サポートを行う。

LOVE BLUE助成

1年目

実践

### 活動内容と成果

- 日韓の学生で日本海を挟んだ釜山と福岡の双方の海岸の清掃活動をし、学生の環境への学びの場を提供した。福岡の海岸は韓国からのペットボトルが大量に漂着している。投棄する側と、流れ着く側の両方で回収に取り組み、回収した海洋プラスチックを合わせて日本でリサイクルを行う。双方のフィールド活動をネット中継し、その後日韓の学生がマイクロプラスチックが環境に与える影響などの講義を受けた後に環境ディスカッションをした
- 回収した海洋プラスチックは2トン。漂着ゴミの回収は3トン。参加者の環境問題理解度のアンケートを実施



宗像フェス参加者  
海洋プラ回収作業

イベントの延べ参加者数	318人
回収される海洋ゴミ	9.7トン
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	100%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍に緊急事態宣言の対象地域に該当した福岡県は、大人数で参加する事業を行うために何度も日程・内容変更を必要とした。

#### ■工夫した点

確実に参加できる方法として、配信参加者を対象に参加者の地域でゴミを拾ってもらいその写真をメールで送信してもらった。

〒811-3439  
福岡県宗像市三倉17-1  
電話：0940-22-8308  
E-mail：office@munafes.jp  
HP：http://www.miare.jp/



## (公社) 大阪自然環境保全協会

## 遠征観察会やごみ拾いの実施による『海洋プラスチックごみをなくす社会を目指した意識改革』活動

活動地域 関西



プラごみの由来を考えるワークショップ

### 課題

海洋プラスチックごみ問題について、机上だけでなく、実際に目で見て考える機会が必要。

### 目標

多くの人にイベントに参加してもらい、プラごみに対する意識を新たにしてもらう。



### 今後の展望

成ヶ島ツアーと若狭湾ツアーを年に2回ずつ実施することにより、海洋プラスチックごみに対する啓発を続けていく。また講演会や自然観察会での普及活動を継続する。

LOVE BLUE助成

1年目

知識の提供・普及啓発

### 活動内容と成果

大阪湾で最も豊かな海浜生物相が見られる成ヶ島は、都市の川から流れ出たプラごみが海流によって流れ着くごみの島でもある。ごみは拾ってもまた流れ着くため、成ヶ島ツアーではごみを観察し、どうしてごみになったのかを考えるワークショップを行う。干潟では、カニ等希少な海岸生物を楽しく観察し、2回で54人が参加した。3月には若狭湾ツアーを実施し、ここでも大量に漂着する海洋プラスチックごみを観察するとともに、ビーチコーミングの専門家とヤシの実や貝がらなどの漂着生物を観察したが、10人が参加した。



干潟のカニや魚などの生き物を観察する

遠征観察会参加者	64人
新規参画スタッフ	3人
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	30%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■苦労した点

新型コロナウイルス禍に発令された緊急事態宣言等でバスツアーや室内講演会が実施しにくい1年であった。

#### ■工夫した点

実施できなかった成ヶ島ツアーの代わりに冬場の若狭湾ツアーを企画し、成功を取ることができた。

〒530-0041  
大阪府大阪市北区天神橋1-9-13  
ハイム天神橋202  
電話：06-6242-8720  
E-mail：office@nature.or.jp  
HP：http://www.nature.or.jp/





(特非) Mブリッジ

## エシカル消費の啓発活動事業

～消費者にできる身近なSDGsとして伝え広げる～

活動地域 三重県



課題

①国民全体の環境問題への意識が低い、②三重県民の環境に対しての意識と自ら取り組んだり学んだりする姿勢が非常に低い、③悪化している食品ロスと働けない女性の雇用問題

目標

地域の消費者がSDGsやエシカル消費、食品ロス削減など具体的な行動に取り組み、持続可能な社会に地域が近づき、女性が働きやすい社会になっている状態。



今後の展望

SDGsやエシカルが身近にあることや手軽に取り組める方法を伝え、持続可能な社会を思い行動できる消費者を増やしたいと考える。また、講座開設、商品レビュー会などを実施し裾野を広げていきたい。

活動内容と成果

- 食品ロス削減事業  
生活の中で身近な「食」が抱える社会課題の一つを消費者が知り手軽に行動してほしいと考え、動画配信や食品ロス材料から開発した商品の販売を実施
- エシカル講座開設  
エシカルを八つの切り口と三重の事例から学び、ともに発信してくれるインフルエンサーを育成したいと考え、8回連続講座を実施。オンデマンドで配信
- エシカル度をチェックする商品レビュー会  
三重県にあるエシカルな商品をもとに、モニターと製造元がディスカッションしながらエシカル度をチェックしていく事業で、今年度は7回実施



商品レビュー会の様子

ひろげる助成

2年目

実践

廃棄野菜削減量	25%
意識が向上した受講生の割合	80%
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	75%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

日持ちしない廃棄野菜とお米をどのように加工し、応援したい・食べたいと思ってもらえる食感・見た目になるか試行錯誤した点。

■工夫した点

地元企業様から頂く廃棄野菜と近隣の高校から頂く規格外米を使い、食品ロスというものを日々の生活の中で考えられる商品にした点。

〒515-0084  
三重県松阪市日野町788  
カリヨンプラザ3階  
電話：0598-23-8400  
E-mail：csr@tsutaetai.jp  
HP：https://ethical-m.jimdo.com/



## 日本クマネットワーク

### 街に出るクマ

～アーバンベアとどう付き合うか～

活動地域 日本全国



普及啓発シンポジウムの開催

課題

近年クマの市街地出没が増えているが、その情報整理と対策は十分ではない。奥山でクマを保全し、市街地で人の安全を守る「ゾーニング管理」の普及と環境整備が課題である。

目標

クマが市街地に出没する要因や対策の必要性を理解できる住民を増やすと同時に、地域が主体的に出没対策を行い、継続的に普及啓発活動を実行できるようにする。



今後の展望

これまで得たクマの市街地出没の解析結果から事例集を作成する。また、地域住民の意識を向上させるレクチャーやクマトランクキットの担い手育成講座を引き続き開催し、アーバンベア対策の基盤を整える。

活動内容と成果

- 全国約80件のクマの市街地出没事例と現地調査から情報解析を行い、出没時対応の考察を行った
- モデル地域にて野外ワークショップを行い、当事者意識を醸成するヒントとなるレポートを作成した
- 普及啓発人材育成講座をモデル地域で実施した
- クマの普及啓発用の無料貸し出し教材トランクキットを4個作成するとともにアーバンベア問題解決に向けた新規の教材を追加した。また、YouTubeに動画を2本公開した
- 普及啓発に関するシンポジウムを開催するとともに、HP及びFacebookで情報発信を行った



普及啓発人材育成ワークショップの様子

ひろげる助成

2年目

調査研究

シンポジウムの登録者	320人
クマトランクキットの作成	4個
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一部現地調査や各活動をまたぐ対面の大きな会議が行えず、活動進行に遅れが生じた。

■工夫した点

大きなイベントはオンラインを活用し、小さなイベントは参加人数を最小限にすることで、新型コロナウイルス禍での活動を実施した。

〒060-0818  
北海道札幌市北区北18条西9丁目  
北海道大学獣医学部S棟102  
野生動物学教室内 日本クマネットワーク事務局  
HP：http://www.japanbear.org/



## 環境保全の大切さを伝える 自然体験・地域交流の創出

活動地域  埼玉県狭山市



田んぼ田植え体験

LOVE BLUE助成

3年目

実践

田んぼ田植え体験  
参加者 **80人**

自然保全整備清掃  
参加者 **154人**

今年度計画の達成度 **30%**

目標達成度 **30%**

### 苦勞した点と工夫した点

#### ■苦勞した点

田植えのソーシャルディスタンス、  
大声の禁止、トイレの確保。

#### ■工夫した点

田植えの家族単位による作業、遊び、  
点検者の配置、協力者の行動など。

### 課題

水辺で外来植物のハリエンジュにアレチウリがはびこり、これを剪定、伐採  
を行い整備し、周辺の清掃活動とともに子どもたちに自然保全の大切さを  
知ってもらう活動としていく。

### 目標

環境保全の大切さを伝える環境学習並びに地域交流の創出を達成する  
こと。

### 活動内容と成果

事業計画のとおり進めることができず地域活性化を進めることがかなわ  
ない結果となり残念である。しかしながら水辺周辺の整備清掃活動は会員並  
びに事業に携わる予定のボランティア等の助けにより大きな成果を得るこ  
とができたと感じている。その1は明治記念館にて行われた内親王佳子様  
のご参加を頂いた「都市緑の三賞」にて全国10団体の中に奨励賞として受賞  
できたこと、その2は彩の国埼玉環境大賞を県知事より受賞できたことが大  
きい。



水辺周辺整備草取り



水辺周辺清掃活動

### 全助成期間の活動を振り返って

1年目の後半より2、3年と新型コロナウイルスによる事業自粛により  
思った活動ができず残念な結果となったこと。しかし水辺周辺のポ  
ケットガーデンづくり、県や市の管轄周辺の清掃活動によりテレビ局  
の取材を受け放映、知事公邸における大賞受賞も放映されるなど活動  
に花を添えることができた。

〒350-1308  
埼玉県狭山市中央1-43-11  
電話：04-2958-3338  
E-mail：kubotakk@trust.ocn.ne.jp  
HP：http://www.joylife.or.jp



今後の  
展望

ご支援いただいた期間に目標とした環境保全の大切さを伝える自然体験・地域交流の創出の結果を出せず悔やまれるところだ  
が、次の機会があれば再度挑戦し良い結果を報告したいと思う。





# 2021年度 地球環境基金の活動概要

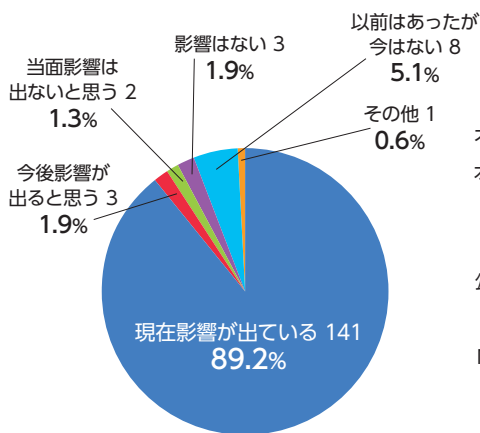
## 1 | 助成事業

### (1) 新型コロナウイルス感染拡大への対応

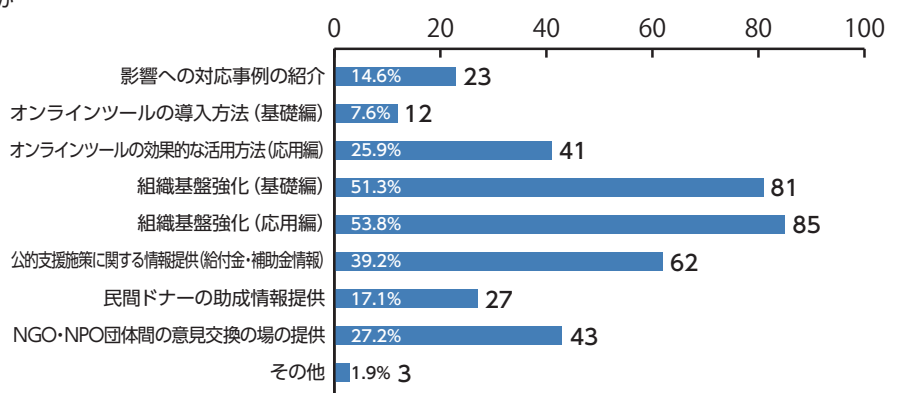
2020年度に引き続き、2021年度の全助成先団体に対して、活動への影響の把握と、より良い支援策の提供を目的に「活動影響調査」を実施しました。助成先197団体中158団体から回答があり、調査結果はホームページで公表しています。

[https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19\\_taisaku\\_2.html](https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19_taisaku_2.html)

〈活動への影響：回答158団体〉



〈興味のある支援内容：回答158団体（複数選択可）〉



活動影響調査で把握した助成先団体のニーズを踏まえ、以下の対応を実施しました。

#### ① 組織基盤強化のための研修の実施

ポストコロナに向けた更なる活動推進、活動の土台となる団体組織の強化、他団体との交流や情報収集の場として「環境NGO・NPOのための組織基盤強化研修」を実施し、その動画はホームページでも公開しました（参加者延べ66人）。

■環境NGO/NPOのための組織基盤強化研修（計4回、オンライン開催）

[https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19\\_seminar\\_2021.html](https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19_seminar_2021.html)

#### ② シンポジウムの開催

2020・2021年度の調査結果と地球環境基金の取組、団体の取組好事例を紹介・共有し、ポストコロナに向けた環境活動とNGO・NPOの在り方について展望するシンポジウムをオンラインで開催しました（参加者84人）。

■地球環境基金シンポジウム～ポストコロナ時代に向けた環境NGO/NPO活動の展望～

[https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19\\_symposium\\_2021.html](https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19_symposium_2021.html)

#### ③ 新型コロナウイルス感染症関連情報の提供

各府省庁の新型コロナウイルス感染症対策関連情報を一覧にまとめ、ホームページに引き続き掲載（更新）しています。

■各府省庁による新型コロナウイルス感染症関連情報

<https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19.html>



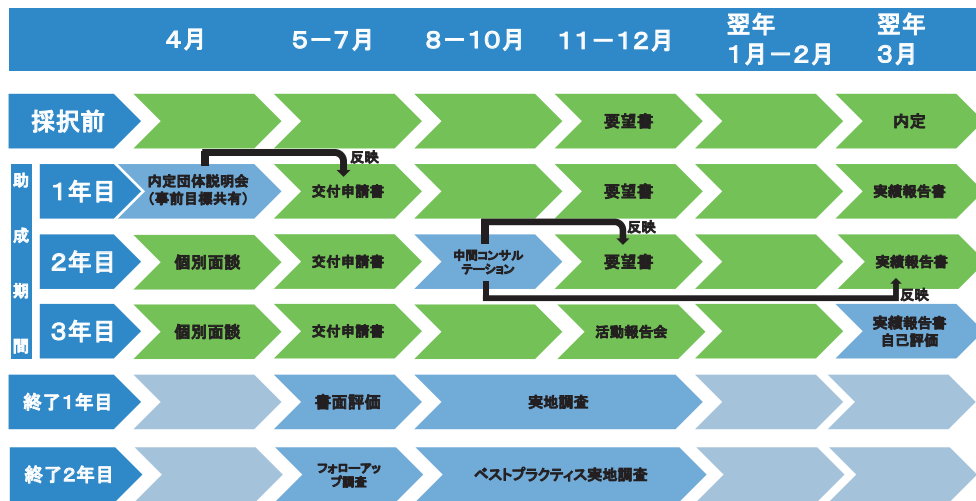
## (2) 評価制度の実施

従前の評価制度は、助成活動終了年次に評価専門委員が現地へ赴き評価する「事後評価」のみを実施していましたが、2014（平成26）年度からは、地球環境基金評価要領に基づき、「事前目標共有」、「中間コンサルテーション」、活動終了後の「事後評価（書面評価、実地調査）」を導入、さらに2016（平成28）年度からは、「継続評価」（フロントランナー助成のみ）を導入し、助成事業を推進しています。

また、2018（平成30）年度からは、助成活動の優良事例を広く普及していくことを目的とした「ベストプラクティス実地調査」を実施しています。

これらにより、2021年度は評価対象となる155団体の評価を実施しました。

助成事業評価スケジュール（3年計画の場合）



■中間コンサルテーション



■実地調査（愛知県）



■実地調査（インド）

※画像は2019年度。2020・2021年度は書面やオンラインによる確認を実施しました。

## (3) 各主体（民間団体・企業・行政）との協働・連携

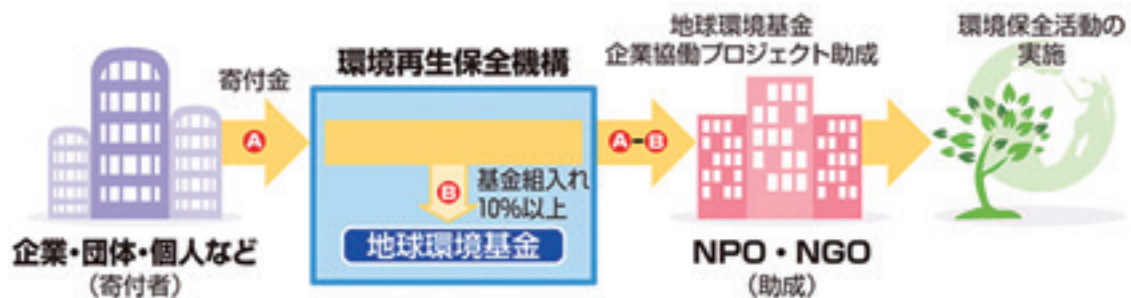
環境問題にかかわるあらゆる主体が連携することにより環境問題の解決策を模索することは重要です。地球環境基金では、環境パートナーシップオフィス（EPO）をはじめとする多様なステークホルダーとの連携を図っています。

EPO連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境基金の助成金要望に関する情報交換、相談、助言</li> <li>・助成金説明会開催 等</li> </ul>
ドナー連携	NGO・NPOへ支援を行う他の団体（ドナー）との意見交換会・勉強会へ参加
NPO・企業連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOと企業等との協働事業創出やパートナーシップ構築の契機となることを目的とし、エコプロにおいて助成団体の活動報告会を開催</li> <li>・NPOと企業の連携促進のため、企業の社会貢献活動担当者との意見交換会に参加</li> </ul>

※2020・2021年度は新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、一部の取組みを見合わせました。

## (4) 地球環境基金企業協働プロジェクト助成の開始

2015(平成27)年度から企業協働プロジェクトの第1弾として、(一社)日本釣用品工業会からの寄付金を原資とした「つり環境ビジョン助成」がスタート、2017(平成29)年度には「LOVE BLUE助成」に名称変更しました。2021年度も海岸や河川の清掃活動など、水辺の環境保全活動に対する助成を行いました。



## 2 | 振興事業

### (1) 全国ユース環境ネットワーク促進事業の拡大

持続可能な社会の達成に向け、将来の担い手となる高校生や大学生等のユース世代の環境活動を支援し、その裾野の拡大やネットワークの構築を図る、全国ユース環境ネットワーク促進事業を推進しました。

#### ① 全国ユース環境活動発表大会

環境活動を通じて得た学びの共有など、志を同じくするユース世代の交流と相互研鑽の場として開催している「全国ユース環境活動発表大会」。第7回となる今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、発表動画を提出いただいてウェブサイトで公開する「Web発表大会」形式での開催となり、90団体から応募をいただきました。全国8ブロックに分かれて審査を行う地方大会で選抜された合計16団体が、2022年2月に開催した全国大会に進出。審査の結果、各賞が決定しました。また、全国大会に出場した団体の高校生がオンラインで参加した交流ワークショップでは、山口壯環境大臣が挨拶を行い、高校生たちに熱いエールがおくられました。

#### ② 全国大学生環境活動コンテスト (ecocon)

2021年12月に全国大学生環境活動コンテスト2021を共催しました。今回は、全国から5団体が参加し、活動の共有・交流・学習を行いました。

#### ③ ユース環境研修・セミナー

環境活動に取り組む高校生、大学生に対し、民間団体や企業と連携してSDGsなどの環境に関する研修・座談会を、オンラインを中心とした形で実施しました。



■第7回全国ユース環境活動発表大会  
(青森県立名久井農業高等学校の発表動画)



■全国大学生環境活動コンテスト2021



## (2) 情報提供業務

### ①地球環境基金活動報告集

地球環境基金助成金による環境保全活動の概要をとりまとめた「2020年度地球環境基金活動報告集」の配布を行いました。

### ②ホームページによる情報提供

地球環境基金のインターネットホームページにおいて、地球環境基金の制度、募金のお知らせ、助成案件採択状況、助成活動実施状況、研修及び講座の開催案内、助成活動の外部専門委員による評価結果等の情報を掲載しています。



2020年度 活動報告集



地球環境基金の情報館

### ③Twitter・Instagramによる情報提供

全国ユース環境活動発表大会の報告、助成団体の活動案内や活動報告、各種研修の報告、出展イベントの様子などの情報を提供しました。



Twitterへの投稿



Instagramへの投稿写真

### (3) 研修業務

環境NGO・NPO活動に参加しているスタッフや環境保全活動への関心を有するの方々のための研修として、2021年度は以下を行いました。

#### ①活動影響調査で把握したニーズに基づく意見交換会、セミナーの実施

新型コロナウイルス感染拡大による助成対象活動への深刻な影響が懸念されたことから、2020年度から全助成先団体に対して実施した活動影響調査で浮かび上がった「組織基盤の脆弱性」という課題に取り組むための支援として、組織基盤強化のための研修、シンポジウム等を行いました。研修は「人材面の組織づくり協働・連携」と「広報・情報発信・ファンドレイジング」という二つのテーマで、動画配信とオンライン研修を組み合わせることで多くの参加を得たほか、オンラインで開催した「地球環境基金シンポジウム」では、実際に新型コロナウイルス感染症の影響下での苦しさ、それにどう立ち向かい、乗り越えたかの体験談等を共有し、参加者からは「他団体の組織運営を聴けたことで自分の所属団体との差異を実感し、何が課題かを理解できた。今後の目標ができたので取り組んでいきたい」という前向きな声が上がりました。

	内 容	参加者数
組織基盤強化研修	「人材面の組織づくり協働・連携」と「広報・情報発信・ファンドレイジング」という二つのテーマで、動画配信とオンライン研修（参加者同士の意見交換含む）を組み合わせることで合計8回実施。	266人 (延べ人数)
地球環境基金シンポジウム	新型コロナウイルス感染の影響で活動の転換を迫られる環境団体が、今後の活動の継続のために必要としている学びや気づきを得られるような講演や事例共有をオンラインで実施。	83人



■組織基盤強化研修の様子



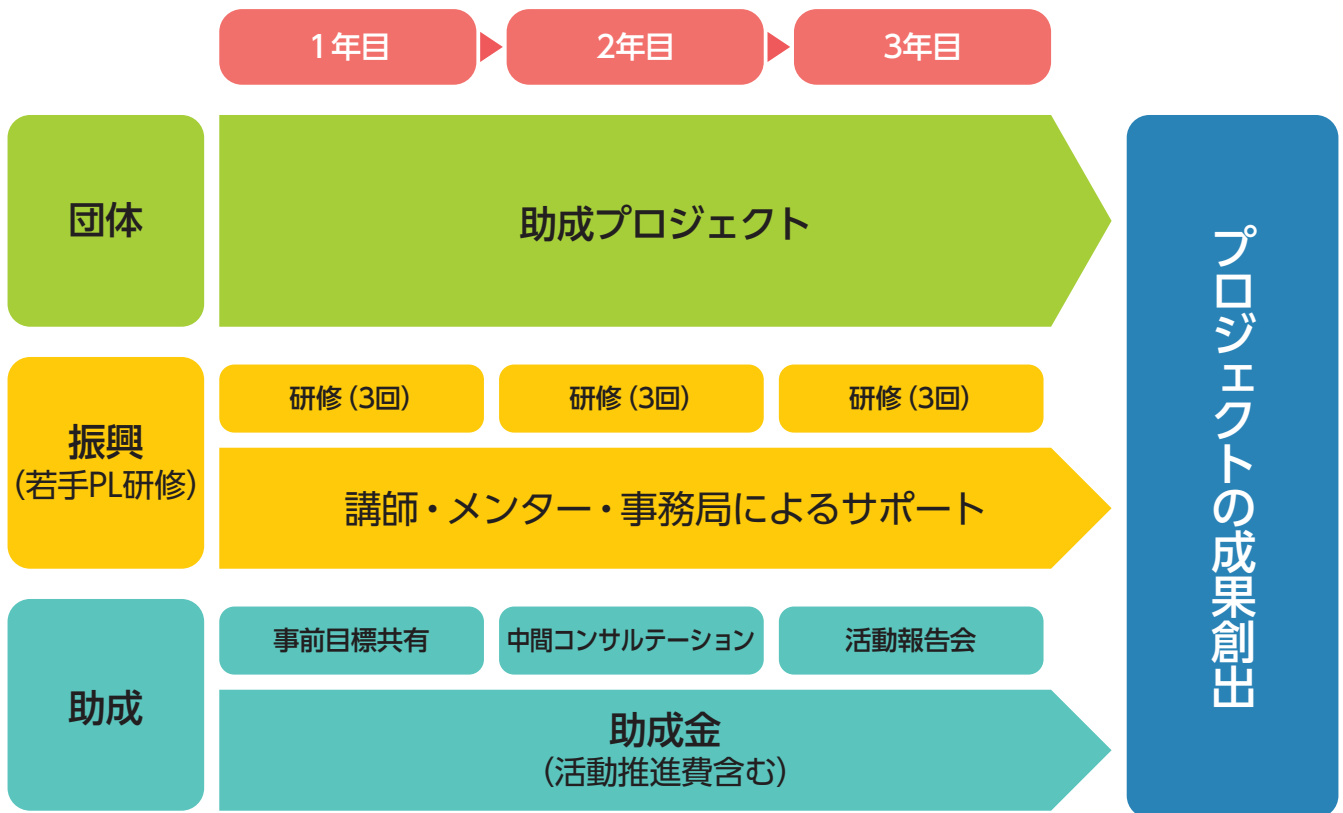
■シンポジウムのチラシ



## ②プロジェクトリーダー研修

今後の環境活動を担う若手の人材育成の重要性がますます高まっていることを背景とし、地球環境基金では若手プロジェクトリーダーの育成を支援しています。3年間にわたり活動推進費を助成するとともに、リーダーシップを発揮して活動成果を創出し、また将来の環境保全活動の持続的発展に貢献できる人材を育成するための研修を行っています。

2021年度は、6期生12人、7期生7人、8期生7人、計26人を対象に、年3回の研修を、オンラインで実施しました。



	6期生	7期生	8期生
第1回	7/8 (木)、7/9 (金)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーとの協働</li> <li>・協働の観点でプロジェクトを捉える</li> </ul>	NPO経営戦略全般 (ビジョン・ミッション、事業計画、成果指標、マーケティング、ファンドレイジング等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の強みとキャリア形成</li> <li>・プロジェクトの3年間の目標と計画</li> </ul>
第2回	10/4 (月) ~ 6 (水)	10/20 (水)、21 (木)	
	フィールド実習 (静岡県富士宮市) ※オンラインで実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の課題とその改善のためのプロジェクトマネジメント</li> <li>・リーダーシップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダー</li> <li>・チームビルディング</li> </ul>
第3回	1/26 (水)、27 (木)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の事業・研修の振り返り</li> <li>・今後の発展や自走化に向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルファシリテーション</li> <li>・2年目研修の総括・発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目の振り返り (理想と現実のギャップの確認)</li> <li>・2年目以降のマイルストーン、アクションプラン</li> </ul>



■第3回研修 (オンライン)



■6期生フィールド実習 (オンライン)

## 参加者の声

初年度の終わりころより新型コロナウイルス感染拡大による影響から、イベントや出張が中止となり、途方に暮れる中で2年目が開始し、振り返ると当初は在宅ワーク中心という環境にもあまり馴染めていませんでした。この研修で活動の軸を都度確認できたことは、2年目、そしてプロジェクト全体において、非常に有意義なことでした。自身で設定した優先課題・目標に取り組む中で、日頃見過ごしがちであったことにも意識がいくことで、より活動に広がりが出たと感じています。組織内外のコミュニケーションという点でも活発化したと思います。

(3年目：6期生)



研修内容が充実していた。教わった内容を使って実際に自分のプロジェクトや日々の業務へ応用できるよう工夫したプログラム構成に感謝しており、有意義な研修だった。また、講師や研修生からのフィードバックも有難かった。他の研修生の活動やどのように取り組んでいるかも知ることができ、学びと刺激になった。

(2年目：7期生)



若手PL研修は、「自己認知」の重要性を知ることができ、この1年間で事業や自身に対する見方もだいぶ変わってきたと実感している。研修の内容は私の今後のライフキャリアにおいて、何か大きな意味を持ちそうな気がします。あと2年間よろしく願いいたします。

(1年目：8期生)





# 五十音別一覧データ

## ●団体名(法人名略称)【活動地】

ページ

あ行	Earth Company【東京都】	142
	アースウォッチ・ジャパン【長野県木曾町】	135
	II NET【インドネシア】	137
	アイサーチ・ジャパン(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)【大阪府、兵庫県】	104
	あきた地球環境会議【マレーシア】	67
	アサザ基金【茨城県霞ケ浦流域】	137
	ASED HABIGONJ【バングラデシュ】	49
	アジア太平洋資料センター(PARC)【フィリピン、インドネシア、エクアドル、日本全域】	139
	アジア砒素ネットワーク【バングラデシュ】	95
	African Marine Mammal Conservation Organization (AMMCO)【カメルーン】	15
	APEX【インドネシア、フィリピン、東京都】	132
	天草海部【熊本県】	105
	いきものいんく【北海道】	107
	石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク【北海道】	14
	石川県自然史センター【石川県】	102
	石川県ユネスコ協会【石川県】	113
	伊自良の里振興協会【福井県】	116
	いすみライフスタイル研究所【千葉県】	81
	田舎のヒロインズ【日本全域】	109
	岩手山麓自然学校【岩手県】	17
	Instituto piagaçu【ブラジル】	47
	ウータン・森と生活を考える会【インドネシア】	36
	ARDE/KUBAHO【ルワンダ】	22
	ACE【インド、日本全域】	150
	エコ・モビリティ サッポロ【北海道】	74
	エコプランふくい【タンザニア、福井県】	68
	SDGs市民社会ネットワーク【日本全域】	138
	ezorock【北海道】	117
	越後妻有里山協働機構【新潟県十日町市】	52
	エバーラスティング・ネイチャー【関東】	143
	FoE Japan【アジア】	62
	Mブリッジ【三重県】	158
	縁パワーしまね【島根県、鳥取県】	65
	EnVision環境保全事務所【日本全域】	151
	おーでらす【福島県】	123
	応用地質研究会ヒ素汚染研究グループ【バングラデシュ】	107
	おおいた環境保全フォーラム【大分県】	100
	大阪海さくら【大阪府】	136
	大阪ごみ減量推進会議【関西】	80
	大阪自然環境保全協会【関西】	157
	大杉谷自然学校【三重県】	24
	大山千枚田保存会【千葉県鴨川市】	19
	おかやまエネルギーの未来を考える会【岡山県】	69

隠岐しぜんむら【島根県】	18
おしかリンク【宮城県】	35
おらってにいがた市民エネルギー協議会【新潟県】	66

●団体名 (法人名略称) ページ

か行	カーフリーデーJapan【ベトナム】	60
	開発教育協会【日本全域】	104
	河北潟湖沼研究所【石川県河北潟】	50
	上関の自然を守る会【山口県上関町】	11
	「環境・持続社会」研究センター (JACSES)【日本全域】	132
	環境エネルギー政策研究所【東京都、日本全域】	57
	環境修復保全機構【カンボジア】	100
	環境首都創造NGO全国ネットワーク【日本全域】	71
	環境政策対話研究所【東京都、神奈川県、北海道、埼玉県、鹿児島県】	59
	環境生態工学研究所【宮城県松島町】	13
	環境パートナーシップちば【千葉県】	101
	関西NGO協議会【関西】	134
	カントリーパーク新浜【宮城県仙台市】	99
	雁の里親友の会【北海道、宮城県】	16
	喜界島サンゴ礁科学研究所【鹿児島県】	134
	気候ネットワーク【日本全域】	76
	北九州・魚部【福岡県】	146
	北の里浜 花のかけはしネットワーク【北海道、宮城県、岩手県】	144
	キッチンるば【熊本県】	114
	九州エコファーマーズセンター【熊本県】	140
	教育旅行ふくい【福井県】	97
	京都市環境保全活動推進協会【京都府】	84
	Climate Action Network Japan (CAN-Japan)【日本全域】	62
	Climate Youth Japan【日本全域】	70
	暮らしのデザイン室【日本全域】	79
	黒潮生物研究所【高知県、愛媛県】	16
	公益のふるさと創り鶴岡【山形県鶴岡市】	129
	公害資料館ネットワーク【長崎県、日本全域】	120
	公害地域再生センター (あおぞら財団)【大阪府】	58
	神戸海さくら【兵庫県】	90
	五ヶ瀬自然学校【宮崎県】	118
	国際自然保護連合日本委員会【日本全域】	31

●団体名 (法人名略称) ページ

さ行	ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン【日本全域】	92
	ザ・ピープル【福島県】	51
	災害ボランティアチームランドアース【熊本県】	155
	さっぽろ自由学校「遊」【北海道】	126
	CSOネットワーク【東京都、佐賀県】	147
	JEAN【日本全域】	86
	シェア・ザ・プラネット【バングラデシュ】	54



四国自然史科学研究センター【四国】	18
しずおか環境教育研究会【静岡県】	124
次世代のためにがんばろ会【熊本県八代市】	101
自然エネルギー共同設置推進機構 (NECO)【長野県】	59
自然回復を試みる会・ビオトープ孟子【和歌山県】	11
自然栽培そらみずち【鳥取県】	47
持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム協会【日本全域】	148
持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク (SUSPON)【日本全域】	135
市民エネルギーとっとり【鳥取県】	115
JARTA【日本全域】	141
循環生活研究所【福岡県福岡市】	82
ジョイライフさやま【埼玉県狭山市】	159
水Do! ネットワーク【日本全域】	85
スノーパーク小出【新潟県】	99
スピリット・オブ・セイラーズ【愛知県、日本全域】	110
Save Earth Foundation【東京都、長野県】	38
石西礁湖サンゴ礁基金【沖縄県八重山地方】	21
瀬戸内オリーブ基金【香川県】	106
せとうちんちゅネットワーク【鹿児島県奄美大島】	79
全国川ごみネットワーク【東京都、埼玉県、他】	111
全国ご当地エネルギー協会【東京都、日本全域】	60
Centre for Ecological Studies【ネパール】	17
泉京・垂井【日本全域】	130

●団体名 (法人名略称)

ページ

た行	ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議【日本全域】	94
	大雪山・山守隊【北海道】	15
	ダイヤモンド・フォー・ピース【リベリア】	129
	たてやま・海辺の鑑定団【千葉県館山市】	145
	たねと食とひと@フォーラム【東京都】	149
	DANKA DANKA【セネガル】	50
	地域再生機構【岐阜県、他】	75
	NPO地域づくり工房【長野県、日本全域】	139
	Change Our Next Decade【日本全域】	10
	地球・人間環境フォーラム【モンゴル】	45
	地球環境市民会議 (CASA)【大阪府、東京都、イギリス】	72
	地球のしごとと大学【埼玉県、奈良県、千葉県、岩手県】	106
	中部リサイクル運動市民の会【東海】	82
	DRCSC (Development Research Communication and Services Centre)【インド】	53
	DEXTE-K【東京都】	14
	D・B・Cグループ【兵庫県但馬地方】	23
	The Energy and Resources Institute (TERI)【インド】	51
	東京労働安全衛生センター【日本全域】	89
	時ノ寿の森クラブ【静岡県】	39
	徳島地域エネルギー【日本全域】	152
	徳島保全生物学研究会【徳島県】	138
	どんぐり王国【愛媛県】	25

●団体名 (法人名略称) ページ

な行	長野県NPOセンター【長野県】	121
	ナシール教育文化振興財団【パキスタン】	90
	ななしんぼ【岐阜県郡上市】	105
	生ごみリサイクル全国ネットワーク【日本全域】	61
	南紀自然エネルギー【和歌山県】	57
	ニッポンバラタナゴ高安研究会【大阪府】	19
	日本オランウータン・リサーチセンター【マレーシア】	10
	日本海洋教育スポーツ振興協会【神奈川県】	13
	日本環境教育フォーラム【バングラデシュ】	119
	日本クマネットワーク【日本全域】	158
	日本下水文化研究会【バングラデシュ】	122
	日本サステイナブル・レストラン協会【日本全域】	89
	日本自然農業協会【ベトナム】	48
	日本チャリティショップ・ネットワーク【日本全域】	81
	日本鳥類保護連盟【ネパール】	28
	日本ハビタット協会【ラオス】	102
	農ある暮らしを広める会【神奈川県】	49
	能登里山里海マイスターネットワーク【石川県】	97
	能登半島おらっちゃんの里山里海【石川県】	125

●団体名 (法人名略称) ページ

は行	はしもと里山学校【和歌山県】	9
	畑とキャンプの自由な学校みんなの学校【大分県大分市】	108
	はまのね【宮城県】	20
	PALLISHREE【インド】	29
	パルシック【パレスチナ】	83
	晴れの国野生生物研究会【岡山県真庭市】	26
	ハロハロ【フィリピン】	80
	パワーシフト・キャンペーン運営委員会【日本全域】	61
	PVネット兵庫グローバルサービス【兵庫県神戸市】	63
	フー太郎の森基金【福島県】	140
	Forest Action Nepal【ネパール】	37
	ふくおかFUN【福岡県】	130
	ふくしま再生の会【福島県相馬郡飯舘村】	155
	ふじ環境研究所【静岡県】	9
	Prattasha Samazik Unnayan Sangstha (PSUS)【バングラデシュ】	48
	Blue Earth Project【日本全域】	133
	ふるさとけものネットワーク【日本全域】	27
	Pos Koordinasi untuk Keselamatan Korban Lumpur Lapindo (PosKoKLuLa)【インドネシア】	93
	ポレポレ自然環境観察会【石川県】	12
	香港観鳥会 (The Hong Kong Bird Watching Society)【アジア】	32

●団体名 (法人名略称) ページ

ま行	まちなびや【静岡県】	127
----	------------	-----



マナティー研究所【東京都】	98
丸瀬布昆虫同好会【北海道】	109
水島地域環境再生財団【岡山県】	103
水辺に遊ぶ会【大分県】	12
みちのくトレイルクラブ【青森県、岩手県、宮城県、福島県】	112
水俣フォーラム【東京都、熊本県、日本全域】	103
みやぎ・環境とくらし・ネットワーク【キリバス】	58
宗像フェスCSR推進実行委員会【福岡県】	157
メコン・ウォッチ【タイ】	133
more trees【北海道、岩手県、高知県、他】	40
森からつづく道【愛媛県松山市北条地域】	20
森づくりフォーラム【神奈川県】	36
森の防潮堤協会【宮城県岩沼市】	42
moribio森の暮らし研究所【富山県南砺市利賀村】	41

●団体名 (法人名略称) ページ

や行	矢作川森の健康診断実行委員会【愛知県、岐阜県、他】	35
	やまがた自然エネルギーネットワーク【山形県】	73
	やんばるビジョン【沖縄県】	98
	有害化学物質削減ネットワーク【日本全域】	91
	夢創房室戸迎鯨の杜【高知県】	136
	由良野の森【四国】	131

●団体名 (法人名略称) ページ

ら行	LION【インドネシア】	110
	ラブグリーンジャパン【ネパール】	108
	ラムサール・ネットワーク日本【日本全域、国外】	55
	Little Bees International【ケニア】	131

●団体名 (法人名略称) ページ

わ行	ワイルドライフ・プロミシング【ケニア】	30
	若桜・こらぼ企画【鳥取県若桜町】	64

# 地球環境基金へのご支援のお願い

かけがえのない私たちの地球環境を健全に保っていくために、国の内外で環境保全活動を展開するNGO・NPOの役割がますます重要になってきています。

こうした民間団体を支援する地球環境基金は、皆様方一人ひとりのご理解とご協力によって支えられています。

地球環境基金では、金融機関からのお振込みのほか、様々な寄付方法をご用意しています。地球環境基金への寄付を通して、環境NGO・NPOの活動をご支援ください。

## ◇金融機関からのお振込のご案内◇

銀行名/支店名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行	00190-0-664214	地球環境基金
新生銀行 本店	普0789699	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
みずほ銀行 本店	普2413416	
三井住友銀行 東京公務部	普3013615	
三菱UFJ銀行 本店	普7637448	
りそな銀行 赤坂支店	普1023850	

※ゆうちょ銀行以外からお振込みいただく場合は領収書を発行できません。領収書の発行をご希望の方は地球環境基金へご連絡ください。

## ◇その他の寄付方法のご案内◇

<b>オンライン決済から</b> VISA、Master、JCB、AMEX、Dinersのクレジットカードをお持ちの方は、基金ホームページからご寄付いただけます。	
<b>マルチコピー機募金受付サービスから</b> 全国のファミリーマートに設置されている「マルチコピー機」からご寄付いただけます。	<b>「本de寄付」から</b> ブックオフオンライン「キモチと。」より、読み終わった本やCD・DVDなどの買取金額が寄付金となります。
<b>「つながる募金」から</b> スマートフォンを利用して、100円からご寄付いただけます。	<b>スマートフォンアプリから</b> ・J-coin Payサービスを利用されている方は、「ぽちっと募金」にてご寄付いただけます。 ・「メルカリ寄付」機能で、フリマアプリ「メルカリ」で得た売上金等をご寄付いただけます。
<b>地球環境基金サポーターから</b> 継続的にご支援いただく寄付方法です。寄付金額と、毎月か毎年をお選びいただけます。	<b>募金箱から</b> 募金箱の貸出しを行っています。オフィスや店頭、イベントなどで設置いただけます。

なお、独立行政法人環境再生保全機構は特定公益増進法人に指定されており、この基金にご寄付いただいた個人の方、企業等は税制上の優遇措置（所得税控除、損金算入）を受けることができます。

寄付に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

地球環境基金部 基金管理課 TEL 044-520-9606（広報・募金窓口）



## 地球環境基金 2021年度活動報告集

発行日 2022年9月

編集・発行 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部  
〒212-8554

神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー 8階

TEL: 044-520-9505 FAX: 044-520-2192

URL: <http://www.erca.go.jp/jfge>



※本報告集に掲載している情報は、2022年4月現在のものです。





リサイクル適性<sup>(A)</sup>  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

